

ANNUAL REPORT 2024

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

東京文化財研究所年報



ANNUAL REPORT 2024

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

東京文化財研究所 2024 年度年報

独立行政法人国立文化財機構

東京文化財研究所



和泉市久保窓記念美術館での「山崎架橋図」の調査（11月）



文化財情報資料部研究会（織田東禹《コロボックルの村》をめぐって）（9月6日）



東京藝術大学学生・大学院生の資料閲覧室見学（11月26日）



目録が公開された島崎清海旧蔵資料



蒜山ガマ細工の調査（岡山県真庭市）



ガマをシナノキの縄で編む



公開研究会での一龍齋貞橘氏による口演



檜尾神社のお田植え祭（滋賀県甲賀市）



フォーラム「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」の開催

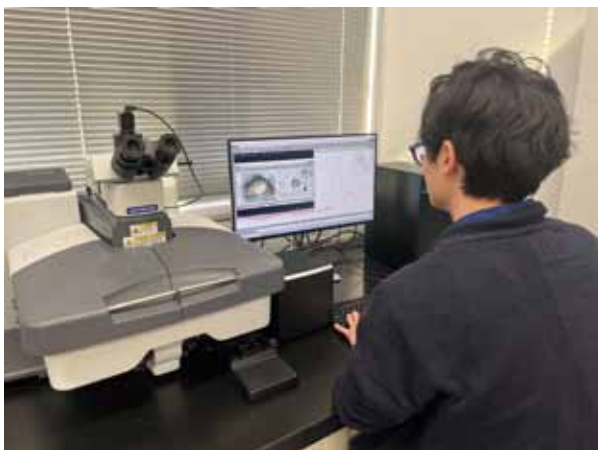


南九州市指定文化財 四式戦闘機「疾風（1446号機）」の調査



変形挙動等をみるための試料設置の様子

保存科学研究センター



ラマン分光法による試料分析



成巽閣での石材計測風景



海外の専門家を招聘しての写真の保存に関する研修



博物館・美術館保存担当学芸員研修（上級コース）

文化遺産国際協力センター



ユネスコ第46回世界遺産委員会（インド・ニューデリー）「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録の決定時



ゲシュリック修道院内聖ミカエル教会（トルコ・カッパドキア）壁画保存修復に係る実地研究



日本の博物館、史跡におけるAR、VR、デジタル・コンテンツの活用に関するスタディーツアー



リートベルク美術館（スイス・チューリッヒ）における絵画作品の調査



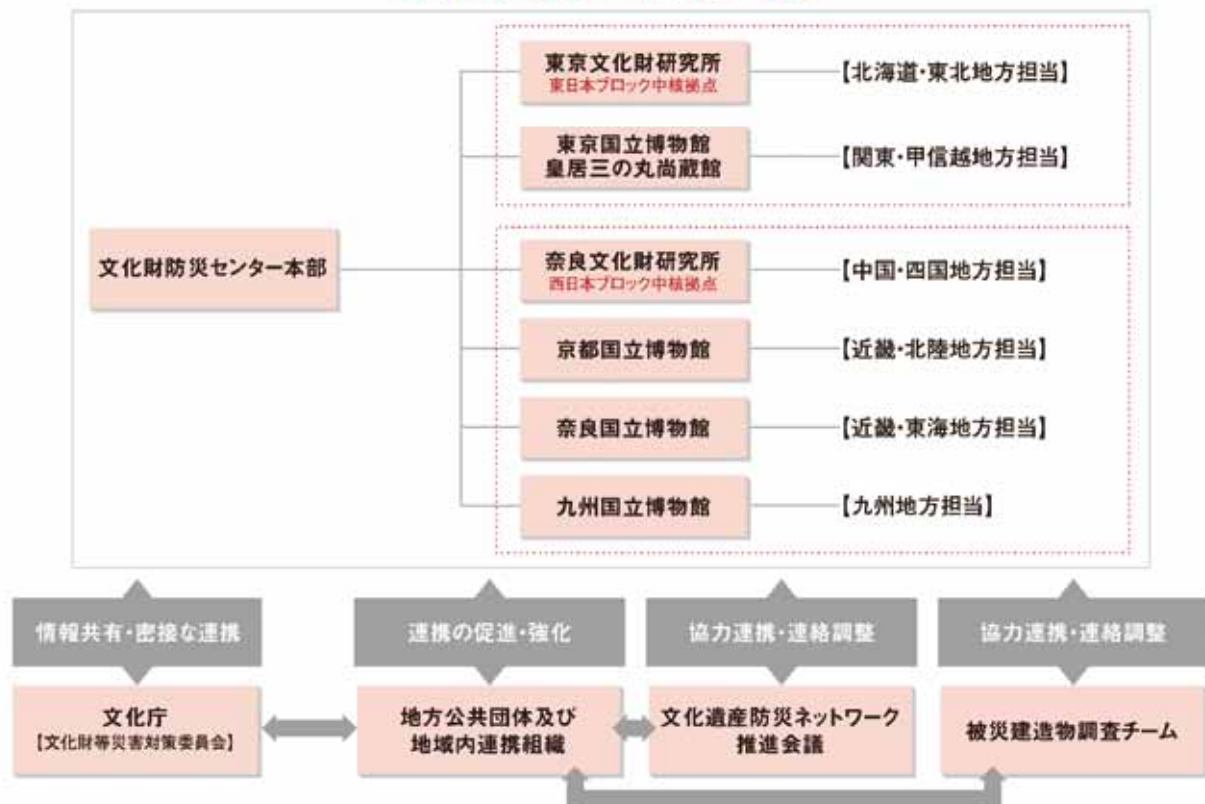
国際研修「紙の保存と修復」スタディーツアー（装演修理道具材料店）



東京文化財研究所一般公開(5月18日開催)

独立行政法人国立文化財機構の本部施設である文化財防災センターは、全体を統括するセンター本部を奈良におき、国立文化財機構内の6施設にもセンター職員を配置し、事業を展開している。大規模災害発生時には、東京文化財研究所が東日本ブロックの、奈良文化財研究所が西日本ブロックの、それぞれ中核拠点となる。

文化財防災のための体制



山形県文化財日常管理・防災研修会での講義



文化財防災体制に関するヒアリング（福島県）



能登半島地震による祭り・行事への被害に関する現地調査



トルコ共和国文化観光省専門家らへ向けた文化財防災研修

年報の発刊にあたって

令和6年度は、独立行政法人国立文化財機構第5期5ヶ年中期計画(2021~2025)の4年度目です。今期中期計画において、当研究所の果たすべき社会的使命と役割について「我が国の文化財の研究を、有形・無形文化財等を対象に、基礎的なものから先端的、実践的なものまで総合的に行い、我が国の文化財研究の拠点としての役割を果たすとともに、この成果をもとに文化財の保護に貢献する。また、文化財担当者の研修、地方公共団体への専門的な助言を行う。さらに、保存科学・修復技術に関する我が国の中核としての役割を果たす。また、世界の文化遺産保護に関する国際的な研究交流、保護協力、人材育成、情報の収集と活用等を実践するとともに、これらに係る国内外での連携の推進を通じ、文化遺産保護における国際協力の拠点としての役割を担う。」と定めています。

この使命を全うするため、文化財情報資料部では美術工芸品等に関する基礎的な研究業務に加え、有形・無形の文化財に関する様々な情報の収集と発信に関する調査研究に力点をおいて業務を推進しその成果をデータベース等により公開しています。また海外の文化財関係機関と協力し、積極的に英語による情報発信にも取り組んでおります。無形文化遺産部では、従来の伝統的な音楽や演劇、芸能、工芸技術といった無形文化財や民俗芸能、風俗・慣習、民俗技術等の無形民俗文化財の調査研究を進めるとともに、音声・映像による記録を作成しそれを利用する専用ブースも設置し、文化財の保存に必要な用具や資材の生産技術等に関する保存技術についても調査研究を進めています。また、保存科学研究センターでは、文化財の保存に関する科学的な調査研究、修復のための材料・技術に関する実践的な基礎研究を行うとともに、国立文化財機構における保存修復業務に関する一体的な研究環境の構築を推進しています。併せて、近代文化遺産に用いられている新たな材料の修復技術や災害等で被災した文化財の修復技術等の研究を進めています。加えて伝統的

技術の継承のため、文化庁と連携しながら地方公共団体の協力も得て、継承が困難になってきている用具・原材料製作の調査を積極的に実施しています。

さらに、文化遺産国際協力センターでは、アジア諸国をはじめとした各国からの要請に基づいて、文化財専門家養成や保存修復に関する技術移転等、相手国の実情に応じた共同研究や研修事業を積極的に行うなど文化の力による国際貢献に力を注いでいます。

当研究所は国立文化財機構本部に設置された文化財防災センターと連携して、東日本ブロックの中核拠点として位置づけられました。近年多発する自然災害等の教訓を活かし、無形文化遺産も含めて予防や減災の観点も取り入れた調査・研究を引き続き研究所全体で取り組んでいます。そのため、部・センターを横断したプロジェクトチームを結成するとともに、冷凍庫や真空凍結乾燥機などの調査研究に必要な機器を整備しております。

ところで、世界各国から要請も強い国際的な文化遺産保護支援に関する調査研究活動を行うにあたっては、国内の関係機関や関連分野の専門家との協力体制を充実・発展させることが肝要です。その意味で、「文化遺産国際協力コンソーシアム」(2006(平成18)年創設)の存在は大きく、その活動がさらに広まることが嘱望されており、事務局運営を文化庁より任されている当研究所としても、引き続きその活動に積極的に関わっていきたいと考えています。

今後とも、より効率的かつ効果的な組織運営を心がけながら、当研究所が文化財保護に関する総合的な調査研究の拠点施設としてさらに発展するよう努力してまいりますので、皆様の御支援、御協力をお願い致します。

令和7(2025)年6月

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所
所長 齊藤 孝正

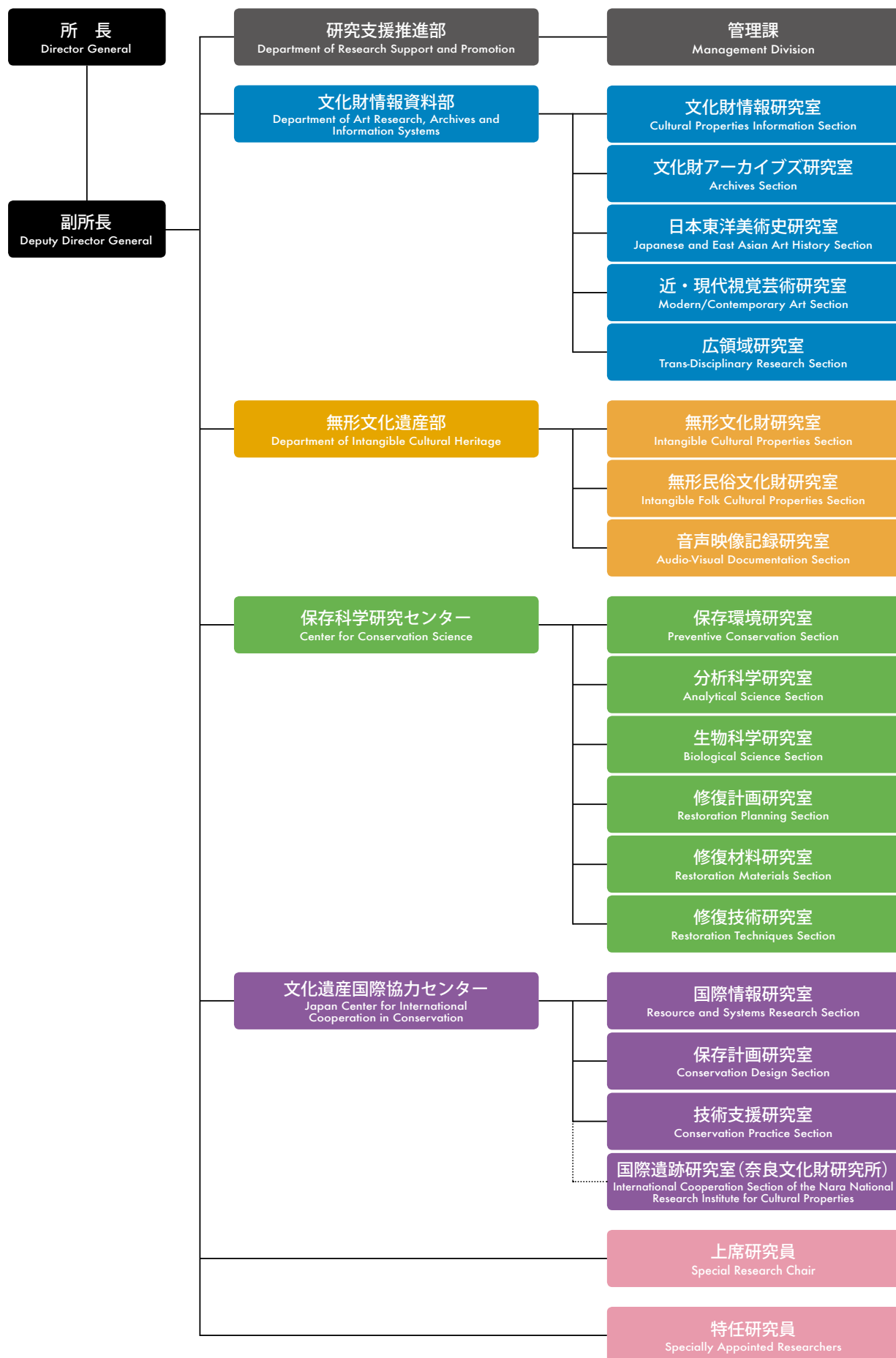
目 次

1. 機 構	3
1. 組織図	4
2. 組織の概要と職員	5
所長・副所長／研究支援推進部	5
文化財情報資料部	6
無形文化遺産部	7
保存科学研究センター	7
文化遺産国際協力センター／上席研究員／特任研究員	9
2. 年度計画及びプロジェクト報告	10
1. 年度計画(令和6年度)とプロジェクトとの対応	11
2. プロジェクト報告	24
① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業	26
② 保存修復に関する調査研究事業	33
③ 国際協力・交流等に関する事業	41
④ 情報収集・成果公開に関する事業	46
⑤ 刊行物に関する事業	60
⑥ 指導助言・研修等に関する事業	66
⑦ その他の事業	71
3. 外部資金等による研究活動	73
1. 科学研究費助成事業	76
2. 受託調査研究・補助事業・外部機関との共同研究及び外部資金による研究	114
4. 個人の研究業績	134
5. 研究交流	156
1. 職員の海外渡航	157
2. 招聘研究員等	161
3. 海外研究者等の来訪	162
4. 主要来訪者、施設見学	162
6. 資 料	163
1. 主な収蔵資料	164
1. 図書資料	164
2. その他の資料	164
2. 研究所関係資料	165
1. 設立の経緯	165
2. 年代別重要事項	165
3. 歴代所長(昭和5年～令和6年度)	168
4. 名誉研究員	169
5. 2024(令和6)年度予算等	170
3. 東京文化財研究所関係事業索引	174

1. 機 構

1. 組織図	4
2. 組織の概要と職員	5
所長・副所長／研究支援推進部	5
文化財情報資料部	6
無形文化遺産部	7
保存科学研究センター	7
文化遺産国際協力センター／上席研究員／特任研究員	9

1. 組織図



2. 組織の概要と職員

所長・副所長

所長 齊藤 孝正 (日本陶磁史)

副所長 友田 正彦 (建築学)

研究支援推進部

組織概要 研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理課に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。
本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

総務係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設並びに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品保存修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規定の制定・改廃に関する事務等を行っている。

財務係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

契約係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

研究支援推進部長	中村 夢隆 ^{*1}
管理課長	菅原 章 ^{*1}
総務係長	菅原 章 ^{*2}
総務係員	平野 裕大 ^{*3}
事務補佐員	山下 麻依 ^{*4}
事務補佐員	桜井 春香
事務補佐員	内山 海優
事務補佐員	青木 紗
事務補佐員	藍原 有理子 ^{*5}
企画渉外主任	小杉 則彬 ^{*1}
事務補佐員	上野山 礼
事務補佐員	大畑 孝子 ^{*6}
財務係長	木戸 理恵 ^{*7}
事務補佐員	森本 和義
事務補佐員	石崎 香織
事務補佐員	溝口 径子 ^{*8}
契約係長	安孫子 卓史 ^{*9}
事務補佐員	竹田 悠人
事務補佐員	田中 亜純 ^{*10}
事務補佐員	西山 結花 ^{*11}
事務補佐員	山本 友紀子 ^{*12}
事務補佐員	持塚 馨 ^{*13}
事務補佐員	青木 幹子 ^{*3}
事務補佐員	鈴木 恵子 ^{*14}
事務補佐員	石幡 明子 ^{*15}
事務補佐員	寺井 笑子 ^{*16}
事務補佐員	五十峯 美佐子 ^{*5}
事務補佐員	森田 美紀 ^{*5}
事務補佐員	浜本 洋子 ^{*17}

*1 令和7年3月31日付転出

*2 令和6年4月1日付兼務

*3 令和6年4月1日付採用

*4 令和6年5月31日付退職

*5 令和6年10月1日付採用

*6 令和7年3月31日付退職

*7 令和6年4月1日付皇居三の丸尚蔵館から異動

*8 令和6年4月1日付配置換

*9 令和6年10月1日付昇任

*10 令和6年6月30日付退職

*11 令和6年8月31日付退職

*12 令和6年12月31日付退職

*13 令和6年4月1日付採用・令和6年5月31日付退職

*14 令和6年7月1日付採用・令和7年1月17日付退職

*15 令和6年7月1日付採用

*16 令和6年9月1日付採用

*17 令和7年1月1日付採用・令和7年1月21日付退職

組織概要 文化財情報資料部は、文化財に関する調査研究を実施するとともに、調査研究の成果・情報についてのアーカイブ化を進め、適した情報インフラストラクチャを整備し、研究の成果・情報の適宜公開を行う。また国内外の研究機関との研究交流を実施する。調査研究においては、1) 黒田清輝（1866-1924）の遺言により造られた黒田記念館に設置された美術研究所以来の黒田周辺の作家等との交流を中心とした近現代作品の研究を進めるとともに、2) 日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究に資する高質な資料や情報を作成・提供する。また、3) 時代や地域などにとらわれない横断的な広領域にわたるテーマを設定し、人文学のほか、自然科学的研究手法の応用を進め、多角的な視点から研究を進める。あわせて、黒田記念館における作品と研究成果の展示について当部が担当する。4) 研究情報のアーカイブ化においては、文献資料、過去の調査記録等のデジタル化を推進し、研究のための閲覧促進を目的とする画像データベースを作成・運用する。画像資料にとどまらず文献資料及び研究情報を付加した文化財の専門的アーカイブを構築する。5) 研究成果の公開の一環として、『美術研究』（年3冊）、『日本美術年鑑』（年1冊）ほかの公刊、オープンレクチャーを開催する。所内各部門の研究情報の共有化のために総合研究会を企画・開催し、各年度の研究や事業を総括した年報編集の事務を取り扱う。6) 研究情報発信のため、所内広報委員会の情報システム部会ならびにアーカイブ委員会下にあるアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を運用・管理し、ウェブサイト及び外部公開データベースの充実を図る。さらに、資料閲覧室で架蔵図書等の諸資料の公開閲覧を担う。

文化財情報研究室

情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、文化財情報データベースを拡充する。また、ウェブサイトの構築・運用を通じて研究成果公開を行う。さらに、文化財情報及び情報技術の文化財保護への活用について研究を行う。

画像情報室：光学理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成技術を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

文化財アーカイブズ研究室

文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集・整理し、文化財情報統合アーカイブを作成し、全所的にとりまとめて公開する。

資料閲覧室：受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に一般の利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。

日本東洋美術史研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。また、美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集・整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査・研究する。

広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から文化財を研究し、その材料・技法・制作過程等を明らかにする。

文化財情報資料部長	江村 知子	(日本絵画史)
文化財情報研究室長	二神 葉子	(考古科学)
文化財アーカイブズ研究室長	米沢 玲 ^{*1}	(仏教美術史)
日本東洋美術史研究室長	小野 真由美	(日本中近世絵画史)
近・現代視覚芸術研究室長	江村 知子 ^{*2}	(日本絵画史)
近・現代視覚芸術研究室長	橘川 英規 ^{*1}	(美術資料)
広領域研究室長	江村 知子 ^{*3}	(日本絵画史)
主任研究員	小山田 智寛	(美学・情報学)
研究員	吉田 暁子	(日本近代絵画史)
研究員	田代 裕一朗	(韓国朝鮮美術史)
研究員	月村 紀乃 ^{*4}	(日本工芸史)
主任専門職	石灰 秀行	(情報システム)
専門職員	城野 誠治	(画像情報・文化財写真)
アソシエイトフェロー	谷口 每子	(画像形成)
アソシエイトフェロー	黒崎 夏央	(仏教彫刻史)
アソシエイトフェロー	武藤 明子	(情報システム)
アソシエイトフェロー	山永 尚美	(記録史料)
研究補佐員	安岡 みのり	(ウェブ作成)
研究補佐員	寺崎 直子	(日本絵画史)
研究補佐員	鈴木 良太 ^{*5}	(日本近代絵画史)
研究補佐員	中村 茉貴	(近現代美術)
研究補佐員	酒井 かれん ^{*6}	(画像形成)
研究補佐員	小林 真美	(中国美術史)
研究補佐員	高階 郁美	(データベース)
研究補佐員	日比野 小都 ^{*7}	(日本近代絵画史)
研究補佐員	飯田 智子 ^{*8}	(日本近世絵画史)
研究補佐員	荒川 理佐 ^{*4}	(文書保存・管理)
研究補佐員	浅野 真知 ^{*4}	(アーカイブズ学)
研究補佐員	山下 麻依 ^{*4}	(資料管理)
客員研究員	三上 豊	(近現代美術)
客員研究員	丸川 雄三	(情報学)
客員研究員	田中 潤	(近代史料)
客員研究員	片山 まひ ^{*6}	(東洋陶磁史)
客員研究員	田中 淳	(日本近代絵画史)
客員研究員	永崎 研宣	(人文情報学・仏教学)
客員研究員	津田 徹英	(日本彫刻史)
客員研究員	川瀬 由照	(日本彫刻史)
客員研究員	山梨 絵美子	(日本近代絵画史)
客員研究員	後藤 亮子 ^{*9}	(東洋絵画史)
客員研究員	薬師寺 君子 ^{*9}	(日本近世絵画史)
客員研究員	田良島 哲 ^{*9}	(日本史・博物館情報学)
客員研究員	片倉 峻平 ^{*9}	(上古中国語・人文情報学)
客員研究員	安永 拓世 ^{*9}	(日本近世絵画史)

*1 令和6年4月1日付配置換

*2 令和6年4月1日付兼務解除

*3 令和6年4月1日付兼務

*4 令和6年6月1日付採用

*5 令和7年2月28日付退職

*6 令和7年3月31日付退職

*7 令和6年10月31日付退職

*8 令和7年1月1日付採用

*9 令和6年4月1日付採用

組織概要 無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。内容は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行うことのできない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

このほかに、無形文化遺産分野についてアジアを中心に海外との研究交流も実施している。

無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行っている。

音声映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また、無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

無形文化遺産部長	石村 智	(文化遺産学)
無形文化財研究室長	前原 恵美	(古典芸能)
無形民俗文化財研究室長	久保田 裕道	(民俗芸能)
音声映像記録研究室長	石村 智	(文化遺産学)
主任研究員	今石 みぎわ	(民俗学)
主任研究員	菊池 理予	(工芸技術)
研究員	鎌田 紗弓	(古典芸能)
研究員(文化財防災センター)	後藤 知美	(民俗学)
アソシエイトフェロー	小田原 直也	(映像撮影・編集)
研究補佐員	中川 優子	(古典芸能)
研究補佐員	狩野 萌	(民俗学)
研究補佐員	館野 太朗	(演劇学)
研究補佐員	石原 真理 ^{*1}	(工芸技術)
客員研究員	山崎 剛	(工芸技術)
客員研究員	谷垣内 和子	(古典芸能)
客員研究員	伊藤 純	(民俗学)
客員研究員	俵木 悟	(民俗芸能)
客員研究員	大西 秀紀	(古典芸能)
客員研究員	森下 愛子	(工芸技術)
客員研究員	宮田 繁幸	(民俗芸能)
客員研究員	神野 知恵	(民俗芸能)
客員研究員	佐野 真規	(映像アーカイブ)
客員研究員	飯島 満 ^{*2}	(古典芸能)
客員研究員	金子 健 ^{*1}	(古典芸能)

* 1 令和6年11月1日付採用

* 2 令和6年4月1日付採用

保存科学研究センター

組織概要 保存科学研究センターは、文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究を行うナショナルセンターとしての役割を担っている。科学的な方法を用いて、文化財を取り巻く環境の調査や文化財の材料及び構造に関する調査を行い、文化財の保存や理解に役立つ知見の集積・発信を行っている。また、文化財の置かれた環境履歴を調査し、適切な修復材料・技術の改良・開発、評価及びメンテナンス手法に関する研究を行っている。得られた研究成果は紀要『保存科学』を通じて、速やかに公開している（ウェブにてフリーアクセスコンテンツ）。これらの知見をもとに、「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・研究」の4項目について、地方公共団体に対して協力を行い、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。また、国立文化財機構内の研究所・博物館に加え、文化財活用センター・文化財防災センターの保存修復担当の研究員を保存科学研究センターの併任とし、文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互に連携して、随時取り組む体制を構築している。さらに、2020（令和2）年10月に設立された文化財防災センターの東日本ブロック中核拠点として、地域防災体制の構築や多様な文化財の防災・減災のための技術開発等に取り組んでいる。

保存環境研究室

博物館・美術館など展示・収蔵施設における文化財の安全な保存環境の確立のため、温度湿度、光、空気汚染物質などが文化財に与える影響を調べ、劣化を抑制する研究を行っている。劣化因子の測定方法の基準化を図るとともに、各施設の担当者との連携し、現場での環境モニタリングや、改善のための実証研究も行っている。災害等における一時保管場所の保存環境の整備に関する研究に重点を置いている。

分析科学研究室

様々な科学的分析手法によって文化財の構造・材質を調査し、劣化状態を含む文化財の物理的・化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。X線や光を使った非破壊的な手法を中心に、各種可搬型機器を用いた調査方法の開発とその応用によって、文化財の構造・制作技法のみならず美術史・工芸史・考古学等との連携により制作年代・生産地研究などへ視野を拡げ、文化財の総合研究を実現、牽引している。

生物科学研究室

昆虫やカビなど、生物による文化財の劣化機構の解明とその防除方法に関する調査研究を行っている。博物館や美術館などの展示・収蔵環境にある文化財、歴史的建造物や古墳などの屋外にある文化財の生物が原因となる劣化現象の発生原因と解決方法について調査研究を行うとともに、生物が発生・繁殖することによる観覧者や作業員などの人体への影響も視野に入れた対策の開発に力を入れている。

修復計画研究室

文化財の持つ本質的な価値をできるだけ改変することなく次の世代へと伝えていくために、その文化財を構成する材料の特性を確認し、それが置かれている環境を調査し、適切な修復と保存の方針を策定していくための研究を行っている。併せて、通常環境においてだけではなく、自然災害等による文化財の被害を最小限に止めるための計画策定に関して、防災・災害後の保全処置の両面において研究を進めている。

修復材料研究室

膠や漆などの伝統的材料、近代になり開発され使用されてきたものなど、従来文化財修復に使用されてきた修復材料の評価と改良を行うとともに、新しい修復材料の開発評価、及び修復への適用方法の検討を行っている。併せて、安全な文化財修復を実現するために、文化財の伝統的製作技法や材料製作に関する調査研究を行っている。

修復技術研究室

水害や地震、火災等の災害によって被災した文化財、また、近代に製作された大型構造物や機械器具、工業製品など多様な材料から成る文化財について、保存修復処置技術に関する新しい材料や技法に関する情報収集、技術・材料の調査及び開発を行っている。これらの文化財を、その特性や来歴を含め、次世代に適切に伝えていくための保存手法・保存活用、防災計画のあり方等を研究している。

保存科学研究センター長	犬塚 将英 ^{*1}	(物理計測)
保存科学研究副センター長	早川 典子 ^{*1}	(高分子化学)
保存環境研究室長	秋山 純子	(保存科学)
分析科学研究室長	犬塚 将英	(物理計測)
生物科学研究室長	佐藤 嘉則	(微生物生態学)
修復計画研究室長	朽津 信明	(地質学)
修復材料研究室長	早川 典子 ^{*2}	(高分子化学)
修復技術研究室長	犬塚 将英 ^{*2}	(物理計測)
主任研究員	西田 典由 ^{*3}	(分析科学)
研究員	倉島 玲央	(有機化学)
研究員	水谷 悦子 ^{*4}	(環境工学)
研究員	芳賀 文絵	(保存科学)
研究員(文化財防災センター)	千葉 毅	(文化財防災・考古学)
アソシエイトフェロー	大和 あすか ^{*5}	(彩色材料)
アソシエイトフェロー	國方 沙希 ^{*6}	(絵画保存修復)
アソシエイトフェロー	島田 潤	(昆虫学)
アソシエイトフェロー	轟 文瑠 ^{*7}	(土壌微生物学)
アソシエイトフェロー	紀 芝蓮	(保存科学)
アソシエイトフェロー	西田 典由 ^{*8}	(分析科学)
アソシエイトフェロー	由井 和子 ^{*9}	(無機化学・化学工学)
研究補佐員	小野寺 裕子	(保存修復)
研究補佐員	山田 祐子	(絵画保存修復)
研究補佐員	轟 文瑠 ^{*10}	(土壌微生物学)
研究補佐員	山田 紀代美	(分子微生物学)
研究補佐員	趙 依寧	(陶磁器保存修復)
研究補佐員	寺島 海	(保存科学)
研究補佐員	永谷 知恵 ^{*5}	(東洋絵画修復)
研究補佐員	由井 和子 ^{*11}	(無機化学・化学工学)
研究補佐員	鈴木 琴那 ^{*12}	(文化財科学)
研究補佐員	吉岡 穂乃花 ^{*13}	(油画修復)
事務補佐員	柘櫃 奈穂	
客員研究員	藤井 義久	(木材科学)
客員研究員	北原 博幸	(建築環境学)
客員研究員	本多 貴之	(高分子分析)
客員研究員	山本 記子	(装潢修理技術)
客員研究員	貴田 啓子	(保存科学)
客員研究員	岡田 健	(文化財学)
客員研究員	片山 葉子	(環境微生物学)
客員研究員	宇高 健太郎	(東洋絵画材料)
客員研究員	蒔田 重賀	(航空史)
客員研究員	古田嶋 智子	(保存科学)
客員研究員	伊庭 千恵美	(建築環境工学)
客員研究員	川野邊 渉	(高分子化学)
連携併任	和田 浩	(東京国立博物館)
連携併任	児島 大輔	(東京国立博物館)
連携併任	野中 昭美	(東京国立博物館)
連携併任	大橋 美織	(東京国立博物館)
連携併任	佐藤 萌	(東京国立博物館)
連携併任	宮田 将寛	(東京国立博物館)
連携併任	福士 雄也	(京都国立博物館)
連携併任	降幡 順子	(京都国立博物館)
連携併任	上杉 智英	(京都国立博物館)
連携併任	荒木 臣紀	(奈良国立博物館)
連携併任	鳥越 俊行	(奈良国立博物館)
連携併任	木川 りか	(九州国立博物館)
連携併任	志賀 智史	(九州国立博物館)
連携併任	渡辺 祐基	(九州国立博物館)
連携併任	建石 徹	(皇居三の丸尚蔵館)
連携併任	加藤 広樹	(皇居三の丸尚蔵館)
連携併任	矢澤 南歩	(皇居三の丸尚蔵館)
連携併任	脇谷 草一郎	(奈良文化財研究所)
連携併任	田村 朋美	(奈良文化財研究所)
連携併任	松田 和貴	(奈良文化財研究所)
連携併任	柳田 明進	(奈良文化財研究所)
連携併任	吉田 直人	(文化財活用センター)
連携併任	間瀬 創	(文化財活用センター)
連携併任	高妻 洋成	(文化財防災センター)
連携併任	小谷 竜介	(文化財防災センター)
連携併任	中島 志保	(文化財防災センター)
連携併任	和泉田 絢子	(文化財防災センター)

- * 1 令和6年4月1日付昇任
- * 2 令和6年4月1日付兼務
- * 3 令和6年9月1日付採用
- * 4 令和6年4月1日付配置換え
- * 5 令和7年3月31日付退職
- * 6 令和7年3月1日付採用
- * 7 令和6年8月1日付採用
- * 8 令和6年8月31日付退職
- * 9 令和6年7月1日付採用
- * 10 令和6年7月31日付退職
- * 11 令和6年6月30日付退職
- * 12 令和6年4月1日付採用
- * 13 令和6年7月1日付採用、令和6年10月31日付退職

文化遺産国際協力センター

組織概要 文化遺産国際協力センターは、文化遺産の保存修復及び調査研究の分野において我が国が国際協力を推進するためのナショナルセンターとしての役割を担っており、国内外の教育研究機関や民間団体等とも連携しながら、世界各地で積極的な協力活動を実施している。その活動内容は、文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信、文化遺産保護国際協力事業の実施、文化遺産の保存修復に関する技術移転・人材育成協力等、多岐にわたっている。

国際情報研究室

国際社会における文化遺産に関する理念や法制度等、文化遺産の保護制度や施策に関して、国際動向や国際協力等の情報を収集・分析している。また、国際研修等を通じて情報発信している。

保存計画研究室

アジア諸国等の文化遺産の保存・管理・整備・活用に関し、現地政府機関等と協力しながら、調査研究及び計画立案、さらには事業実施にあたっての技術的助言等を行っている。また、紛争や自然災害時における被災文化遺産の救済や復興活動にも協力している。

技術支援研究室

文化遺産の修復手法や材料及び技術に関する調査研究や人材育成への協力など、国際共同事業及び技術移転を通じての諸外国への支援を行っている。

文化遺産国際協力センター長	友田 正彦	(建築学)
国際情報研究室長	金井 健	(建築学)
保存計画研究室長	安倍 雅史	(考古学)
技術支援研究室長	加藤 雅人	(製紙科学)
主任研究員	前川 佳文	(壁画保存修復)
研究員	浅田 なつみ	(建築学)
アソシエイトフェロー	片渕 奈美香 ^{*1}	(染織品保存科学)
アソシエイトフェロー	黒岩 千尋	(建築学)
アソシエイトフェロー	山田 綾乃	(考古学)
アソシエイトフェロー	五嶋 千雪	(現代美術)
アソシエイトフェロー	金子 雄太郎	(文化遺産マネジメント)
アソシエイトフェロー	武 瀟瀟 ^{*2}	(日本絵画史)
アソシエイトフェロー	石渡 美鈴 ^{*3}	(3Dオブジェクト修復)
アソシエイトフェロー	藤井 郁乃 ^{*4}	(保護制度)
アソシエイトフェロー	米山 大三郎 ^{*2}	(建築学・観光学)
アソシエイトフェロー	松浦 一之介	(考古学・景観保護)
アソシエイトフェロー	大川 柚佳 ^{*5}	(西洋絵画保存修復)
研究補佐員	柴田 みな	(建築意匠)
研究補佐員	長尾 琢磨	(考古学)
事務補佐員	石田 智香子	
事務補佐員	五十畑 亜貴子 ^{*6}	
事務補佐員	柄澤 真子	
事務補佐員	山潟 愛 ^{*7}	
事務補佐員	平田 薫 ^{*8}	
客員研究員	大河原 典子	(日本画)
客員研究員	杉山 恵助	(東洋絵画修復)
客員研究員	山田 大樹 ^{*9}	(地域計画)
客員研究員	境野 飛鳥	(保護制度)
客員研究員	邱 君妮 ^{*9}	(博物館学)
客員研究員	片渕 奈美香 ^{*10}	(染織品保存科学)

- * 1 令和6年11月30日付退職
- * 2 令和6年10月1日付採用
- * 3 令和6年6月1日付採用
- * 4 令和6年10月18日付退職
- * 5 令和7年1月31日付退職
- * 6 令和6年4月1日付採用
- * 7 令和6年12月31日付退職
- * 8 令和7年1月1日付採用
- * 9 令和7年3月31日付退職
- * 10 令和6年12月1日付採用、令和7年3月31日付退職

上席研究員

塩谷 純 (日本近代絵画史)

特任研究員

小林 公治 (物質文化史)

早川 泰弘 (分析化学)

2. 年度計画及びプロジェクト報告

1. 年度計画(令和6年度)とプロジェクトとの対応	11
2. プロジェクト報告	24
①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	26
②保存修復に関する調査研究事業	33
③国際協力・交流等に関する事業	41
④情報収集・成果公開に関する事業	46
⑤刊行物に関する事業	60
⑥指導助言・研修等に関する事業	66
⑦その他の事業	71

1. 年度計画(令和6年度)とプロジェクトとの対応

令和6年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画

独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三号)第三十一条の規定により、令和3年3月25日付け2受文庁第4932号で認可を受けた独立行政法人国立文化財機構中期計画に基づき、令和6年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信(略)

2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究

1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究

ア 国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と共同研究を行う。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。 [シ01](#) [シ05](#)

イ 日本をはじめとする東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査及び研究を進める。また美術関連の編年紀等基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これに係る国内外との研究交流を推進する。 [シ02](#)

ウ 日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。 [シ03](#)

エ 美術作品を中心とする有形文化財についての歴史的位置づけ及びそれに基づくより深い理解を得ることを目的として、種々の美術工芸品を主な対象として、その表現・技術・材料等について、自然科学や人文学における様々な隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施し、その成果公開を行う。さらに、新たな独創的研究視点や手法の検討・開発にも取り組む。 [シ04](#)

2) 建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究

近畿を中心とする古社寺等の建造物の調査研究、近世・近代を中心とした文化財建造物の基礎データの収集、未指定建造物・歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。また、伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存活用を行っている各自治体等への協力を行う。

3) 歴史資料・書跡資料に関する調査研究

近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、唐招提寺関係資料等について公表に向けて整理研究を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】・評価軸による具体的な研究成果

- ・(関連指標)論文等数
- ・(関連指標)報告書等の刊行数

【評価軸】・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。

- ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。

②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究

1) 重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等

無形文化財等の伝承実態及びそれらに関わる文化財保存技術に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、伝承が困難なため現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。

調査研究等に際しては関連する他分野の研究者、伝承者・保存団体、技術保持者・保持団体等との連携を図り、

当該調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。

また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。 △01 △02

2) 重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。

さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。 △02

3) 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等

日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。 △05

【中期目標・計画上の評価指標】・評価軸による具体的な研究成果

- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】・無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。

③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

1) 史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究

我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。

- ア 遺跡・名勝地のマネジメント・インタプリテーションに関連する資料や情報の収集を行い、国際的な動向も踏まえながら調査研究を進め、公表を行う。また平城宮跡等で保存・活用にに関する実践的研究を行う。
- イ 庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。

2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。

- ア 古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺旧境内等、藤原宮大極殿院地区、飛鳥地域の宮殿等の発掘調査を行う。
- イ 出土品及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。奈良文化財研究所が収蔵する出土文化財の管理をより強化する。また、都城遺跡の廃都後や顕彰・保存・整備、社会的役割まで多角的に研究する。
- ウ 飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、日中韓の古代寺院出土品を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築に関する研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の構造や出土部材の研究を行う。
- エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び中国都城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、木簡・簡牘に関する中国社会科学院古代史研究所、河北師範大学歴史学院、および韓国・慶北大学校人文研究院との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究院との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究院との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定等に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。

3) 重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究

文化的景観の保存・活用、及び文化的景観における生活・生業に関する情報収集、調査研究を行う。また、得られた成果を公表し、文化庁、全国文化的景観地区連絡協議会、関係地方公共団体と連携して、全国的文化財保護行政担当者、研究者と共有する。

4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究

我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。

- ア 全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や、官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。
- イ 古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。出土文字資料研究の拠点的研究を行う。

5) 水中文化遺産に関する調査研究

我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため、水中文化遺産（水中遺跡）の保存及び活用に関する調査研究を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】・評価軸による具体的な研究成果

- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

【評価軸】・記念物の保存・活用に寄与しているか。

- ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。
- ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。
- ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

①文化財の調査手法に関する研究開発の推進

1) デジタル画像の形成方法等の研究開発

さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法及び色彩復元に関する調査研究を行う。 シ05

2) 埋蔵文化財の調査・研究方法の研究開発

埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、地震痕跡や地層の堆積環境等についての地質学的な検証法、石垣や窯業関連資料を中心とする遺構・出土品の計測及びその測定値から必要な諸情報を抽出する手法、製作技法や形態・物性に基づく資料分析法、さらには、一般市民にむけた調査・研究成果の活用法について研究を進める。

3) 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発

出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、各地の年輪データの蓄積を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代調査や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。

4) 動植物遺存体の分析方法の研究開発

平城宮跡・藤原宮跡をはじめ、各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。

5) 文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発

文化財の調査・研究成果のより効果的・広範囲な公開を目的とした、AR・VR、ゲーム等を利用した調査・研究成果の活用方法について研究を行う。特に、小中学校のプログラミング教育必修化に対応した文化財情報の活用方法について研究を行う。

6) 物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究

都城発掘調査部や地方公共団体等が実施する発掘調査によって得られる地層データについて、その取得、分析、公開等の手法を研究し、災害史の基礎資料として活用する。また、これらの記録手法とする三次元計測法や画像解析法の研究を進める。

【中期目標・計画上の評価指標】・評価軸による具体的な研究成果

- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

【評価軸】・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

1) 文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究

文化財建造物、古墳内環境等生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた加害生物種特定の技術開発を行うとともに、被災文化財を含めた虫害被害に対する環境低負荷型の処置方法について基礎研究を行う。 ホ01

2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究

博物館美術館等の文化財保管施設における保存環境変動要因に関する調査を実施し、最適な環境条件を設定するための検討を行う。また、被災文化財の一時保管場所を念頭に置いて、文化財防災センターと協力して様々な施設における環境調査を実施し、安定した保存環境を設定するための方策について検討する。 ホ02

3) 文化財の材質・構造・保存状態に関する研究

蛍光X線分析や反射分光分析等の近赤外線領域の反射分光分析を新たに導入し、各種分析装置を併用して文化

財の材質・構造・劣化状態に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている鉛や鉄等の腐食に関する調査研究及びその対策に関する検討を行う。ホ03

4) 屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究

屋外に存在する人文資料や自然史資料を対象に、その劣化状況を適切に評価し、価値を回復して人々に有効に伝えるための適切な保存修復方法を検討する。ホ04

5) 文化財の修復のための技法と材料に関する調査研究

美術工芸品及び建造物等の修復に貢献するため、修復材料・修復方法に関する科学的調査を実施し、その評価を行う。また、旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。修理技術者に必要な科学的知識に関して、今までの成果を元にアウトリーチ活動を行う。ホ05

6) 伝統材料・製作技法について科学的調査と情報集積を行う

文化財の構成材料や修復に関連し、伝統的材料・用具とそれらを使用する技法についての調査を行い、科学的評価を踏まえた記録を作成することで、文化資産の客観的な情報集積を目的とする。ホ05

7) 文化財の修復技術に関する調査研究

災害によって被災した文化財資料の応急処置または保存修復処置に係る技術や方法に関する調査研究を行う。近代以降に使われるようになった新しい保存修復技術や方法に関する調査研究を行う。様々な技術や方法を、保存修復処置を行う現場に効果的に適用するための研究を行う。ホ06

8) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究

鉄製遺物の発掘後の劣化挙動の予測技術及び効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化する新たな手法の確立と実用化に向け、基礎データの蓄積を進める。

9) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究

遺構の劣化要因として塩害及び乾湿繰り返しに着目し、これらの劣化因子が遺構を破壊するメカニズムに関する基礎研究を実施する。また遺構の周辺環境がこれらの劣化の進行におよぼす影響を解析し、それらの進行を抑制する環境制御法及び脱塩等の処置法等についての研究を進める。

10) 考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究

イメージング技術を活用した考古遺物等の非破壊調査を進め、古代の材料・技法に関する調査研究を行う。光学的手法を用いて各種色料（顔料、染料、ガラス着色剤等）の基礎データを収集するとともに、混色又は劣化による変化を明らかにするための実験を行う。また、文化財を対象とした蛍光X線分析等の機器分析のガイドライン作成にむけての実験及び基礎データの収集を進める。

11) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究

ア 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。ホ p.40

イ 壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な保存環境について調査研究を行う。

ウ 遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うため、大分・熊本両県所在の装飾古墳において温熱環境調査及び石材等の劣化状態調査を行い、適切な石室内の熱水分環境について研究を進める。

【中期目標・計画上の評価指標】・評価軸による具体的な研究成果

- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

【評価軸】・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

1) 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信

海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。

ア 文化遺産の調査や保護に関わる国際的議論の場への参加等を通じて情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行い、その成果を研究会の開催や出版物の刊行等により国内外に情報発信する。コ01

イ 英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。

2) 文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進

国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。

ア 文化遺産保護に関する研究及び協力事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。

（ア）アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺

跡群（西トッブ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やブータン、カザフスタン、ウズベキスタン等の文化遺産について研究及び協力事業を実施する。_____ コ02 コ03

（イ）上記事業と連携しつつ、文化遺産保護に関する研究会やワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有を図る。_____ コ02 コ03

3) 文化遺産保護に関する人材育成等

諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や技術的支援等を通じて文化遺産の保存や活用に関する人材育成を進める。

ア 政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）ほか国内外の諸機関等と連携し、紙文化遺産等に関する国際研修や国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産担当者と共有するとともに、協力ネットワークを構築する。_____ コ05

イ ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が実施する研修への協力を行う。

4) 海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力

在外日本古美術品の保存修復に協力し、さらに成果を報告書等で公開することにより、日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。_____ コ04

【中期目標・計画上の評価指標】・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【評価軸】・文化遺産国際協力を推進するとともに、国際協力推進体制について中核的な役割を担っているか。

②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、域内の研究機関、研究者等と協力し、以下の事業を行う。

- ・研究情報の持続的収集と共有、及び国際会議・シンポジウム・セミナー等の開催を通じたアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の促進
- ・持続的でレジリエントな社会構築につなげることを視野に入れた無形文化遺産研究の推進
- ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

【中期目標・計画上の評価指標】・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数）

【評価軸】・アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進しているか。

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

①文化財情報基盤の整備・充実

文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。

- 1) 国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースを構築・運用する。特に、産業技術総合研究所との共同研究に基づき文化財3Dアーカイブを中心とした文化財デジタルツイン事業を推進する。また、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。_____ シ05

- 2) 文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管及び公開活用に関して、技術

面・法律面含めたガイドラインを作成する。また、文化財報告書に関する総目録を作成する。_____ シ06

- 3) 調査研究及び文化財防災に役立つデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。_____ シ06

- 4) 文化財に係る図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実させる。

【中期目標・計画上の評価指標】・文化財に関するデータベースのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上）

- ・（関連指標）データベースのデータ件数

②調査研究成果の発信

文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多角的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイト充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。

- 1) 定期刊行物の刊行 _____ シ07 ム04 ホ07

- ・『東京文化財研究所年報』
- ・『東京文化財研究所概要』
- ・『東文研ニュース』
- ・『美術研究』（年3冊）
- ・『日本美術年鑑』
- ・『無形文化遺産研究報告』

- 『無形民俗文化財研究協議会報告書』
- 『保存科学』
- 『奈良文化財研究所紀要』
- 『奈良文化財研究所概要』
- 『奈文研ニュース』
- 『埋蔵文化財ニュース』

2) 公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等

- 公開講座（オープンレクチャー）

シ08

- 公開講演会
- 現地説明会

3) ウェブサイトの充実

- 東文研総合検索
- 学術情報リポジトリ
- なぶんけんブログ等（コラム作覧等）

シ05

【中期目標・計画上の評価指標】・（関連指標）学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

③ 展示公開施設の充実

平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。

1) 特別展・企画展

（平城宮跡資料館）

- 夏期企画展「大和し思ほゆー永瀬卓作人形からみる古代奈良ー（仮）」（7月13日～9月1日）（平城宮管理センター共催 於：平城宮いざない館）
- 秋期企画展 聖武天皇即位1300年記念「聖武天皇の生きた時代（仮）」（10月22日～12月8日）
- 春期企画展「発掘された平城 2022→2023」（10月22日～12月8日）

（飛鳥資料館）

- ミニ展示「高松塚古墳壁画 国宝指定50周年記念展」（4月19日～5月19日）
- 企画展「第15回写真コンテスト作品展「飛鳥の音」」（7月14日～9月18日）
- 特別展「飛鳥地域の古地図・風景展（仮）」（10月4日～12月1日）

2) 定期的に実地研修や動画配信を活用した研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】・公開施設来館者に対する満足度アンケート（特別展・企画展）（満足度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持）

- （関連指標）公開施設における特別展・企画展の開催件数（年2～3回程度）
- （関連指標）公開施設の来館者数

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

① 文化財に関する研修の実施

- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
- 2) 研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。

ホ08

ホ08

【中期目標・計画上の評価指標】・研修成果の活用状況（アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上）

② 文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

シムホ

- 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
- 2) 蓄積されている調査研究成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
- 3) 地震等で被災した地域の要請に応じ、文化庁等との緊密な連携のもと、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。

- 1) 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
 - 文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への技術的な助言
 - 文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
 - 国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力
 - 国土交通省の平城宮いざない館展示室4（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
- 2) NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力

④連携大学院との連携教育等の推進

連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

- 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施
 - 東京藝術大学大学院：システム保存学（保存環境学、修復材料学）ホ p. 69
 - 京都大学大学院：人間・環境学専攻 文化・地域環境講座
 - 奈良女子大学大学院：人文科学専攻 比較文化学講座
 - 奈良大学：「文化財修景学」

(6) 文化財防災に関する取組 防 p. 70

（文化財防災センター）

①地域防災体制の構築

地方公共団体、博物館、美術館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体の連携及び協力を深め、地域の文化財の防災体制を構築する。

- 1) 地方公共団体、博物館、美術館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体との協議、情報交換会を開催する。
- 2) 都道府県が策定する文化財保存活用大綱、市町村が策定する文化財保存活用地域計画及び都道府県並びに市町村が策定する地域防災計画を収集し、地域文化財の防災体制に関する調査研究を行い、地域防災体制構築に資する情報をまとめる。
- 3) 令和6年1月に発生した能登半島地震への対応のため、文化庁「令和6年能登半島地震被災建造物復旧支援および被災文化財等救援事業」に基づき、令和6年2月13日に機構に設置した令和6年能登半島地震被災文化財等救援委員会及び令和6年能登半島地震被災建造物復旧支援委員会が中心となり、文化庁及び被災各県と協力して、被災文化財等の救援・復旧支援事業を進める。また、その他の災害発生時における文化財等の救援活動を支援する。

②災害時ガイドライン等の整備

災害発生時において多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種のガイドライン等の策定を行う。

- 1) 各分野の文化財の防災に関する課題を整理し、ガイドライン等策定計画を作成する。
- 2) 各分野の文化財防災に必要なガイドライン等について上記計画に基づき策定作業を進める。

③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

平常時における文化財の収蔵及び展示における技術開発並びに災害時における文化財のレスキューに関する技術開発を行う。

- 1) 文化財の災害に対するリスクの所在及び対処に関する研究会を開催する。
- 2) 保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境、被災現場の作業環境や、平時の防災手法等に関する調査研究を行う。

④文化財防災を促進するための普及啓発

文化財防災に関する指導、助言、研修等の啓発及び普及活動を行うとともに、文化財防災センターでの取組等を広く国内外へ情報発信する。

- 1) シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。
- 2) 文化財防災に関する取組についてウェブサイトでの公開とパンフレット等の作成を行い、国内外への情報発信に努める。

⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用

文化財防災に関する情報の収集を進め、我が国の文化財防災システムを機能的に運用するための情報の活用方法を検討する。

- 1) 文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報を収集し、整理して共有化を図る。
- 2) 多様な文化財の防災に資するデータベース構築のためのデータ収集を進めるとともに、文化財防災への活用方法の調査研究を行う。
- 3) 諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努める。
- 4) 文化遺産防災ネットワーク推進会議及び文化遺産の防災に関する有識者会議を開催し、文化財防災に係る課題等の把握に努める。

【中期目標・計画上の評価指標】・防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況（都道府県内各種会合等への会議等参加数）

- ・文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数、報告書等の刊行数）
- ・文化財防災に関する普及啓発への取組状況（シンポジウム等の開催件数）

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 業務改善の取組

(1) 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、文化財の活用や防災等の機能の強化及び充実にむけ、組織体制整備に努める。

(2) 人件費管理の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約・調達方法の適正化

- ①契約監視委員会を実施する。
- ②施設内店舗の貸付・業務委託について企画競争を実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

周辺機関との共同調達について、有用性が確認された以下の案件について実施する。

上野地区 再生PPC用紙、トイレトペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸及び保守、トイレ洗浄機器等賃貸借

京都地区 再生PPC用紙、トイレトペーパー

九州地区 再生PPC用紙、トイレトペーパー、ガソリン

(5) 一般管理費等の削減

①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

情報システムについては、機構共通事務システム・ネットワークを運用し、業務の効率化及び情報の共有化を図る。

②計画的なアウトソーシング

以下の業務の外部委託を継続して実施する。

（東京国立博物館）・建物設備の運転・管理業務

- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- ・資料館業務の一部
- ・施設内店舗業務
- ・施設貸出業務
- ・代表電話対応及び受付業務

（京都国立博物館）・警備業務及び設備保全業務の一部並びに清掃業務

- ・会場運営業務

- 代表電話対応及び受付業務
- (奈良国立博物館) • 建物設備の運転・管理業務
- 警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- 代表電話対応
- (九州国立博物館) • 建物設備の運転・管理業務等
- 警備業務、看視案内業務及び清掃業務
- (皇居三の丸尚蔵館) • 建物設備の運転・管理業務等
- 警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- (東京文化財研究所・奈良文化財研究所) • 警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

③使用資源の減少

- 省エネルギー
光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に節減に努める。
- 廃棄物減量化
使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に努める。
- リサイクルの推進
廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを推進する。

2. 業務の電子化

機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を行う。機構共通メールシステム、ウェブ会議システム等を運用する。統合認証システムの導入について検討する。

3. 予算執行の効率化

収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、効率的な予算執行に努める。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 自己収入拡大への取組

(1) 機構全体において、展示事業等収入額が年度計画予算額を上回ることを目指す。

(2) 機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。

(機構共通)

- 個人・民間企業からの寄附、寄附会員制度、展示公開施設における募金箱等を通じて、施設全体の活動を支援する資金を民間から募る。また、文化財修理や研究支援等の特定の事業に係るプロジェクト型の寄附募集についても実施を検討する。
- 文化財活用センターが中心になって運用する国立文化財機構寄附ポータルサイト等を通じた情報提供や寄附事業の実施等により、一層の寄附を促す取組を行う。
- 外部資金獲得に向けた取り組みを機構全体で活性化させるため、施設を横断してファンドレイジング事業実施に関する情報共有等を行うための勉強会等を実施する。
- 外部有識者の助言を受けながら、遺贈寄附の受入促進に向けて、対応マニュアル等の整備を図る。

(文化財活用センター、文化財防災センター)

- 被災地の文化財を救援するための初動資金を募るプロジェクト型クラウドファンディングの実施を検討する。

(3) 保有資産の有効利用の推進

(機構共通)

- ① 講座・講演会等を開催する。
- ② 建物・講堂・セミナー室等の外部への貸出しを積極的に行う。
- ③ 4館において、国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

④展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図る。

【中期目標・計画上の評価指標】・(指標) その他寄附金等収入額(前中期目標期間の累積実績額以上)

・(関連指標) 展示事業等収入額

2. 固定的経費の節減

固定的経費の節減のため、II 1.(5) 一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。

3. 決算情報・セグメント情報の充実等

独立行政法人会計基準に従い、適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。

【中期目標・計画上の評価指標】・(指標) その他寄附金等収入額(前中期目標期間の累積実績額以上)

・(関連指標) 展示事業等収入額

IV 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙のとおり

2. 収支計画

別紙のとおり

3. 資金計画

別紙のとおり

V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 内部統制

内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

2. その他

(1) 自己評価

運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

(2) 情報セキュリティ対策

多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため、政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備及び適時適切な見直し、役職員の研修及び教育を実施する。計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により、情報セキュリティ対策の実施状況を把握するとともに、その強化を図る。

3. 施設設備に関する計画

(1) 施設整備について以下の事業を実施する。

- 東京国立博物館平成館空調設備（展示室系統他）改修
- 京都国立博物館環境整備（設備機器更新等）工事
- 東京文化財研究所中央監視装置他交換工事

(2) 各施設の防火対策について、策定した防火対策5か年計画に基づき整備を進める。

4. 人事に関する計画

(1) 中長期的な人事計画の策定を検討し、新たな業務にも対応した人材の確保・育成を図る。また、効率的かつ効果的な業務運営に向け、能力や適性に応じた人事を実施する。

(2) 職員のキャリアパス形成に寄与するため、研修、人事交流等を実施する。

(3) 就業環境の整備や働き方改革関連法の施行に対応した取組を実施する。

令和6年度 予算

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
収 入			
運営費交付金	7,004	2,574	9,578
施設整備費補助金	0	0	0
展示事業等収入	2,038	65	2,103
受託収入	358	445	803
その他寄附金等	642	190	832
計	10,042	3,274	13,316
支 出			
管理経費	2,027	417	2,444
うち人件費	757	259	1,016
うち一般管理費	1,270	158	1,428
業務経費	7,015	2,222	9,237
うち人件費	1,971	1,061	3,032
うち収集保管事業費	1,330	0	1,330
うち展覧事業費	2,674	0	2,674
うち教育普及事業費	247	0	247
うち博物館研究事業費	426	0	426
うち博物館支援事業費	40	0	40
うち文化財活用事業費	327	0	327
うち基礎研究事業費	0	383	383
うち応用研究事業費	0	289	289
うち国際遺産保護事業費	0	105	105
うち情報公開事業費	0	293	293
うち研修協力事業費	0	17	17
うち文化財防災事業費	0	74	74
施設整備費	0	0	0
受託事業費	358	445	803
その他寄附金等	642	190	832
計	10,042	3,274	13,316

令和 6 年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
費用の部	9,037	3,157	12,194
經常経費	9,037	3,157	12,194
管理経費	1,929	399	2,328
人件費	761	261	1,022
一般管理費	1,168	138	1,306
事業経費	6,657	2,587	9,244
人件費	2,081	1,098	3,179
収集保管業務費	738	0	738
展覧業務費	2,525	0	2,525
教育普及業務費	224	0	224
博物館研究業務費	401	0	401
博物館支援業務費	36	0	36
文化財活用業務費	294	0	294
基礎研究業務費	0	334	334
応用研究業務費	0	244	244
国際遺産保護業務費	0	99	99
情報公開業務費	0	284	284
研修協力業務費	0	23	23
文化財防災業務費	0	60	60
受託業務費	358	445	803
減価償却費	451	170	621
財務費用	0	1	1
臨時損失	0	0	0
収益の部	9,037	3,157	12,194
運営費交付金収益	5,768	2,336	8,104
展示事業等の収入	2,038	65	2,103
受託収入	358	445	803
その他寄附金等	422	141	563
資産見返負債戻入	451	170	621
財務収益	0	0	0
臨時利益	0	0	0
純利益	0	0	0
目的積立金取崩	0	0	0
総利益	0	0	0

令和 6 年度 資金計画

(単位：百万円)

資金支出	10,042	3,274	13,316
業務活動による支出	8,587	2,988	11,575
投資活動による支出	1,454	275	1,729
財務活動による支出	6	10	17
資金収入	10,042	3,274	13,316
業務活動による収入	10,042	3,274	13,316
運営費交付金による収入	7,004	2,574	9,578
展示事業等による収入	2,038	65	2,103
受託収入	358	445	803
その他寄附金等	642	190	832
投資活動による収入	0	0	0
施設整備費補助金による収入	0	0	0
財務活動による収入	0	0	0

2. プロジェクト報告

凡 例

- (1) プロジェクトは、年度計画との対応（11～23頁）に従って、以下の①～⑦の分類項目ごとに各部・センターごとに配列し、プロジェクトの略番と頁を記した。
略番で用いられている担当部門の略号は、シ：文化財情報資料部、ム：無形文化遺産部、ホ：保存科学研究センター、コ：文化遺産国際協力センター、広：広報委員会 である。
- (2) 各プロジェクト報告の掲載頁では、表題の右側に上記略番を記すとともに、頁左上にプロジェクトの担当部門を示した。
なお、ウェブ公開版では、担当部門をシンボルカラー（文化財情報資料部：青、無形文化遺産部：黄、保存科学研究センター：緑、文化遺産国際協力センター：紫）で色分けしている。
- (3) 年度計画との対応一覧への逆引きのため、右上に年度計画の記号を記した。
- (4) また、各プロジェクト報告の掲載頁では、プロジェクトの目的、成果とその公表（論文、報告、発表、刊行物）及び研究組織の各項目を立てて内容をまとめた。なお、研究組織で下線がついている職員はプロジェクトリーダーである。

① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 01	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	2-(1)-①-1)-ア	26
シ 02	日本東洋美術史の資料学的研究	2-(1)-①-1)-イ	27
シ 03	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2-(1)-①-1)-ウ	28
シ 04	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2-(1)-①-1)-エ	29
ム 01	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	2-(1)-②-1)	30
ム 02	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2-(1)-②-2)	31
ム 05	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2-(1)-②-3)	32

② 保存修復に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ホ 01	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	2-(2)-②-1)	33
ホ 02	文化財の保存環境にかかる調査研究	2-(2)-②-2)	34
ホ 03	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2-(2)-②-3)	35
ホ 04	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	2-(2)-②-4)	36
ホ 05	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2-(2)-②-5)	37
ホ 06	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	2-(2)-②-9)	39
ホ ー	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2-(2)-②-11)	40

③ 国際協力・交流等に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
コ 01	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2-(3)-①-1)-ア	41
コ 02	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2-(3)-①-2)-ア-ア(イ)	42
コ 03	保存修復技術の国際的応用に関する研究	2-(3)-①-2)-ア-ア(イ)	43
コ 04	在外日本古美術品保存修復協力事業	2-(3)-①-4)	44
コ 05	国際研修	2-(3)-①-3)-ア	45

④ 情報収集・成果公開に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 05	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2-(1)-①-1)-ア、 2-(2)-①-1)、2-(4)-②-3)	46
シ 06	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2-(4)-①-2)3)	48
シ 08	令和6年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	2-(4)-②-2)	49
ム 03	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2-(1)-②-1)	50
ー ー	プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等		51

⑤ 刊行物に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 07	令和4年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	2-(4)-②-1)	60
ム 04	無形文化遺産部出版関係事業	2-(4)-②-1)	60
ホ 07	『保存科学』第64号の出版	2-(4)-②-1)	61
広 -	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKEN NEWS』		61
- -	プロジェクトの一環として刊行された刊行物		62

⑥ 指導助言・研修等に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ホ 08	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）	2-(5)-①-1)2)	66
シ -	文化財の収集・保管に関する指導助言	2-(5)-②-1)	66
ム -	無形文化遺産に関する助言	2-(5)-②-1)	67
ホ -	文化財の虫菌害に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	68
ホ -	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	68
ホ -	文化財の材質・構造に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	69
ホ -	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2-(5)-②-1)	69
ホ -	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2-(5)-④-1)	70

⑦ その他の事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
防 -	文化財防災センター事業	2-(6)	71

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究^(シ01)

研究組織 米沢玲、橘川英規、江村知子、田代裕一郎、小山田智寛、小林真美、高階郁美、中村茉貴、荒川理沙、浅野真知（以上、文化財情報資料部）

目 的 内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。あわせて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成 果

1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- 当研究所刊行論文を機関リポジトリに公開した（追加：26件、累積：15タイトル4,066件）。
- 日本国内刊行展覧会カタログ掲載論文（2021（令和3）年発表分）の書誌情報「東京文化財研究所美術文献目録」（1,178件）を、OCLCWorldCatに提供した（3月）。

2. 国内外の関連機関との連携・成果公開

- 北米美術図書館協会（ARLIS/NA）による日本（東京）でのスタディツアーのホストを務め、主にアメリカからの15名の参加者とともに関連機関の視察を行い（10月21～23、25日）、来日記念国際シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」を当研究所内で開催し、所内外から71名が参加した（10月22日）。
- アメリカのゲッティ研究所との共同研究において、当研究所所蔵の貴重書340件をウェブサイト公開、Getty Research Portal（GRP）へ719件の書誌情報を提供した（12月）。
- 共同研究を行っているイギリスのセインズベリー日本藝術研究所からユージニア・ヴォグダノワ氏（7月8日）、サイモン・ケイナー所長（10月9日）、櫻井芳氏ら（10月26日）がそれぞれ来訪し、研究協議を行った。さらに橘川と田代が訪英し大英博物館、セインズベリー日本藝術研究所ほか関連機関を視察し、橘川がロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）とイースト・アングリア大学（UEA）において講演会を行った（2月26～28日）。また、研究協定に基づき、国外で発表された英文による日本芸術関係文献のデータ（310件）を追加公開した（12月）。
- 京都府との共同研究：京都府が所蔵する昭和初期の文化財調査写真のうちフィルム約200本をデジタル化し、約6,483件のメタデータを付した（計22,803件）（3月）。データベースの公開に関する研究協議を実施した（3月13日）。
- 金素延氏（韓国・梨花女子大学校教授）を来訪研究



上：ARLIS/NA スタディツアー（10月21日）、下：SOASでの講演（2月26日）

員として受け入れ、研究交流を行った（12月1日～2月5日）。

発 表

- 米沢玲：「イギリス滞在報告ーセインズベリー日本藝術研究所とイギリスのライブラリー、ミュージアム視察」令和6年度第1回文化財情報資料部研究会 24.4.30
- 橘川英規：「東京文化財研究所所蔵近現代美術アーカイブ」ARLIS/NA来日記念国際シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」24.10.22
- 田代裕一郎：「シンポジウム「朝鮮白磁研究の現在」と京畿道広州における近年の窯跡調査に関する報告」東洋陶磁学会総会 24.6.8
- 田代裕一郎：「韓国美術における自然と技藝」第20回松下幸之助国際スカラシップフォーラム 24.10.12
- 金素延：「金剛山を描く：韓国近代における金剛山の認識変化と視覚化」令和6年度第9回文化財情報資料部研究会25.1.21
- 橘川英規：Yutaka and Europe-Conceptual art exchange-From a library and archives perspective, Japan Research Centre Seminar Series, University of London The School of Oriental and African Studies, 25.2.26
- 橘川英規：Building and Using Japan's Modern and Contemporary Art Archive-The Work of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, Tobunken Lecture Series, University of East Anglia, 25.2.27

日本東洋美術史の資料学的研究 (シ02)

研究組織 小野真由美、江村知子、二神葉子、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、田代裕一郎、月村紀乃、黒崎夏央（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）、小林公治（特任研究員）、津田徹英、後藤亮子（以上、客員研究員）

目 的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査及び研究を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。これにかかる国内外の研究交流を推進する。

成 果

1. 研究基盤となる資料整備

美術史研究のコンテンツ制作の一環として、16～17世紀の古記録から美術に関する記述を抄出し、テキストデータとして入力を進めた。現在までに入力したデータは264件にのぼる。さらに、國華社旧蔵のガラス乾板（東京国立博物館所蔵）のデータベース構築に向けて、紙焼き写真のデジタル化を実施し、これまでに1,012件をデジタル化した。

これらのデータ化により、美術史に関連する歴史的記事へのアクセスを容易なものとするべくデータベース化を試みている。また、國華社旧蔵写真には貴重な画像が含まれており、今後の美術史研究に資する資料となることが期待される。

2. 研究交流の推進

ア) 日本美術に関する研究交流の一環として、外部研究者を交えた研究会を開催した。本発表を通じて、これまで詳細が不明だった絵師の画業について、新たな知見が得られた。

- ・荏開津通彦氏（山口県立美術館）：「長谷川等哲について」23.11.29

イ) 海外における美術史研究の動向を把握するため、在外研究者を招き、研究会を開催した。本発表を通じて、海外における最新の研究状況を知る機会となり、有意義な交流が実現した。

- ・万木春氏（中国美術学院）：「王詒《漁村小雪図》巻について」25.2.26

3. 研究誌『美術研究』の編集を行い、とくにイタリアにおける近代日本絵画に関する研究成果を掲載した（『美術研究』445号）。

- ・田中知佐子（鶴見大学）：「大倉喜七郎の文化支援——一九三〇年「羅馬日本美術展覧会」開催を巡る諸相——」
- ・篠原聰（東海大学）：「研究ノート 日本画シンδροーム ローマ日本美術展覧会と鏑木清方の出品画をめぐり」
- ・吉井大門（横浜市歴史博物館）：「研究資料 大倉集古館所蔵「羅馬開催日本美術展覧会関係資料群」の全貌」

4. 日本美術に関する国内外における調査を行った。

- ・小野真由美：米国・ノートン美術館およびフロリダ州内に所蔵される東洋美術品に関する調査 24.10.26
- ・津田徹英（客員研究員）：広島・常称寺および高知・個人蔵の文化財の調査 25.2.26～27

発 表

- ・後藤亮子（客員研究員）：「余紹宋と近代中国の書画史学」令和6年度第4回文化財情報資料部研究会 24.7.23
- ・小野真由美：「江戸時代初期における袁宏道『瓶史』の受容について—藤村庸軒の花道書の紹介をかねて—」令和6年度第6回文化財情報資料部研究会 24.10.29



在外研究者による研究発表（2月 万木春氏）



高知県での調査風景

近・現代美術に関する調査研究と資料集成^(シ03)

研究組織 橘川英規、吉田暁子、黒崎夏央、江村知子、城野誠治（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）、三上豊、田中淳、丸川雄三（以上、客員研究員）

目 的 日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。

成 果

1. 黒田清輝作品及び関連資料の調査研究・公開

- ・黒田清輝作品及び関連資料の調査研究の成果、当研究所における美術史研究の歴史を、「黒田清輝とその時代」展（鹿児島市立美術館、7月）、特別講演会（泉屋博古館東京、7月13日）、「黒田清輝と近代絵画の冒険者たち」展（東京国立博物館、8月）、明治美術学会第2回例会（9月22日）、東京国立博物館月例講演会（10月12日）で発表した（吉田、塩谷）。
- ・シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—没後100年を機に」を開催した（1月10日）。塩谷の講演、三谷理華氏（女子美術大学）、高山百合氏（福岡県立美術館）、友岡真秀氏（鳥取県立博物館）の発表とディスカッションを行った。

2. 日本の近現代美術作家及び美術関係者に関する調査研究

- ・織田東禹《コロポックルの村》をめぐってを開催した（9月6日、文化財情報資料部第5回研究会）。藏田愛子氏（東京大学）、笹倉いる美氏（北海道立北方民族博物館）、品川欣也氏（東京国立博物館）、吉田の発表とディスカッションを行った。
- ・5年度に引き続き、蒐集家・秋元洒汀について新出資料を踏まえ、論考をについて発表した。
- ・5年度に引き続き、下関市立美術館にて岸田劉生《壺》等の作品の光学調査を行い（3月17～19日）、『光学調査・研究資料リーフレット』シリーズの刊行準備を行った。
- ・「清宮質文資料」についてを開催した（住田常生氏（高崎市美術館）、3月6日、令和6年度第12回文化財情報資料部研究会）。

3. 現代美術資料の整理作業及びデータベース化

- ・継続事業である我が国美術界の動向をめぐる基本情報の蓄積・発信について、2021（令和3）年に逐次刊行物・展覧会図録で公表された研究成果をデータベース化し、『日本美術年鑑』令和4年版を発表した（1月25日）。
- ・島崎清海、ストライプハウス美術館、笹木繁男の旧蔵資料等の目録情報を公開した（5月23日、7月1日、9月25日）。

4. 当研究所蔵近現代美術資料データベース公開に向けての調査

- ・矢代幸雄寄贈等西洋美術写真資料、明治大正美術史編纂事業収集資料の整理、公開準備を行った。
- ・森岡柳蔵旧蔵資料のアーカイブ化：5年度に受贈した森岡柳蔵旧蔵資料（85点）のデジタル化・データベース化を行った。

論 文

- ・塩谷純：「黒田記念館と東京文化財研究所—その沿革と近年の研究成果について」『没後100年 黒田清輝とその時代』鹿児島市立美術館 pp.122-123 24.7
ほか3件

発 表

- ・吉田暁子：「織田東禹《コロポックルの村》をめぐって」令和6年度第5回文化財情報資料部研究会 24.9.6
- ・吉田暁子：「月例講演会 近代絵画の冒険—黒田清輝と東博の近代絵画コレクション」東京国立博物館 24.10.12
- ・塩谷純：「黒田清輝の画業について—神津港人の視点から」シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—没後100年を機に」 25.1.10
ほか3件

刊行物

- ・吉田暁子、塩谷純：『没後100年・黒田清輝と近代絵画の冒険者たち』東京国立博物館 24.8



シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—没後100年を機に」（1月10日）

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開^(シ04)

研究組織 江村知子、月村紀乃、二神葉子、橘川英規、小野真由美、米沢玲、小山田智寛、吉田暁子、田代裕一朗、黒崎夏央（以上、文化財情報資料部）、菊池理予（無形文化遺産部）、早川典子、山田祐子（以上、保存科学研究センター）、塩谷純（上席研究員）、早川泰弘、小林公治（以上、特任研究員）、安永拓世（客員研究員）

目的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのようにに関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多角的に分析し、その関係の解明を目指すものであり、美術作品に対するより深い理解の醸成が期待される。

成果

1. 隣接諸分野と連携した多角的調査・研究

- 和泉市久保惣記念美術館との共同研究に関する覚書にもとづき、同館学芸担当職員と協議を重ね、「山崎架橋図」、「達磨図」、宮本武蔵筆「枯木鳴鵲図」（いずれも重要文化財）などの光学的調査を実施した（11月13～15日）。その成果をふまえて「山崎架橋図」について光学調査報告リーフレットを作成した（3月）。
- 東京国立博物館との共同研究で、当研究所保存科学センター、無形文化遺産部と協力し、マイクロスコープを用いて絹本絵画を調査し、画絹の糸の太さや本数、断面形状などを計測し、地域や時代による傾向を抽出する研究を平成31年度以降継続している。6年度は、狩野探幽筆「新三十六歌仙図帖」（東京国立博物館蔵）など17点の作品の調査を実施した（6月21日、8月6日・21日、2月25・26日）。この調査研究成果は、東京国立博物館絵画彫刻室および同・博物館情報課により、「東博所蔵品画絹データベース」（東京国立博物館研究情報アーカイブズ）として公開が開始された（4月2日）。6年度中に順次情報を追加し、「普賢菩薩像」、「紅白芙蓉図」（いずれも国宝）をはじめとする合計41件の作品に関する画絹の情報をウェブ公開した。

2. 研究成果の公開と蓄積データの機能拡張・相互連携

- 日本の美術工芸に関する研究会を2回行った（12月18日、2月25日）。
- 売立目録デジタルアーカイブで公開している作品情報375,159件について47,223件の校正作業を行って情報更新したことに加えて、これまでの取り組みについて『國華』誌上で論文の形で成果公開を行った。
- 美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年記資料集成）作成として、展覧会図録等から年記のある作品の資料を順次収集して入力し、6年度の入力件数は1,290件となった。

論文

- 安永拓世：「東京文化財研究所の「売立目録デジタルアーカイブ」について」『國華』1549 pp.43-45 24.11

発表

- 安永拓世「熊野速玉大社の古神宝類に見る熊野の神々」第50回 奈良国立博物館 夏季講座「神々の信仰をめぐる美術」 奈良国立博物館 24.8.23
- 安永拓世：「呉春の表現の源流を求めて―蕪村・群禽・白梅図屏風―」大和文華館 特別展「呉春一画を究め、芸に遊ぶ―」講演会 24.10.20
- 月村紀乃：「長尾美術館に関する基礎的研究―美術研究所との関わりへの解明に向けて―」令和6年度第8回文化財情報資料部研究会 24.12.18

刊行物

- 『和泉市久保惣記念美術館・東京文化財研究所共同研究資料1 重要文化財 絹本着色「山崎架橋図」和泉市久保惣記念美術館蔵』（リーフレット）12p 25.3



東京国立博物館での調査(2月25日)



研究会風景(12月18日)

無形文化財の保存・継承に関する調査研究 (△01)

研究組織 前原恵美、久保田裕道、石村智、菊池理予、鎌田紗弓、小田原直也（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、飯島満（客員研究員）

目 的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

成 果

1. 無形文化財に関する調査研究

- ・芸能分野：古典芸能、関連文化財保存技術（小鼓、大鼓、箏ほか製作技術等）、原材料生産技術（ヨシ、桐、竹等）の調査研究
- ・工芸分野：無形文化財の保護（戦時中の丸技・丸芸等）に関する調査研究、工芸技術の防災（全国重要無形文化財保持団体協議会へのアンケートの実施）に関する調査研究

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成

- ・平家：菊央雄司氏ほかによる伝承曲2曲（《竹生島》全曲、《宇治川》前半）の映像記録作成、東京文化財研究所、1月31日

3. 研究調査に基づく成果の公表

- ・公開研究会「東京文化財研究所における実演記録事業（講談）一龍齋貞水師を偲んで」の開催（東京文化財研究所、10月3日）
- ・第18回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座『文化財修理と在来絹製作—絹織製作研究所の技術をつなぐ—』開催（東京文化財研究所、12月6日）
- ・実演記録「宮園節」（第1回～第9回）、同「講談—一龍齋貞水」（全135件）の閲覧室公開（3月31日）

4. 無形文化遺産に関わるアナログ資料のデジタル化

- ・音声資料：オープンリールテープに関して、民謡音源等（約60時間）のデジタル化、文化財保護委員会制作レコードのデジタル化（200点）、及川尊雄旧蔵紙媒体資料のデジタル化（97点）のデジタル化とウェブサイト公開を実施

and synchronization in the Tōgaku ensemble of Japanese court music (Gagaku). *Analytical approaches to world music* 12(1) pp.1-66 25.1

- ・Sayumi Kamata : Investigating Embodiment in Oral Mnemonics within Japanese Music. *European Journal of Ethnomusicology*. 23(1) pp.51-79 25.3

発 表

- ・前原恵美：『音楽』、教科用図書『音楽』と歌舞伎 令和6年度歌舞伎学会秋季大会 24.12.15
- ・前原恵美：「素材を育む自然・社会環境—ヨシを例に」東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開シンポジウム「森と支える「知恵とわざ」—無形文化遺産の未来のために—」 24.8.9
- ・菊池理予：「趣旨説明」第18回 東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座「文化財修理と在来絹製作—絹織製作研究所の技術をつなぐ—」 24.12.6

刊行物

- ・『第17回 東京文化財研究所無形文化遺産部 公開学術講座「宮園節の魅力を探る」報告書』 24.8
- ・調査報告書『東流二絃琴の伝承』 25.3
- ・Techniques That Support Japanese Performing Arts IV : *Gagaku Fukimono* 25.3
- ・Techniques That Support Japanese Performing Arts VI : *Shamisen* 25.3



公開学術講座の会場の様子

論 文

- ・前原恵美：「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告8」『無形文化遺産研究報告』19 pp.99-111 25.3
- ・菊池理予・石原真理：「東京藝術大学未来創造継承センター大学史料室（旧制東京美術学校部門）所蔵中村勝馬関係資料から見た工芸技術保護の実態Ⅱ—統制関連団体の実態—」『無形文化遺産研究報告』19 pp.113-135 25.3
- ・Sayumi Kamata, Martin Clayton : Temporal structure

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究^(△02)

研究組織 久保田裕道、石村智、今石みぎわ、菊池理予、後藤知美(以上、無形文化遺産部)

目 的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで収集・保管してきた無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術についても情報を収集し、その中で重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

成 果

1. 無形民俗文化財に関する継続的な調査研究として、祭礼行事の調査研究(沖縄県八重瀬町、韓国唐津市等)、民俗芸能に関わる調査研究(富山県高岡市、北海道士別市等)、民具製作に関わる民俗技術等の調査研究(岡山県倉敷市等)を行った。新型コロナウイルス感染症収束後の変容の実態などについても調査を行った。

また無形文化遺産と災害に関わる調査研究の一環として、能登半島を中心に石川・富山県での調査を行っているほか、宮城県女川町等での調査も継続している。あわせて指導・助言として関わっている無形民俗文化財についても調査研究もしくは情報収集を行った。

2. 無形文化遺産アーカイブスの開発と公開として、「無形文化遺産総合データベース」の継続的な維持を行い、約10,000件のデータを公開している。またアーカイブ構築のための映像・画像等の収集等を継続的にやっている。

さらに記録保存・活用に関わる研究として民俗研究者である斎藤たまの民俗調査カード集成の情報整理、民俗芸能研究者である永田衡吉所有資料の整理を継続している。

3. 研究集会の開催として第19回無形民俗文化財研究協議会を、「ステージの上の民俗芸能—その魅せ方をめぐって—」をテーマに開催した。無形民俗文化財の活用をめぐって注目される民俗芸能の舞台上演をテーマに取り上げ、各関係者・研究者等による発表と協議を行った。

4. 選定保存技術については、継続的な情報収集を行っている。

5. 全国的に課題となっている有形民俗文化財の保存・活用について、現状に関する情報収集を行うとともに、専門家を交えた検討会を10月と1月に実施。有形民俗文化財に必ず付随し、その評価に欠かせない無形の情報を収集・検証するための調査・研究手法を、有形民俗文化財の保存・活用に生かすべく、議論・検討を進めた。

論 文

- 久保田裕道：「民俗芸能のネットワーク化をめぐる現状と課題」『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-12 25.3
- 久保田裕道：「宇原獅子舞」『民俗芸能』102 pp.21-36 24.11
- 今石みぎわ：「鵜舟—長良川における鵜舟の構造とその必然性」『鵜飼の日本史—野生と権力、表象をめぐる1500年』昭和堂 pp.77-91 25.3
- 今石みぎわ：「近現代における碁石茶の生産と消費」『四国山地の発酵茶の製造技術 碁石茶製造技術調査報告書』大豊町教育委員会 pp.65-103 25.3

報 告

- 石村智、後藤知美ほか：「能登半島地震と無形文化遺産」『無形文化遺産研究報告』19 25.3
- 後藤知美：「創られる文化財保護の文脈—運用から捉える財と遺産の仕組み」『現代思想 民俗学の現在』青土社 24.5

発 表

- 久保田裕道：「文化財と宗教民俗—2020年代の今を問うために—発題」日本宗教民俗学会第33回大会 24.6.8
- 久保田裕道：Effectiveness and Developmental Direction of the Intangible Cultural heritage Network System: A Case Study of Japan, IMACO INTERNATIONAL CONFERENCE IN ANDONG KOREA 2024 24.11.1
- 今石みぎわ：「民俗文化財の保存と活用—民具と民俗技術を中心に」滋賀県民俗文化財担当者研修会 24.5.28
- 後藤知美：「もてなしの成立—旅館で働く女性と宿泊客の関係から」第956回社会人類学研究会 24.11.22
ほか3件

刊行物

- 『ステージの上の民俗芸能—その魅せ方をめぐって—』(第19回無形民俗文化財研究協議会報告書) 25.3

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 ^(△05)

研究組織 石村智、前原恵美、久保田裕道（以上、無形文化遺産部）、二神葉子（文化財情報資料部）、宮田繁幸、神野知恵（以上、客員研究員）

目 的 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成 果

1. 韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流

韓国国立無形遺産院との研究交流は5年度より第4フェーズに入っていたが、5月に韓国の組織改編により、相手方機関が韓国国家遺産庁無形遺産局へと再編された。それを受けて新たに研究交流事業の協定書を締結し直し、2030年まで継続する第5フェーズへと移行した。それに伴い、7月10日に無形遺産局局長の尹淳護氏他2名が当研究所を訪問し、協定書の調印式が行われた。研究交流事業については以前と同様に進められ、10月19日～11月2日にかけて久保田が韓国を訪問し、韓国の芸能の調査を無形遺産局の研究員と共同で実施した。

2. 無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究

ユネスコ無形文化遺産条約第19回政府間委員会（12月2日～7日、パラグアイ）に2人のスタッフ（石村・二神）が現地参加し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。なお、本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第19号において報告した。

3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）への協力

IRCIへの協力として、国際シンポジウム「持続可能なまちづくりと無形文化遺産ーアジア太平洋地域における文化遺産の統合的保護の視点」（10月10日～12日、同志社女子大学）、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム国際会議「無形文化遺産保護研究の新領域」（2月13日～15日、国立民族学博物館）に石村が出席した。

4. その他

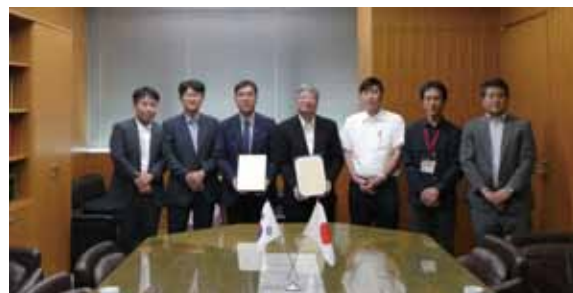
台湾・東海大学の特別講義「Japan's Intangible Cultural Heritage and Safeguarding Strategies」（5月14日、台中）、及びユネスコ北京事務所主催のシンポジウム「Youth and Traditional Building Skills」（7月15日～16日、蘇州）で石村が研究発表を行った。また論集『Handbook on Intangible Cultural Practice as Global Strategies for the Future』（Springer Nature、2024年）に石村が論文を寄稿し、日本における災害と無形文化遺産保護の実践を紹介した。

論 文

- 二神葉子：「無形文化遺産の保護に関する第19回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』19 pp.67-95 25.3
- Tomo Ishimura：「Restoration of Intangible Cultural Heritage and Communities after Disasters: Cases of "Soma Nomaioi" and "Obori SomaYaki" in Fukushima Prefecture, Japan」『Handbook on Intangible Cultural Practice as Global Strategies for the Future』Springer Nature pp.561-572 24.12

発 表

- Tomo Ishimura：「Japan's Intangible Cultural Heritage and Safeguarding Strategies」台湾・東海大学特別講義（台中）24.5.14
- Tomo Ishimura：「Conservation Techniques for Historic Buildings in Japan: A case of Karakami, tradition and innovation of Japanese wallpaper」シンポジウム「Youth and Traditional Building Skills」口頭発表（蘇州）24.7.16



韓国国家遺産庁無形遺産局との協定書の調印式（於：東京文化財研究所）

文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策^(ホ01)

研究組織 佐藤嘉則、島田潤、轟文瑠、小野寺裕子、山田紀代美、犬塚将英、早川典子、朽津信明（以上、保存科学研究センター）、片山葉子、藤井義久、北原博幸（以上、客員研究員）、間瀬創（保存科学研究センター併任、文化財活用センター）

目 的 文化財の生物劣化現象は、自然災害あるいは日常の管理において保存環境が悪化すると起こるが、それを早期に発見して、機序を解明し対策を講じることは極めて重要である。本研究では文化財建造物、古墳内環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた生物劣化機構の解明を行うとともに早期発見のための診断技術を確認し、環境低負荷型の処置方法について研究を行うことを目的とする。

成 果

1. 日本初記録の文化財害虫ニューハクシミについて、国内の分布域の調査を実施した。また、本種の生態学的な特徴と日本における分布状況についてこれまでに得られた知見を、ドイツで行われた国際会議で報告した。
2. ニューハクシミが発生している現場で殺滅に向けた低湿度殺虫処理試験を実施し、供試虫を使った評価を行った。
3. 国内で使用されている主要な殺虫殺菌ガス燻蒸剤の販売停止に向けて、持続可能な資料保存における生物被害対策に関する課題を整理し、報道発表、研修講師、解説文などを通して啓発普及活動を行った。また、2月21日にフォーラム「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」を開催した。
4. 木造文化財建造物を加害するシバンムシ科甲虫が排泄した虫糞（フラス）から遺伝子を抽出し、ランプ法と呼ばれる遺伝子の簡易迅速検出法の確立に向けた基礎実験を行った。
5. 被災紙資料を想定した殺カビと乾燥を両立させる湿熱殺菌乾燥処理方法の開発を目指し、カビの胞子や菌糸を死滅させる湿熱条件が紙の物理化学性に及ぼす影響評価の基礎実験結果を学術論文にまとめた。
6. 「文化財害虫検索」のWEBサイトを設立し、現場で簡易迅速に害虫同定ができる支援システムを提供した。

環境の影響に関する研究」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23

- 小野寺裕子ほか：「空調設備のない保存環境におけるハイガスバリア袋を用いた高湿度対策の効果」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- Shimada et al.: Effects of temperature and humidity on the survival rate of the ghost silverfish (*Ctenolepisma calvum*) and insecticidal effects of poisoned baits, The 5th international conference Integrated Pest Management for Cultural Heritage, 2024 24.9.18
ほか6件



カビを死滅させる湿熱条件が紙の物理化学性に与える影響評価試験の様子

報 告

- 佐藤嘉則：「文化財の微生物劣化を防ぐー古墳環境における微生物制御の現状と課題ー」『化学と工業』78 (2) pp.101-103 25.2
- 小野寺裕子ほか：「湿熱処理による紙資料への影響」『保存科学』64 pp.23-32 25.3
- 島田潤ほか：「ヒメハクリバチによる文化財建造物への営巣事例」『保存科学』64 pp.81-90 25.3
- 渡辺祐基、島田潤：「国際文化財 IPM 会議 "IPM-CH 2024" 参加報告ー文化財 IPM の世界的潮流と取り組みー」『保存科学』64 pp.177-190 25.3 ほか3件

発 表

- 島田潤ほか：「ニューハクシミの生存率に与える温湿度



フォーラム「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」の開催

文化財の保存環境にかかる調査研究 (ホ02)

研究組織 秋山純子、水谷悦子（以上、保存科学研究センター）、伊庭千恵美（客員研究員）、由井和子（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）、吉田直人、間瀬創（以上、保存科学研究センター併任、文化財活用センター）

目 的 博物館・美術館などの展示・収蔵施設における文化財の劣化抑制を目的として、収蔵および展示空間に対し、文化財に影響を与える汚染物質の軽減と温湿度変化の影響を検討するためのデータを収集する。また、被災文化財等の一時保管場所を想定した保存環境について、環境整備に必要な温湿度・空気質等の状況を把握し、環境改善のための調査研究を行うことを目的とする。

成 果

1. 博物館の仮収蔵庫における省エネを考えた空調運用を実現するため、空調機にかかる消費電力と温湿度データの測定を継続して行った。比較対象として当研究所の収蔵庫にも同様の消費電力ロガーを設置し、測定を行った（写真1）。
2. ある美術館において間欠運転が収蔵庫の保存環境に与える影響について、冬季に設定温度を2℃下げた場合の実証実験を実施した。
3. 奈良大学博物館において、湿度制御のみによる保管環境の把握と資料への影響（変形挙動等の現象）を検証する実験を奈良文化財研究所と共同で開始した（写真2）。
4. 建物及び空調設備、運用についての「博物館・美術館施設の温湿度管理に関するアンケート」を全国1,400館に対して実施し、536館からの回答を得た。
5. 空気清浄化の手引き改定に向け、情報収集を行った。
6. 保存環境の現状と改善に向けた講習会を文化財活用センターと共催で博物館等の保存科学担当者向けに実施した（11月5日（月）「第8回保存環境調査・管理に関する講習会—北川式検知管の開発状況と空気環境管理の課題—」、3月3日（月）「第9回保存環境調査・管理に関する講習会—博物館等の空気環境における“のぞましい値”の考え方について—」）。

論 文

- ・水谷悦子：「持続可能な環境管理に向けた環境ガイドラインの国際動向」『文化財保存修復学会誌』68 25.3
- ・Chiemi Iba, et.al: Field Survey on Temperature/Humidity Environment and Heat-Source Energy Consumption in an Art Museum with Intermittent Air Conditioning Operation, International Association of Building Physics (IBPC 2024), 24.12.13
- ・水谷悦子ほか：「ものと湿気—文化財の予防的保存の観点から」第53回熱シンポジウム「未来に向けた湿気研究」24.11.25

発 表

- ・秋山純子ほか：「冬季における空調の設定温度が保存環境に及ぼす影響について」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- ・伊庭千恵美ほか：「美術館の温湿度環境とエネルギー消費の調査及び改善方法の提案その1 夏季の展示室の温湿度環境の調査」日本建築学会大会（関東） 24.7.25
- ・秋山純子：「第9回保存環境調査・管理に関する講習会—博物館等の空気環境における“のぞましい値”の考え方について—」文化財活用センター共催講習会 25.3.3



写真1 収蔵庫における消費電力測定の様子



写真2 変形挙動等をみるための試料設置の様子

文化財の材質・構造・状態調査に関する研究 (ホ03)

研究組織 犬塚将英、西田典由、紀芝蓮、寺島海(以上、保存科学研究センター)、早川泰弘(特任研究員)、岡田健、古田嶋智子(以上、客員研究員)

目 的 複数の分析装置(蛍光X線分析装置、X線回折分析装置、FCR現像機、ハイパースペクトルカメラ、ラマン分光分析装置)を活用して、絵画・金工品・建造物等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。さらに、劣化が生じた金属資料等の分析を行うことにより、保存環境が文化財の材質に与える影響についての調査研究を進める。

成 果

1. 可搬型分析装置を用いたその場分析
 - 可搬型蛍光X線分析装置、及びこれまでに分析方法・分析条件の最適化を行った可視領域及び近赤外線領域で分析を行うための可搬型ハイパースペクトルカメラを用いて、絵画等に用いられている彩色材料の調査を実施した。
 - 可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、琉球絵画(御後絵)や江戸期の日本画・絵馬などの彩色材料調査を実施してその特徴を明らかにするとともに、日本絵画における真鍮泥・真鍮箔の利用実態を調査した。
2. 金属の腐食と保存環境との関係
 - 金属の劣化要因となる化学物質の発生源を調べるための調査手法の開発を行い、開発を行った手法を用いて収蔵庫等で現地調査を実施した。
3. その他の分析調査
 - 史料に用いられている金箔について、蛍光X線分析による定量分析を実施した。
 - 近赤外型ハイパースペクトルカメラの性能評価を行った。

論 文

- 紀芝蓮、寺島海、犬塚将英：「近赤外線ハイパースペクトルカメラの性能評価と文化財彩色材料の識別検討」『保存科学』64 pp.61-80 25.3
- 犬塚将英：「ハイパースペクトルカメラを用いた文化財の分光分析と求められる性能」『光学』53(12) pp.508-511 24.12

発 表

- 紀芝蓮ほか：「金沢市立玉川図書館所蔵『二之御丸御殿御造営内装等覚および見本・絵形』第三冊の絵形に使用された彩色材料の分析調査」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.22
- 寺島海ほか：「金沢市立玉川図書館所蔵『二之御丸御殿御造営内装等覚および見本・絵形』第二冊に添付された唐紙などの現物見本に用いられた材料の分析調査」日本文化財科学会第41回大会 24.7.27
- Tomoko Kotajima, et al.: Development of Emission Test Method Using Sampling Bag, IAQ24 conference 24.11.19-20



近赤外型ハイパースペクトルカメラの性能評価

屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 (ホ04)

研究組織 朽津信明、鈴木琴那（以上、保存科学研究センター）、前川佳文（文化遺産国際協力センター）

目 的 文化財という範疇には、天然記念物のような自然史資料の概念も含まれており、また名勝や文化的景観など、人文系の有形文化財だけでなく様々なカテゴリーの文化財について、適切な保存修復計画が求められている。本プロジェクトでは、それら多種多様な屋外文化財の価値の本質を理解した上で、その外見だけでなく価値が十分に継承されていくような形での保存方法、そして修復計画を構築していくことを目的とした調査研究を行う。

成 果

屋外に所在する各種文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の成果を得た。

- (1) 都内の石蔵を調査し、それらを保護機能の観点から論じることで覆屋という概念を明確に定義した。
- (2) 鵜殿石仏群、和田大仏、岩谷観音、成巽閣庭石などの屋外石造物を計測し、現在の保存状態を正確に記録した（写真）。また過去に撮影されていた写真に基づいてそれらの過去の形状データを構築し、相互に比較することから劣化を評価するとともに、覆屋構築や樹脂含侵などの保存対策の有効性について定量的に議論した。
- (3) 最上川などの重要文化的景観選定地区や、塩田津などの重要伝統的建造物群保存地区を構成する個別の構成要素における修復について調査し、単独の有形文化財の修復の考え方との違いを示した。
- (4) 日立風流物や秩父祭屋台などの有形民俗文化財における部材の修復について調査し、指定された形状が一時的にのみ出現する文化財の、保存・修復のあり方について検討した。



重要文化財・成巽閣の庭石に転用された石塔石材の計測風景

論 文

- ・朽津信明：「覆屋とは何か」『保存科学』64 pp.91-109 25.3
- ・朽津信明：「文化財の保存、修復、調査の歴史と科学」『化学と工業』78(2) pp.78-80 25.2

発 表

- ・朽津信明：「都内の寺社に見られる石蔵状建物とその保存科学的評価」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- ・朽津信明、白石明香：「鵜殿石仏群に構築された仮設覆屋の保護効果に関する評価」日本文化財科学会第41回大会 24.7.28
- ・朽津信明、白石明香：「鵜殿石仏群における風化対策の定量評価」日本応用地質学会2024年度研究発表会 24.10.9-11

文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究 (ホ05)

研究組織 早川典子、西田典由、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、前原恵美(無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、安永拓世(客員研究員)

目 的 美術工芸品や建造物等文化財の修復に貢献するため、修復材料・技法についての科学的調査を行い、その有効性についての評価を行う。文化財の構成材料や修復に関連し、伝統的材料・用具とそれらを使用する技法についての調査を行い、科学的評価を踏まえた記録を作成し、文化資産の客観的な情報集積を目的とする

成 果

伝統材料・技法に関する複合的調査研究としては、絹の作製方法による絹本作品への影響の評価や、植物繊維の同定方法に関する研究、更に紙の劣化や小麦デンプン糊の保管方法による差異に関する研究を遂行した。

また、文化庁の行う美術工芸品修理に用いる用具・材料の調査に協力し、今後の生産確保が非常に難しいとされる材料や道具について、科学的な評価と安全な保存方法の検討を行っている。6年度は5年度に引き続き紙の原材料のノリウツギやネリなどに関する科学分析と現地調査を行った他、他の紙産地での原料の種類や処置方法などについて実地調査も遂行した。小麦デンプンについては、修復現場では湿潤状態で流通しているものを使用してきたが、その製造が今後途絶する可能性があるため、乾燥して流通しているものとの比較試験を開始した。また、膠の脱毛処理に関する新たな手法検討も開始した。

- ・京都絵美ほか：「武雄鍋島家資料「絵絹」調査報告 ―製糸・製織技術の視点から―」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- ・菊池理予：「植物繊維の同定 ―苧麻・大麻の識別―」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- ・倉島玲央：「森と職人を繋ぐーキリを例に」森と支える「知恵とわざ」ー無形文化遺産の未来のためにー 24.8.9
- ・大和あすか：「日本画材料アンケートからみた膠濃度の東西」膠文化研究会第16回公開研究会 24.12.8

発 表

- ・宇高健太郎：「Science and Applications of Animal Glue and Inkstick (*Sumi/ Mo/ Meok*) : Production, Art Practices, and Conservation」University of Delaware (US) 25. 2. 5

論 文

- ・大和あすかほか：「電磁式膜厚計による紙厚測定の精度評価」『保存科学』64 pp.33-42 25.3
- ・西田典由：「文化財としての紙・文化財を守る紙」『機能紙研究会誌』63 pp.41-46 25.3
- ・宇高健太郎：「若冲の三大超絶技巧」『和楽』218 pp.156-159 24.9
- ・宇高健太郎：「Inkstick (sumi) and Classical Animal Glue」『Collagens -Basic Science and Applications』Impress NextPublishing, TUAT. pp.139-149 24.6

発 表

- ・西田典由ほか：「抄紙用ネリに用いるノリウツギの安定供給に向けた取り組み」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- ・西田典由：「文化財としての紙・文化財を守る紙」第63回機能紙研究会発表・講演会 24.11.21
- ・宇高健太郎ほか：「各分野の研究者と制作者の連携による仏像における古典彩色技法の解明 一個人蔵「春日本地仏」修復および復元制作を通して」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23



紙原料のミツマタの天日干し

備 考

本業務の一部は文化庁からの委託補助金事業「美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業」と連携して遂行された。

文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究 (ホ05)

研究組織 早川典子、西田典由、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、前原恵美(無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、安永拓世(客員研究員)

目的 美術工芸品や建造物等文化財の修復に貢献するため、修復材料・技法についての科学的調査を行い、その有効性についての評価を行う。文化財の構成材料や修復に関連し、伝統的材料・用具とそれらを使用する技法についての調査を行い、科学的評価を踏まえた記録を作成し、文化資産の客観的な情報集積を目的とする

成果

○研究成果

5年度に引き続き、漆・伝統的油性塗料についての化学分析や今後の施工方法の開発評価、紫外線を用いた劣化絹の作成とその物性評価、白杵磨崖仏の石材表面再接着材料評価、ゲルを使用した有機溶媒クリーニング方法の開発など、5年度までの研究をさらに発展させた。

○研修事業

1. 「文化財修理技術者のための科学知識基礎研修」(9月18日～9月20日)

4年目となる「文化財修理技術者のための科学知識基礎研修」(9月18日～9月20日)を6年度も開催した。参加者アンケートでは全員が「役立った」としており、今後取り上げる内容についての期待も寄せられた。

2. 「文化財保存修復に関するワークショップー写真の識別と保存についてー」(10月29日～31日)

参加者全員から「とても満足」もしくは「やや満足」の評価が寄せられた。また、今回は修復技術者のみでなく、資料の管理者の参加が多く、今後の継続的な研修において収蔵資料の材料そのものへのアプローチが期待された。

論文

- 早川典子ほか：「紫外線照射および電子線照射した劣化絹の使用後劣化挙動予測とその作業性」『保存科学』64 pp.13-22 25.3
- 早川典子ほか：「文化財のクリーニングに関する近年の動向」『化学と工業』78(2) pp.81-83 25.3

発表

- 早川典子ほか：「デンプン糊で裏打ちされる文化財の修理における市販α-アミラーゼ適用方法に関する検討」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- 秋山花子ほか：「有機溶媒高含有ゲルによる文化財の旧修理材料除去の試み」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- Ajla Redzicほか：「鉄媒染絹布に対するフノリと膠を使用した処置方法の検討」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- 君嶋隆幸：「合成樹脂の塗布された板絵著色画の修理事

例一東京都有形文化財(絵画)板絵著色大森彦七図一面および三人静白拍子図一面の保存修理から一」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23

- 宇高健太郎ほか：「高度外部フィブリル化楮繊維のリーフキャストによる評価」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- 早川典子：「日本の電子線劣化絹の製作経緯および紫外線劣化絹との比較」韓国原子力研究所共同研究報告会 24.5.13
- 北野信彦ほか：「文化財建造物装飾や板絵における塗装彩色材料調査の現状と課題」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- 大西功紗ほか：「近代の文化財修理に使用された材料・技術に関する復元的実験ー接着材料としての硫黄コンクリートの使用」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- 本多貴之ほか：「近世社寺建造物の銅葺瓦の塗装に関する基礎的研究」日本文化財科学会第41回大会 24.7.27
- 倉島玲央：「劣化した漆塗膜層および下地層の強度評価」日本文化財科学会第41回大会 24.7.27

刊行物

- 『文化財修復処置に関する研究会ーモジュラー・クリーニング・プログラムの利用についてー』 25.3



文化財保存修復に関するワークショップー写真の識別と保存についてー 実習風景

備考

本業務のうち、「文化財保存修復に関するワークショップー写真の識別と保存についてー」はアートリサーチセンターと共同主催し、かつ、文化財保護・芸術助成財団からの外国人研究者招致の助成も使用して開催された。

多様な文化財の修復技術に関する調査研究 (ホ06)

研究組織 犬塚将英、芳賀文絵（以上、保存科学研究センター）、千葉毅（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）、荻田重賀（客員研究員）

目 的 近年多発する災害によって被災した文化財、また、近代に制作された大型構造物や機械器具、工業製品などの文化財の保存修復処置は、その多様な材質、状態により、従来の方法のみでは対処できない可能性がある。本研究では、そのような多様な文化財に対する保存修復技術に関する新しい材料や技法について情報収集、調査および開発を行う。これらの研究を通して、多様な文化財の保存手法・保存活用、防災計画のあり方等を明らかにすることを目指している。

成 果

1. 被災文化財の保存修復技術に関する調査・研究

今年度は、被災資料からの揮発成分調査を実施し、異なる地域および水害によって被災した資料を対象に調査を行った。複数の事例を比較することにより、災害による被害の影響を相対的に評価し、被災環境や水害の特性が資料に及ぼす影響について新たな知見を得た。

また、被災後の資料の処置方法が揮発成分の種類に与える影響についても調査を進め、被災資料サンプルを用いた分析をもとに、その違いを明らかにした。

本研究成果の一部は、韓国文化財保存修復学会の特別セッション「気候変動に対する文化遺産の防災と予防保存」などにおいて発表を行った。これらの結果は今後の被災資料の修復方針の判断に資する情報として活用されるとともに、研究成果の国際的な意義が再認識される機会となった。

今後も、本研究で得られた成果を基に、被災資料の適切な保全手法の確立に努める。

2. 近代文化遺産の保存について

全国の市町村を対象に、航空資料の文化財指定状況について悉皆調査を実施し、その結果を学会で発表した。各自治体における指定状況の現状を明らかにした。さらに、日本における航空機の保存・活用等に関する諸制度について、精査し、悉皆調査の結果と併せて成果を『保存科学』にて報告した。航空資料の保存体制について、日本の制度的側面を明らかにし、今後の保存活動の指針となるデータを提供した。

また、令和4年度（覚書取り交し）から継続して南九州市との連携において、四式戦闘機「疾風（1446号機）」の保存に関する調査協力を行った。航空機の調査方法について、多角的に調査する方法を検討し、その周辺環境を併せ、その保存方法について協議した。

日本航空協会との連携では、昨年度開催した共同研究会「航空資料の保存と活用」の成果をまとめ、報告書として刊行した。その他航空関連資料の寄贈を進めた。

報 告

- 千葉毅：「日本における航空機の保存に関する諸制度」

『保存科学』64 pp.111-136 25.3

発 表

- 千葉毅：「文化財としての航空機の保存—文化財保護法における近代動産文化財の捉え方の整理—」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.22-23
- 芳賀文絵ほか：「被災紙資料からの揮発成分調査について—処置状態・方法による比較結果—」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.22-23
- 芳賀文絵ほか：「일본에서의 수해로 피해를 입은 문화재로부터의 휘발 성분 (냄새) 과 그 분석 방법 사례에 대해서」韓国文化財保存科学会第60回秋季学術大会 24.11.8-9
- 千葉毅、芳賀文絵ほか：「일본 문화재 행정에서의 항공기 보호에 대하여—지방자치단체의 보호 사례 전수 조사—」韓国文化財保存科学会第60回秋季学術大会 24.11.8-9

刊行物

- 『公開研究会「航空資料の保存と活用」報告書』 25.3



被災資料の調査



航空資料の調査

高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究^(ホ)

研究組織 犬塚将英、朽津信明、秋山純子、早川典子、佐藤嘉則、芳賀文絵、倉島玲央、島田潤、轟丈瑠、西田典由、水谷悦子、大和あすか、紀芝蓮(以上、保存科学研究センター)、片山葉子、宇高健太郎(以上、客員研究員)、千葉毅(保存科学研究センター併任、文化財防災センター)

目 的 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

成 果

○高松塚古墳壁画に関しては、修理施設内での歩行性害虫調査、浮遊菌・付着菌・落下菌調査に加え、浮遊粒子数測定、ATP測定と空気質調査を行った。また、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存環境の維持・改善に努めた。

○修復後のメンテナンス作業に関連する調査研究としては、漆喰部分・補填箇所について、状態変化の有無に関する確認を定期的に行った。また、修復事業関連の資料アーカイブを開始し、報告書を刊行した。

○キトラ古墳壁画に関しては、「四神の館」における保存及び公開の際の環境管理について調査協力を行った。集中メンテナンスや「辰」「巳」「申」が存在すると推定される泥に覆われている漆喰片についての保存方法の協議を行った。また、「辰」「巳」「申」の2次元元素マッピングによる調査から得られたデータの解析と協議を行った。



高松塚修理報告書

論 文

- ・犬塚将英：「キトラ古墳壁画の泥に覆われた部分の分析調査」『化学と工業』78(2) pp.95-96 25.2

発 表

- ・早川典子：「日本における漆喰古墳壁画の保存修復と公開」陝西歴史博物院東京文化財研究所文化財保存科学研究交流会 24.9.26
- ・倉島玲央：「壁画に関する科学分析」陝西歴史博物院東京文化財研究所文化財保存科学研究交流会 24.9.26

刊行物

- ・『国宝高松塚古墳壁画修理報告書』 25.3

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信^(コ01)

研究組織 金井健、松浦一之介、柄澤真子、石田智香子(以上、文化遺産国際協力センター)、境野飛鳥、邱君妮(以上、客員研究員)

目 的 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みつつ優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。

成 果

- 文化遺産保護に関する情報収集及び発信のため以下の国際会議及び研修に参加した。
 - 7月24～31日：ユネスコ第46回世界遺産委員会(インド・ニューデリー)
 - 8月31日：日本イコモスフォーラム「英仏版の比較検討から読み直すベニス憲章の意義」(都内)
 - 11月13～17日：イコモス2024年総会／学術シンポジウム(ブラジル・オウロプレト)
 - 11月16日：奈良文化財研究所文化的景観研究集会「風景を耕す、その喜び」(奈良市)
 - 11月27日：日本イコモス研究会「第46回世界遺産委員会の議論と日本の展望」(オンライン)
 - 12月17～19日：ACCU奈良国際会議「世界文化遺産とオーセンティシティ」(奈良市)
 - 1月10～11日：群馬県・日本イコモス「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム(高崎市)
 - 1月30～31日：広島大学ワークショップ「世界遺産と奈良文書：アジア発パラダイムの現在と未来」(オンライン)
- スペインを対象に文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、国が所管する法律をまとめた法令集の一部として「歴史遺産に関する1985年6月24日法律」を収録した図書を刊行した。
- 例年行っている世界遺産研究協議会は「世界遺産の柔らかな輪郭」と題してバッファゾーンとワイダーセッティングをテーマに開催し、関係自治体等との情報共有を図った。(11月25日)

世界遺産研究協議会のテーマに係る先進地としてイタリアに注目し、同国の世界遺産における運用の状況や法的な取り扱いに関する調査を行った。(現地派遣：10月14日～11月1日)

報 告

- 金井健：「イコモス2024年総会／学術シンポジウムでのベニス憲章をめぐる議論」日本イコモス季刊誌(オンライン) 2024年冬号 24.12.14

- 松浦一之介：「〈フィレンツェの歴史地区〉：バッファゾーンとワイダーセッティング」文化遺産国際協力センターウェブコラム(オンライン) 24.12.23
- 金井健：「各論(2) 国際協力における相互理解の構築」『英仏版の比較検討から読み直すベニス憲章』日本イコモス国内委員会憲章小委員会 pp.67-78 25.1
- 松浦一之介：「イタリアのバッファゾーンとワイダーセッティングー景観保護法制に基づく遺産価値の広がりー」『令和6年度世界遺産研究協議会』報告書 pp.28-36 25.3

発 表

- 金井健：「受け継がれた町・建物の価値ー私たちの暮らしに息づく文化的遺産ー」温泉津町伝統的建造物群保存地区選定20周年記念シンポジウム 24.7.6
- 金井健：「国際協力における相互理解の構築」日本イコモスフォーラム 24.8.31
- 金井健：「文化遺産の国際協力」筑波大学世界遺産学学位プログラム：遺産保護行政論 24.10.5
- 松浦一之介：「イタリアのバッファゾーンとワイダーセッティングー景観保護法制に基づく遺産価値の広がりー」世界遺産研究協議会 24.11.25

刊行物

- 『各国の文化財保護法令シリーズ [29] スペイン(暫定版)』 25.3
- 『令和6年度世界遺産研究協議会 世界遺産の柔らかな輪郭』 25.3



イコモス2024年総会／学術シンポジウムのラウンドテーブル・ディスカッション

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 ^(コ2)

研究組織 安倍雅史、友田正彦、金井健、浅田なつみ、山田綾乃、黒岩千尋、柴田みな、長尾琢磨、山潟愛、平田薫（以上、文化遺産国際協力センター）

目 的 東南アジア、西アジアおよびその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施並びに当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

- カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等
 - アンコール・シエムレア地域保存整備機構 (APSARA) との共同調査の実施。中央塔東西入口修復への技術協力 (6月15日～7月2日、8月7日～11日)、中央伽藍前十字テラスの保全計画策定に向けた発掘調査および破損調査 (11月27日～12月26日)。
 - ICC Angkor/Sambor Prei Kukr 第31回総会及び第39回技術会合への参加 (12月11日～13日)。
- ネパールの歴史的集落の保全に関する支援
 - ネパール・キルティブル市との協働による、キルティブル市旧市街内の歴史的建造物の調査 (7月15日～24日)、対象民家の保存活用に向けたワークショップの実施 (12月20日～27日)。
- バーレーンの文化遺産保護に関する協力など
 - バーレーンに残る歴史的なイスラーム墓碑の3次元計測を実施 (2月8～14日)。
- シンポジウム開催及び技術研修の実施
 - 小学生を対象としたこども文化遺産ワークショップ2024「文字と記号で謎を解く！古代エジプト人の技」を企画・実施 (7月27日)。
 - 海外で文化遺産保護に携わる日本の専門家を対象に「海外調査のための3次元計測実習」を実施 (11月2日～4日)。
 - 文化財分野におけるXR活用をテーマとしたイベント「XRミートアップ東京」を共催 (11月24日)。
 - 日本西アジア考古学会と「第32回西アジア発掘調査報告会」を共催 (3月22日～23日)。

発 表

- 長尾琢磨、山田綾乃、安倍雅史：「バハレーンにおけるイスラーム墓碑の3次元計測調査 (第2次) 及びワークショップの開催」日本西アジア考古学会第29回大会 (ポスター) 24.6.15-16
- 長尾琢磨、山田綾乃、安倍雅史：「イスラーム墓碑の保存—バハレーンにおける3次元計測調査 (2023-2024年)—」第32回西アジア発掘調査報告会 25.3.22

- Asada, N. Sea, S. Tomoda, M. Kanai, K. and Kim, S., Stone Masonry Technique of Ancient Khmer Craftsmen: A case study of the East Gate in Ta Nei Temple, Angkor, 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), B-12, Sept. 12, 2024
- Kuroiwa, C., Tomoda, M., Comparative Study on the Architectural Features of the Outermost Gate, Ta Nei Temple, Cambodia, 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), B-12, Sept. 12, 2024

刊行物

- “Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2022 and 2023-” APSARA/TOBUNKEN 25.3
- 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和6年度成果報告書』東京文化財研究所 25.3
- 東京文化財研究所 (編)、友田正彦 (編著)『大陸部東南アジアの古代木造建築を考える』鹿島出版会 25.3



海外調査のための3次元計測実習

保存修復技術の国際的応用に関する研究^(コ03)

研究組織 加藤雅人、前川佳文(以上、文化遺産国際協力センター)、犬塚将英、朽津信明(以上、保存科学研究センター)

目 的 国内の専門家および諸外国の研究機関とネットワークを構築し、壁画をはじめとする不動産文化財を中心に、保存修復技術の最新動向を踏まえた基礎的・基盤的研究を行うことを目的とする。また、得られた成果は文化遺産国際協働の場で応用するとともに、国内外の関連領域における保存修復技術発展への貢献を目指す。

成 果

- トルコ共和国において文化財保存修復に係る共同研究の確立を目指した事前調査を実施した。
 - 6月25～29日および10月25日～11月9日の期間に現地派遣を行い、トルコの文化財保存に関わる主要機関と協力関係の確立に向けて協議し、カッパドキア所在の聖ミカエル教会(ケシュリック修道院)にて、保存修復研究計画立案に向けた実地研究調査を実施した。
- スタッコ装飾及び塑像に関する研究調査を実施した。
 - 7月5～7日の期間にパレルモ(イタリア)への現地派遣を行い、ギリシア人の植民都市が築かれた時代の遺跡を対象としたスタッコ装飾に係る調査研究への協力について、現地の文化財監督局と協議した。また、パレルモ市内に残る16～17世紀に制作された塑像の保存修復について、現地専門家を対象にした聞き取り調査を実施した。
 - 9月6～7日の期間にソマ・ヴェスヴィアーナ(イタリア)への現地派遣を行い、東京大学が発掘調査を進めるローマ時代の遺跡において、残存するスタッコ装飾の技法や材料を対象にした調査を実施した。
 - 9月26日～10月16日の期間に長岡市(新潟県)から受託した研究業務のため現地派遣を行い、旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鏝絵の保存修復および維持管理に向けた調査研究を実施した。
 - 1月13～18日および21～22日の期間にフィレンツェ(イタリア)への現地派遣を行い、フィレンツェ大聖堂に所蔵される塑像(16世紀)について、大聖堂付属博物館および美術監督局協力のもと、技法材料や保存状態に係る研究調査を実施した。
- 石造文化財の保存修復方法の改善を目的とした調査研究を実施した。
 - 4月18～19日および7月24～25日の期間に神谷神社(香川県)への現地派遣を行い、石塔の劣化状況について調査研究を実施した。
 - 7月1～6日の期間にフィレンツェ(イタリア)への現地派遣を行い、国立修復研究所や国家認定文化財修復
- 土協力のもと、石造文化財の保存修復材料について実験研究を実施した。
- クロアチアにおいて、壁画の制作技法や保存状態に関するデータアーカイブの作成に向けたシミュレーションを実施した。
 - 3月10～14日の期間にイストリア地方(クロアチア)への現地派遣を行い、クロアチア文化メディア省美術監督局、イストリア歴史海事博物館、ザグレブ大学と協力し、教会壁画を対象にした壁画保存状態チェックシートの導入実験を実施した。
- 「Perugino e Firenze 500, Cenacolo di Fuligno」を開催した。
 - フィレンツェ美術監督局、トスカナ国立博物館他と表題の研究会を共催し(5月14～15日)、またそこで研究発表を行った。

報 告

- 前川佳文：「旧機那サフラン酒本舗鏝絵の保存修復」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23

発 表

- Yoshifumi Maekawa, et al.: Uno studio tecnico interdisciplinare sui dipinti murali del Perugino: due casi di studio. L'Ultima Cena del Cenacolo del Fuligno e la Crocifissione di Santa Maria Maddalena in Cestello, Perugino e Firenze 500, Cenacolo di Fuligno 24.5.15
- Yoshifumi Maekawa: Preliminary Studies on the Conservation of the Wall Paintings of the Archangel Michael Church of Keşlik Monastery, International Symposium on the Protection of Cultural Properties, Cappadocia University 24.11.6

刊行物

- 『令和6年度 旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鏝絵の保存修復に関する研究』 25.3

在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

研究組織 加藤雅人、石渡美鈴、武瀟瀟、片渕奈美香、大川柚佳（以上、文化遺産国際協力センター）、江村知子、米沢玲（以上、文化財情報資料部）、小杉則彬（研究支援推進部）、大河原典子、杉山恵助（以上、客員研究員）

目 的 日本の文化財は、欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本文化財の保存修復専門家は海外にはほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財の保存修復に関する助言等の協力を行う。また、本格的な修復が必要な絵画作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、日本とは異なる条件にある海外所在作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、その成果を公開、共有する。

成 果

日本絵画の保存修復に関する協力をを行い、関連する基礎研究を行った。

1. 作品修復

モントリオール美術館（カナダ）所蔵の2作品の修復に協力した。女房三十六歌仙扇面貼交屏風（紙本金地着色 6曲1双）については修復が完了し、報告書の作成に着手した。前年度に修復完了した熊野曼荼羅（絹本着色 掛軸1幅）については日英2言語併記の報告書を刊行した。これら2作品を所蔵館に返還した。

また次年度修復作品としてリートベルク美術館（スイス）の作品1件を決定し、合意書の締結を行った。さらに、次年度のこの作品の輸送の調整等を行った。

2. 現地調査

パウアー財団東洋美術館、リートベルク美術館（以上2件、スイス、5月23日～29日）、ボズナン国立博物館（ポーランド、11月18日～22日）において作品調査および現地での保存修復に係る助言を実施した。

3. 資料整理

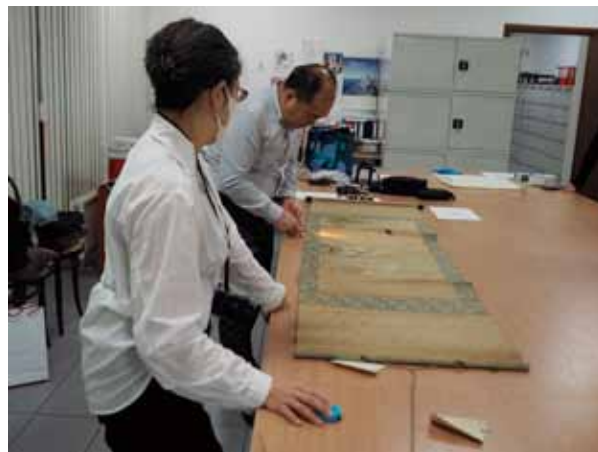
交渉などを含む所蔵館と交わした書簡、現地を含む調査資料などを有するが、特に索引などなくデジタル化もされていない。昨年度までに引き続きこれらの資料の整理及びデジタル化を進めた。

4. 基礎研究

モントリオール美術館所蔵熊野曼荼羅の修復に際して得られた知見に基づき、表具に使用する接着剤（着色された小麦デンプン糊）の視覚的効果と保存修復への影響を検討し、その成果を文化財保存修復学会第46回大会で発表した。



女房三十六歌仙扇面貼交屏風の修復後の撮影風景



ボズナン国立博物館における作品調査

発 表

- 清水綾子、君嶋隆幸、加藤雅人：「墨糊が装幀文化財の色に及ぼす影響」 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス・東京 24.6.23

刊行物

- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 熊野曼荼羅 No.2020-2』東京文化財研究所 25.3

国際研修 (コ05)

研究組織 加藤雅人、大川柚佳、片渕奈美香、石渡美鈴、柴田みな（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存科学研究センター）、菊池理予（無形文化遺産部）

目 的 近年、日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国内外において関係諸機関との共催またはそれらの機関の協力を得て研修等を開催し、保存修復関係者への技術移転と情報共有を行う。

成 果

令和6年度は、日本国内において、研修1件を行った。
また、次年度の日本国内およびメキシコ国での開催に向けて、研修の準備を行い、日本国内開催の研修に関しては参加者の募集を行った。

1. 国際研修「紙の保存と修復」の開催

概要は以下の通り。

主催：当研究所、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）

日程：8月26日（月）～9月13日（金）

場所：当研究所及びスタディーツアー

参加者：10名（応募者164名から選抜）

参加者所属先所在国：アメリカ、アルメニア、イギリス、イタリア、オランダ、カナダ、スイス、ドイツ、マルタ、メキシコ

講義及び実習内容：

- ・講義 日本の文化財保護と装演修理技術 加藤雅人
- ・講義（材料学） 紙の基礎 加藤雅人
- ・講義（材料学） 日本画修復に使われる接着剤について 早川典子
- ・講義および実演（伝統技術） 刷毛 田中重己（国の選定保存技術「表具用刷毛製作」保持認定）、田中宏平
- ・講義 日本における工芸技術保護の現状と変遷 菊池理予
- ・実習（装演修理技術、作品取り扱い） 装演修理技術 国宝修理装演師連盟（国の選定保存技術「装演修理技術」保持認定）
- ・見学（手漉き和紙） 本美濃紙 美濃竹紙工房（鈴木豊美、鈴木竹久（ともに、国指定重要無形文化財「本美濃紙」保持団体 本美濃紙保存会 正会員））
- ・見学および紙漉き体験（博物館） 美濃和紙の里会館
- ・見学（装演修理とその周辺工房等） 岡墨光堂、金高刃物老舗、溝川商店
- ・見学（その他、文化財、材料店等） 名古屋城（国指定特別史跡、重要文化財、名勝等）、紙の温度、熱

田神宮

2. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の準備

ICCROMおよびメキシコ文化省国立人類学歴史機構文化遺産保存修復協力機関と次年度開催の内容等について協議を行った。



集合写真



実習（装演修理技術）

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究^(シ05)

研究組織 二神葉子、江村知子、小野真由美、橘川英規、米沢玲、小山田智寛、田代裕一朗、月村紀乃、石灰秀行、城野誠治、谷口每子、武藤明子、安岡みのり、酒井かれん(以上、文化財情報資料部)、薬師寺君子(客員研究員)
広報委員(情報システム部会): 友田正彦(副所長) 各部署情報システム部会員: 菅原章、安孫子卓史(以上、研究支援推進部)、橘川英規(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、倉島玲央(保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)
広報委員(年報部会): 友田正彦(副所長) 各部署年報部会員: 小杉則彬(研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、今石みぎわ(無形文化遺産部)、千葉毅(保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)

目 的 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化する光学調査・研究を行い、その成果を公開する。また、東京文化財研究所で行われる調査研究に関する情報や、国内外の文化財に関する多様な情報について分析し、それらを文化財保護に対して活用するための調査研究を行う。さらに、それらの情報の効果的な公開手法に関する調査研究を行い、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。

成 果

1. デジタル画像の形成方法の研究開発

- 所内の他プロジェクトとの連携、また、所外からの依頼により、長崎歴史文化博物館所蔵「泰西王侯図屏風」などについて、調査研究や修理のための光学調査、記録作成を実施した。
- 皇居三の丸尚蔵館との共同研究として、「万国絵図屏風」などの作品調査を実施した。また、『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本着色春日権現験記巻十七・巻十八 光学調査報告書』、『皇居三の丸尚蔵館所蔵 重要文化財 紙本着色世界図 光学調査報告書』を2月に刊行した。
- 沖縄県立博物館・美術館との共同研究として、琉球王朝時代の絵画作品の調査撮影を2月に行った。

2. 文化財情報に関する調査研究

- 釧路市立博物館との共同研究として、協議及び考古遺物の記録作成、同館での写真パネル展示(3月)を行った。
- タイ文化省芸術局との共同研究として、6月に日本、11月にタイでの漆工材料調査を行った。また、タイでの日本製漆工品の調査を4月及び10月に行った。さらに、過去の成果に関する報告書を刊行した。
- 当研究所でのデータベース運用及び活用、世界遺産一覧表登録推薦の評価プロセスの課題に関して調査研究を行い、論文や学会等での発表を行った。

3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

- 研究情報の発信の一環としてウェブサイトを活用し、笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料(作家ファイル)目録などウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。ウェブサイトのウェブアクセシビリティ対応を進め、特に資料閲覧室ウェブサイトは形式及び内容を全面的に更新した。さらに、メールマガジン、ソーシャルメディアを通じた情報発信を行った。

- エントランスロビーパネル展示「文化遺産保護と3次元計測」を5月27日に開始、解説パンフレット(日英)を制作した(文化遺産国際協力センター担当)。また令和4年度の展示「タイ・バンコク所在王室第一級寺院ワット・ラーチャプラディットの漆扉」を、タイ文化省芸術局及び同寺の協力でバンコクの同寺で10月30日に開始した。
- 年報部会員と連携し、『東京文化財研究所年報2023』を6月30日付で刊行した。

4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

- 情報システム部会員と連携し、情報セキュリティ研修(3月19日開催)や、各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、セキュリティ水準の維持向上に努めた。
- 文化財情報基盤整備の一環として、仮想化基盤ストレージを更新し、仮想化サーバの安定的な運用環境を確保した。また、無線LANアクセスポイント、基幹スイッチを更新し、より安定した高速なインターネット接続が可能な環境を整備した。

論 文

- 二神葉子:「世界遺産一覧表登録推薦の評価プロセスにおける課題と解決に向けた取り組み—特に信頼性の確保について—」『美術研究』443 24.10

ほか3件

発 表

- 小山田智寛:「データベースにおける検索とキーワードの関係について」第58回オープンレクチャー 24.11.1

ほか1件

刊行物

- 『皇居三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵巻十七・巻十八 光学調査報告書』 25.2

ほか3件

ウェブサイトアクセスランキング(令和6年度 上位10位まで)

1	異体字リスト	6	異体字リスト英語版
2	研究資料データベース	7	総合検索
3	東京文化財研究所日本語トップ	8	文化遺産国際協力センター
4	黒田記念館	9	東京文化財研究所英語トップ
5	物故者記事(桑原実)	10	黒田清輝について

ウェブサイトの主な更新履歴(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

年月日	更 新 内 容	関 係 部 局
24.4.2	文化財害虫を調べられるウェブサイト「文化財害虫検索」公開	保存科学研究センター
24.4.5	開催案内 東京文化財研究所 一般公開	研究支援推進部
24.5.23	資料閲覧室収集アーカイブズ「島崎清海旧蔵資料」情報公開	文化財情報資料部
24.5.27	エントランスロビー展示「文化遺産保護と3次元計測」	文化遺産国際協力センター
24.6.10	開催案内 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修	保存科学研究センター
24.6.10	開催案内 文化財保存修復に関するワークショップー写真の識別と保存	保存科学研究センター
24.6.28	開催案内 森と支える「知恵とわざ」ー無形文化遺産の未来のためにー	無形文化遺産部
24.7.1	資料閲覧室 収集アーカイブズ「ストライプハウス美術館 / ストライプハウスギャラリー旧蔵資料」の情報公開	文化財情報資料部
24.7.2	開催案内 こども文化遺産ワークショップ「文字と記号で謎を解く！古代エジプト人の技」	文化遺産国際協力センター
24.8.1	高德院国宝銅造阿弥陀如来坐像(鎌倉大仏) 調査記録公開	文化財情報資料部
24.8.9	開催案内 第34回研究会「学校教育と文化遺産」	文化遺産国際協力コンソーシアム
24.9.2	資料閲覧室収集アーカイブズ「ギャラリー山口旧蔵資料」情報公開	文化財情報資料部
24.9.4	開催案内 「東京文化財研究所における実演記録事業(講演) 一龍斎貞水師を偲んで」	無形文化遺産部
24.9.6	映像「伝統材料と道具のひみつー彫刻刃物編ー」公開	無形文化遺産部
24.9.9	開催案内 第58回オープンレクチャー かたちを見る、かたちを読む	文化財情報資料部
24.9.25	笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料(作家ファイル) 情報公開	文化財情報資料部
24.9.25	開催案内 シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」	文化財情報資料部
24.10.2	開催案内 令和6年度シンポジウム「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」	文化遺産国際協力コンソーシアム
24.10.2	開催案内 第35回研究会「文化遺産保護と奈良文書ー国際規範としての受容と応用ー」	文化遺産国際協力コンソーシアム
24.10.29	第18回無形文化遺産部公開学術講座「文化財修理と在来絹製作ー絹織製作研究所の技術をつなぐー」	無形文化遺産部
24.11.20	映像2件「オオツツラフジの採取・加工ー岐阜県揖斐川町」、「大野のシダ籠ー広島県廿日市市」公開	無形文化遺産部
24.11.26	開催案内 フォーラム「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」	保存科学研究センター
24.12.13	開催案内 2024年度 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会	保存科学研究センター
25.1.31	資料閲覧室 機関アーカイブズ「松島健旧蔵資料」の情報公開	文化財情報資料部
25.2.12	開催案内 国際研修「紙の保存と修復」2025	文化遺産国際協力センター
25.3.4	記録映像『彫刻刃物 製作技術の記録ー株式会社 小信・齊藤和芳ー その1～8』	無形文化遺産部

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充^(シ06)

研究組織 米沢玲、橘川英規、江村知子、田代裕一朗、小山田智寛、山永尚美、寺崎直子、鈴木良太、山下麻依(以上、文化財情報資料部)

目 的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成 果

1. 全所的な文化財情報の発信
 - 当研究所副所長を委員長とするアーカイブWGを例年通り4回(6月12日、9月5日、12月12日、3月13日)開催し、各部・センターの代表アーカイブの拡充と積極的な情報発信を行うための協議を行った。
2. 文化財研究のためのデータ蓄積と公開
 - 当研究所で所蔵している松島健資料を追加公開した(追加件数:354件/8月、148件/1月)。
 - 個人所蔵だった円空に関する資料の寄贈を受け、目録情報の整理を進めた(約600件/12月)。
 - 当研究所で所蔵している4×5写真フィルムの原資料とデジタルデータの整理を進めた(25,340件、12月)。
 - 当研究所で所蔵している久野健資料を追加公開した(追加件数:約13,400件/3月)。
 - 令和5年に受け入れた前田青邨文庫について、東文研OPAC上で、リスト及びPDFの公開を行った(275点/12月)。
 - 資料閲覧室で収蔵しているマイクロフィルムのデジタル化を進めた(計83本/3月)。
 - 資料閲覧室に収蔵されている韓国絵画の調査写真420枚とそのメモ146枚をデジタル化し、資料集を刊行した(9月)。
3. アーカイブを利用した研究・外部機関との協力
 - 当研究所の所蔵資料を「没後100年・黒田清輝と近代絵画の冒険者たち」(東京国立博物館)、「雪村一常陸に生まれし遊歴の画僧一」(茨城県立歴史館)、「香取秀真の眼」(佐倉市立美術館)、「トキワ荘マンガミュージアムへの道〜めさまし草あたりから」(豊島区立トキワ荘マンガミュージアム)、「池田蕉園と輝方一夢みる美人画一」(山口県立萩美術館・浦上記念館)に貸し出した。
 - 国内外の大学・大学院学生や専門家などを対象とした資料閲覧室の利用ガイダンス等を行った(7月3日共立女子大学、11月26日東京藝術大学、12月15日韓国史研究者(団体)、1月7日韓国梨花女子

大学校)。

4. 資料閲覧室の運営・管理・資料受け入れ数
 - 例年通り週3日(月・水・金)開室した。閲覧室利用状況:公開日総数138日・年間利用者合計752人
図書等の受け入れ和漢書1,416件、洋書115件、展覧会図録・報告書等1,989件、雑誌2,526件(合計6,046件)。

発 表

- 山永尚美:「行政機関で作成された映像資料とその関連資料の管理と利用可能性について」令和6年度第2回文化財情報資料部研究会 24.5.14
- 橘川英規:「美術司書の仕事」〈アートwith〉レクチャー 24.12.6
- 田代裕一朗:「関野貞の朝鮮絵画調査と朝鮮人蒐集家ー東京文化財研究所所蔵の調査資料をもとにー」令和6年度第10回文化財情報資料部研究会 25.2.17

刊行物

- 田代裕一朗編:『東京文化財研究所所蔵 韓国絵画調査資料 資料集』東京文化財研究所 24.9.30



韓国・梨花女子大学校学生へのガイダンス(1月7日)

令和6年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）^{（シ08）}

研究組織 江村知子、月村紀乃、吉田暁子、黒崎夏央、二神葉子、橘川英規、小野真由美、小山田智寛、米沢玲、田代裕一朗（以上、文化財情報資料部）、塩谷純（上席研究員）

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を広く一般に公開する。

成 果

- 11月1日（金）、2日（土）の2日間、一般から聴講者を募集し、第58回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」を開催した。講演テーマは次の通りである。
- 11月1日（金）
 - 小山田智寛（文化財情報資料部主任研究員）「データベースにおける検索とキーワードの関係について」
 - 逢坂裕紀子（国際大学 GLOCOM研究員）「AI時代におけるデジタルアーカイブ文化の保存・継承・活用に向けて」
- 11月2日（土）
 - 田代裕一朗（文化財情報資料部研究員）「韓国陶磁鑑賞史—韓国におけるコレクションの形成—」
 - 川島公之（（株）薩山龍泉堂代表取締役、東京美術商協同組合理事長）「中国陶磁鑑賞史—近代のわが国における中国陶磁鑑賞の受容と変遷—」
2. 両日合わせて、外部からの聴講者138名が参加され、アンケートの結果およそ9割から「大変満足した」「おおむね満足した」との回答を得た。
3. 1日目にはウェブデータベースとデジタルアーカイブをテーマとして、社会的な重要性が急激に増大している情報通信やAI技術についての課題と展望を、一般の聴講者にとってわかりやすく解説した。2日目には韓国と中国の陶磁鑑賞史をテーマとして、若手研究者による発表と、世界的に活躍する古美術商であり研究活動も実践されている川島公之氏を講師に招へいすることにより、多重的な講演会とすることができた。



第58回オープンレクチャー チラシ



講演風景

無形文化遺産に関わる 音声・画像・映像資料のデジタル化^(△03)

研究組織 石村智、前原恵美、鎌田紗弓、中川優子(以上、無形文化遺産部)、飯島満(客員研究員)

目 的 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成 果

1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi8、DVCを中心に媒体変換を行った。特に本研究所で収録した実演記録(演芸)の媒体変換を進めた。
2. 音声資料のうち、再生不可となることが危惧されるオープンリールテープについては、順次、媒体変換を行った(計60時間分)。特に民謡および沖縄方言のデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
3. 音声資料のうち、カセットテープに関しては旧芸能部所蔵テープのうち、声明をはじめとする寺事の現地録音を中心に内容確認を行い、内容ごとにインデックスを付与する作業を行った。
4. 音声資料のうち、文化財保護委員会制作資料(LPレコード等)についてはクリーニング処置を施した上で、デジタル化を進めた。
5. 写真資料に関しては、梅村豊氏及び石井雅子氏が撮影した歌舞伎舞台写真の整理を行った。
6. 無形文化遺産関連の音声映像記録198点(CD1点、DVD127点、BD70点)を所蔵資料として新たに登録した。



無形文化遺産部が所蔵する音声資料(オープンリールテープ)

総合研究会 ^(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和6年度は下記のスケジュールで開催した。

- 第1回 2024(令和6)年10月1日(火)
小田原直也(無形文化遺産部)「無形文化財と映像 ―映像制作者の視点から―」
- 第2回 2024(令和6)年11月5日(火)
片渕奈美香(文化遺産国際協力センター)「近代染織品の保存に関わる諸問題―初期合成染料を中心に―」
- 第3回 2024(令和6)年12月3日(火)
島田潤(保存科学研究センター)「新たな文化財害虫～外来種ニュウハクシミの生態と防除～」
- 第4回 2025(令和7)年2月4日(火)
二神葉子(文化財情報資料部)「世界遺産条約の履行に関する近年の状況」

文化財情報資料部研究会 ^(④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。令和6年度の開催内容は以下の通り(肩書きは発表時のもの)。

- 4月30日(火) 米沢玲(文化財アーカイブズ研究室長)
「イギリス滞在報告―セインズベリー日本藝術研究所とイギリスのライブラリー、ミュージアム視察」
- 5月14日(火) 山永尚美(文化財情報資料部アソシエイトフェロー)
「行政機関で作成された映像資料とその関連資料の管理と利用可能性について」
- 6月25日(火) 井内佳津恵(北海道立三好太郎美術館)
「戦前期朝鮮半島美術家・作品・記事データベース」の成り立ちについて(報告)」
- 7月23日(火) 後藤亮子(文化財情報資料部客員研究員)
「余紹宋と近代中国の書画史学」
- 9月6日(金) 吉田暁子(文化財情報資料部研究員)
藏田愛子(東京大学 大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻 助教)
品川欣也(東京国立博物館)
笹倉いる美(北海道立北方民族博物館)
「織田東禹《コロボックルの村》をめぐって」
- 10月29日(火) 小野真由美(日本東洋美術史研究室長)
江戸時代初期における袁宏道『瓶史』の受容について―藤村庸軒の花道書の紹介をかねて―
コメンテーター：山本嘉孝(国文学研究資料館)
- 11月29日(金) 荏開津通彦(山口県立美術館)
「長谷川等哲について」
コメンテーター：戸田浩之(皇居三の丸尚蔵館)・廣海伸彦(出光美術館)

- 12月18日(水) 月村紀乃(文化財情報資料部研究員)
「長尾美術館に関する基礎的研究—美術研究所との関わりの解明に向けて—」
- 1月21日(火) 金素延(韓国・梨花女子大学校、東京文化財研究所来訪研究員)
「金剛山を描く—韓国近代期における金剛山の認識変化と視覚化」
通訳[逐次]: 田代裕一郎(文化財情報資料部研究員)
- 2月17日(月) 徐胤晶(韓国・明知大学校)
「安堅と東アジアの華北系山水画—伝称作、偽作、そして唐絵のなかの朝鮮絵画」
通訳[逐次]: 田代裕一郎(文化財情報資料部研究員)
- 金貴粉(国立ハンセン病資料館)
「近代朝鮮における書の専門化過程とその特徴—官僚出身書人の動向を中心に—」
- 田代裕一郎(文化財情報資料部研究員)
「関野貞の朝鮮絵画調査と朝鮮人蒐集家—東京文化財研究所所蔵の調査資料をもとに—」
- 2月25日(火) 江村知子(文化財情報資料部部長)
「酒吞童子絵巻の魔力」
並木誠士(京都工芸繊維大学)
「狩野派と酒吞童子絵巻」
小林健二(国文学研究資料館名誉教授)
「響き合う能と絵巻」
討議: [司会] 江村知子、[コメンテーター] 上野友愛(サントリー美術館)
- 2月26日(水) 万木春(中国美術学院)
「王詠《漁村小雪図》について」
通訳[逐次]: 後藤亮子(東京文化財研究所客員研究員)
- 3月6日(木) 住田常生(高崎市美術館)
「清宮質文資料」について
コメンテーター: 井野功一(茨城県近代美術館)

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

北米美術図書館協会 (ARLIS/NA) 来日記念 国際シンポジウム 「美術アーカイブと図書館における国際連携」

(①シ01の一部として実施)

北米美術図書館協会 (ARLIS/NA) は、美術・建築を専門とする司書や研究者など1,000名以上が参加する組織である。今回、初の日本スタディツアーとして16名が来日し、10月22日に東京文化財研究所と共催で国際シンポジウムを開催した。日本と北米の関連機関のアーカイブズ・図書館担当者が活動や所蔵資料を紹介し、ディスカッションを通じて意見を交わした。国内外の専門家が参加し、活発な議論が展開された。また、スタディツアーの一環として東京都内の美術アーカイブや図書館の視察を企画・調整し、関係機関の協力のもと、実施に至った。

日時: 2024(令和6)年10月22日(火) 13:30~18:00

会場: 東京文化財研究所 セミナー室

主催: 東京文化財研究所・北米美術図書館協会 (ARLIS/NA)

参加者: 71名

プログラム:

開会挨拶 江村知子(東京文化財研究所)

第1部 小林芳幸(国立国会図書館)「デジタルアーカイブのナショナルプラットフォーム「ジャパンサーチ」」/橘川英規(東京文化財研究所) 東京文化財研究所所蔵近代美術アーカイブ

第2部 ARLIS/NA日本関係コレクションの事例研究 Dan Lipcan(Peabody Essex Museum, (read by Ms. YASUDA Seira of Boston Architectural College)「Introduction –and– Objective Enthusiasm: the Papers of Edward Sylvester Morse (1838-1925)」/ Emilee Mathews(University of Illinois)「Connections between University of Illinois and Japan」/

Alexandra Austin(Pratt Institute)「Teaching with Video Games – Using Animal Crossing: New Horizons (あつまれどうぶつの森) to Support Student Success in the Library」/ (Elizabeth Smart,(Brigham Young University Library)「Japanese Rare Books & Materials in Libraries of the Mountain West of the United States」/ Angela Lorenz(Visual artist)「The Omori Story – American Artist Annie Shepley (1856-1941) and Japanese Olympian Hyozo Omori (1876-1913) in Bowdoin College Special Collections and Archives (Maine, USA)」

ディスカッション ディスカッサント：山梨絵美子(千葉市美術館)

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在—— 没後100年を機に」

(①シ03の一部として実施)

当研究所は、“日本近代洋画の父”と称される洋画家の黒田清輝(1866～1924)の遺産により、昭和5(1930)年に創設された。現在は東京国立博物館の施設として黒田の作品を展示公開している黒田記念館は、もともと当研究所の前身である美術研究所として建てられたものである。令和6(2024)年に黒田の没後100年を迎えたのを記念して、当研究所の主催により、創設の地である黒田記念館のセミナー室を会場として、本シンポジウムを開催した。

日時：2025(令和7)年1月10日(金)

会場：黒田記念館 セミナー室(オンライン併用)

参加者：63名

プログラム：

基調講演

塩谷純(東京文化財研究所)「黒田清輝の画業について——神津港人の視点から」

発表

三谷理華(女子美術大学)

「黒田清輝とラファエル・コラン——いくつかの視点をめぐって」

高山百合(福岡県立美術館)

「黒田清輝以降——昭和期における「官展アカデミズム」の諸相」

友岡真秀(鳥取県立博物館)

「黒田清輝からの学びと地方への伝播——鳥取県出身者の場合」

ディスカッション

塩谷純、三谷理華、高山百合、友岡真秀

無形文化遺産部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第18回無形文化遺産部公開学術講座

(①ム01の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は長野県飯島町にある勝山織物株式会社絹織製作研究所の志村明氏(選定保存技術「在来絹製作」各個認定保持者)と秋本賀子氏の染織品修理の材料として用いられる絹の製作技術に焦点を当て、東京文化財研究所で行った調査・記録事業を紹介するとともに、染織品を取りまく修理技術や修理材料の製作技術の状況について紹介した。

日時：2024(令和6)年12月6日(金) 13:00～17:00(開場12:30)

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：122名

プログラム：

趣旨説明：菊池理予(東京文化財研究所)

講演：

文化財の保存技術—在来絹製作— 多比羅菜美子(文化庁 文化財第一課)

我が国が保有する日本在来および世界の多彩な蚕品種の紹介とその保存

状況 伴野豊(駒ヶ根シルクミュージアム館長・九州大学名誉教授)

絹織製作技術の現状と継承 志村明・秋本賀子(絹織製作研究所)

その他：

ロビー展示解説

志村明・秋本賀子(絹織製作研究所)、伴野豊(駒ヶ根シルクミュージアム館長・九州大学名誉教授)



映像「普及編—絹織製作技術—」鑑賞
鼎談「染織品修理と修理材料の依頼—実例を通じて—」
依田尚美(株式会社松鶴堂)×秋本賀子(絹織製作研究所)
聞き手 菊池理予

無形文化遺産部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

研究会「東京文化財研究所における実演記録事業(講談) 一龍斎貞水師を偲んで

(①A01の一部として実施)

無形文化遺産部で実施してきた一龍斎貞水師(1939-2020、国指定重要無形文化財「講談」保持者[各個認定])による講談の実演記録(平成14(2002)年～令和2(2020)年にかけて145演目を収録)を振り返り、貞水師を偲ぶ公開研究会を開催した。

日時：2024(令和6)年10月3日(木) 14:00～16:15

会場：東京文化財研究所 セミナー室

主催：東京文化財研究所 無形文化遺産部

参加者：88名

プログラム：

13:30 開場

14:00 趣旨説明 石村智(東京文化財研究所)

14:10 講演「歌舞伎『勸進帳』の成立と講談の関係について」今岡謙太郎(武蔵野美術大学教授)

14:40 実演記録上映 講談『難波戦記』より「木村長門守の堪忍袋」一龍斎貞水

(2015年5月26日当研究所実演記録室にて収録)

15:35 講談『勸進帳』(一龍斎貞橘)

16:05 対談「貞水師について」話：一龍斎貞橘 聞き手：飯島満(当研究所客員研究員)

無形文化遺産部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第19回無形民俗文化財研究協議会

(②A02の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保護・活用に資することを目的として、行政機関の文化財担当者、無形民俗文化財の保存団体および研究者の参加のもと研究協議会を開催している。今回は、「ステージの上の民俗芸能～その魅せ方をめぐって～」というタイトルで、民俗芸能の舞台公演をテーマに開催した。近年、文化財保護法の改正などによって文化財の活用が叫ばれるようになり、民俗芸能の舞台公演もその一手段として注目されている。今回はさまざまな角度から、その具体的方法論と問題点について探った。

日時：2024(令和6)年12月20日(金) 10:30～17:00

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：122名

プログラム：

趣旨説明 久保田裕道(東京文化財研究所)

発表

茂木仁史(国立劇場おきなわ)「民俗芸能の舞台上演」

能登剛史(アートミックスジャパン実行委員会)「アートミックスジャパンの活動」

森下春夫(公益社団法人全日本郷土芸能協会)「民俗芸能公演の舞台づくり」

神谷武史(沖縄県立芸術大学)「魅力ある民俗芸能公演とは」

総合討議

モデレーター 久保田裕道、今石みぎわ(東京文化財研究所)

コメンテーター 垣澤瑞貴(相模里神楽垣澤社中)、高久舞(帝京大学)

パネリスト 茂木仁史、森下春夫、神谷武史



文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 (②ホ05の一部として実施)

近年、文化財の保存修復に関する科学研究が大きく進み、様々な知見が得られている、一方で、その知見を読み解き、現場で活用する力も文化財修復の上で必要とされてきている現状がある。

本研修では、文化財修復に必要とされる科学の基礎的な知識についての普及を目的とし、最新の研究成果を盛り込みつつ、文化財修復現場で直接必要となる情報を講義した。

日時：2024(令和6)年9月18日(水)～9月20日(金)

会場：東京文化財研究所 会議室

参加者：19名

プログラム：

- 早川典子(東京文化財研究所) 「科学知識基礎1、2」
- 早川典子(東京文化財研究所) 「溶液と接着」
- 加藤雅人(東京文化財研究所) 「紙の科学 1、2」
- 早川典子(東京文化財研究所) 「合成接着剤1、2」
- 倉島玲央(東京文化財研究所) 「実験器具・薬品の取り扱い」
- 早川典子(東京文化財研究所) 「伝統接着剤1(糊、フノリ)」
- 早川典子(東京文化財研究所) 「伝統接着剤2(漆・膠等)」
- 早川典子(東京文化財研究所) 「生物劣化への対応 佐藤嘉則」

文化財保存修復に関するワークショップ —写真の識別と保存について— (②ホ05の一部として実施)

近年、文化財保存修復に関する調査研究対象は伝統的な文化財分野のみならず、多様な材料で作成された作品や資料へ広がっており、それに伴い、保存科学研究センター修復材料研究室では、海外の講師を招聘しての研修を開催している。今年度は、写真保存修復専門家ゲノラ・フュリック(Gwenola Furic)氏に講師を依頼し、午前の講義と午後の実習からなる3日間のワークショップを開催した。

日時：2024(令和6)年10月29日(火)～31日(木)

会場：東京文化財研究所 会議室・セミナー室

主催：東京文化財研究所、国立アトリサーチセンター

参加者：講義の部 59名、実習の部 24名

プログラム：

- ゲノラ・フュリック(写真保存修復専門家)

講義

- 「写真技法の歴史と識別」
- 「写真の劣化と損傷」
- 「予防的保存：包材、保管、保存環境」

実習

- 「写真技法の識別」
- 「写真技法の識別、状態調査」
- 「調書作成、写真の保管・保存方法」

第8回保存環境調査・管理に関する講習会 —北川式検知管の開発状況と空気環境管理の課題— (②ホ02の一部として実施)

本講習会は保存環境の調査、評価方法、環境改善や安全な保管のための資材・用具等に関して、高いレベルでの共通理解を得ることを目的として開催している。

第1回の本講習会で北川式検知管をテーマとし、今回はそれから5年が経過したことを機に、以降の同検知管の開発の最新情報を提供するとともに、空気環境調査がより普及したことで顕在化した様々な課題について、意見交換を行った。

日時：2024(令和6)年11月5日(火) 13:30～15:40

会場：文化財活用センター 会議室

主催：東京文化財研究所、文化財活用センター

参加者：17名

プログラム：

13:00より受付

13:30～13:40 開会・趣旨説明

13:40～14:40 北川式検知管の開発状況(光明理化学工業株式会社 山崎正彦氏)

14:45～15:40 質疑応答(テーマ：文化財施設における空気環境の課題)

司会 秋山純子(東京文化財研究所)

フォーラム 「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」 (②ホ01の一部として実施)

資料保存における生物被害対策では、大規模な虫菌害が発生した際にガス燻蒸処理によって一旦被害を初期化する対策が図られてきた。このように現在の日本では資料の生物被害対策に欠かすことのできないガス燻蒸処理だが、2025(令和7)年3月末に主要な燻蒸ガスの一つである「エキヒュームS」の販売停止が決定した。その背景には燻蒸ガスが人や地球環境に及ぼす負の影響が無視できなくなってきたことがある。そこで、本研究会では持続可能な社会の構築という命題のもとで新しい資料保存の在り方について検討を進めている専門家と組織を招き、ポスト・エキヒュームSの資料保存を考えると題したフォーラムを開催した。

日時：2025(令和7)年2月21日(金) 9:30～17:15

会場：東京文化財研究所 セミナー室、会議室、ホワイエ

主催：東京文化財研究所、共催：文化庁、文化財保存修復学会、日本文化財科学会

参加者：会場参加 159名、同時配信登録者 754名

プログラム：総合司会：早川典子(東京文化財研究所)

開会挨拶 齊藤孝正(東京文化財研究所所長)

趣旨説明 佐藤嘉則(東京文化財研究所)

基調講演 米村祥央(文化庁文化資源活用課)「文化財IPMに立脚したこれからの生物被害対策」

基調講演 木川りか(九州国立博物館)「九博IPMの実践と今後の展望」

報告 渡辺祐基(九州国立博物館)・島田潤(東京文化財研究所)「文化財IPMの国際的な潮流～IPM-CH 2024参加報告～」

講演 日高真吾(国立民族学博物館)「国立民族学博物館におけるIPMの実践—殺虫・殺カビ対策の事例から」

講演 岩田泰幸(文化財虫菌害研究所)「文化財IPMを推進する上で有用な資格および生物被害対策への生かし方」

講演 間瀬創(文化財活用センター)「博物館におけるカビ被害対策の現状と今後」

総合討議 モデレーター：建石徹(皇居三の丸尚蔵館)

登壇者：小谷竜介(文化財防災センター)、和田浩(東京国立博物館)、降幡順子(京都国立博物館)、脇谷草一郎(奈良文化財研究所)、高畑誠(宮内庁正倉院事務所)、上記の講演者

閉会挨拶 犬塚将英(東京文化財研究所)

第9回保存環境調査・管理に関する講習会 (②ホ02の一部として実施)

—博物館等の空気環境における“のぞましい値”の考え方について—

本講習会ではこれまで、空気環境の調査や改善方法について多く取り上げてきた。今回は、「美術館・博物館のための空気清浄化の手引き」に記載されている室内汚染物質の“のぞましい値”の考え方について解説した。のぞましい値はどこから出てきた数値なのかを確認することで、この数値の持つ意味を再認識することと、汚染物質が文化財にどのような影響を与えるのか理解し、博物館等の空気環境の改善方法を検討する一助となることを目的に行った。

日時：2025(令和7)年3月3日(月) 13:30～15:40

会場：文化財活用センター 会議室

主催：東京文化財研究所、文化財活用センター

参加者：23名

プログラム：

13:00より受付

13:30～13:40 開会・趣旨説明

13:40～14:40 手引きに記載された“のぞましい値”の考え方について 秋山純子(東京文化財研究所)

14:45～15:40 質疑応答

司会 間瀬創(文化財活用センター)

令和6年度世界遺産研究協議会 世界遺産の柔らかい輪郭

—バッファゾーンとワイダーセッティング— (③コ01の一部として実施)

世界遺産条約は1972年の創設当初から遺産の周辺を構成する土地や環境とあわせた包括的な保護を図ることが念頭に置かれ、その視野は制度の発展を通じて、バッファゾーンからワイダーセッティングへと広がってきた。しかし、その取り扱いは遺産そのものと比して不確かで、実際の制度運用において困難な問題を伴いやすい。そこで、バッファゾーンとワイダーセッティングをキーワードに遺産価値の全体像をかたちづくる外郭のあり方を見直すことで、OUVの広がりとの認識と理解を共有することを意図し、遺産価値の理念形成や制度化の変遷に関する講演及び国内での実践事例に関する報告とパネルディスカッションを行った。

日時：2024(令和6)年11月25日(月) 13:00～17:30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：84名

プログラム：

趣旨説明 金井健(東京文化財研究所)

報告 鈴木地平(文化庁)「世界遺産の最新動向」

講演 松田陽(東京大学)「世界遺産の周縁における遺産概念の広がり」

松浦一之介(東京文化財研究所)「イタリアのバッファゾーンとワイダーセッティング—景観保護法制に基づく遺産価値の広がり—」

事例報告 佐藤嘉広(岩手大学)「〈平泉〉のバッファゾーンとワイダーセッティング」

木戸雅寿(滋賀県)「彦根城世界遺産登録としてのバッファゾーンとワイダーセッティング」

正田実知彦(福岡県)「HIAにおけるワイダーセッティングの捉え方—宗像・沖ノ島の事例とWHSMFの講義から—」

パネルディスカッション

モデレーター 金井健

パネリスト 鈴木地平、松田陽、松浦一之介、佐藤嘉広・齋藤里香(岩手県)、木戸雅寿、正田実知彦

XR ミートアップ東京 (③コ02の一部として実施)

「XR ミートアップ」とは、XRに関する学術研究、行政実務者、および技術開発者の交流を通じて、文化財XRにおける取組みの拡大と推進を狙いとしたイベントである。本企画は、奈良文化財研究所で6月に開催した「XR ミートアップ奈良」との連動企画であり、東京では、国内における博物館や文化財保存および文化遺産国際協力におけるXR活用をテーマとした。基調講演や発表セッションと併せて、様々な取組みを行う学術研究、行政実務者、技術開発者、教育関係者等が展示ブースを設けてそれぞれの取組みを紹介した。

日時：2024（令和6）年11月24日（日） 10：00～17：00

会場：東京文化財研究所 セミナー室、会議室

共催：東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター、株式会社ホロラボ、株式会社桑山瓦（ykuw-design）、奈良文化財研究所 文化財情報研究室、公立小松大学次世代考古学研究センター

参加者：119名

プログラム：

基調講演 中尾智行（文化庁 博物館支援推進室 文化観光担当調査官）

発表セッション

高田祐一（奈良文化財研究所）

浅田なつみ・長尾琢磨（東京文化財研究所）

藤原龍（株式会社ホロラボ）

桑山優樹（株式会社桑山瓦／ ykuw-design）

佐々木宏展（長野市立更北中学校教諭）

野口淳（公立小松大学次世代考古学研究センター）

ディスカッション

司会 野口淳（公立小松大学次世代考古学研究センター・産業技術総合研究所）

展示

公立小松大学次世代考古学研究センター「文化遺産国際協力でのXR・3D活用」

須坂市技術情報センター科学クラブ・長野市立更北中学校ものづくり部理科班「3Dアーカイブで博物館脱出大作戦：リアルにつながる物語」

千葉大学 加戸研究室「戸建て木造住宅の施工現場のための4D+セマンティック出来形モデル」

飛騨市・石棒クラブ「石棒神経衰弱」

慶應義塾大学大学院理工学研究科 進士さくら、藤代一成「民具文化財のバーチャル操作体験に向けた関節体の動作再現」

株式会社STYLY「リアルメタバースプラットフォームSTYLY」

株式会社ニコン映像ソリューション推進室「ポリュメトリックビデオ」

レフィクシア株式会社「iPhoneが万能測量機に！点群スキャンもAR表示もこれひとつ&LRTK Phone」

株式会社ホロラボ「Apple Vision Pro体験（沖本家モデル、樹木モデル）、3DGaussian Splatting デモ（京都清水寺参道）、高速大規模点群描画システム「Dawn」デモ（富士山点群、東京都点群）」

奈良文化財研究所・ワイクウーデザイン・STYLY「XR平城京 東京ドーム1473個分の面積をCGモデル化！」

東京文化財研究所「文化遺産保護と3次元計測（ロビー展示）、パーミヤン・アンコールVR体験」

京都府城陽市教育委員会「発掘調査成果に基づく古代の役所の3DCG復元映像」

こども文化遺産ワークショップ 文字と記号で謎を解く！古代エジプト人の技 (③コ02の一部として実施)

文化遺産や考古学への次世代の関心を向上させることを目的に、小学生を対象としたこども文化遺産ワークショップを企画・開催した。第2回目の開催となった本年度も古代エジプトの文化遺産をテーマとし、新たなプログラムとしてピラミッドの建造順を並べ替えるワークシート、発掘調査の紹介、古代エジプトの船に関する研究成果を反映させた立体パズルを実施した。考古学の編年や、発掘調査と保存修復の手順、古代エジプト文字の意味、古代エジプトの造船の仕組みなど学際的な研究の一端に遊びながら触れることをねらいとした。

日時：2024(令和6)年7月27日(土) 10:00~12:00

会場：東京文化財研究所 セミナー室

連携：古代オリエント博物館

後援：NPO法人 文化遺産の世界、任意団体 LeArchaeology

協力：東日本国際大学エジプト考古学研究所、エジプト観光考古省、大エジプト博物館

参加者：60名(うち、小学生25名)

講師：山田綾乃(東京文化財研究所)

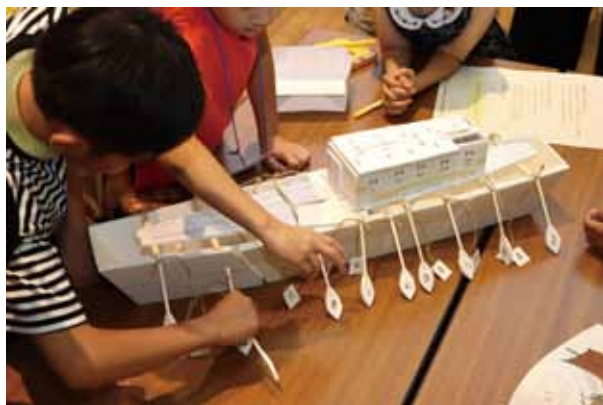
タイトル：こども文化遺産ワークショップ2024

プログラム：

1. ピラミッド探検：ピラミッド編年ワークシート、大ピラミッド・バーチャルツアー
2. よみがえる古代の船：クフ王第2の船保存修復・復元プロジェクトから学ぼう
3. 古代エジプト立体パズル：古代エジプト文字をたよりに船の立体パズルを組み立てよう



ピラミッド編年ワークシートに取り組む小学生



船の立体パズル

文化遺産国際協力センター

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第32回西アジア発掘調査報告会 (③コ02の一部として実施)

日本西アジア考古学会は、毎年、西アジアにおける日本隊の発掘調査などの最新成果を報告する発掘調査報告会を主催してきた。今年度は、東京文化財研究所と共催という形で実施された。

日時：2025(令和7)年3月22日(土)・23日(日) 10:00~17:00

会場：東京文化財研究所セミナー室

参加方法：会場での対面とWebexライブ配信(ウェビナー)

主催：日本西アジア考古学会、東京文化財研究所

後援：一般社団法人日本考古学協会、公益財団法人古代オリエント博物館、国士舘大学21世紀アジア学部附属イラク古代文化研究所、早稲田大学エジプト学研究所

参加者：のべ304名

プログラム：

1日目 3月22日(土)

アナトリア、コーカサスの調査 4件

クルディスタン、レヴァントの調査 3件

アラビア半島の調査 5件

特別講演 ワルシャワ文化財保存修復研究所所長 バルトシュ・マルコウスキ(通訳：西藤清秀)
「破壊されたシリア、パルミラ博物館の彫像の緊急保存修復2016-2024」

2日目 3月23日(日)

アラビア半島の調査 4件

エジプトの調査 4件

中央アジアの調査 6件

ポスター展示 4件

令和4年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業 『美術研究』(調査・研究成果の公開) (シ07)



『日本美術年鑑』

『日本美術年鑑』は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。令和4年版は、B5判、134ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行、以来90年にわたり日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論説、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料等を掲載している。本年度は443号、444号、445号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



無形文化遺産部出版関係事業 (ム04)



『無形文化遺産研究報告』第19号

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術、無形文化遺産保護の国際的な動向等に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。第19号には報文5本を掲載の他、特集記事として「能登半島地震と無形文化遺産」65ページを掲載。2025年3月刊行、168ページ。

第19回無形民俗文化財研究協議会

『ステージの上の民俗芸能—その魅せ方をめぐって—』

12月20日に開催した第19回無形民俗文化財研究協議会の報告書として刊行。今回は民俗芸能の舞台公演をテーマに、舞台に関わる4名の発表者と2名のコメンテーターらによる発表・討議内容を掲載。文化財の活用が叫ばれる昨今、民俗芸能の舞台公演もその一手段として注目されており、その具体的方法を探った。2025年3月刊行、108ページ。



『保存科学』第64号の出版^(ホ07)

『保存科学』は文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究報告などを報文・報告・資料のカテゴリーで掲載した学術誌であり、1964（昭和39）年に第1号を創刊している。令和6年度は、犬塚将英編集委員長、友田正彦委員、早川典子委員、間瀬創委員（文化財活用センター）、貴田啓子委員（東京藝術大学）の5名からなる編集委員会を編成し、投稿された論文に対して査読を行い、報告9報、資料4報の計13報の掲載を決定し、第64号を刊行した。2025年3月刊行、190ページ。



広報委員会

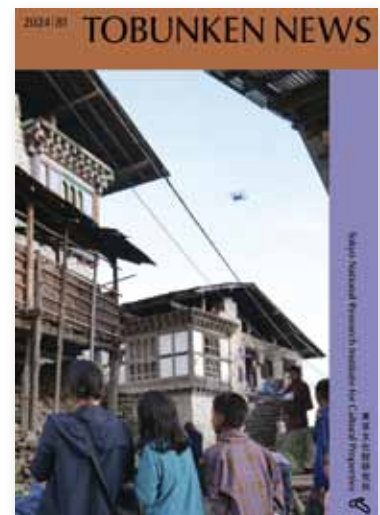
『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKEN NEWS』

『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKEN NEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。



『東京文化財研究所概要』は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。令和6年度の概要はA4判37ページ。

『TOBUNKEN NEWS』は当研究所の業務について広く知っていただくため、各部・センターの調査研究活動をいくつかピックアップして紹介するとともに、文化財保存に関するコラム等を掲載している。A5判。令和6年度はNo.81（12月刊、14ページ）を刊行した。





『和泉市久保惣記念美術館・東京文化財研究所共同研究資料 1 重要文化財 絹本着色 「山崎架橋図」 和泉市久保惣記念美術館蔵』

和泉市久保惣記念美術館との共同研究として実施した「山崎架橋図」の光学調査（高精細カラー画像、近赤外線画像、蛍光画像）の成果を紹介するリーフレットを作成し、同館の来訪者や研究機関等に配布した。2025年3月刊行、12ページ。
(①シ04の一環として刊行)

『皇居三の丸尚蔵館収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 巻十七・巻十八 光学調査報告書』

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館（当時）と共同で実施した、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻の光学調査のうち、巻十七・巻十八に関する報告書である。さまざまな光源での撮影や蛍光X線分析による材料や技法に関する調査結果のほか、作品解説、有職故実に関する論考を掲載した。2025年2月刊行、184ページ。
(④シ05の一環として刊行)

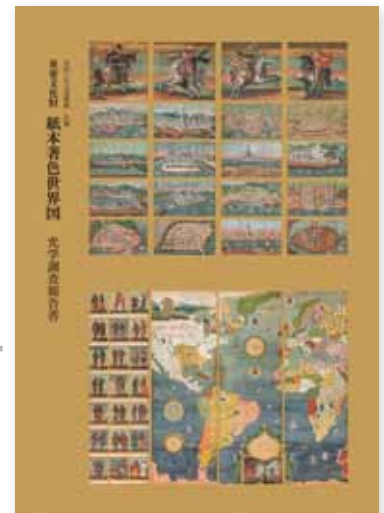


皇居三の丸尚蔵館収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 蛍光X線分析結果』

2004年から13年をかけて行われた「春日権現験記絵」の解体修理の前後に実施した彩色材料分析の結果をまとめた報告書。全20巻で4000箇所を上回る分析ポイントについて白、赤、黄、といった色ごとにその解析結果と特徴を明らかにした。2025年1月刊行、78ページ。
(④シ05の一環として刊行)

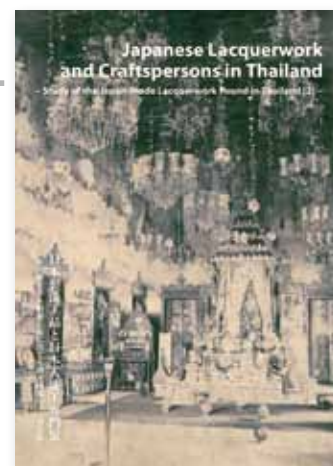
『皇居三の丸尚蔵館収蔵 重要文化財 紙本着色 世界図 光学調査報告書』

初期洋風画の優品として知られる「世界図」を中心に、関連する「泰西王侯図屏風」（長崎歴史文化博物館）、「泰西王侯騎馬図屏風」（サントリー美術館・神戸市立博物館）、「チュニス戦闘図・世界地図」（香雪美術館）などの作品についても総合的に実施した光学調査の報告書。2025年3月刊行、200ページ。
(④シ05の一環として刊行)



『Japanese Lacquerwork and Craftspersons in Thailand -Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand (2)』

幕末から明治期に日本で制作され、現在はタイに所在する漆工品に関するこれまでの調査研究の成果をまとめた報告書の第2冊目の英語版。本書では国立図書館、王室寺院、離宮などに所在する日本製漆工品のほか、タイに所在する日本製漆工品が記録された古写真、1910年代から第二次世界大戦終了までタイで活動した三木栄などの日本人漆工専門家についても紹介した。2025年3月刊行、160ページ。
(④シ05の一環として刊行)



『第17回公開学術講座「宮園節の魅力を探る」報告書』

令和6年度に東京文化財研究所にて開催した第17回公開学術講座「無形文化財と映像」の報告書。5本の発表、座談会の内容を文字化したほか、関連資料[園八節由緒書他]の解題・翻刻を収めた。2024年8月刊行、86ページ。なお同報告書は当研究所ウェブサイトでも公開した。
(①ム01の一環として刊行)



『Techniques that Support Japanese Performing Arts IV : Gagaku Fukimono』

2017 (平成29) 年より継続的に行っている、芸能を支える文化財保存技術の調査と並行して、その製作者と技術に焦点を当てて刊行しているパンフレット『日本の芸能を支える技 IV 雅楽管楽器』の英語版。2025年3月刊行、8ページ。
(①ム01の一環として刊行)



『Techniques that Support Japanese Performing Arts VI : Shamisen』

2017 (平成29) 年より継続的に行っている、芸能を支える文化財保存技術の調査と並行して、その製作者と技術に焦点を当てて刊行しているパンフレット『日本の芸能を支える技 VI 三味線』の英語版。2025年3月刊行、12ページ。
(①ム01の一環として刊行)





『文化財修復処置に関するワークショップーモジュラー・クリーニング・プログラムの利用について』

本書は、2023（令和5）年10月25～27日に国立アートリサーチセンターと東京文化財研究所による共催で行われた研修、「文化財修復処置に関するワークショップーモジュラー・クリーニング・プログラムの利用について」の報告書である。講師の保存修復専門家、クリス・スタヴロウディス氏による講義と実習の記録を掲載している。242ページ、2025年3月刊行。

『国宝高松塚古墳壁画修理報告書』

高松塚古墳壁画は、保存施設を利用した現地保存が続けられていたが、2005（平成17）年大規模なカビ等の生物被害等が発生したため、壁画・石室石材を古墳の外に取り出し修理をする方針が決定された。本書は、2006（平成18）年10月から始まる石室解体の事前処置および石室の解体・搬送時から2020（令和2）年3月までに行われてきた壁画の修理処置をまとめた報告書を下記の通り刊行した。2025年3月刊行、160ページ。



『公開研究会「航空資料の保存と活用」』

本書は2024（令和6）年1月23日に開催した公開研究会「航空資料の保存と活用」についてまとめ、関連事業や資料を報告するものである。東京文化財研究所保存科学研究センターが、平成16年度より継続してきた日本航空協会との共同研究「航空資料保存の研究」の成果を報告し、文化遺産としての航空資料の現状と課題についての事例を掲載している。日本語、2025年3月刊行、120ページ。

（②ホ06の一環として刊行）

『令和6年度世界遺産研究協議会 世界遺産の柔らかな輪郭ーバッファゾーンとワイドーセッティングー』

本冊子は、2024（令和6）年11月25日に世界遺産制度におけるバッファゾーンとワイドーセッティングの位置づけと運用上の取り組みや課題をテーマに開催した世界遺産研究協議会での講演及びパネルディスカッションの内容を書き起こしたものである。その他、文化庁による2024年の世界遺産委員会での審議等に関する報告を掲載している。2025年3月刊行、73ページ。

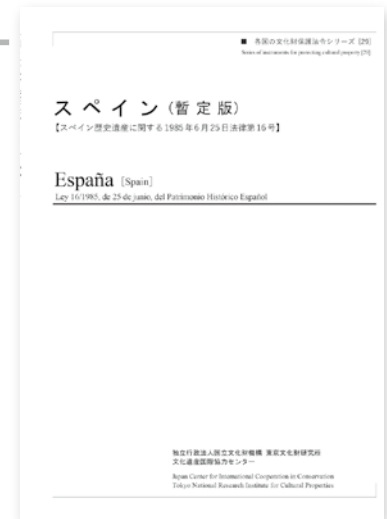
（③コ01の一環として刊行）



『各国の文化財保護法令シリーズ[29] スペイン（暫定版）』

スペインの文化財保護に関する法律等を対象とした法令集のうち、国の基幹法である「スペイン歴史遺産に関する1985年6月25日法律第16号」のみを翻訳し、先行して刊行した。日本語及びスペイン語、2025年3月刊行、76ページ。

(③コ01の一環として刊行)



『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2022 and 2023 -』

本報告書は、2022（令和4）年～2023（令和5）年にかけてカンボジア王国アプサラ機構と東京文化財研究所の協働により実施した、「カンボジア・アンコール遺跡群・タネイ寺院遺跡の保存と持続的発展のための技術協力事業」の概要と成果をまとめたものである。英語、2025年3月刊行、180ページ。

(③コ02の一環として刊行)

『大陸部東南アジアの古代木造建築を考える』

本書籍は、2017（平成29）年～2020（令和2）年に計4回開催した連続シンポジウムでの報告をもとに、大陸部東南アジアをフィールドに失われた古代建築の解明と古建築の保存に取り組んできた専門家達による木造建築研究成果の集大成として刊行した。2025年3月刊行、B5判、233ページ、図版16ページ。鹿島出版会、本体価格3,500円（税別）。ISBN978-4-306-08574-9 C3052

(③コ02の一環として刊行)

『旧機那サフラン酒製造本舗土蔵 鏝絵の保存修復に関する研究
—令和6（2024）年度 スタッコ装飾及び塑像に関する研究成果報告書』

令和6（2024）年9月から10月にかけて新潟県長岡市所在の旧機那サフラン酒製造本舗土蔵にて実施した鏝絵の保存修復に係る調査研究についてまとめた報告書。無機修復材料を用いた鏝絵の補強方法や、欠損箇所への補形方法について収録したものである。2025年3月刊行、55ページ。

(③コ03の一環として刊行)

東文研 総合検索 (④シ05の一部として実施)

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、30件のデータベース、約180万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。www.tobunken.go.jp/archives/

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)^(ホ08)

研究組織 犬塚将英、秋山純子、芳賀文絵、水谷悦子、柘植奈穂(以上、保存科学研究センター)、千葉毅、由井和子(以上、保存科学研究センター併任、文化財防災センター)

- 目 的**
- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
 - 2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

成 果

- ・第4回博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)を実施した(7月8～12日、受講者24人)。
- ・令和13年度より保存環境に重きを置いた基礎的な内容を文化財活用センターが「基礎コース」として行い、東京文化財研究所では、「上級コース」としてこれまで博物館・美術館等保存担当学芸員研修を受講されてきた方々や同等の経験を有している方を対象に実施した。
- ・研修内容は次のとおりである。文化財修理原論、文化財の科学調査、空気質(空気質について/空気汚染の文化財への影響/空気質の換気の考え方)、保管環境に関する理論と実践(空調)、文化財IPM概論・実習、修復材料の種類と特性、屋外資料の劣化と保存、近代化遺産の保護、多様な文化財の保存と修復(文化財レスキューについて/一時保管施設の環境管理/博物館現場で日常的に実践できる文化財防災)、博物館の防災、民具の保存と修復、大量文書の保存・対策、紙本作品等の保存と修復、写真の保存・管理。
- ・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、受講生の本研修に対する満足度は100%であった。



研修の様子

文化財の収集・保管に関する指導助言^(シ)

担 当 江村知子、二神葉子、橘川英規、米沢玲、城野誠治、吉田暁子、田代裕一郎、月村紀乃(以上、文化財情報資料部)、小林公治(特任研究員)

- 目 的** これまでに蓄積された文化財に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、文化財保存の質的向上に貢献する。

成 果

- 助言の依頼は国(2件)、地方自治体(10件)、関連機関(9件)、海外(17件)の合計38件で、以下の通りである。
- ・文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助

言

- 文化庁の非常勤調査員として美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業に関する助言
- 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員として博物館運営に関する検討での助言、及び同館資料収集委員会委員として作品収蔵に関する検討での助言
- 江戸東京博物館資料収蔵委員として作品収蔵に関する検討での助言

以下、文化財調査・保管等に関する協力・助言

愛知県美術館、和泉市久保惣記念美術館、絵金蔵、神奈川県立歴史博物館、京都府教育委員会、佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県立博物館、サントリー美術館、泉屋博

古館東京、仙台市教育委員会、徳川美術館、中之島香雪美術館、日本二十六聖人記念館、野崎家塩業歴史館、北海道立北方民族博物館、大和文華館、和歌山県立博物館、温州市洞頭東海貝彫芸術博物館・温州博物館・浙江省博物館（中国）、韓国国立中央博物館・リウム美術館・駐日韓国大使館韓国文化院（韓国）、タイ国立図書館、パウアー財団東洋美術館・リートベルク美術館（スイス）、ライブツィヒ・グラッシー民族博物館（ドイツ）、セインスベリー視覚芸術センター（イギリス）、ポズナン国立美術館（ポーランド）、Basílica de Santa María de Guadalupe 博物館・Casa de Alfeñique 博物館・José Luis Bello y González 博物館（メキシコ）、Madeira 自治地域 Direção Regional da Cultura（ポルトガル）、サンパウロ大学考古民族学博物館（ブラジル）

無形文化遺産部

2-(5)-②-1)

無形文化遺産に関する助言^(ム)

担 当 石村智、久保田裕道、前原恵美、今石みぎわ、後藤知美、鎌田紗弓（以上、無形文化遺産部）

目 的 これまでに蓄積された無形文化遺産に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、無形文化遺産の継承に資する。

成 果

○国への助言

- 文部科学省への教科用図書検定調査審議会への助言 1 件
- 文化庁の調査員としての助言 3 件
- 文化庁への各種委員会への助言 4 件
- 文化庁模写模造事業に関する指導助言 1 件
- 文化庁への審査に関する助言 1 件
- 独立行政法人国際交流基金への助言 1 件

○地方自治体への助言

- 山形県への文化財保護審議委員としての助言 1 件
- 山形県立博物館の運営協議会委員としての助言 1 件
- 千葉県への博物館資料審査委員及び記録映像作成検討委員会委員としての助言 2 件
- 東京都のアーツカウンスル東京への助言 1 件
- 東京都民俗芸能大会実行委員としての助言 1 件
- 神奈川県への民俗芸能記録保存調査現地調査委員会専門調査委員としての助言 1 件
- 神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会委員としての助言 1 件
- 山梨県への文化財保護審議会委員としての助言 1 件
- 静岡県ふじのくに無形民俗文化財保存継承アドバイザーとしての助言 1 件
- 島根県への古代文化センターへの助言 2 件
- 高知県碇石茶製造技術調査委員としての助言 1 件
- 沖縄県への武術的身体表現を伴う行事調査に関する助言 1 件
- 沖縄県における文化芸術の振興にかかる多様な財源確保可能性等検討委員会への助言 1 件

- 上尾市文化財保護審議会委員としての助言 1 件
- 柏市への篠籠田の獅子舞調査検討委員会委員としての助言 1 件
- 武蔵野市文化財保護委員としての助言 1 件
- 甲府市への天津司舞調査報告書作成事業に関する助言 1 件
- 箱根町への箱根湯立獅子舞伝承・活用等事業に係る整備委員会委員としての助言 1 件
- 静岡市文化財保護審議会委員としての助言 1 件
- 岐阜県岐阜市・関市の鶺鴒習俗総合調査委員としての助言 1 件
- 京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議委員としての助言 1 件

○関連団体への助言

- 公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言 1 件
- 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への伝統文化ポーラ賞選考委員会選考委員としての助言 1 件
- 公益財団法人久留米絊技術保存会の「重要無形文化財久留米絊原材料アラソウ製作実験に関する調査に関する助言 1 件
- 一般財団法人 沖縄美ら島財団令和 6 年度 被災染織品復元製作 ワーキング会議に関する助言 1 件
- 一般社団法人技の環の評議員としての助言 1 件
- 一般財団法人日本青年館への全国民俗芸能大会企画委員としての助言 1 件
- 文化ファッション研究機構運営委員としての指導助言 1 件

文化財の虫菌害に関する調査・助言^(ホ)

担 当 佐藤嘉則、島田潤、轟丈瑠、犬塚将英(以上、保存科学研究センター)

目 的 これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。

成 果

これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

主な虫菌害問題の相談元は、例年の通り、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。対応件数は合計で59件あり、電話、電子メール、WEB会議などで対応し、必要に応じて現地での調査を行い、問題解決に努めた。

相談内容は、文化財を加害した虫菌の種の同定相談やニューハクシミの同定、文化財IPMの基本事項など一般的な相談案件が主であった。その他に、主要なガス燻蒸剤であるエキヒュームS販売停止に関する相談が多く、WEB会議や解説文、講演・講習会などを通して対応策についての指導助言を行った。

文化財の虫菌害を未然に防ぐための啓発・普及活動の一環で、生物被害に関する研修講師を17件担当した。

その際に生物科学研究室で開設した「文化財害虫検索サイト」の公開を開始し、啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

文化財の修復及び整備に関する調査・助言^(ホ)

担 当 朽津信明、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、芳賀文絵(以上、保存科学研究センター)、千葉毅(保存科学研究センター併任、文化財防災センター)、加藤雅人、金井健(以上、文化遺産国際協力センター)

目 的 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。

成 果

○令和6年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝・特別史跡臼杵磨崖仏、国宝延暦寺根本中堂、国宝キトラ古墳壁画、国宝通潤橋、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡フゴッペ洞窟、史跡高島炭坑跡、史跡津田古墳群、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡吉利支丹墓碑、史跡屋形古墳群、史跡田主丸古墳群、史跡吉見百六、史跡築瀬二子塚古墳、史跡出島和蘭商館跡、史跡薬師堂石仏、史跡竹田城跡、史跡清戸迫横穴、史跡下藤キリシタン墓地、史跡津山城跡、史跡和歌山城、史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡、史跡曾谷貝塚、史跡竹原古墳、重要文化財鳳来寺観音堂、重要文化財浅間神社拝殿、重要文化財祇園橋、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財厳島神社多宝塔板絵、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財琉球芸術調査写真〈鎌倉芳太郎撮影〉、重要文化財法隆寺金堂壁画、重要文化財樵夫蒔絵硯箱、重要文化財厳島神社五重塔、重要文化財羅漢寺石仏、重要文化財旧前田家本邸、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物龍河洞、天然記念物アケボノゾウ化



能登半島地震被災資料の一時保管施設

石多賀標本、熊本県内被災古墳、重要文化財近代教科書関係資料、重要文化財旧長崎英国領事館、重要文化財旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設、重要文化財常願寺川砂防施設、史跡萩反射炉、長崎市南山手重要伝統的建造物群保存地区、長崎市東山手重要伝統的建造物群保存地区、横手市増田重要伝統的建造物群保存地区

○地方自治体指定その他の文化財の保存や修復に関する指導助言は次のとおりである。

大分県指定史跡臼杵城跡、首里城、川崎市市民ミュージ

アム、京都府指定木造彩色宝珠台（海住山寺）、日立市指定史跡十王前横穴群、新宮市指定有形民俗文化財神倉神社の手水鉢、香川県指定有形文化財勝造寺層塔、登録有形文化財男木島灯台、東京都第5福竜丸、航空協会航空関連紙資料、知覧特攻平和会館、滋賀県平和祈念館、登

録有形文化財機那サフラン酒製造本舗土蔵、小田原市二宮尊徳関連史跡、能登半島地震被災資料

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

文化財の材質・構造に関する指導・助言^(ホ)

担 当 犬塚将英、西田典由、紀芝蓮、寺島海（以上、保存科学研究センター）、早川泰弘（特任研究員）

目 的 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。

成 果

令和6年度は、蛍光X線分析・X線回折分析・ハイパースペクトルカメラ等による材質調査、及びX線透過撮影・ファイバースコープによる構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

○材質調査

建造物金属部材（平等院、4・7・11月）、絵馬・神楽面（古河歴史博物館、5月）、日本画（建長寺、6月）、絵馬（浅草寺、7月）、漆工品（沖縄美ら島財団、7月）、刀剣（東京国立博物館、7月）、琉球絵画（沖縄県、8・10月）、歴史資料（日立製作所、8～11月）、仏像（熱海市、9月）、金工品・建造物彩色（中尊寺、9・10月）、漆工品（個人蔵、10月）、近代布製品（国際文化財株式会社、10月）、絵画等（徳島県立近代美術館、11月）、日本画・画材（寺島蔵人邸、11月）、仏画（安国寺、12月）、考古資料（明治大

学博物館、12月）、建築部材（文化財建造物保存技術協会、12月）、建築部材（喜多方市、1月）

○構造調査

歴史資料（播磨町郷土資料館、10月）、仏像（熱海市、9月）、漆工品（個人蔵、10月）



仏像の構造調査

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言^(ホ)

担 当 秋山純子、水谷悦子、犬塚将英（以上、保存科学研究センター）

目 的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成 果

文化財活用センターと協力しながら、当研究所では国公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、相談内容に応じて援助・助言を行った。特に空気質に関する相談が多く寄せられ、その都度文化財活用センターと連携しながら対応した。

令和6年能登半島地震による文化財救出支援活動に伴って、2か所の緊急保管場所の保存環境に関して調査を実施し、より良い保存環境構築のための助言を行うこと

ができた。

建物及び空調設備、運用についての「博物館・美術館施設の温湿度管理に関するアンケート」を全国1,400館に対して実施し、536館からの回答を得た。アンケートには、空調機を導入できていない館が多くあり、保存環境をどのように構築したらよいか、といった回答が複数館に見られた。

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進^(ホ)

研究組織 朽津信明、犬塚将英、早川典子、佐藤嘉則（以上、保存科学研究センター）、安倍雅史、前川佳文（以上、文化遺産国際協力センター）、一宮八重（東京藝術大学）

目 的 連携大学院教育の推進
連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
・東京藝術大学大学院：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

成 果

年度実績と成果。

(1) 令和6年度開講した授業及び担当教員、受講者数
保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位
朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則 14人

修復計画論 （前期、木曜1限） 2単位
朽津信明・安倍雅史・前川佳文 12人（聴講1人）

修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位
早川典子 12人

保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位
犬塚将英・佐藤嘉則 12人

文化財保存学演習
講師：犬塚将英「搬型分析装置を用いた文化財の材質調査に関する実習」
日時：7月16日（火）13～17時、15人

(2) 学生指導 修士課程1人（修士課程修了）
修士課程入試 受験者1人 合格者0人

(3) 成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力
教員会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、
修士学位審査 主査1件（早川典子）
修士学位審査 副査1件（佐藤嘉則）



文化財保存学演習風景

文化財防災センター事業

研究組織 犬塚将英（保存科学研究センター）、後藤知美、千葉毅、由井和子（以上、文化財防災センター）、友田正彦（副所長）、秋山純子、西田典由、芳賀文絵、水谷悦子（以上、保存科学研究センター）、二神葉子、小山田智寛（以上、文化財情報資料部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、金井健（文化遺産国際協力センター）

目 的 2020（令和2）年10月に国立文化財機構本部に設置された文化財防災センターの東日本ブロック中核施設として、地域防災の構築、災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発、普及啓発、文化財防災に関する情報の収集と活用を進める。災害時には、文化庁及び関連団体と連携し、都道府県文化財保護行政主管課を中心とした地域ネットワークによる被災文化財対応を支援する。

成 果

2024（令和6）年1月1日に発生した能登半島地震を受け、国立文化財機構は文化庁が実施する令和6年度能登半島地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）、被災建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）の事業実施を受託した。これらの事業は文化財防災センターを事務局として、同年2月13日に開始された。

本事業メンバーは、文化財レスキュー事業において現地駐在員として、レスキュー活動の調整等の業務を行うとともに、以下に示すように年度当初に計画した通常業務も同時に遂行した。

1. 地域防災体制の構築

東京文化財研究所では、文化財防災センター事業の枠組み内で、北海道・東北ブロックの地域防災体制の状況把握及び防災ネットワークの構築の推進を目的とし、道県文化財保護行政主管課・道県内の博物館等施設へのヒアリングを継続的に実施している。

令和6年度は、域内の全道県の文化財保護行政主管課あるいは道県立博物館施設と、各道県内における文化財防災体制の強化に向けて意見交換や情報共有を行った。あわせて道県から依頼を受けた際には、文化財防災に関わる事業にて講演や発表を行った。今年度については、北海道博物館大会でのポスター発表、山形県の文化財日常管理・防災研修会、「福島県での文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議にて、近年発生した自然災害による文化財被害に関する発表を行った。

2024（令和6）年7月下旬の大雨によって山形県内の文化財に被害が発生した。山形県新庄市内の文化財収蔵施設では、大雨によって地下スペースが浸水し、そこに収蔵されていた民俗資料が被害を受けた。所内の研究員等は、山形県から依頼を受け、対応にあたった。具体的には、県や山形文化遺産防災ネットワークと連携し、資料への応急処置からその後の環境調査に協力し、対応方法や体制の確立への助言や技術支援を行った。

2. 災害時ガイドライン等の整備

令和6年度は引き続き、ガイドライン等策定の情報収集のため、全国の無形の文化財の中から災害で被害を受けたものを対象に、被害状況や現状を確認する調査を実施した。さらに、2024（令和6）年1月1日に発生した能登半島地震を受け、石川県内の無形の文化財に生じた影響や被害を把握するための現状確認調査を実施するため、関係機関および関係者との協議を行った。来年度以降、調査体制を立ち上げ、石川県および能登地域の市町村文化財保護行政主管課等の協力を得て調査を実施していく予定である。

また、愛知県文化芸術課から依頼を受け、あいち山車まつり日本一協議会研修会にて「無形民俗文化財の防災を考える」と題しこれまでの調査成果を踏まえた発表を行い、愛知県内の山・鉾・屋台行事の伝承者との意見交換を実施した。

3. レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

文化財の保存に用いられる保存箱には湿度に対する緩和効果や、火災時の防災効果が期待されるが、火災等の



保存箱による温湿度緩和効果の調査

災害時を想定した状況における温度、湿度等の緩和効果に関する情報は少ない。本研究では火災時の収蔵庫内の温度上昇や消火活動による湿度上昇のうち比較的穏やかな条件について実験室内で模擬的に再現し、保存箱による温湿度緩和効果の調査を行った。

4. 普及啓発

11月6日に、文化財防災センターが主催し、「被災文化財等の殺虫処理講習会」が、のと里山里海ミュージアムにて開催された。この講習会は、日本液炭株式会社と三菱ガス化学株式会社から文化財防災センターに殺虫処理機材等を寄贈されたことから、これらの殺虫処理機材を有効活用するために、石川県の文化財関係者を対象に開催された講習会である。講習会では、一時保管施設で注意しなければならない文化財害虫に関する情報、害虫標本の観察や調査のための簡易トラップの作成、殺虫処理手法について、東京文化財研究所から講義が行われた。

文化財防災センターにより、阪神・淡路大震災30年シンポジウム「文化財レスキュー、広がりと深化の30年」が開催された。

日時：2025(令和7)年1月19日 13:00～16:30

会場：東京国立博物館 平成館大講堂

主催：文化財防災センター

プログラム：

開会挨拶

趣旨説明：高妻洋成(文化財防災センター センター長)

講演①：三輪嘉六氏

(NPO法人 文化財保存支援機構理事長、元九州国立博物館長)

講演②：青柳正規氏(多摩美術大学理事長、元文化庁長官、東京大学名誉教授)

対談：三輪嘉六氏、青柳正規氏、進行：建石徹(文化財防災センター 副センター長)

閉会挨拶

5. 文化財防災に関する情報の収集と活用

熊本県で開催された「ぼうさいこくたい2024」及び文化財保存修復学会等の文化財関連学会やポストエキキュームSフォーラム等に参加し、関係者へのヒアリングをはじめ、日本における防災と災害復興に関する情報収集を行うとともに、一般防災との連携や協同の可能性を探った。

6. その他、東京文化財研究所との連携事業

昨年度に受託実施した「令和5年度緊急的文化遺産保

護国際貢献事業(専門家交流)」に引き続き、トルコ共和国との文化遺産防災にかかる国際交流を継続、深化させるため、文化財防災センターが文化庁より受託した「令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業 トルコにおける文化遺産防災体制向上のための拠点交流事業」において、東京文化財研究所と連携し実施した。

発表

- ・後藤知美：「都道府県内の連携体制強化で目指す文化財防災力の向上 ―文化財防災センターの取組を中心に」第62回北海道博物館大会 24.7.11
- ・後藤知美：「文化財の防災・防犯上の留意点」山形県文化財日常管理・防災研修会 24.11.24
- ・後藤知美：「美術工芸品の防災・防犯上の注意点について」「福島県での文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議 25.2.25
- ・後藤知美：「無形民俗文化財の防災を考える」あいち山車まつり日本一協議会研修会 24.6.22

刊行物

- ・『令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業 トルコにおける文化遺産防災体制向上のための拠点交流事業 成果報告書』25.3

3. 外部資金等による研究活動

1. 科学研究費助成事業	76
2. 受託調査研究・補助事業・外部機関との共同研究 及び外部資金による研究	114

1. 科学研究費助成事業

研究種目	研究課題	研究代表者	頁
基盤研究（A）	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から	小林 公治	76
	ディルムン文明形成に関する考古学的研究	安倍 雅史	77
基盤研究（B）	酒呑童子絵巻の研究	江村 知子	78
	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川 佳文	79
	能管の「製作技術」と「原材料の安定的な確保」に関する研究	前原 恵美	80
	ブータンにおける伝統的石造民家の建築的特徴の解明と文化遺産保護手法への応用	友田 正彦	81
	近世日本における彩色文化史の解明を目的とした多色摺木版画の色材研究	大和 あすか	82
	日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究：三つのケーススタディをもとに	橋川 英規	83
研究成果公開促進費 （データベース）	沖縄久高島イザイホー映像記録データベース	石村 智	84
挑戦的研究（萌芽）	ポストコンフリクト国における文化多様性と平和構築実現のための文化遺産研究	石村 智	85
	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	浅田 なつみ	86
基盤研究（C）	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	金井 健	87
	ブータンにおける祭礼芸能の変容実態とその保護に関する研究	久保田 裕道	88
	博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発	古田嶋 智子	89
	占領期の文化財保護に関する研究—GHQ の博物館概念と博物施策の展開—	境野 飛鳥	90
	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	島田 潤	91
	染織技術史に関する研究—原材料の国産化に焦点をあてて—	菊池 理予	92
	古典的膠及び墨に関する文化財修復材料及び書画制作材料としての材料学的体系化	宇高 健太郎	93
	磨崖仏で過去に行われた保存対策の効果に関する定量的研究	朽津 信明	94
	一般室を使用した文化財収蔵施設運用法に関する研究	芳賀 文絵	95
	行政映画とその関連資料の整理と管理の支援	山永 尚美	96
	鎌倉時代仏教彫刻・絵画の彩色に関する基礎的調査研究	米沢 玲	97
	織豊時代における公武の知的交流についての研究—本草学から絵事へ	小野 真由美	98
	樹木を素材とする編組品に関する民俗学的基礎研究—広葉樹ヘギ材の籠を中心に	今石 みぎわ	99
	染織品等を対象とした赤外線画像の有効性に関する研究	秋山 純子	100
	漆芸品に与えるクリーニング溶液の影響に関する研究	倉島 玲央	101
	中小規模の博物館で実践可能な文化財防災—地震・水害対策を中心として—	千葉 毅	102
	メタゲノム解析を用いた浮遊菌測定による博物館のゾーニングに関する研究	間瀬 創	103
	クフ王第2の船の実物資料を用いた造船から埋納過程の復元研究	山田 綾乃	104
	初期合成染料の導入と染色法に関する研究	片渕 奈美香	105
若手研究	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高 健太郎	106
	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷 悦子	107
	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	片渕 奈美香	108
	日本音楽合奏における「間」：多様な拍の伸縮をめぐって	鎌田 紗弓	109
	洪水常襲地における水害経験の地域史と災害文化形成プロセスの解明	後藤 知美	110
	協働的な博物館活動に関する研究—オランダ「共有の文化遺産」概念の検証	邱 君妮	111
	日本における土地利用計画に準拠した史跡環境の評価および保護に向けた研究	松浦 一之介	112
	瀟湘八景の受容研究 絵画・建築・庭園	武 瀟瀟	113

2. 受託調査研究・補助事業・外部機関との共同研究及び外部資金による研究

研究課題	依頼元	研究代表者	頁
(1) 受託調査研究			
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	友田 正彦	114
デジタル技術を用いたバーレーンおよび湾岸諸国における文化遺産の記録・活用に関する拠点交流事業	文化庁	安倍 雅史	115
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	犬塚 将英	116
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	犬塚 将英	117
ワット・ラーチャプラディット拝殿漆扉の現地保存に関する調査	タイ ワット・ラーチャプラディット・サディットマハシマラム	二神 葉子	118
墨田区 No.105 遺跡から出土した近代布製品染料・繊維分析	国際文化財株式会社	犬塚 将英	119
旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鏝絵保存修復調査	長岡市	前川 佳文	120
(2) 補助事業			
美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業	文化庁	犬塚 将英	121
(3) 共同研究			
Getty・リサーチ・ポータルへのデジタル資料の提供・公開	The J. Paul Getty Trust	橘川 英規	122
(4) 助成金一覧			
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	公益財団法人住友財団	前川 佳文	123
無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究	公益財団法人三菱財団	今石 みぎわ	124
韓国絵画調査写真（東京文化財研究所所蔵）の研究	国外所在文化遺産財団（韓国）	田代 裕一郎	125
歴史的建造物のデジタル 3 次元計測に関する研究	公益財団法人 KDDI 財団	浅田 なつみ	126
鳥居など伝統的な木造外構の生物劣化の非破壊診断技術の確立	公益財団法人松井角平記念財団	藤井 義久	127
楽と舞：雅楽実践の身体コミュニケーション	公益財団法人三島海雲記念財団	鎌田 紗弓	128
フランス領カンボジア・ベトナムにおける遺跡保存のための「保護区域」概念の生成と展開	公益財団法人村田学術振興・教育財団	黒岩 千尋	129

3. 成果公開

研究課題	
事業の一部として実施した研究集会・講座等	130
2024 年度 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会	
第34回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「学校教育と文化遺産」	
第35回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護と奈良文書－国際規範としての受容と応用－」	
令和6年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「〈モニュメント〉はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」	
受託研究の一環として刊行された刊行物	132
『東京文化財研究所所蔵 韓国絵画調査資料 資料集』	
『Report on the 33rd Seminar “International Trends in Safeguarding Cultural Heritage”』	
『第34 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 学校教育と文化遺産 報告書』	
『Report on the 35th Seminar “30 years of the Nara Document in the Global Context of Heritage Conservation”』	
『Report on the JCIC-Heritage 2023 Symposium “50 Years of World Cultural Heritage: Past and Future of Japan’s Contribution”』	
『文化遺産国際協力コンソーシアム令和 6 年度シンポジウム「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興 報告書』	
『文化遺産国際協力コンソーシアム令和 6 年度国際協力調査 韓国の遺産保護に係る制度改革および国際協力体制に関する調査報告書』	

アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から

研究組織 小林公治（特任研究員）、倉島玲央（保存科学研究センター）、吉田邦夫（東京大学総合研究博物館）、能城修一、本多貴之、神谷嘉美（以上、明治大学）、猪熊兼樹（東京国立博物館）、鳥越俊行（奈良国立博物館）、末兼俊彦（京都国立博物館）、高田知仁（研究協力者、サイアム大学）

目 的 唐の螺鈿をアジア螺鈿の始発点と位置付け、それが東・東南・南アジアなどにいつどのように伝わり、それぞれの地域でどのような発展を遂げたのか各時代地域を対象として具体的に検証する。唐代螺鈿の系譜や形成過程を探るため、西・中央アジアや殷周代の螺鈿との関係性についても広く検討したい。本研究では代表者・分担者・協力者らが行う個別研究を総合化して実証的にアジア螺鈿史全体像の構築と各地各時代それぞれの文化交流実態を明らかにしていく。

成 果

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症問題がようやく落ち着いたものの、極端な円安等による国内外旅費の高騰といった問題が影響するなかで、国内調査に加えて検討課題となっていた諸地域を対象に積極的な海外調査も実施した。

また、昨年度日本国内で調査を行った海外所在の南蛮漆器類に対し、その調査成果の一部を英語論文として公表できたことは、当該研究の成果を国際的に共有可能とできたという点で高い意義を持てたと考えている。

1. 国内調査・協議ほか

- 5月7・8日、九州国立博物館にて修理中の長崎日本二十六聖人記念館所蔵、通称「ザビエルの日傘」について漆塗膜調査。同月10日、佐賀県立博物館にて高台寺蒔絵類調査。同月16日、東京国立博物館にて長崎奉行所伝来象牙製磔刑キリスト像調査。6月20日、泉屋博古館東京にて同館所蔵漆器調査。同月25日、九州国立博物館にて上記「ザビエルの日傘」の樹種調査。翌26日、長崎日本二十六聖人記念館にて修理協議および市内歴史景観巡検調査実施。7月22日、東京国立博物館にて同館所蔵螺鈿漆器類調査。9月26日九州国立博物館にて上記「ザビエルの日傘」の光学調査。翌27日、長崎市内歴史景観巡検調査、および日本二十六聖人記念館にて研究協議。12月5日、都内古美術商にて螺鈿漆器調査。

2. 国外調査・協議

- 5月18～24日、中国マカオ市内マカオ博物館ほか各博物館・聖パウロ天主堂ほかキリスト教施設等の調査。7月10～15日、タイ国立図書館所蔵貝多羅葉經典表板調査および同經典制作実演調査ほか。引き続き、同月17～18日、台北市内寄暢園にて同所蔵螺鈿漆器調査、新平市内歴史遺跡巡検、台湾国立歴史博物館ほか展示調査。8月3～14日、中国浙江省温州東海貝彫芸術博物館にて所蔵螺鈿漆器調査・研究協議、また「中日螺鈿漆器研討会」参席・発表。温州市内寺院調査、温州博物館所蔵漆器調査。舟山市内歴史景観巡検調査、浙江省博物館所蔵品調査。上海博物館にて展示調査ほか。9月6～16日、

メキシコ、メキシコシティ市内にて国立人類学博物館ほか博物館・美術館展示調査、教会巡検および古美術商所蔵品調査、グアダルーペ教会博物館所蔵品調査、テオティワカン遺跡ほか調査。プエブロ市内ホセリス・ベジョイ・ゴンザレス博物館ほか所蔵品調査、タバスコ州内パレンケ遺跡ほか調査。国際交流基金メキシコ日本文化センターにて意見交換。10月5～21日、ポルトガルにてリスボン市内古美術商所蔵品調査、コインブラ市内博物館および教会にて展示調査。翌年1月調査に向けた研究協議。ポルトガル市内にて個人所蔵品調査・研究協議。マデライ島フンシャルおよびポルトサント博物館にて所蔵南蛮漆器調査および1月調査に向けた研究協議。11月1～10日、ベトナムにてハノイ市内ベトナム国立歴史博物館・教会・寺院、ニンビン省・ナムディン省内各教会、フエ市内王宮・グエン朝帝廟、ホーチミン市内、市歴史博物館、中国人会館ほか調査。

- 1月17～28日、ポルトガル、コインブラ市内コインブラ大学病院所蔵品CT・樹種調査、市内教会所蔵螺鈿漆器調査、ポルト市内個人所蔵南蛮漆器樹種調査および研究協議、マデライ島フンシャルにて州政府所蔵南蛮漆器CT・樹種調査。3月13～24日、ロンドン市内にて大英博物館ほか所蔵品調査、各博物館美術館等展示調査。

3. 調査研究成果の公開と、研究情報の国際発信

論 文

- KOBAYASHI Kojiほか：Scientific Analysis on Two Christian Lectern in Portugal: A Wooden Substrate Investigation.『保存科学』64 pp.43-60 25.3

発 表

- 鳥越俊行・小林公治ほか：「ポルトガルで伝えられた松樹IHS蒔絵螺鈿書見台のCT調査」第46回文化財保存修復学会大会 24.6.22
- 小林公治：「从16世紀末到17世紀前半 葡萄牙人在澳门制作的基督教螺鈿漆器」2024中日螺鈿漆器研讨会 24.8.8

ディルムン文明形成に関する考古学的研究

研究組織 安倍雅史、長尾琢磨（以上、文化遺産国際協力センター）、庄田慎矢、笠原朋与（以上、奈良文化財研究所）、岡崎健治（鳥取大学）、佐々木蘭貞（帝京大学）、鈴木崇司（慶北大学）、神野健太（慶應義塾大学）

目 的 ディルムンは、前2千年紀前半に、メソポタミアとオマーン半島、インダスを結ぶ海上交易を独占し、繁栄した王国である。現在、ペルシア湾の島国バーレーンが、ディルムンの中心地に比定されている。本研究では、バーレーンのアアリ古墳群西に現存するディルムンの最初期の王墓の発掘調査と、ディルムンの交易船などを対象にした水中考古学調査を実施することによって、ディルムンにおける王権の発達、そして、それを支えたであろう海上交易の実態を明らかにし、ディルムン文明形成の具体的な様相を描き出すことである。

成 果

1月、2月にバーレーンに考古学調査団を派遣し、アアリ古墳群西の発掘調査と水中考古学調査を実施した。

アアリ古墳群西では、ドローンを用いたUAV測量を実施し、古墳群全体の3次元モデルとオルソ画像またDigital Elevation Mapを作成した。

また、ディルムンの初期の王墓の一基であり、1980年代にバーレーン隊によって発掘されたR2号墓のクリーニングと試掘また3次元計測を実施した。

また、今回は、アアリ古墳群西における第1次調査であったため、練習も兼ねて、中規模古墳（N1号墓）と小規模古墳（N2号墓）を1基ずつ選定して、発掘を行った。

来年度以降、ディルムンの初期の王墓であり未発掘であるR4号墓とR5号墓の発掘に本格的にとりかかる予定である。

論 文

- Masashi ABEほか：「Early Dilmun Burial Mounds in Bahrain: the Wādī al-Sail Archaeological Project and the Dilmun Mapping Project」『Arabian Humanities』2024/19 24.8

発 表

- 安倍雅史ほか：『古代オリエントガイドブック』新泉社、24.9
- 安倍雅史：「メソポタミアとインダスをむすんだ海洋の王国ディルムン」『古代オリエントガイドブック』新泉社 pp. 84-87 24.9

酒呑童子絵巻の研究

研究組織 江村知子、並木誠士(京都工芸繊維大学)、小林健二(国文学研究資料館)

目 的 天明6年(1786)に住吉廣行によって描かれた「酒呑童子絵巻」(ライブツィヒ・グラッシー民族博物館蔵、以下ライブツィヒ本)は、徳川將軍家から紀州徳川家に興入れした種姫の婚礼調度であったと考えられ、当時の最高水準の絵画とみなされるが、ごく最近までその存在が知られていなかった。この作品は古典を学びながら、新たにその前半生譚を付け加え、壮大な物語として作られたものであり、本作品を研究することにより、狩野派・住吉派といった流派を超えた絵画表現の広がりや変遷、住吉派による絵巻物制作の実態、酒呑童子物語の受容と改変、詞書の変遷、婚礼調度における絵画の役割など、多くの問題を明らかにすることができる。本研究ではこの作品の高精細画像を撮影し、研究者や鑑賞者が任意の場所を自由に見られるようなデジタルコンテンツを制作し、研究を効果的に進めるとともに、口頭発表や論文にて成果公開を行う。

成 果

最終年にあたる令和6年度は、根津美術館、兵庫県立歴史博物館などの日本国内の美術館・博物館と、大英博物館、チェスター・ビーティ図書館、ハーバード大学博物館など海外の作品所蔵館にて酒呑童子絵巻や関連資料の調査を実施した。

昨年度までの研究でライブツィヒ本の詞書筆者が成嶋和鼎(1720~1808)・峰雄(1748~1815)父子であることが判明したことを受けて、ライブツィヒ本の制作背景を解明し、江戸時代を通じて酒呑童子の物語がどのように変遷し、展開しているかを分析した。また大名家の婚礼調度として酒呑童子絵巻が制作された理由や絵巻の受容について諸本の伝来状況もふまえて検証した。

また酒呑童子の物語は、文学、美術のみならず、能や古浄瑠璃、歌舞伎などの題材ともなり、その表現も多様な展開を見た。一例としては酒呑童子絵巻の表現が能「大江山」の演出方法に影響を与えたことや、逆に謡曲「大江山」の詞章が絵巻の画中画に影響を及ぼしたことが明らかになった。この事例をふまえて能「大江山(替之型)」の特殊演出による上演を行い、映像記録を撮影した。本研究の成果は、酒呑童子絵巻の研究会で発表を行うとともに、次年度にサントリー美術館で開催予定の「酒呑童子ビギンズ展」(2025(令和7)年4月29日~6月15日)への協力という形でも、公表することができた。

今年度実施した調査は下記の通りである。

- 7月25日「伊吹童子」6巻(個人蔵)
- 8月9日 住吉弘尚「酒呑童子絵巻」8巻、伝狩野山楽「酒呑童子絵巻」3巻、根津美術館
- 9月10・11日「伊吹童子絵巻」3巻、「酒呑童子絵巻」1巻ほか、大英博物館
- 9月13日「大江山絵詞」チェスター・ビーティ図書館
- 9月27日「酒呑童子物語図屏風」六曲一隻、「酒呑童子絵巻」3巻ほか、兵庫県立歴史博物館

- 1月27日「大江山絵詞」4巻ほか、ハーバード大学博物館
- 2月6日伝狩野孝信「酒呑童子絵巻」3巻ほか、東京国立博物館

発 表

- 江村知子：「海を渡った日本美術—酒呑童子絵巻を中心に」石橋財団フォーラム アーティゾン美術館 12.13
- 小林健二：「酒呑童子物語の転生—ライブツィヒの新出絵巻をめぐる」伝承文学研究会 國學院大学 1.25
- 江村知子：「酒呑童子の魔力」令和6年度第11回文化財情報資料部研究会 2.25
- 並木誠士：「狩野派と酒呑童子絵巻」令和6年度第11回文化財情報資料部研究会 2.25
- 小林健二：「響き合う能と絵巻」令和6年度第11回文化財情報資料部研究会 2.25



大英博物館での調査(9月11日)



研究会風景(2月25日)

ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立

研究組織 前川佳文(文化遺産国際協力センター)、朽津信明(保存科学研究センター)

目 的 近年、ポンペイ遺跡に残る壁画は、主に19世紀以降、繰り返し行われてきた修復で使用された材料が原因となり様々な傷みが発生している。中でも、彩色層や漆喰層の補強を目的に塗布された補強材には基本的に合成樹脂などの有機修復材料が使われており、経年劣化に伴い発生する変色や、壁画が本来有する通気性能を低下させるなど、保存及び鑑賞するうえでの大きな妨げとなっている。本研究ではこの問題点に着目し、無機物を主体とする保存修復材料を用いた壁画の彩色層及び漆喰層の補強技法確立を目指す。

成 果

1. 無機修復材料を用いた彩色層及び漆喰層の補強実験
 - ・ポンペイ遺跡(イタリア)内に位置するアポロの家に描かれた壁画を対象に、前年度は過去に塗布された補強剤や汚れ等の付着物をクリーニングの工程で除去し、各種無機修復材料を用いた補強実験を実施した。これは、人工的に結晶被膜を形成することで彩色層及び漆喰層の補強を目的とするものである。
 - ・補強実験から約1年が経過したのち、科学的調査を取り入れながら実験箇所を検証した結果、結晶被膜が形成され補強の効果が確認された。これを受け、保存修復技法として広い面積を対象にした導入実験を実施した。その結果、実験時と同様の効果が確認され、また、当初の課題のひとつであった通気性能の回復も実現させた。これは、ポンペイ遺跡の壁画保存修復史において初となる試みであり、当該研究の目的を達成したといえる成果となった。
2. 周辺遺跡・博物館での類例調査
 - ・ポンペイ遺跡及びその周辺で発掘調査が始まってから現在に至るまでの間に保存修復の処置が施された壁画を対象にした類例調査を実施した。その結果、パラフィンや合成樹脂を補強剤として塗布された壁画の多くは、材料の経年劣化や構造そのものに与える状態の変化が原因となり深刻な傷みにつながっていることが確認できた。また、これに加えて、過度な補彩により許容される範囲を超える展色材が使用されたことも傷みの進行を促す要因になっていることが確認できた。

発 表

- ・前川佳文ほか：「無機物を主体とする保存修復材料による壁画の補強技法に係る研究」 日本文化財科学会第41回大会 24.7.27
- ・Yoshifumi Maekawa, Presentazione dei risultati della

ricercar, settembre 2024, Riunione informative sulla ricercar 24.9.10

刊行物

- ・Yoshifumi Maekawa, Casa di Apollo "Relazione missione maggio 2024", Parco Archeologico di Pompei 24.5.25
- ・Yoshifumi Maekawa, Casa di Apollo "Relazione missione settembre 2024", Parco Archeologico di Pompei 24.9.11



クリーニング・補強処置前の様子



クリーニング・補強処置後の様子

能管の「製作技術」と「原材料の安定的な確保」に関する研究

研究組織 前原恵美(無形文化遺産部)、倉島玲央(保存科学研究センター)、亀川徹(東京藝術大学)、森田都紀(京都芸術大学)

目 的 日本の伝統的な管楽器の多くは、古くから日本人の生活の近くにあった「竹」を主たる原材料としてきた。能楽囃子や歌舞伎・邦楽囃子に用いられる「能管」も例外ではない。「竹」は一見、確保が容易な原材料と思われるが、研究代表者が進めてきた、楽器を中心とした文化財保存技術の調査によれば、管楽器の種類により様々な竹の種類、形状、使用部分、一次加工等の要件があり、実際には入手困難な状況にある。特に今やほとんど手に入らない「煤竹」を適材としてきた能管の原材料への危機感は大きい。そこで、本研究では「能管」を取り上げ、能管の製作技術から原材料の要件を明らかにし、安定的な確保のための方向性を見出したい。

成 果

令和6年度の成果は以下のとおりである。

【研究会】(全4回)

第1回研究会(リモート)：5月14日

既存資料による能管製作工程整理と今年度の計画 ほか

第2回研究会(リモート)：6月28日

林豊寿氏の製作工程分析 ほか

第3回研究会(奈良)：8月1日

能管の3D計測のための課題検討 ほか

第4回研究会(東文研)：9月3日

能管の3D計測画像分析 ほか

【調査】(全10回)

第1回調査(東京)：5月9日

鳳聲晴由氏聞き取り調査

第2回調査(東京)：7月4日

一噌幸弘氏聞き取り調査(前原、亀川、森田)

第3回調査(東京)：7月12日

田中康友氏聞き取り調査(前原、森田)

第4回調査(奈良)：8月1～2日(前原、亀川、森田、

倉島、研究協力者：小林慧人)

第5回調査(東京)：12月10日

田中康友氏技術記録撮影・聞き取り調査①(前原、森田)

第6回調査(東京)：12月24日

田中康友氏技術記録撮影・聞き取り調査②(前原)

第7回調査(東京)：12月26日

田中康友氏技術記録撮影・聞き取り調査③(前原、倉島)

第8回調査(東京)：1月29日

田中康友氏技術記録撮影・聞き取り調査④(前原)

第9回調査(韓国)：2月8～12日

潭陽での竹林保全、竹材流通に関する調査、全州・

ソウルでの伝統的な竹製管楽器の計測、内側補強を中心とした調査(前原、亀川、倉島、研究協力者：小林)

第10回調査(東京)：3月19日

一噌幸弘氏所蔵楽器3D計測にかかる聞き取り調査(前原、森田)

論 文

- 前原恵美：「楽器を中心とした文化財保存技術の調査報告8」『無形文化遺産研究報告』19 pp.97-111 25.3



田中康友氏の技術記録



潭陽の竹材店での調査

ブータンにおける伝統的 stone 民家の建築的特徴の解明と文化遺産保護手法への応用

研究組織 友田正彦(副所長)、金井健、浅田なつみ、黒岩千尋(以上、文化遺産国際協力センター)、福島啓人(奈良文化財研究所)、海野聡(東京大学)、マルティネス・アレハンドロ(京都工芸繊維大学)、向井純子(建築家)、鳥羽瀬公二(日本伝統建築技術保存会)、Yeshi Samdrup、Tashi Wangchuk、Sangay Choden(以上、ブータン内務省文化・国語振興局)

目的 本研究は、ブータンの東部地域に所在する伝統的な stone 民家を主な対象として、その意匠、構造、材料、構法等の物理的な特徴の分析と考察を行い、建築形態の伝播や建築形式の変遷、建築技術の発展の過程を明らかにすることを目的とする。さらには、調査研究の成果を、民家建築保存のための価値評価や保存活用計画作成における基礎資料として、ブータンの文化遺産保護実務に還元することを射程に入れている。

成果

1. 東部2県における stone 民家調査

- 5月11日から23日にかけて東文研職員3名及び外部専門家2名を派遣し、ブータン内務省文化・国語振興局 DCDD 職員2名と共同で、タシガン、タシヤンツェの東部2県で stone 民家建築の調査を実施した。前年の同時期に調査した3集落で継続調査を行ったほか、新たに3つの集落で調査を実施した。事前情報と現地観察を踏まえ、建築年代が古いと思われる stone 民家や特徴的建物を抽出し、調査を行った。

最初に訪れたタシヤンツェ県キニ集落では既調査3棟の補足に新規2棟を加え、同集落内で特に古いとみられる民家全てについて実測や家人への聞き取りを含む詳細調査を完了した。

次に、タシガン県メラ郡のメラ、ゲンゴ両集落では、補足1棟、新規6棟の調査を行った。いずれも妻入の平屋で、小屋裏の正面側一部を木造外壁の居室とするものが多く、移牧生活を営む少数民族が暮らす当地固有の民家形式である。このような地域色の強い建物をメラ集落全体で67棟確認でき、集落中心域では棟数の半分ほどを占めることがわかった。

その後、同民族が暮らす同県サクテン郡を初訪問し、同様の形式の民家がここにも所在することを確認したが、宅地を石塀や門で囲む家があるなど、集落景観はかなり異なる。隣接するサクテン、テンマ両村で計5棟を詳細調査し、純木造の小規模民家や製粉用の水車小屋なども含む、貴重な事例を収集できた。

このほか、同県ポンメイ村で領主層の古民家2棟を調査したが、どちらも無住でうち1棟は石壁が大きく変形するなど荒廃が進み、かなり危険な状態であった。地方の過疎化に伴って今後こうしたケースが急速に増加することが懸念され、まずは古民家の所在と現状の把握及び記録が急務と言える。

2. 最古級民家の修復に向けた調査

- 8月12日から24日にかけて東文研職員2名と外部

専門家2名を派遣し、DCDD 職員及びブータン人棟梁と共同で、首都ティンブー北郊カベサ集落所在の版築造古民家ラム・ペルゾム邸での調査を実施した。きわめて閉鎖的な外観を持つ現存最古級と目される民家遺構だが、上階床や屋根などの木造部分が2017(平成29)年に全崩壊したため、建物内部に散乱した部材の回収・格納作業を実施し、残った外壁の構造体を保護する仮屋根を設置した経緯がある。2023(令和5)年に民家で初の文化遺産に指定された。

今回は、本建物の修復に向けた部材調査を実施した。各部材の使用部位を同定する作業と並行して、日本の木造文化財建造物修理に豊富な実績を有する棟梁が部材ごとに再使用の可否と修理方法の検討を行い、この作業には歴史的建造物修理に従事するブータンの大工棟梁9名が参加した。調査中には内務大臣が現場視察に訪れたほか、マスコミの取材を受けるなど、この取り組みには強い関心が寄せられている。得られたデータをもとに引き続き、オーセンティシティの保存に最大限配慮した全体修復計画の検討や使用木材の材料試験等を進めている。

発表

- 金井健、友田正彦、浅田なつみ、黒岩千尋:「ブータンの伝統的 stone 民家の建築的特徴と文化財的価値の評価 その2: タシガン県、タシヤンツェ県、モンガル県及びルンツェ県における建築学的調査の概要」 日本建築学会大会学術講演会 24.8.30
- Masahiko Tomoda, Alejandro Martinez de Arbulo, Yeshi Samdrup "Bhutan's First-ever Vernacular House Designated as Cultural Heritage -The Significance of Designation and Its Architectural Features-" ISAIA 2024 14th International Symposium on Architectural Interchange in Asia, 24.9.12

刊行物

- 『ブータンの伝統的 stone 民家保存のための建築調査 2023 年秋調査 概報』東京文化財研究所 25.3

近世日本における彩色文化史の解明を目的とした 多色摺木版画の色材研究

研究組織 大和あすか(保存科学研究センター)、佐藤悟、澤山茂、日比谷孟俊(以上、実践女子大学)、荒井経、塚田全彦(以上、東京藝術大学)、大久保純一(国立歴史民俗博物館)

目 的 大衆文化の成熟によって誕生した多色摺木版による浮世絵版画は、一度に数100から数1000部の単位で生産された圧倒的な数を誇る彩色文化財であり、近世日本における色材の流通及び普及状況を把握するには、無視することのできない必須の資料群である。本研究では、膨大な数が現存する多色摺木版資料の色材研究を通して、近世の彩色文化史の基盤形成を目指すことを目的とする。

成 果

- 近世日本における人造石黄の流通拡大には、会津国における製造の影響が大きかった。そこで、本年度は会津で人造石黄の製造と販売に関わった細井家の文書(奥会津博物館所蔵)のうち、石黄に関連する記述を含む13点の資料について翻刻を行った。
- 江戸錦絵におけるプルシアンブルーの普及が天保元年(1830)頃から始まることは既に広く知られており、その背景には、中国からのプルシアンブルーの輸入量の増加および価格の低下が大きく影響していると考えられている。本研究では、江戸錦絵と同様に多色摺の技法で主に大坂で制作された上方錦絵を対象に、プルシアンブルーの使用状況について可視・近赤外反射スペクトル分析を用いて調査を行った(図1)。その結果、本年度の調査では、上方錦絵における青色箇所へのプルシアンブルーの使用は、江戸錦絵に先立つ約6年前から普及が始まっていたことが確認された。一方で、青色色材を混色して用いる緑色や紫色箇所へのプルシアンブルーの使用時期については、江戸錦絵とほぼ同時期であったことも明らかとなった。この違いについては、上方絵が輸入品の中継地としての地理的特性を有していたこと、また販売規模の相違による江戸錦絵との摺刷数(販売数)の差異が影響していた可能性が高いと推察される。
- 江戸錦絵は出版統制によって販売価格が規制されており、特に寛政の改革や天保の改革を契機として、錦絵の制作に用いられる材料が変化した可能性がある。なかでも制作費の大部分を占めるのは紙代であり、その厚さを計測し、制作年代ごとに統計的な分析を行うことで、文献に記される錦絵の販売価格の変動との相関関係を検証できると考えた。さらに、紙厚の変動から販売価格の推移が推定できる場合、紙だけでなく、色材の選択にも時代的な影響が反映されている可能性がある。そのため、本年度は紙の厚さを計測する手法として、従来用いられてきたダイヤルゲージ式厚さ計に

代わり、より安全かつ迅速に計測可能な電磁式膜厚計を導入し、その有効性を検証した。

論 文

- 大和あすか、塚田全彦、日比谷孟俊：「【事例報告】鈴木春信の豪華絵本に用いられた材料の研究―千葉市美術館『絵本青楼美人合』第四巻を一例に―」『実践女子大学文芸資料研究所年報』44 pp.27-56 25.3
- 大和あすか、西田典由、趙依寧：「電磁式膜厚計による紙厚測定の精度評価」『保存科学』64 pp.33-42 25.3

発 表

- 大和あすか：「浮世絵の赤・青・黄一色材の流通から絵画表現を探る―」東アジア日本学会2024年春季国際学術学会 24.5.25
- 大和あすか：「錦絵におけるプルシアンブルー使用の比較研究―江戸と上方を中心に―」絵入本ワークショップXIV 24.12.21

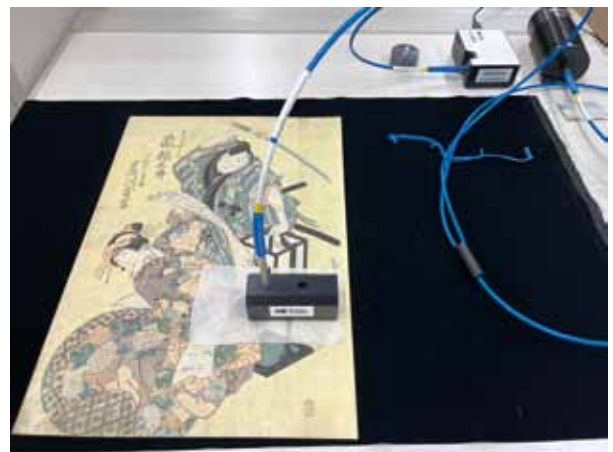


図1 可視反射スペクトル分析による上方錦絵の調査の様子

日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究： 三つのケーススタディをもとに

研究組織 橘川英規(文化財情報資料部)、三上豊(客員研究員)、平澤剛(明治学院大学)、半田滋男、細谷修平(以上、和光大学)

目 的 本研究では、東京文化財研究所にすでに収蔵されている戦後芸術の資料アーカイブズ、画廊やアートスペースなどの組織のアーカイブズ、作家個人のアーカイブズといった大きく三つに分類される資料群を対象とし、その調査分析、修復保存、機関への収蔵手続き、デジタル化、データベース作成と公開など一連の作業を行う。そして、そのプロセスを公開しながら、日本の戦後芸術資料のアーカイブとその活用による学術的方法論の新たな可能性を提起していく。

成 果

- 本研究の第1年目では、民間組織が保管する資料群として、東京画廊アーカイブズの調査を行い、その活動記録の整理・分析を進めた。アート・スペース虹といった戦後美術の重要な拠点の資料を比較検証し、各組織の活動の特異性と横断性を明らかにした。また、作家や関係者への調査を実施し、資料との照合を進めた。

さらに、作家個人の資料群として松澤有アーカイブズの調査を実施し、現存資料の整理とデジタル化の基盤構築を進めた。特に、海外流出のリスクを踏まえた保存対策や、研究者による活用可能性について検討した。

これらの成果を踏まえ、第2年目以降は各資料群のデジタルアーカイブの整備と国際的ネットワークの構築を進め、日本の戦後芸術研究の基盤形成に寄与することを目指す。

調 査

山本豊津氏、7月19日東京画廊(三上、橘川)／松澤有アーカイブ、7月26日下諏訪(橘川)／松澤有アーカイブ調査、10月2日下諏訪(三上)／イトー・ターリシンプोजウム関係者との協議、10月13日京都・同志社大学(橘川)／「地域とアヴァンギャルド：戦後前衛芸術の聖地」視察、12月19日せんだいメディアテーク(三上)／「信州から考える 絵画表現の50年」視察、2月1日長野県立美術館(三上)

ワークショップ開催

- 「日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究 第1回ワークショップ」(報告・情報共有会) 8.21 東京文化財研究所会議室
糸井貫二をめぐって 三上満良(元宮城県美術館副館長)、細谷修平(和光大学客員研究員)
イトー・ターリをめぐって ターリの会(大野玲、さときん、西村由美子)
アート・スペース虹をめぐって 宮田有香(戦後芸術資

料保存)、原久子(大阪電気通信大学総合情報学部教授)

コメント+情報交換(進行:橘川、細谷) 黒ダライ児(戦後日本前衛美術研究家)

展覧会協力

- 「地域とアヴァンギャルド：戦後前衛芸術の聖地／仙台市太白区太子堂」 10.19-25.1.19 せんだいメディアテーク



松澤有アーカイブに関する調査・協議(7月26日)



「日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究第1回ワークショップ」(8月2日)

沖縄久高島イザイホー映像記録データベース

研究組織 石村智(無形文化遺産部)、小山田智寛(文化財情報資料部)、佐野真規(客員研究員)

目的 本データベースは沖縄久高島の祭祀「イザイホー」が最後に行われた1978(昭和53)年の映像資料約17時間分をデジタルアーカイブ化し、その内容をデータベースとして公開するものである。イザイホーは久高島の女性が祭祀集団「神女」に就任するための通過儀礼であり、12年に一度行われ、琉球王国時代から約400年にわたって続いてきた。しかし1978(昭和53)年に行われたものが実質的な最後となっており、危機に瀕する伝統文化となっている。この映像をデジタルによって保存し、活用することで、無形の文化遺産たるイザイホーを後世に伝えていくのが本研究の目的である。

成果

- 令和6年度は、未公開映像の編集を進め、計20本のクリップを制作した。
- 本事業の進捗状況の報告として、トークイベント「イザイホー再考—王権儀礼と民俗祭祀の観点から—」(5月5日)、「ドキュメンタリーにおける記録と表現—沖縄久高島の自然と文化を後世に伝えるために—」(5月6日)を紀伊国屋ホール(東京・新宿)にて開催した。
- さらに本事業のアウトリーチとして、映画『沖縄久高島のイラプー』(文化財映像研究会・東京シネマ新社)の上映に協力した。本映画は5月以降、全国の映画館でロードショーされた。なお本映画の制作には文化庁文化芸術振興費補助金補助金及びクラウドファンディング等の寄付金が充てられている。

発表

- 石村智：「生きている遺産としてのイラプー」『沖縄久高島のイラプー』パンフレット pp.8-9 24.6.30



トークイベント「イザイホー再考—王権儀礼と民俗祭祀の観点から—」(5月5日)、「ドキュメンタリーにおける記録と表現—沖縄久高島の自然と文化を後世に伝えるために—」(5月6日)ポスター

ポストコンフリクト国における文化多様性と 平和構築実現のための文化遺産研究

研究組織 石村智(無形文化遺産部)、清水信宏(北海学園大学)、関広尚世(京都市埋蔵文化財研究所)

目 的 本研究は、ポストコンフリクト国において、文化遺産が文化多様性の保護及び促進に貢献し、平和構築に資するものとなる可能性を探るものである。具体的には、長年にわたって内戦と政情不安にあったが、現在国の復興が進められているスーダンを対象に、現地調査を実施し、「生きている遺産」と呼ばれるリビングヘリテージの存在が、コミュニティの文化的資源としてどのように関連し活用されているかを明らかにする。

成 果

- 5月28日・29日にスーダン人専門家及びスーダンの文化遺産に関わる国際的専門家を招いたオンライン・ワークショップ「Reunion, Rehabilitation, and Revitalization: International Online Workshop for Safeguarding Intangible Cultural Heritage and Living Heritage in Sudan」を開催し、武力紛争下にあるスーダンの文化遺産の現状について情報共有を行うとともに、その課題について議論を行った。その成果はプロシーディングスとして12月に刊行した。
- 5月18日・19日に大阪大学で開催された日本アフリカ学会に石村・関広が参加し、研究発表「国内所蔵のスーダン関連資料について—東京国立博物館の所蔵資料—」を行い、東京国立博物館に所蔵されているスーダン民族資料の概要について発表した。
- 5月19日に国立民族学博物館で開催されたICOM日本委員会総会において石村・関広が報告「スーダン武力紛争における文化遺産保護について」を行い、武力紛争下にあるスーダンの文化遺産の状況について報告した。
- 9月9日～13日にドイツ・ミュンスターで開催された「13th International Conference for Meroitic Studies」に石村・関広が参加し、研究発表「Reevaluation of Meroitic pottery in the Kyoto University Museum」を行い、日本に所在するメロエ遺跡出土土器の来歴と分析結果について発表した。
- たばこと塩の博物館で開催されたミニ写真展「生きている遺産としてのスーダンの嗜み—混迷の時代を超えて—」(10月5日～11月17日)および関連シンポジウム(11月10日)の開催に協力し、関連シンポジウムでは石村・清水・関広が登場し、スーダンの現状について報告を行った。
- 本科研費事業の成果を含めた単行本『スーダンの未来を想う—革命と政変と軍事衝突の目撃者たち—』(明石書店)を7月に刊行した。

報 告

- 石村智・清水信宏・関広尚世：「スーダンにおける武力紛争下の文化遺産の保護」『日本イコモス季刊誌』2024年秋号(ウェブ掲載)。

発 表

- 石村智・清水信宏・関広尚世：「国内所蔵のスーダン関連資料について—東京国立博物館の所蔵資料—」日本アフリカ学会第61回学術大会 24.5.18
- 石村智・清水信宏・関広尚世：「スーダン武力紛争における文化遺産保護について」ICOM日本委員会総会 24.5.19
- Tomo Ishimura and Naoyo Sekihiro: 「Reevaluation of Meroitic pottery in the Kyoto University Museum」13th International Conference for Meroitic Studies. 24.9.12

刊行物

- 関広尚世・石村智編著：『スーダンの未来を想う—革命と政変と軍事衝突の目撃者たち—』明石書店 24.7
- 『Proceedings of “Reunion, Rehabilitation, and Revitalization” International Online Workshop for Safeguarding Intangible Cultural Heritage and Living Heritage in Sudan』Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 24.12



『スーダンの未来を想う—革命と政変と軍事衝突の目撃者たち—』(右)と『Proceedings of “Reunion, Rehabilitation, and Revitalization” International Online Workshop for Safeguarding Intangible Cultural Heritage and Living Heritage in Sudan』(左)

イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究

研究組織 浅田なつみ(文化遺産国際協力センター)

目 的 イランの乾燥・中乾燥地帯の農村における地域特有の農業施設に焦点をあて、それを形成してきた自然条件及び社会条件などの諸条件を読み解きつつ、土煉瓦と木材を用いた建築構法を明らかにすることを目的とする。また、伝統的な建築技術を有する建築技術者の実態把握を行い、建築構法と生産組織の変容について相互関係を検討しながら、地域の農業遺産の保全体制の在り方に関して考察を行う。

成 果

ガザ・イスラエル戦争に関連し、7月以降、イランおよび中東地域における緊張が高まったことを受け、9月に計画していた現地調査は中止した。

12月頃より、イランおよび周辺国との関係が比較的安定したことを受けて、現地関係機関等に情勢を確認した上で、2月28日～3月16日にかけてイランに渡航した。マシュハド・フェルドゥシ大学開催のセミナーでの発表、今後の調査協力に向けた協議等を行った他、ラザーヴィー・ホラーサーン州および南ホラーサーン州の風車建築および風車を有する集落の走査、風車の建設に関わる職人等への聞き取り調査を以下の通り実施した。

①風車建築の調査

ナシュティファン、メフラバッド、ティズアブ(ラザーヴィー・ホラーサーン州)、ネーバンダン、ハムシャラー、フニケソフラー、ゴンド、チャハール・ファルハング、シュフス、アサディエ、タバス・メッシーナ、ノウガーブ(南ホラーサーン州)の12か所の風車を走査した。一部について、風車の構成部材の実測やiPhone LiDARを用いた3次元計測を実施した。

②風車を有する集落の構成調査

ナシュティファン(ラザーヴィー・ホラーサーン州)、ゴンド、チャハール・ファルハング(南ホラーサーン州)の3集落において、風力と水力を利用する集落の構成要素について調査を行った。

③風車の建設・維持管理に関わる職人等への聞き取り調査

ナシュティファン、ハムシャラー、チャハール・ファルハング、タバス・メッシーナにおいて、風車の建設・維持管理に関わる木工、石工、粉挽等の職能を有する古老に聞き取り調査を行った。

科研費としての研究期間は2025(令和7)年3月に終了するが、調査成果の取りまとめを進める予定である。

発 表

- Natsumi Asada: Documentation for Built Heritage Conservation: Case studies for collecting memories: Ferdowsi University of Mashhad: Heritage Conservation for Future, 25.3.2



ナシュティファンの水車遺構調査



ゴンドの集落調査

近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考

研究組織 金井健(文化遺産国際協力センター)

目 的 近年、我が国でも20世紀の建築遺産の社会的な認知度が高まっているが、その保存の実践によって文化財保護の現場では、社寺建築を下地に発達してきた制度上のずれに起因する問題が顕在化している実状がある。そこで本研究では、現状変更の取扱いを文化財保護の実践的業務の核心として捉え、近現代建造物の保存再生事例と文化財建造物の現状変更事例の比較検討を通じて、その概念を近現代建造物の特性を含みうるかたちに再構築する道筋を示すことを目指す。

成 果

最終年度にあたる令和6年度は、本研究としての成果をまとめる観点から、これまでに収集した情報や資料等のとりまとめを中心に下記の諸活動を実施した。

1. 是認される文化財建造物の現状変更の考え方・手法の分析と整理

過年度に行った我が国における「文化財」という考え方の誕生と「文化財」としての建造物の取扱いの変遷及び未指定の文化財建造物の改修に関する調査研究の成果、指定文化財の近現代建造物等の保存修理や利活用、施設管理に関する個々の現地調査で得られた知見を踏まえて、我が国の文化財保護における現状変更規制の元来の企図や意味を抽出することを目的に、国宝保存法下で行われた現状変更説明の網羅的な分析と内容の整理を進めた。その成果を論文にまとめて日本建築学会計画系論文集に投稿し、加筆・修正等の応答を経て同誌に掲載された。

2. 遺産保護の国際規範における現状変更の考え方・手法との比較

世界文化遺産の登録や保護の状況の審査における価値評価の規范文書とされる「記念性のある建造物(モニュメント)及び遺跡の保存と修復のための国際憲章」(1964 通称、ベニス憲章)について、その英語訳の改訂及び仏語版の新訳を通じた内容や解釈の再検証を行う日本イコモス国内委員会憲章小委員会のワーキンググループ(WG)に参加し、現地調査で収集した近現代建造物等の保存修理や利活用、施設管理の事例を中心に、その考え方・手法と「ベニス憲章」の各条文との整合性に関するWGでの検討と議論を行った。WGの活動の成果は報告書にまとめ、1月に刊行された。

3. 近現代建築遺産の保存実態に関する調査

本研究の主たる対象とした国内の近現代建造物等の保存修理や利活用、施設管理の考え方・手法との比較を主な目的として、アメリカ・シカゴとその周辺において次の通り現地調査を行った。

3月6日 シカゴ美術館、シカゴ中心部の高層建築群1

3月7日 ロビー邸、フランク・ロイド・ライト財団

3月8日 ファンスワース邸、歴史保存ナショナルトラスト

3月9日 シカゴ建築センター、シカゴの公園建築、シカゴ中心部の高層建築群2

3月10日 オークパークのフランク・ロイド・ライト建築群(ライト自邸兼事務所、オークパーク歴史地区、ユニティ教会)

論 文

- ・金井健:「国宝保存法下の指定建造物の〈復原〉と〈整備〉:現状変更行為による遺産価値向上の理路と手法」『日本建築学会計画系論文集』825 pp.2278-2289 24.11

報 告

- ・田原幸夫、佐藤桂、金井健、川津彩可、矢野和之、野尻孝明、下間久美子:「総論(3) 参考事例集」『英仏版の比較検討から読み直すベニス憲章』日本イコモス国内委員会第一小委員会 pp.28-62 25.1

発 表

- ・金井健:「近現代建築遺産保存の理念と論点—その成立背景、設計思想、素材と工法—」日本女子大学家政学部住居学科:近代建築デザイン論 24.12.11 ほか1件



20世紀モダニズム建築の傑作の一つであるミース・ファン・デル・ローエ設計のファンスワース邸

ブータンにおける祭礼芸能の変容実態とその保護に関する研究

研究組織 久保田裕道(無形文化遺産部)、本林靖久(大谷大学)

目 的 危機的状況にあるブータンの祭礼芸能の変容実態と、その要因となる社会的環境の変化とを民俗学的手法を用いて調査・分析を行い、画像・映像を併用した報告書を作成する。対象は、タシガン県メラ村におけるヤクダンスが演じられる祭礼を中心とし、その他ブータン各地の事例との比較も行う。分析結果を、祭礼芸能の保護の提言につなげる。

成 果

1. 現地調査

令和5年度に実施したブータン東部タシガン県メラ村での現地調査に引き続き、共同研究者である本林靖久氏とともに同じくメラ村とサクテン村の現地調査を6月21～7月3日に行った。

今回は、前年の「ワン」と共に二大祭礼とされる「チューコル」の調査を中心に行った。同村出身のプブ・ツェリン氏同行のもと、僧侶のタシ・ワンディ氏から儀礼の意味や、近年の変容実態についてヒアリングを行った。

チューコルは女性を中心となって大蔵経を背負い、村を一日かけて一周する行事であり、途中でアルファと呼ばれる芸能などが奉納される。その模様について、同行しながら動画・写真による映像記録作成を行った。またメラ周辺の女神アマ・ジョモの信仰習俗に関わる場所へ赴き、宗教民俗的な調査を行った。

その後一日かけてサクテン村に移動。メラと同類の文化を有するサクテン村の調査を行った。特に前年に調査を行ったヤクダンスについて、特に伝承者に依頼して演じてもらい、記録作成を行った。さらに伝承者へのヒアリングを行うことで、継承の実態や近年の変容実態についてメラとの比較研究の資料を収集した。

調査最終日には、首都ティンプーにおいて文献資料を収集した。この現地調査以外に、月に1回程度、プブ・ツェリン氏に対して2時間程度のリモート調査を継続している。

2. 文献研究

聞き取り調査に加え、メラ村の習俗等についての研究文献について、プブ・ツェリン氏との講読を継続している。前年から読んでいるメラ村出身のゲンゴップ・カルチュン氏による研究書『FROM YAK-HERDING TO ENLIGHTENMENT』(National Library & Archives of Bhutan 2013年)に加え、メラ村の僧侶タシ・ワンディ氏が記したメラ村周辺の民間信仰に関わる聖地の資料を読み、解説を加えつつ日本語に書き起こしている。

3. 映像・画像資料の整理

過去に撮影したメラ村及びヤクダンスの映像の整理と、前年と今年度に行った調査の映像記録を整理した。また近年の変化が著しいメラ村内の地図を作成し、調査整理に役立てている。

発 表

- 久保田裕道：「ブータンにみる儀礼文化」儀礼文化学会 24.5.12



メラ村のアルファ



サクテン村のヤクダンス

博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発

研究組織 古田嶋智子(客員研究員)、犬塚将英(保存科学研究センター)、鈴木昌樹(北海道立総合研究機構 林産試験場)

目 的 材料から放散する化学物質を特定する方法に放散試験がある。博物館では、多様な形状や大きさ、状況によっては固定された建築材料などにも対応できる放散試験が必要となる。本研究は市販のサンプリングバッグに着目し、博物館での実施を前提とした放散試験方法の開発と確立を目的とする。

成 果

1. サンプリングバッグの改良

サンプリングバッグ内の空気循環の向上のために、インレットとアウトレットの位置を変更、また、バッグ容積を20Lに変更してサンプリングバッグを製作した。今年度は、主にこのサンプリングバッグを用いて各試験を実施した。

2. 環境試験室における放散試験の試行

放散源となる床材を新たに張り替えた環境試験室にて、試作サンプリングバッグによる放散試験を実施した。放散試験は、昨年度までの結果を踏まえて、以下の試験条件を変更して行った。

充填空気：封入室素の不純物除去を目的として、高純度窒素（99.9%）の封入をおこなった。これまで使用していた窒素では、含まれる不純物によって阻害されていたホルムアルデヒド、アセトアルデヒド分析が可能となった。

捕集空気量：サンプリングバッグへの空気の充填量と捕集量を変更し、空気捕集割合を小さくした。この変更による回収率への影響などを確認した。

空気捕集方法の検討：空気捕集時に窒素を充填し、サンプリングバッグ内部の空気量を一定に保つなど、これまでの密閉型とは異なる方法を検討し、密閉型との比較を試みた。

3. 小型チャンバー法による放散試験の実施

上記環境試験室に使用した床材に対して、小型チャンバーを用いた放散試験を実施した。本結果とサンプリングバッグによる床材からの化学物質の放散を比較した。

4. 収蔵庫におけるサンプリングバッグ試験の実施

昨年にサンプリングバッグによる放散試験を実施した博物館収蔵庫にて、あらためて試作サンプリングバッグを用いて床面からのサンプリング試験を実施した。現場での試験を通して、試験方法の改善点や課題を確認した。

発 表

- 古田嶋智子、鈴木昌樹、犬塚将英：「サンプリングバッグを利用した床面からの放散化学物質の測定方法」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23
- Tomoko Kotajima, Masaki Suzuki, Masahide Inuzuka: Development of Emission Test Method Using Sampling Bag, 16th International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments 24.11.19-20



環境試験室での試験の様子

占領期の文化財保護に関する研究 —GHQの博物館概念と博物施策の展開—

研究組織 境野飛鳥(客員研究員)

目 的 本研究では、第二次世界大戦後の占領期にGHQの専門家が自国の博物館制度の認識を背景に、当時の日本の博物館の総体を捉えようとしていた事実に着目し、GHQの目から見た日本の博物館を探り、巨視的な視点から占領期の博物館概念及び博物館施策を明らかにする。また、既往研究で示唆されている博物館分野での様々な改革におけるGHQの関わりについて、その妥当性を検証し、日本の博物館制度におけるGHQの影響を分析する。

3

外部資金等による研究活動

成 果

1. 米国国立公文書記録管理局(National Archives and Records Administration, NARA)での調査
米国ワシントンD.C.及びメリーランド州にあるNARAにおいて、第二次世界大戦後の占領期に来日したGHQの以下の美術専門家に係る資料の調査を行った。

- Langdon Warner (1881-1955)
- George Leslie Stout (1897-1978)
- Howard C. Hollis (1899-1985)

NARAでは資料のデジタル化、オンライン公開が進んでいるが、今回の調査ではオンライン未公開部分の資料を中心に45件のフォルダーを調査した。調査を通じて、民間情報教育局(Civil Information and Education Section, CIE)の美術専門家が日本の博物館や文化財現場を視察した記録、米国の博物館情報を日本側に提供した記録、CIEの美術専門家の講演原稿、CIE美術記念物課の組織や規則に係る記録を確認・収集した。また、NARAにおいても所在が不明瞭となっていた資料を特定し、CIE美術記念物課設立時の課長を務めたGeorge Leslie Stoutの音声記録を入手した。

2. 国立第二次世界大戦博物館(The National WWII Museum)での調査

米国ルイジアナ州ニューオーリンズにある国立第二次世界大戦博物館において、第二次世界大戦でナチス・ドイツが略奪した美術品の救出作戦を主任務とした特別部隊に係る展示を視察した。同特殊部隊に所属していたメンバーの一部がその後占領期に来日し、CIEで働いていることから多くの関連情報を入手できた。特に、2015(平成27)年にミズーリ州セントルイスのNARA米国人人事記録センター(National Personnel Records Center, NPRC)に所蔵されている資料を調査した際には経歴が確認できなかった、George Norbert Kates(1895-1990)の情報を入手できたことは大きな収穫であった。

3. 次年度以降の調査のための予備調査

次年度は、これまで収集した資料の整理を行いつつ、必要に応じて、戦前戦後に文化財保護に尽力した日本人専門家の資料を追加調査する。特に、東京博物館初代館長を務めた棚橋源太郎、帝国美術院附属美術研究所所長を務めた矢代幸雄について、これまで集めた資料を整理し、追加調査の必要性を検討した。



米国国立公文書記録管理局(米国メリーランド州)

シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討

研究組織 島田潤、佐藤嘉則(以上、保存科学研究センター)、渡辺祐基、木川りか(以上、九州国立博物館)、小峰幸夫(奈良国立博物館)

目 的 本研究ではシミ科未知種の日本国内の分布状況の把握を行うため、博物館・美術館・文書館での生息調査を行う。これと並行して、本種の形態的・遺伝的な特徴を基に種を特定し、食性や繁殖力などの生態学的な特徴を解明する。さらに、実際に本種の生息が問題となっている文書館において実践的に文化財 IPM の考え方に基づく有効な新規防除方法を試行し、防除方法の確立を目指すことを目的とする。

成 果

本研究は昨年度までに形態的特徴、遺伝的な特徴の調査から日本未記録種のシミの特定を行ってきた。その結果、*Ctenolepisma calvum* という種であることがわかり、「ニューハクシミ」と命名した。そして本種を継代飼育し、繁殖力や繁殖頻度、成長速度、ライフサイクルなどの調査を行い、生態の特徴も明らかにしてきた。さらに防除方法の検討を行い、ベイト剤やピレスロイド系薬剤を用いた殺虫方法などの効果の検証を行ってきた。

本年は研究計画最終年のため、これまでに分かった成果の公表を中心に研究を行った。ニューハクシミは単為生殖を行い、繁殖力が強いことがわかっており、低湿度にも強いということがわかってきている。今後、博物館・美術館や文書館・図書館などの資料が設置されている施設では脅威の存在となると考えられており、文化財分野でのニューハクシミに対する関心が高い。ニューハクシミがすでに発生している博物館や文書館などの施設やニューハクシミの侵入を防除したい施設では、ニューハクシミの特徴や生態、防除方法の開発などの成果は、対策に直結するものとなるため、成果を日本国内に広くかつ早急に公開する必要があった。学会や講演などを通してニューハクシミについて紹介するとともに危険性の周知や対策方法の助言を行った。

また本年に行った研究では、異なる温湿度環境におけるニューハクシミの卵の孵化率と、全国のニューハクシミの分布状況を調査した。ニューハクシミは発見当初から複数の都道府県から報告があり、全国の広範囲に生息していることが想定された。博物館や文書館などのトラップ調査を含め国内の生息状況を調査してきており、日本全体に既に広がっていることが明らかとなりつつある。

発 表

- Megumi Shimada, et al.: Effects of temperature and humidity on the survival rate of the ghost silverfish (*Ctenolepisma calvum*) and insecticidal effects of poisoned baits, 5th International IPM Conference for Cultural Heritage 2024, 24.9.18-20
- Hiroki Watanabe, et al.: A case study of the management of *Ctenolepisma calvum* using a residual pyrethroid emulsion, with reference to its behavioral characteristics, 5th International IPM Conference for Cultural Heritage 2024, 24.9.18-20
- 島田潤ほか：「ニューハクシミの生存率に与える温湿度環境の影響に関する研究」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23

講 演

- 島田潤：「ニューハクシミの生態と防除対策」全国美術館会議 保存研究部会第60回会合 24.12.19



ニューハクシミの卵

染織技術史に関する研究 —原材料の国産化に焦点をあてて—

研究組織 菊池理予(無形文化遺産部)、中村弥生(文化学園大学)

目 的 本研究は、従来の「染織史」研究を、我が国における染織品の「原材料の加工技術」やその生産地に関する情報を関連させることで再考し、新たに「染織技術史」として構築することを目的とする。そこで、染織品の国産化が進んだ近世に注目し、我が国における染織品の原材料の加工技術と染織技法の関わり、その染織技法の我が国における受容(利用)を検証することで、我が国の「衣生活」について考察する。

方 法

本研究では、染織品を制作する際の原材料の「加工技術」に注目し、以下の項目について調査研究を行う。

①我が国における原材料の生産工程と産地に関する調査。
②現在に受け継がれた染織技術における原材料加工技術、及び利用に関する調査。③近世染織品に利用されていた技法、及び原材料の物性的特徴と加工技術の調査。④近世における衣生活と染織技法の関わり。以上を踏まえたうえで、本研究では上記①②③④の項目につき、1) 文献調査、2) 現地調査、3) 作品調査の方法によりアプローチする。

成 果

1. 研究組織の再編

令和6年度はこれまでも研究代表者と共同研究を行ってきた中村弥生(文化学園大学)を研究分担者に加えることで、染織品保存科学的な視点からの研究についても多角的に整理を行う体制が整った。

2. 文献整理の継続

研究2年度である令和6年度も5年度より引き続き、文献調査を中心として研究を進めた。本年度は特に①都道府県史記載情報の整理と②染料である藍・紫根・紅花に関する先行研究の整理、③染織文化財の染料分析に関する先行研究の情報整理を行った。

①都道府県史記載情報の整理

令和6年度より、原材料の国産化を考えるにあたり、平成27年度～平成30年度科学研究費若手研究A(課題番号 15H05379)「染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—」(研究代表者 菊池理予)で整理を行った都道府県史に記載された染織技術関連の項目について再整理に着手した。

前回の記載情報の整理では、都道府県史(263冊)から染織関連項目の抽出を行い、記述(5,115件)を内容ごとに分類した。その際の記述内容の分類は、県番号、出典、出版年、開始頁、終了頁、繊維(絹・麻・木綿等)、染織工程、物流、技術伝播、特産品、日用品、キーワード・備考、時代、本文概要の項目で整理した。作業は、

この記述が、技術伝播や流通の基礎情報となることを考慮し、記載された染織技術の生産目的が換金物であるのか、実用品であるのか、または藩などの保護を受けた特産物であるのか、記載情報から原材料や制作物の入荷・出荷の情報がないか等を留意して抽出をした。前回は技術の伝播に注目したため、技術交流や物流などの情報について焦点を当てて整理を行ったが、今回は、特に「その地域で作っていたもの・やっていたこと」や「どんな繊維や技術・道具(製法)、製品が入り込んでいたか」について詳細に抽出を行うこととした。

本年度は北海道、青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、茨城について整理を行った。来年度以降も継続して全都道府県の整理を進める。

②染料である藍・紅花・紫根に関する先行研究の整理

令和5年度整理した糊に続き、6年度は身近な原材料を使用する可能性が高く、多くの技法に用いられる「染料」に注目した。先述した科学研究費若手研究A(課題番号 15H05379)「染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—」(研究代表者 菊池理予)の成果の一部である菊池理予・中村弥生「都道府県史から見る近世日本染織技術の伝播(中間報告)」『無形文化遺産報告』第14号図5(114・115頁)において注目した染料が藍・紅花・紫根の3種である。6年度はこれらの染料について先行研究の整理を行った。

③染織文化財の染料分析に関する先行研究の情報整理

国内で公表されている文献を基に、これまで行われてきた染織品の染料分析について調査した。調査では、染織品の種類、制作年代、原産地、染料分析の手法、および分析結果(染料)を抽出し、情報の整理を行った。その結果、染料分析に関する先行研究は多数存在したが、その多くが日本で作られていない染織品に関するものであることが分かった。例えば、材料(布)が輸入品であると考えられるものや、海外から輸入された染織品に対する分析が中心であった。来年度は調査範囲を広げ、海外の文献も用い継続して情報の整理を進める。

古典的膠及び墨に関する文化財修復材料及び 書画制作材料としての材料学的体系化

研究組織 宇高健太郎 (客員研究員)

目 的 古典的膠について、物理化学的性質、他材料との相互作用、諸用途適性等の体系化を進める。膠は伝統的な高分子複合材料であり、特に一部古典的膠はその特性から過年度研究成果が文化財修復等にも活用されている。状況対応性が高くかつ効率に優れる材料の製造方法を探り、持続性のある活用システムの確立を検討する。また膠の代表的応用材料である墨について、諸原料の性状分析等とともに、製造条件が製品の性能等に及ぼす影響の検証を多角的に進める。

成 果

古典的膠製造方法に関する『墨譜』(李孝美, 宋代)「膠(一)」項、同「膠二」項及び「鹿角膠一」項、『墨經』(伝 晁貫之, 宋代)、『神農本草經集注(集注本草)』(陶弘景, 500年頃)等の記録を踏まえ、過年度研究成果による技術(特許登録番号 第7216429号)等を用いて試料調製を行った。また当該技術を基として、さらなる効率化や成果物品質の向上及び安定化等を図った。研究代表者はこれまでに諸方法の復元実験を行い、近年の従来市販製品にはみられない淡色かつ不光沢といった性状の膠が調製可能であることを体系的に明らかにしてきた。またそうした古典的膠は書画彩色部分剥落止め処置に際しても施工対象の色や質感等の維持に有効であることから、近年実践的に活用されており、本研究関連知見等に関しても修復現場への提供等を進めた。一部古典的膠試料の例を図1に示す。また膠の代表的応用材料である墨やその主要原料のひとつである煤等について、走査型電子顕微鏡(SEM)及びレーザー回折散乱(LD)式粒度分布測定装置を用いた粒子径及び凝集体規模の測定に加えて、表面官能基に関する検証を進めた。一部煤等試料の一次粒子様態を図2に示す。次年度以降さらに、そうした諸要素と墨の性能や書画文化財における視覚的効果の関連等について解明を図る。

発 表

- 宇高健太郎、平諭一郎、寺師太郎、佐藤信博、碇彩音、間瀬康夫:「松煙煤及び膠を用いた近似墨液インクによる書画出力技術の開発」文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学 24.6
- 飯沼春子、山田修、宇高健太郎、岡田靖、李品誼、朱若麟、曹智健:「各分野の研究者と制作者の連携による仏像における古典彩色技法の解明 一個人蔵「春日本地仏」修復および復元制作を通して」文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学 24.6

講 演

- UDAKA Kentaro:「Science and Applications of Animal Glue and Inkstick (*Sumi/ Mo/ Meok*): Production, Art Practices, and Conservation」. University of Delaware (US); 25.2

刊行物

- UDAKA Kentaro:「Inkstick (*sumi*) and Classical Animal Glue」. Collagens -Basic Science and Applications. Chap.18. Impress NextPublishing, TUAT. pp.138-149; 24.6

上掲諸発表は科研費課題番号19K13423による成果と合わせて実施したものを含む。



図1 古典的膠試料例

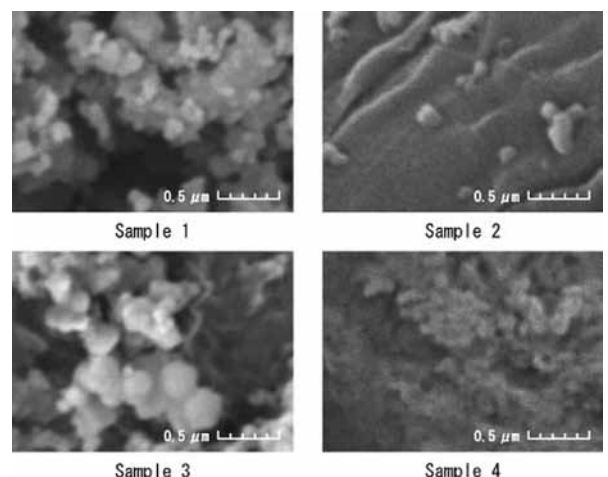


図2 一部煤等試料の一次粒子様態 (SEM)

磨崖仏で過去に行われた保存対策の効果に関する定量的研究

研究組織 朽津信明(保存科学研究センター)、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)、脇谷草一郎(奈良文化財研究所)

目 的 文化財に対して何らかの保存対策が行われた場合に、その保存対策がどのように有効に作用し、どのような点では有効でなかったかという点は、次の保存対策や他の様々な文化財の保存を考えていく上で極めて重要な情報となる。過去に行われた保存対策に関して、そうした評価を定量的に行った研究はこれまで殆どなかったが、本研究では、過去に保存対策が行われた磨崖仏について、その保存対策の効果を具体的に定量的に議論することを試みる。覆屋構築や樹脂含浸処理など、磨崖仏の保存のために具体的な保存対策が行われる前と行われて以降の劣化速度を定量的に比較検証することにより、それぞれの保存対策がどのような点では有効であり、どのような点では有効ではなかったかを検証していこうとするものである。これにより、今後の磨崖仏の保存を検討する際に有効となるデータを提供し、またそれ以外の文化財の保存対策を検討する際にも貢献することを目的とする。

成 果

1. 磨崖仏の経年劣化に関する計測と保存対策の評価

令和5年度に計測を行った佐賀県指定史跡・鶴殿石仏群において、取得したデータを解析することで、鶴殿石仏群における経年劣化と、行われている保存対策の有効性について評価した。その結果、確かに仮設覆屋建設以前に一部で岩体の崩落が検知されたものの、今回の手法によって認知された鶴殿石仏群における劣化速度は、仮設覆屋の建設前後で明確に変化したとまでは言えず、従って仮設覆屋を構築する保存対策が劣化軽減に寄与したと断定できる状況にはない。しかし、仮設覆屋の存在下で現在起きている変化は把握できており、今後の劣化を評価する基礎情報は得られたと考えられる。

この他、過去に樹脂含浸処理による保存対策が行われた福島市指定史跡・名勝の岩谷観音、これまでに科学的な保存対策は全く行われていない須賀川市指定史跡の和田大仏でそれぞれ計測を行った。その結果、いずれでも現状の形状情報を取得でき、これに基づいて近年起きている劣化について検知することができているが、岩谷観音における過去の樹脂含浸処理の効果に関しては、今のところ処理以前と処理以後の違いを明確に示すことはできておらず、樹脂含浸処理の効果に関して具体的に言及できる状況にはない。また、保存対策のない和田大仏で起きている劣化についても、近年の和田大仏での劣化として評価できる状況にはあるものの、これと全く状況の異なる鶴殿石仏などの状況と横並びで比較することはできず、現状では各磨崖仏の劣化評価に留まっていて、保存対策の具体的な評価には至っていない。

2. 関連石造物の保存対策に関する調査と情報収集

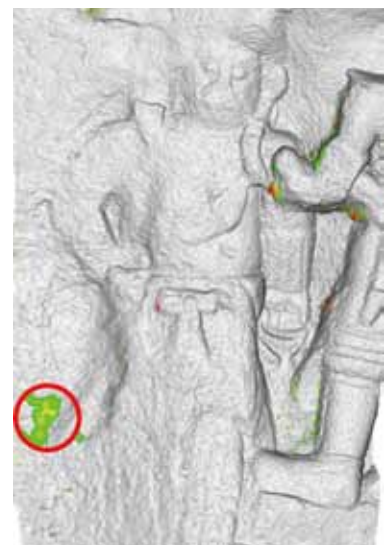
磨崖仏に限らず、屋外石造文化財で過去に科学的な保存対策が行われた事例について調査を進めた。令和6

年度の調査対象は以下である。

過去に合成樹脂含浸処理が行われた、香川県指定有形文化財である三豊市の勝造寺層塔、未処理の屋外石塔である神谷神社層塔、過去に合成樹脂を用いた保存処理が行われた穴水町の国指定重要文化財・明泉寺五重塔、などである。これらについては現状の形状を取得するとともに、可能な範囲で過去の形状情報の取得も進めており、劣化の評価を試みている。

論 文

- 朽津信明、白石明香：「鶴殿石仏群に構築された仮設覆屋の保護効果に関する評価」 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学 24.7.27-28
- 朽津信明、白石明香：「鶴殿石仏群における風化対策の定量評価」 日本応用地質学会令和6年度研究発表会 レクザムホール(香川県民ホール) 24.10.9-11



鶴殿石仏で仮設覆屋の建設以前に検知された劣化○で囲った箇所が、1990年と2015年の間に1cm以上の変異が検知された箇所。すなわち仮設覆屋がない時代に崩落した箇所と考えられる。

一般室を使用した文化財収蔵施設運用法に関する研究

研究組織 芳賀文絵 (保存科学研究センター)

目 的 文化財収蔵を目的としない一般室の環境と被災文化財資料、それぞれのリスクと限界を明らかにすることで、緩やかな環境制御を行うためのガイドラインを得るため、一般室における保存環境の温湿度特徴の抽出、一般室の保存環境に適した資料保存方法のあり方についての検討することを目的としている。一般室における資料保管に関する課題を明らかにし、より現実的な文化財保存のための指標を得ることを目指す。

成 果

災害により被災した文化財を、一時的に文化財収蔵を目的としない建物や部屋（一般室）に保管する場合、通常の博物館、美術館等施設と異なり、厳密な温湿度等の保存環境管理が困難である。これらの一般室では、どこまでの温湿度値、変動を許容できるのかを明らかにした上で、文化財の管理者が現実的に実現可能な緩やかな環境制御により、必要十分な文化財収蔵環境を達成することが望ましいと考えられる。本研究は、文化財収蔵を目的としない一般室の環境と被災文化財資料、それぞれのリスクを明らかにすることで、被災文化財の状態と運営環境に見合った緩やかな環境制御を行うためのガイドラインを得ることを目的とする。

1. 廃校等を利用した文化財収蔵庫の環境調査

文化財収蔵を目的としない建物や部屋（一般室）の環境特性を把握するために、今年度は廃校を利用した文化財収蔵庫の環境調査を継続し、そのデータの解析を行った。1年目に実施した複数施設の一般室内の温湿度計測結果を比較し、廃校施設としての特徴の抽出を試みている。調査協力には、昨年から引き続き、沼津市教育委員会、沼津市歴史民俗資料館、高山市教育委員会、飛騨高山まちの博物館、高知県文化体育スポーツ部歴史文化財課史編さん室にご協力いただいている。

また、空調がない収蔵環境における環境構築を検討



被災資料からの揮発成分調査

するためにモデル空間を作製し、そこに木質材料を設置した場合の温湿度挙動について調査し、それらの実験結果について報告を行っている。

2. 被災文化財の保存に関する調査

被災文化財の保存について検証するために、被災資料からの揮発成分を調査し、それらによる文化財資料への影響の有無の評価を試みている。被災資料とともに材質試験用の試料を設置し、揮発成分に劣化加速の状況を検証している。調査においては、川崎市市民ミュージアムのご協力をいただき、紙資料文書からの揮発成分調査を継続的に実施している。

発 表

- 芳賀文絵、松井敏也：「An example of volatile components (odors) from cultural assets damaged by flooding in Japan and how to analyze them (일본에서 수해로 피해를 입은 문화재로부터의 휘발 성분 (냄새) 과 그 분석 방법 사례에 대해서)」The 60th Conference of The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage Jeonbuk National University, Korea 24.11.8-11.9
- 芳賀文絵、松井敏也：被災紙資料からの揮発成分調査について一処置状態・方法による比較結果—文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23



被災資料からの揮発成分調査

行政映画とその関連資料の整理と管理の支援

研究組織 山永尚美(文化財情報資料部)、佐藤洋(共立女子大学)

目 的 行政にまつわる活動、出来事、人物等を克明に記録した映像資料は、文字で書かれた資料とは異なる歴史的・証拠的価値を持つという点で、後世に残されるべき歴史資料であるといえる。しかし、日本において、このような映像資料は公的アーカイブズ機関(文書館)へと十分に移管されて来なかった。公的アーカイブズ機関に代わってその保存を担ってきたのは、行政機関から制作委託を受けた民間の映像制作会社であった。本研究では、①かつて作成された行政活動にかかわる映像資料とその関連資料の所在調査を行い、②それらを長期的に管理・保存して行くための体制構築を支援することを目的とする。

成 果

3年計画の第2年次にあたる本年度は、行政活動の過程で映画が生み出される背景や文脈の理解という観点から、戦前期日本における中央官庁の活動と映画製作事務について調査を行った。また、研究開始初年度に実施した行政活動にかかわる映像資料とその関連資料の所在調査の結果をもとに、一部資料の整理を進めた。本年度に実施した諸活動は以下の通りである。

1. 戦前期日本の中央官庁における映画の製作・利用状況について調査した。主たる研究方法は、文献調査ならびに国立教育政策研究所図書館、国際文化振興会(KBS)アーカイブ、鉄道博物館、郵政博物館等が所蔵する官庁映画関係資料または映像資料それ自体に関する所在調査である。

戦前期の官庁映画については田中純一郎らの文献に詳しいが、その製作実態を官庁ごとに時系列で把握するという試みはこれまで十分になされて来なかった。そのため、上記調査の成果をもとに、中央官庁の映画利用開始年を組織別かつ局部課単位で時代順に整理した。また、国立の映画製作部門を有した文部省の活動や、同じく映画製作に積極的だった鉄道省の映画製作実態についても精査した。

2. 政府による映画利用の背景理解という観点から、戦前に各国政府や大使館が配給・上映に関与した「大使館映画」に関する研究を進めた(共立女子大学・佐藤洋准教授による)。これは、上記1の調査研究の一部を

より深めたものである。主たる研究手法は、日本の映画関係文献、新聞、映画目録等を対象とした文献調査である。

欧米各国政府の関与のもと、第一次世界大戦を撮影した実写映画は日本にも輸入され、大使館、国内各地の映画館や学校等で盛んに鑑賞されていた。このような実写映画の上映は、結果として、日本の政府や行政機関の映画利用を促進させる結果となったにもかかわらず、当時の映画受容の実態は今日に至るまで十分明らかになっていなかった。

そこで、1914年から1919年にかけて東京と京都で上映された第一次世界大戦実写映画を調査したところ、2025年現在で328本を確認できた。調査の成果は文章化し、あわせて実写映画の目録(上映記録)も作成した(刊行物として出版予定)。

3. 初年度に実施した上掲の所在調査の結果をもとに、一部資料群の整理と目録化を進めた(前年度から継続)。

論 文

- 山永尚美：「戦前期日本の中央官庁における映画の作成と利用―製作体制と保存上の課題について―」『人文』23 pp.135-162 25.3

発 表

- 山永尚美：「行政機関で作成された映像資料とその関連資料の管理と利用可能性について」令和6年度第2回文化財情報資料部研究会 24.5.15

鎌倉時代仏教彫刻・絵画の彩色に関する基礎的調査研究

研究組織 米沢玲(文化財情報資料部)、犬塚将英(保存科学研究センター)

目 的 本研究は、鎌倉時代中期から後期にかけて製作された仏教彫刻の彩色の文様パターンや図様の分類を同時代の仏教絵画と比較しながら考察を進め、併せて彩色材料の科学調査を行い、基礎的かつ総合的なデータを蓄積するものである。調査で得られた考察やデータから彩色の同時代性あるいは地域的な特徴や傾向を分析し、彫刻史と絵画史の研究に新たな視点をもたらすことを目指す。

成 果

1. 作品情報の収集と画像データの整理

研究計画の1年次である令和6年度は、前半期に作品情報の収集を行った。鎌倉時代中期から後期、主に1250年代から1300年頃までの制作年が判明する彫刻作品について文献や画像資料を収集したほか、東京文化財研究所が所蔵する4×5カラーポジ約900点を精査し、その中から関連する画像データの整理を行った。

2. 蛍光X線分析装置を用いた彫刻の彩色調査

3月10日、東京国立博物館が所蔵する持国天眷属・増長天眷属(所蔵品番号:C-1834)について、ポータブル蛍光X線分析装置(XRF、Bruker社製、Tracer5i)を用いた作品調査を行った。調査の対象とした二体は文永4年(1267)という制作年代が判明しており、かつ当初の表面彩色の保存状態が良好のため、当該の時期の彩色材料を考察するうえでの基準作と言える。XRFを用いて特に像表面の彩色がよく残っている箇所の測定を行い、彩色材料の元素分析を実施した。さらに表面彩色の顕微鏡写真を撮影し、顔料の粒子の状態を観察した。元素の特定と併せて粒子の状態を観察することで、彩色に用いられている顔料の考察を多角的に進めることができた。調査には研究分担者の犬塚将英が参加したほか、西田典由・紀芝蓮・寺島海(以上、保存科学研究センター)の協力を仰いだ。

織豊時代における公武の知的交流についての研究 —本草学から絵事へ—

研究組織 小野真由美(文化財情報資料部)

目 的 織豊時代(16世紀後半)の公家日記には、同時代の動向と公武の文化交流が記録されている。たとえば『時慶記』には、草花の贈答や鑑賞、連歌絵や演能などの交流がみられ、そのころ花木の表象が重要な役割を果たしたことがわかる。障壁画のみならず建築装飾にも草花の意匠が多用され、その背景には公家文化に早くから受容されていた本草学が想定される。本研究では公家日記を通読し、公武の知的交流における草花や本草学の記述と視覚芸術への影響を考察する。

成 果

1. 本研究の前提

本研究は織豊期の公武の知的交流における「草花」という表象に焦点をあてるものである。その前提として前時代の室町期および後続の江戸期を視野に入れて公家社会における草花や挿花の位置づけについて調査を行った。とくに室町期については既存の研究を基に、『実隆公記』の記述から関連事項を整理し、当時の公家文化における草花や挿花の役割を検討した。以上の文献資料と美術作品の分析を通じて、公家と武家の間で草花がどのように受容されていたかを考察した。

2. 織豊期の公家社会における草花

本研究のテーマである織豊期については現在、調査途中の段階である。令和6年度は資料や文献の収集を進め、室町期との比較検討を行った。

3. 江戸初期の草花に関する資料

織豊期の最期にあたる江戸初期については主に、『時慶記』を参照し、公家社会における草花の記録を分析した。『時慶記』にみられる草花の記述を抽出し、花鳥図や工芸の意匠として描かれる草花の表象の変遷を検討した。

4. 連歌懐紙下絵の草花表現に関する資料

連歌懐紙に描かれる草花表現に着目して調査をすすめた。とくに九州国立博物館本の下絵には優れた花鳥図表現がほどこされていることが改めて調査によって確認できた。連歌懐紙における草花の描写や象徴性を、連歌の読解と同時に分析している。

5. 草花図屏風

花鳥図屏風は巨樹を両端や中央付近に配し、そこに設定された空間に花や小鳥を描くものだが、織豊期にはそうした巨樹を描かない草花図や花木図が制作され、優品数点が伝存している。とくに米・メトロポリタン美術館本は鳥を描かず昆虫を描き込むという貴重な作

例である。よって同作品の調査をつうじて、草花図屏風が連歌懐紙の下絵や料紙装飾の草花表現とどのように呼応しているのかを検討した。

6. データベース作成

本草学年表：草花に関する古代からの本草学的な記録の整理のため作成した。

立花関連年表：草花と挿花の歴史的変遷を時系列で整理した。

文献一覧：本研究に関連する資料・文献の基礎資料。

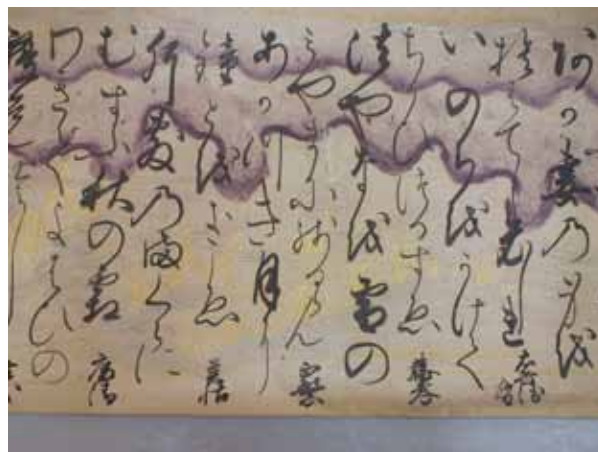
調 査

9月 国内・九州国立博物館

10月 米国・メトロポリタン美術館

報 告

- 小野真由美：「中国古典本草文献（古代～宋時代）」「中国古典本草文献（『証類本草』版本諸本）」
<https://researchmap.jp/onomayumi/> 資料公開
- Mayumi Ono : "Gifted Plants and Artistic Patronage in Early Modern Japan: Tan'yū's Sketches of Flowers and Plants" DOI: 10.5281/zenodo.15074034 25. 3.24



連歌懐紙の調査(九州国立博物館にて)

樹木を素材とする編組品に関する民俗学的基礎研究 —広葉樹ヘギ材の籠を中心に

研究組織 今石みぎわ(無形文化遺産部)

目 的 本研究は、従来「タケ細工の代替品」としてしか評価されてこなかった樹木を素材とする編組品を、「タケ以前」の編組技術を体現するものと捉え直し、研究の乏しい広葉樹ヘギ材による籠類を中心に、近代における伝承の実態と地域性、およびその成立背景となる環境的・社会的条件を明らかにすることを目的とする。これにより、樹木による編組品の技術的・機能的独自性や、文化的・歴史的意義を再評価し、日本列島における編組技術史を再編することを目指す。

成 果

1. 情報の集約

広葉樹ヘギ材を中心とする伝統的な籠について、研究協力者とともに文献等から全国の事例を収集・整理した。その結果、広葉樹ヘギ材の籠の使用が確認できた地域は、東日本の日本海側を中心に全国55個所に及んだ。これらをリスト化し、分布図を作成した。

2. 現地調査

現地調査として、技術伝承者に対して聞き取り調査を行ったほか、資料館等に収蔵されている民俗資料について、研究協力者とともに調査を実施した。調査地は以下の通りで、広葉樹ヘギ材の籠のみならず、比較のため、他素材(蔓、ササ、タケ、樹皮)の籠についても実態調査を行った。

1. 秋田県秋田市・仙北市角館町のイタヤ籠(9月)
2. 福島県三島町のウリハダカエデの木ザル(9月)
3. 長野県松本市のミスズ(スズタケ)細工(9月)
4. 滋賀県長浜市余呉町のイタヤ籠(9月)
5. 奈良県・和歌山県のイタヤ籠とヒノキ籠(12月)
6. 埼玉県寄居町のオカメザサの籠(1月)
7. 奥三河・長野県南部における樹皮籠やミズナラ籠(3月)

このうち、広葉樹ヘギ材の籠は1, 2, 4, 5, 7であり、製作技術が現在でも継承されているのは1, 2, 4である。

3. 映像記録の撮影

11月、福島県三島町で伝承されているウリハダカエデによる木ザル製作技術について、実際に木ザルを製作してもらい、その様子を記録撮影した。来年度編集の予定。

4. 研究会等の実施

(1) 編組品を主題とする研究会「箕の研究会」を東京文化財研究所で実施し、編組品関連の発表や実演を行うとともに、関係者と情報交換をした。

- ・第10回箕の研究会(7月17日)参加者13名
井口恵氏「編み組み細工の伝承について」
キムヘイン氏「韓国におけるハギの民具と民俗」

ほか1件発表

- ・第11回箕の研究会(3月20日)参加者19名
山本亮子氏「ミキノクチの伝承について」
関田徹也氏「実演 ミキノクチを作る」

ほか1名発表

(2) 9月に来日したノルウェー人籠作家を招き、日本とノルウェーの伝統的な籠について学ぶ講座・実演会「ノルウェーの籠と出会う」を9月27日に東京文化財研究所にて実施した。参加者は40名で、作り手(職人・作家)、売り手、使い手など、日本のバスケットリーの現在・将来を担う方々が集まり、活発な質疑応答がなされた。

報 告

- ・「日本列島における木籠の文化―「タケ以前」の視点から」『民具研究』167 pp.19-33 日本民具学会 25.3

発 表

- ・今石みぎわ:「日本の伝統的な籠について」ノルウェーの籠と出会う 東京文化財研究所 24.9.27



ウリハダカエデのヘギ材で籠を編む(福島県三島町)

染織品等を対象とした赤外線画像の有効性に関する研究

研究組織 秋山純子(保存科学研究センター)

目 的 本研究の目的は染織品に使用された彩色材料の面的調査に赤外線画像を適用し、その有効性を明らかにすることである。文化財の中でも特に素材として脆弱な構造を持つ染織品に対して有益と思われる赤外線調査の有効性を検討する。本研究において赤外線画像からどのような情報が得られるか検証を重ねていくことで、脆弱な文化財に対する科学調査の有効な手段として位置づけることができ、簡便かつ安全な調査法として確立することができると考えられる。

3

外部資金等による研究活動

成 果

本研究の目的は主に染織品に使用された彩色材料の面的調査に赤外線画像を適用し、その有効性を明らかにすることである。これまでの赤外線画像の適用の成果をもとに、本研究では、文化財の中でも脆弱な素材を持つ染織品に焦点をあて、赤外線画像の写り方の違いが彩色材料のどのような違いを表しているのか、面的調査に利用するための基礎データの収集と整理を進める予定である。特に染織品は脆弱で経年劣化をしているものも多く、赤外線画像で彩色材料の違いをどこまで捉えられるのかを検討することが必要である。染織品で赤外線画像からわかることが押さえられれば、点だけの情報に面の情報を加えることができ、染織品の科学調査に対して大きく貢献できると考える。

今年度は1年目であるので、九州国立博物館所蔵の端物裂本帖13冊の赤外線撮影を試みた。江戸時代に作られた和紙の冊子に様々な裂が張り付けてある資料である。多種多様な模様で染められており、これをすべて赤外線撮影することにより、今後染織品の調査を進めるための手掛かりになるのではないかと考えた(写真1)。

染織品の調査を進めるにあたり、すでに調査を進めている歴史資料に関しても調査を実施した。染料が使用されている画面に対し、赤外線撮影とハイパースペクトルカメラ、ポータブル蛍光X線分析、顕微鏡機能付きデジタルカメラを使って色材の特定を行った。その結果、これまで確認できなかった色材を見つけることができ、今後の染織品を対象とした調査でも同様の手法が有効であると確かめられた(写真2)。

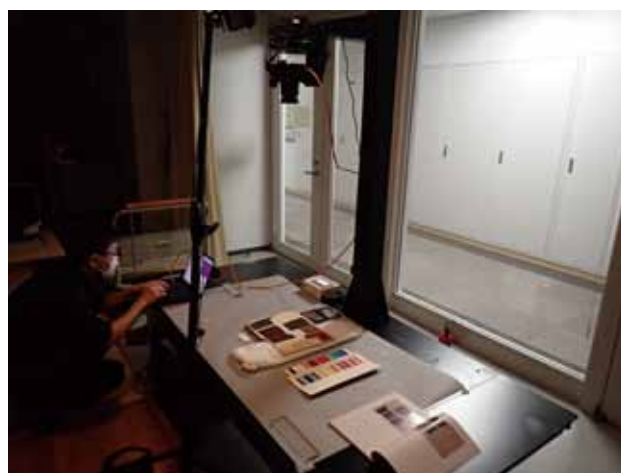


写真1



写真2

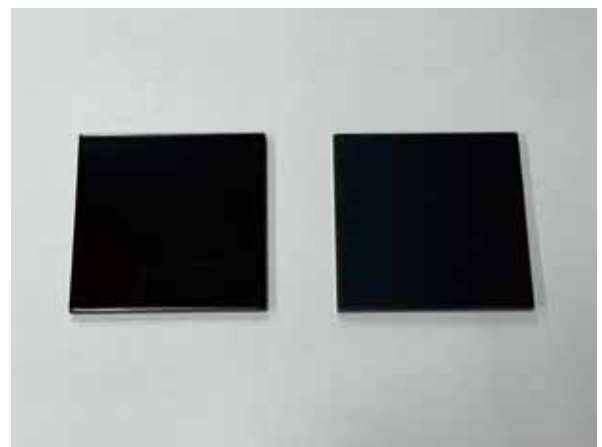
漆芸品に与えるクリーニング溶液の影響に関する研究

研究組織 倉島玲央(保存科学研究センター)

目 的 本研究では、油彩画や陶磁器、染織品等の修理時に溶媒やゲルの使用の検討が増えてきた中で、漆芸品修理におけるその有効性とリスクについて、クリーニング前後、および予後における視覚的变化と物性に着目し、科学的に検証することを目的とする。検証した結果については、漆芸品の修理技術者へと情報を還元し、現場での安全で有効な修理方法の一つとして提供することを目標とする。

成 果

- 1 クリーニングに関する聞き取り調査
漆芸品の修理技術者数名から、漆芸品クリーニングに関する以下の項目について聞き取り調査を実施した。
 - ・現在クリーニング時に使用する溶媒・ゲル
 - ・それらの使用/無使用を選択した理由
 - ・現在のクリーニングにおける課題
- 2 劣化漆塗膜資料の作製
漆の劣化は紫外光によって引き起こされる。照射時間に応じて、劣化状態の異なる資料を由来の漆手板を準備した。太陽光に近い光源であるキセノンランプ照射によって、疑似的に経年劣化させた資料を作成中である。また、人工の汚損物質(汗液、指紋など)の試薬を選定した。



キセノン照射前(左)と照射中(右)の漆手板



キセノン照射の様子

中小規模の博物館で実践可能な文化財防災 —地震・水害対策を中心として—

研究組織 千葉毅（保存科学研究センター、文化財防災センター）

目 的 本研究の目的は、博物館における既存の文化財防災手法の効果向上を図ることにある。阪神・淡路大震災以降、博物館における耐震対策としてテグスや免震台の有用性、S字形フックの効果等は浸透してきている。しかし、例えば、テグスの効果的な設置方法に関する研究はこれまでになく、特に中小規模の博物館では、学芸員個々人の経験による「職人的」手法で設置されているのが実態である。そのため、中には効果の薄い設置方法も散見される。このような状況に鑑み、本研究では、耐震対策を中心として、博物館における既存の文化財防災手法に対して実験的、定量的な分析を行い、既存手法の効果向上を図る。

成 果

本研究では、中小規模の博物館において実践されている文化財防災の既存手法の効果向上を図ることを目的としている。一般的に用いられている既存手法の確認を行うため、複数のサンプル館を対象に、以下についてのヒアリング調査を行った。

- 資料を取り扱う日常の学芸業務（展示作業、館内輸送、収蔵庫での保管等）の中で実施している具体的な災害対策
- 災害対策の実際の作業を行うのは誰か
- 災害対策手法をどこでどのように学んだか
- 災害対策手法に関する館内での情報・技術共有の機会の有無やその方法
- 災害対策に関する訓練等の実施状況
- 実際の展示室、収蔵庫での対策状況の調査

この結果、多くの館において、災害対策の具体的な手法を学ぶ機会は少なく、また実際の作業にあたっても担当者が各自の知識や経験に基づいて実施している状況がほとんどであることが改めて明らかとなった。また具体的な手法に関する館内での情報共有も積極的に行われている事例は少ないことが分かった。

来年度には、現状とニーズを把握するためのアンケート調査を実施するとともに、一般的に用いられている既存手法の検証、改良についての実験的分析を進める予定である。

また中小規模館での対応ではないが、建物免震が導入されている九州国立博物館において、免震層の運用や日常的なメンテナンス状況についてヒアリングを行った上で、実際の地震時における免震層挙動の記録についての検討を行った。



様々な展示資料の固定方法



海に近い館での防潮板の設置状況

メタゲノム解析を用いた浮遊菌測定による博物館のゾーニングに関する研究

研究組織 間瀬創 (保存科学研究センター)

目 的 本研究は、博物館や美術館における浮遊菌測定を用いたゾーニングにメタゲノム解析を利用し、従来よりも確度の高いゾーニングを可能にすることを目的とする。博物館等での汎用的な活用を視野に入れた測定手法、評価方法の開発を行う。

成 果

博物館等での生物被害管理の基礎はゾーニングによる施設管理である。博物館等でのゾーニングを目的とした浮遊菌測定において、従来手法の課題である菌叢評価へメタゲノム解析を組み入れるにあたっては、その目的に即した手法を開発しなければならない。

本研究では、浮遊菌の捕集手法の検討、メタゲノム解析により得られた微生物群集構造を利用したゾーニング方法の開発、実用性の検証と最適化を行う。

- 3年計画の1年次である本年度は、メタゲノム解析に用いる浮遊菌の捕集方法について検討を行った。先行研究でのメタゲノム解析を用いた浮遊微生物の群集構造解析は、ろ紙やメンブレンフィルタ上に浮遊菌を捕集、振とうにより両面界面活性剤水溶液中へ胞子を回収、細胞からDNAの抽出とPCRによるDNA増幅、次世代シーケンサによるメタゲノム解析、塩基配列の相同性検索と群集構造解析といった一連の操作となる。本研究では博物館等での浮遊菌測定をベースとするため、浮遊菌サンプラーと生培地を用いて浮遊菌を捕集し、生培地から胞子を回収する方法について検討を行った。
- 浮遊菌捕集/胞子回収手法：浮遊菌を捕集した生培地を両面界面活性剤水溶液でリンスすることで、浮遊菌胞子を回収する方法を採用した。この方法でメタゲノム解析に必要な胞子量を回収するためには相当量の空気サンプリングが必要になり、博物館等のゾーニングを目途とする場合には現実的ではないことが分かった。このことから捕集した浮遊菌を一定条件で培養してから胞子を回収する手法を採用した。
- 培養条件：捕集した浮遊菌の培養にあたっては、培地により菌種によって胞子形成量に大きな差がある。場合によっては回収した胞子の種の存在比が偏る可能性がある。また培養時間が短ければ十分な胞子量

を回収できない。浮遊菌の群集構造の多様性や種の存在比を維持する培地の選定、十分な胞子量を回収できる培養時間を検証し培養条件を決定した。

- メタゲノム解析：上記手法によって回収した浮遊菌胞子を用いてDNA抽出、PCR増幅、シーケンスの一連の操作によるメタゲノム解析が可能であることが分かった。また得られたメタゲノム情報から塩基配列の相同性検索と群集構造解析を行い、サンプルごとの群集構造を得ることができた。
- 浮遊菌捕集/胞子回収手法の評価：本手法で回収した胞子サンプルは、特殊な事前調製を要せずとも民間の受託解析サービスで解析が可能であった。また環境の浮遊菌量、空気サンプリング量と培養される菌種数の関係についても一定の評価ができ、一般的な博物館環境で通年活用できると考えられる。同一の浮遊菌測定条件、培養条件での繰り返し測定では、Unweighted Unifracにおいて比較的近い位置にプロットされたが、サンプル数が不足していたため、明確な評価にまでは至らなかった。引き続きサンプル数を増やした評価を行い、本手法を精査していく必要がある。



浮遊菌の捕集風景と、捕集した浮遊菌の培養状況

クフ王第2の船の実物資料を用いた造船から埋納過程の復元研究

研究組織 山田綾乃(文化遺産国際協力センター)

目的 本研究は1,700点におよぶ古代エジプト古王国時代のクフ王の葬送船の部材を実測調査し、既往研究で得られた本船が造船後一度解体されたのち、再び組み立てられ、さらに解体されて納められたとの仮説を実物資料の考古学的な調査・分析から実証的に検討し、造船から船坑に納められるまでの過程を明らかにするものである。本研究を通じて従来不明瞭であった葬祭施設で繰り上げられた船を葬る儀礼行為を具体化することを目指す。

成果

1. 部材の実測調査

8月1～14日まで、エジプト・ギザにある大エジプト博物館保存修復センターとクフ王第2の船の保存修復用テントにて、対象資料の実測調査を実施した。本調査では、おもに舷側板の継ぎ目を覆うように船体の内側に設置されたと考えられる目板と呼ばれる板材を実測した。この部材は舷側板と接する側は平らで、反対側は緩やかな弧を描いていることが多く、長さもまちまちである。舷側板を縛っていた際についた縄痕や、縄を切断した際に付いた工具痕が付随する場合もある。縄痕は、この船が一度は目板を設置し縄をきつく縛った状態で完成していたことを示し、工具痕はその船を解体して納めるときに意図的に縄を外したことを表している。さらに船体の中での位置を指示していたと推定される文字と数字の組み合わせや記号の刻書を確認した。本年度の調査終了時には、1700点の部材のうち、船体構造の考察で重要となる1500点ほどの実測が完了した。

なお、クフ王第2の船の保存修復・復元プロジェクト全体は、エジプトと東日本国際大学の合同調査隊によって実施されている(日本側隊長・吉村作治 東日本国際大学総長)。また、実測調査は東日本国際大学・柏木裕之客員教授と共同で実施している。

2. 木製遺物の比較調査

8月15～30日まで、エジプトと金沢大学(研究代表者:河合望金沢大学教授)の合同で実施されている北サッカラ遺跡の発掘調査に参加し、木製資料の比較調査を行った。おもに船材を木棺やその他木製品へ転用している事例に着目し、類例を集めた。

3. 実測データの分析と公開

本年度は、実測済みデータのうち甲板梁、天蓋梁、天蓋柱について分析を行い、部材の長さ、形状、記された文字資料をもとに甲板梁50本、天蓋梁18本の配列を特定した。本成果は令和7年度発行の『昌平エジ

プト考古学会紀要』に部材ごとの報告として掲載予定である。

またクフ王第2の船の船体部材(舷側板・船底板)の35枚の部材を精査し、船体構造、船体の接合方法、船首船尾の構造、舷側板の継ぎ手、船体内面に記された刻書などの調査成果をまとめ、学会で発表した。

4. クフ王第2の船の改変に関する考察

クフ王第2の船は発見された部材の構成から櫓船であると想定されているが、実測調査により複数の箇所では不自然なおさまりや用途不明の痕跡も認められた。それらはかつて本船が帆船であった可能性を示唆していると解釈し、帆船を漕船に改変して葬送船として用いた背景について考察し発表した。

発表

- 柏木裕之、山田綾乃:「クフ王第2の船・改変の可能性について」 日本オリエント学会第66回大会 24.10.13
- 柏木裕之、山田綾乃:「クフ王第2の船・船体部材の構成」 日本オリエント学会第66回大会(ポスター) 24.10.13



日本オリエント学会第66回大会ポスター発表

初期合成染料の導入と染色法に関する研究

研究組織 片渕奈美香 (文化遺産国際協力センター)

目 的 近代染織品の保存修復や展示に関わる課題として、染織品に用いられている初期合成染料自体の堅牢性の乏しさに加えて、当時まだ確立していなかった染色法にも問題があったことが考えられる。本研究では、明治期に刊行された染色技術書を用いて、当時の日本で使用されていた染料を調査することを目的とする。また、このような染色技術書には染色見本が貼付されているものがあり、こうした染見本を対象に科学的調査を行う。

成 果

3年計画の1年次である令和6年度は、明治期の染色技術書に関わる文献調査を主に行った。

国立国会図書館デジタルコレクションを使用して、明治期(1868-1912)に刊行された染色技術書について調査した。オンライン上の検索画面で、キーワード検索を行い、書誌情報に染料、染色法を含み、明治時代に出版されたものを検索した結果、1,942件あった。これらの中から、さらに書名に染色法を含むものを検索した結果、31件が所蔵されていた。これらはNDC分類では、ほとんどのものが、“5技術”に分類されているものであった。検索結果中、一番古いものは1877(明治10)年の『西洋染色法』で、訳本であったが、それ以降は、海外へ染色技術の習得へ派遣された中村喜一郎や山岡次郎らなどの当時の日本人技術者による著作が見られた。

次に、これらの書籍についてデジタル画像を確認し、書籍の中に色見本が付いているか確認した。その結果31件中、書籍の中に色見本が付いているのは7冊あった。これらの見本には、染料名が付されているものもあれば、色名や慣用名が付いていた。また、デジタル画像で確認した限りでは、ページの抜けや染見本の状態が悪いものも見られた。



中村喜一郎著『堅牢染色法』に付された染色見本の例

古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化

研究組織 宇高健太郎 (客員研究員)

目 的 古典的膠について諸用途適性までを含め広範に体系化する。該材料は、従来製品には見られなかった、淡色かつ不光沢、高浸透性、といったその性状から、様々な文化財修復案件において活用されている。本研究では、その継続的・恒常的利用を可能にすべく安定的製造方法の検討を進める。またその代表的応用材料である墨及び煤等その材料について、製造条件と性状の関連を明らかにする。さらに書画表現等に及ぼす影響を検証し、関連知見の一般化と応用展開を目指す。

成 果

膠試料の調製を多様な原料処理や抽出の諸条件において進めた。牛皮由来膠調製における暗色化に関して、毛乃至表皮組織等由来の微細組織混入が主要因子のひとつであると考えられ、当該研究課題における成果等を踏まえ過年度に取得した特許（登録番号 第7216429号）は、その解決を図ったものである。当該方法による剃毛後表皮除去処理牛生皮や、洗浄及び破碎等処理を行なった鹿角片を原料として、試料の調製を行なった。抽出に際しては過年度研究に準じてチタニウム製抽出容器乃至硝子製ビーカーと温度調整装置等を使用し加熱を行なった。各試料の性状を検証し、また過年度試料群と照合のうえ、膠製造における原料処理や抽出等の諸条件と、成果物の性状及び成分等の関係を、さらに広範に検証した。当該材料調製方法について、さらなる効率化及び品質安定化を進めた。また膠の代表的な応用材料である墨等や、膠とともにその主要原料である煤について、走査型電子顕微鏡 (SEM) 及びレーザー回折散乱 (LD) 式粒度分布測定装置を用いて粒子径及び凝集体規模の測定を進めた。一般に煤及びカーボンブラック類は、凝球状の一次粒子と、それらが葡萄房状に結合したアグリゲート (aggregate、一次凝集体)、さらにそれらが van der Waals 力等によって凝集したアグロメレート (agglomerate、二次凝集体) 等からなる構造を備え、こうした構造の様態によっても煤の性質は様々に異なる。研究代表者は過年度実験において、『古梅園墨談』(松井和泉掾元泰, 1713)、『日本山海名物圖會』(平瀬徹斎, 1797)、『天工開物』(宋応星, 1637)、『墨譜』(李孝美, 宋代)、『墨經』(伝 晁貫之, 宋代) 等の記録を参照のうえ、日本及び中国の古典的諸方法の再現による油煙煤及び松煙煤調製実験を行ってきた。また既成製品や二次加工品についても分析を行ない、当該材料種における製造条件と製品の基本的性状の関係や、それらと書画材料乃至印刷材料等としての性能の関係について広く検証を進めた。一部煤等試料について、LD を用いて求めた凝集体規模を図1に例示する。こうした煤の様態や性能等に関する知見は、製墨や書画制作、またそれらと関連した技術の解明や復元、書画等文化財の

制作背景や基盤技術の解明、保存、美術史的検証等においてさらなる応用・活用が期待される。

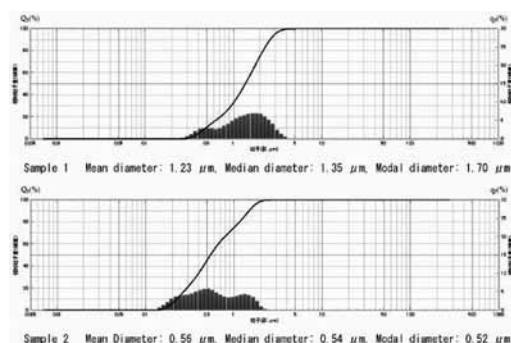


図1 一部煤等試料における凝集体規模 (LD)

発 表

- 宇高健太郎、平諭一郎、寺師太郎、佐藤信博、碓彩音、間瀬康夫：「松煙煤及び膠を用いた近似墨液インクによる書画出力技術の開発」 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学 24.6

講演・講義等

- UDAKA Kentaro: 「Science and Applications of Animal Glue and Inkstick (*Sumi/ Mo/ Meok*) : Production, Art Practices, and Conservation」. University of Delaware (US); 25.2

刊行物

- UDAKA Kentaro: 「Inkstick (*sumi*) and Classical Animal Glue」. Collagens -Basic Science and Applications. Chap.18. Impress NextPublishing, TUAT. pp.138-149; 24.6
- 宇高健太郎 et al.: 「若冲の三大超絶技巧 Jakuchu's 超絶技巧、二」『和樂』10・11 (No.218) pp.156-159 24.9

上掲諸発表は科研費課題番号23K00951による成果と合わせて実施したものを含む。

組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討

研究組織 水谷悦子（保存科学研究センター）

目的 本研究は、一般にRC構造物に用いられる脱塩手法である電気的脱塩手法の組積造建造物への適応可能性を検証するものである。セメント系材料と本研究で対象とする煉瓦では水分移動特性や材料表面の物理化学的特性が異なるため、適切な脱塩条件を知るためには、まずは組積造建造物における塩と水に含有状況の把握とともに通電・無通電時におけるレンガ内での塩と水分の輸送性状を明らかにする必要がある。

成果

1. 組積造建造物における塩類風化の実態調査

海水の毛管上昇に伴う塩類風化が懸念される煉瓦倉庫を対象に、塩の析出による損傷とそれに影響因子を明らかにすることを目的に現地調査を実施した。調査項目は下記に示す。

本調査では、壁体における含水率および塩分濃度、塩の析出や消失挙動（潮解もしくは溶解を含む）、析出塩類の種類、損傷進行度について、壁体の高さ方向や季節的变化に着目して分析を行った。現在は得られた調査結果を基に、煉瓦倉庫の保存整備計画に関する協議を進めている。

○モニタリング項目

- 壁体の温度、含水率、電気伝導率の経時変化
- 定点カメラによる壁面のタイムラプス撮影
- 剥落片量の測定
- 屋内外の温湿度の測定
- 写真測量による壁面の三次元モデルの作成と損傷進行の定量評価
- 析出塩の同定

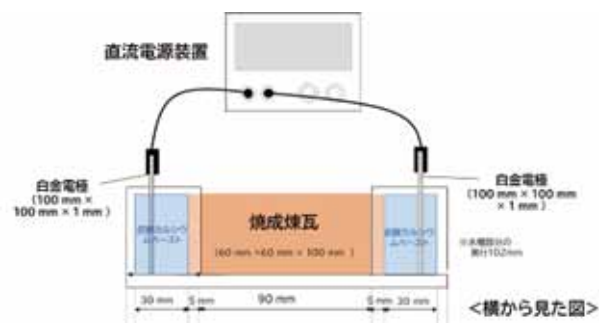


図 煉瓦倉庫におけるモニタリングの様子

2. 通電に伴うレンガ内の塩分布の評価

煉瓦試料を対象に、電気化学的脱塩実験を行い、その効果の検証を実施した。あらかじめNaCl水溶液を含ませた煉瓦の両端に20Vの電圧をかけることにより電気泳動による脱塩処理を行った。脱塩実験後の煉瓦内の塩の分布は、イオンクロマトグラフ(IC)分析と蛍光X線分析(XRF)による元素マッピングを併用して分析を行った。脱塩後の炭酸カルシウムペーストの内の抽出液のIC分析から、20V、67時間通電した場合は、ナトリウムイオンは初期含有量の約71%、塩化物イオンは約83%が除去されることが確認された。また無通電の試料と比較した場合、ナトリウムイオンでは約2.5倍、塩化物イオンでは約4倍の脱塩効果が得られ、電気化学的脱塩手法の有効性が示差された。今後、実際の建造物への適応を見据え、施工方法の確立に加え、壁体構造や含有塩量に応じた脱塩条件の最適化が課題となる。

せた煉瓦の両端に20Vの電圧をかけることにより電気泳動による脱塩処理を行った。脱塩実験後の煉瓦内の塩の分布は、イオンクロマトグラフ(IC)分析と蛍光X線分析(XRF)による元素マッピングを併用して分析を行った。脱塩後の炭酸カルシウムペーストの内の抽出液のIC分析から、20V、67時間通電した場合は、ナトリウムイオンは初期含有量の約71%、塩化物イオンは約83%が除去されることが確認された。また無通電の試料と比較した場合、ナトリウムイオンでは約2.5倍、塩化物イオンでは約4倍の脱塩効果が得られ、電気化学的脱塩手法の有効性が示差された。今後、実際の建造物への適応を見据え、施工方法の確立に加え、壁体構造や含有塩量に応じた脱塩条件の最適化が課題となる。



脱塩実験の模式図



20V, 67時間通電後のNaとClの分布

3. 国内の組積造建造物の保存と修理に関する調査

国内の組積造建造物（トヨタ産業技術記念館、京都国立博物館明治古都館、湊川隧道ほか5か所）において、壁面劣化状態や保存修理に関する調査を実施した。

初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討

研究組織 片渕奈美香 (文化遺産国際協力センター)

目 的 近代染織品に用いられている初期合成染料を始めとする当時の新規素材は、様々な外的要因に対する堅牢性の乏しさが経験的に指摘されるが、その詳細については明らかでない点が多い。本研究では、明治期の日本で用いられた主な初期合成染料を対象として、染織文化財の保存修復・展示に関わる外的要因の中でも、とくに重要であると考えられる光による染色堅牢性や変退色に関わる知見や情報収集を行うことを目的とする。

成 果

研究期間を1年延長し、最終年度である本年度は、途中であった初期合成染料の変退色挙動に関わるデータの整理・分析と成果報告を行った。

1. ハイパースペクトルカメラ

未露光の染色布と段階的に光により強制劣化させた変退色サンプル布を、ハイパースペクトルカメラ(NH-1S、エバ・ジャパン社製)を用いて撮影した。次に、解析ソフトウェア(HSAnalyzer、エバ・ジャパン社製)を使用して反射スペクトルを算出した。さらにこれらの反射スペクトルについて、解析ソフトウェア(Igor Pro)でSavitzky-Golay法に基づくスムージングと二次微分を行った。以上により、得た反射スペクトルおよび二次微分スペクトルの露光による変化を検討した。

その結果、試料布には退色と変色が共に生じていた。また反射スペクトルでは不明瞭であったピークが、二次微分すると明確になり、とくに明瞭な一つのピークが見られた。この理由として、合成染料は単一の色素で構成されることに由来すると考えられる。また染色布に変退色が起こっても、二次微分反射スペクトルが極大、極小となる波長の値は、大きく変化しないことも分かった。どの程度の変退色まで検出が可能か、さらに検討が必要であるが、色の劣化が進んだ染織文化財の染料調査において、染料推定に二次微分反射スペクトルが有用であると考えられる。さらに、染織品を調査対象とした既知データの作成においては、染料の混用や媒染剤の種類の影響についても検討が必要である。なお本結果は、学会発表を行った。

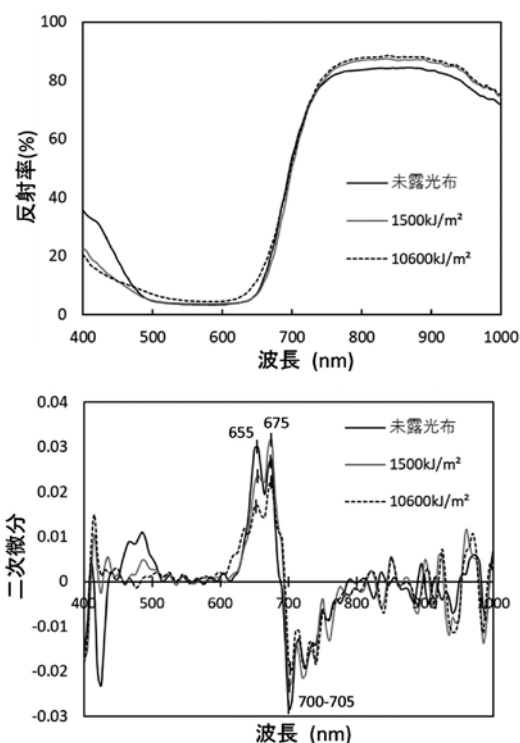
2. フーリエ変換型赤外分光光度計 (FTIR)

強制劣化前後の化学的変化の有無を調べるため、フーリエ変換型赤外分光光度計(ALPHA、BRUKER)を用いて測定を行った。試料は紙の台紙に固定し、装置のスペーサーに測定箇所を接触させて測定し、露光に伴う吸収波長の変化やそのシフトを確認した。

その結果、絹地のたんぱく質に関わる情報はある程度得られたが、染料の情報については検出することが出来なかった。今回の染色布は濃色で染めているが、布の状態では、染料の官能基は、絹と比べて量的に少なすぎると考えられる。この対処法として、染色布から染料を抽出して濃縮し、粉末としてKBr錠剤法などで測定する方法が考えられるが、今回の実験では、FTIRの特徴的なピークから、露光による化学構造変化などの情報を得るのは難しいことが分かった。

発 表

- 片渕奈美香、紀芝蓮、寺島海、犬塚将英：「ハイパースペクトルカメラを用いた変退色サンプル布の反射分光分析」第46回文化財保存修復学会大会 24.6.22



Basic Violet 1 (Methyl Violet) の反射スペクトル (上) と二次微分反射スペクトル (下) の露光による変化

日本音楽合奏における「間」：多様な拍の伸縮をめぐって

研究組織 鎌田紗弓 (無形文化遺産部)

目 的 伝統芸能では、実践とともに現われては消えていく時間的表現（リズム）は、しばしば「間」の工夫と語られる。その実態は種々の「合わせる」文脈に基づくものだが、合奏におけるパート間の拍の相対的な配分やその調整方法についての基礎データは蓄積されてこなかった。本研究では、合奏における「間」がどのように構成され実践されているかを、音楽構成、演奏時のタイミング・動作同調に注目して探る。

成 果

1. 音楽構成をふまえた実演データの分析
 - 昨年度収録した長唄囃子《京鹿子娘道成寺》の視聴覚データおよび生理学データ2テイクについて、先行研究（蒲生2000, 配川2016, 配川・坂本2023他）に基づくセクション区分を設けたうえ、演奏時のタイミングと動作同調について分析を進めた。
2. 半構造化インタビューの分析
 - タテ（首席奏者）をつとめた実演協力者を中心として行ったインタビュー記録をまとめ、多様な段から成る《娘道成寺》の音楽構成に沿って、担当する役割ごとの意識の違いや、共通するトピックを抽出した。
3. 調査研究の成果発信
 - 上記1・2を照らし合わせた成果と今後の課題について、1月の国際学会および2月の研究会で発表した。

発 表

- Sayumi Kamata, Kazutoshi Kudo: Timing and coordination in nagauta-bayashi music. International Council for Traditions of Music and Dance, 48th World Conference (Tākina Wellington Convention and Exhibition Centre) 25.1.14
- 鎌田紗弓：「パフォーマンスの「間」：伝統音楽合奏を実証的に分析する」 第25回芸能文化研究会（渋谷スペース）25.2.16

洪水常襲地における水害経験の地域史と 災害文化形成プロセスの解明

研究組織 後藤知美(無形文化遺産部)

目 的 洪水常襲地である関東地方では水害は日常生活を脅かす身近な危機であり、水害発生を前提とした生活様式が育まれてきた。また関東地方は地域住民中心の水害対策が講じられてきた一方で、明治時代以降、近代土木技術を用いた行政主導の大規模な河川改修工事が行われたという側面ももつ。本研究では、地域の生活のなかで育まれてきた災害対応のための知識や工夫の総体「災害文化」の形成・変遷過程を、近代以降の河川行政の変遷や地域の水害経験の歴史と関連付けることで実証的に明らかにする。

成 果

1. 加須市・古河市の河川工事絵馬に関する詳細調査
 - ・古河市立歴史博物館にて、埼玉県加須市および茨城県古河市に所在する河川工事絵馬4点について、東京文化財研究所職員（早川泰弘・城野誠治）の協力を得て、高精細撮影および蛍光エックス線分析による顔料調査を実施した。調査を実施した絵馬は以下の通りである。

調査対象資料一覧

資 料 名	所在市町村	所有者
利根川工事図	埼玉県加須市	鷲神社
渡良瀬川重助裏護岸工之図	埼玉県加須市	鷲神社
渡良瀬川護岸工図	埼玉県加須市	鷲神社
谷中村堤防工事図	茨城県古河市	八幡神社



2. 災害予防林に関する現地調査(茨城県常陸大宮市)
 - ・茨城県常陸大宮市を流れる久慈川流域に広がる竹林は、久慈岡地区の人々によって整備されてきた水害防備林である。江戸時代後期、村の庄屋等を中心に竹の植林をすすめ、河川氾濫による村への被害を軽減させようとしたのが、竹林の始まりと伝わる。

令和4年度から開始した資料調査を経て、この久慈岡地区の竹林が地区の人々が組織する共同組合によって管理されてきたことが明らかになっている。地区の人々は、水害予防林としての機能を維持するため竹林の管理を行ってきたのである。同時に竹林の竹材を販売することで、組合が収入を得ていたことも分かっており、竹林は地域を守るとともに暮らしを豊かにする共有資源としても継承されてきた。令和5年度には、地元教育委員会の協力もあって大正・昭和時代に竹林を管理してきた共同組合に関する歴史的資料を現地調査することができた。

今年度は昨年度に引き続き、組合資料の写真をもとにその記述内容について翻刻を行った。また、あわせて現在、竹林の利活用を進めている久慈岡地区有志の方々にお会いし、竹林に関する取り組みや近年の水害被害の状況についてうかがう現地調査を実施した。



写真：調査の様子

協働的な博物館活動に関する研究 —オランダ「共有の文化遺産」概念の検証

研究組織 邱君妮 (客員研究員)

目 的 近年、博物館の「脱植民地化」を実現させるための視点として、「多様性」「公平性」「アクセシビリティ」「包摂性」(diversity, equity, accessibility, inclusion; DEAIと呼ばれている)の実践が重視されている。その場合、国際間の協調と連携が求められ、「さまざまな立場を持つ人びと」との協働的な活動の方法論を構築する必要がある。本研究では、オランダで推進されている「共有の文化遺産」という概念と博物館活動を取り上げ、検証を行い、博物館における「さまざまな立場を持つ人びと」が協働でき、多様な視点が包摂できる方法論を提示することを目標とする。

成 果

2年目である本年度は「共有の文化遺産」に関する博物館活動の実態分析および「論争のある歴史認識について語り合う研修」(Training Sharing Stories on Contested Histories)の参与観察を行った。

- オランダのワールドミュージアム・アムステルダム(旧熱帯博物館)を中心に調査を実施した。ここでは、「共有の文化遺産」の概念がどのような博物館活動で用いられ、どのように博物館活動に影響を与えたのかについて、当該博物館の関係者への聞き取り調査を行った。
- 第三者の立場から本年度の「論争のある歴史認識について語り合う研修」(Training Sharing Stories on Contested Histories)で参与観察を実施した。この研修では、関係者に対して多視点の包摂や協働関係に関する意識や考え方がどのように影響を与えたかについて、研修プログラムのスタッフとして参画し、異なる立場の関係者や研修参加者への聞き取り調査を行った。
- 調査研究の進捗に応じて、成果を論文として公開し、ICOM国際博物館会議の研究集会に参加し、研究情報を国際的に発信した。

論 文

- Jenny Chun-ni Chiu, Doing History: An Observation of Inclusive Museum Practices in the Netherlands, Historical Taiwan (28) pp.141-164, 24.11



「論争のある歴史認識について語り合う研修」で参与観察
(ワールドミュージアム・アムステルダム博物館での見学、討論の様子)

日本における土地利用計画に準拠した史跡環境の評価および保護に向けた研究

研究組織 松浦一之介(文化遺産国際協力センター)

目 的 近年わが国では、景観を含む面的な文化財保護が模索されるが、関連する法整備が美観形成や観光振興を主眼とするため、文化遺産的価値に基づく景観保護は未確立といえる。こうした背景から本研究は、日本国内の史跡とその周辺の土地利用計画に関する規定を分析し、これらを遺跡の景観的価値と環境の適切な評価に有効な手段として再編成する検討を行う。景観との関係で遺跡を保護するための道筋を示すことを目指す。

成 果

1. 土地利用との関係で遺跡を保護するための調査研究
 - ・令和6年度は、昨年度の調査研究において「顕著」又は「良好」と評価した国指定史跡の周辺環境の中から下記の地域について現地調査を実施した。

日程：9月25日

地域：岩手県／北上盆地南部

(一関本寺の農村景観、毛越寺、中尊寺ほか)

日程：9月27日

地域：山梨県／甲府盆地東部

(甲斐国分寺跡、勝沼氏館跡、丸山塚古墳ほか)

日程：11月14日～16日

地域：奈良県／奈良盆地東部

(大和古墳群、石舞台古墳、元興寺ほか)

日程：2月1日～2日

地域：奈良県／奈良盆地北部

(平城宮跡、日本遺跡学会現地見学会に合わせ)

- ・現地調査の結果、昨年度に実施した史跡周辺(半径500m)の環境評価は概ね妥当と理解することができたものの、一定の地理的単位における人間の知覚は、その設定範囲外に及ぶものであり、そこに所在する他の史跡との視覚的関係性に大きく左右されることを確認することができた。
- ・昨年度の調査では、10の事例研究候補地を選出していたが、現行の土地利用に関する規定が遺跡の「景観的価値」や「環境」を保護する上でどのように有効か／無効かを評価するためには、これらの実態を明確にする必要があると判断した。したがって、おもな事例研究の対象地域は、わが国における保護制度史の上で最古、かつ史跡数の上で最多の奈良盆地のみとし、これまで平城京域及び大和古墳群周辺の2地域における1900年代初頭以降の土地利用の変遷を調査した。

2. 無形文化との関係で遺跡を評価するための調査研究

- ・現在、現地保存が困難と指摘される近世・近代の遺跡について、1921(大正10)年から史蹟指定が模索さ

れるものの後年廃園した江戸三名園の一つ「蓬萊園」について、当時の園の評価が庭園としての有形面とそこで行われる伝統的な活動など無形面との有機的な関係を認識していた一端を明らかにし、当該遺跡を保存するための視点について提言するための論文をまとめた。

論 文

- ・松浦一之介：「蓬萊園の遺構 一都市における近世・近代の遺跡を保護する視点一」『先史学・考古学論究』IX pp. 445-457 25.2



顕著な周辺環境と評価できる大和古墳群・西山塚古墳(奈良県天理市)



西山塚古墳の墳丘上から藤原宮跡(特別史跡)及び大和三山(名勝)方面の眺望

瀟湘八景の受容研究 絵画・建築・庭園

研究組織 武瀟瀟 (文化遺産国際協力センター)

目 的 中国で成立した「瀟湘八景」は、室町時代に日本で最も流行した水墨山水画のテーマである。絵画に限らず、文学、庭園など、多様な分野に取り入れられ、東アジア文化圏における文化の伝播―受容と変容―の研究にとって重要な位置を占める。本研究は、瀟湘八景という画題の日本での受容を、文学、絵画、庭園など、領域横断的な視点から研究し、瀟湘八景の日本での受容の様相を解明し、総合的に全貌を把握することを目指している。

成 果

1. 中世庭園・建築の現地調査

- 10月24日から10月25日にかけて、夢窓疎石作庭の伝承がある岐阜県加茂郡富加町に所在する東香寺の庭園および、岐阜県多治見市に所在する永保寺庭園と建築について現地調査を実施した。後者は夏珪の「溪山清遠図」(台北故宮博物院所蔵)をはじめとする中国絵画、及びその図様を伝承する一連の室町時代水墨画(瀟湘八景図を含め)に類似しており、庭園と絵画の関係について新たな課題を見出した。

2. 絵画作品調査

- 2月26日から28日にかけて上海博物館の所蔵する本研究と関係のある中国・日本絵画について、調査を実施した。
- 中国絵画：南宋時代の「晩景図」および李嵩款「西湖図」を調査した。前者は、室町時代の瀟湘八景図の図様や構成の源流をたどる貴重な作例とされている。後者については、瀟湘図との比較対象となる西湖図を中心に、李嵩款「西湖図」を精査し、東京国立博物館所蔵の「瀟湘臥遊図」との関連性について考察を行った。
- 日本絵画：これまでほとんど調査・展示されたことのない、同館所蔵の日本絵画とされる指定品15件(20点)についても調査を実施した。その中で、雲谷派による「溪山樓閣圖軸」(西湖図)を確認した。

3. 文献上の考察

- 2024(令和6)年には、瀟湘八景が日本に伝来し、中世以前に広く受容されたことに関する文献の収集と分析を中心に研究を進める中で、瀟湘地域以外の中国の「名所」にも視野を広げ、上代唐絵に描かれた中国の著名な景勝地について考察を行い、論文の一稿を提出した。6年度には、査読意見を踏まえて大幅に修正を加え、出版に至った。

4. 研究成果の普及

- 日本における瀟湘八景の受容について、文化遺産国際

協力センターのコラムで一般向けの記事を執筆し、研究成果をより広い読者へ発信した。

論 文

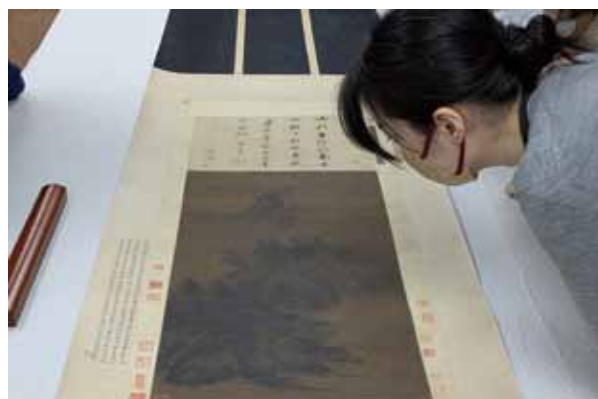
- 武瀟瀟：「第1章 平安時代に描かれる中国の『名所』『名所の誕生 「名」を与えられた風景』思文閣出版 25.3

記 事

- 武瀟瀟：「『瀟湘八景』から見る異文化受容と再創造」文化遺産国際協力センター HP 25.2



永保寺庭園の無際橋



絵画を調査する様子

文化遺産国際協力コンソーシアム事業

研究組織 友田正彦、金井健、五嶋千雪、金子雄太郎、藤井郁乃、米山大三郎、五十畑亜貴子（以上、文化遺産国際協力センター）

目 的 文化遺産国際協力コンソーシアム（以下、コンソーシアム）が掲げる、「海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する」という目標のもと、事務局として各種分科会活動や情報データベースの構築、シンポジウム・研究会の開催等を行うことによって、日本の文化遺産国際協力を支援・促進する役割を担う。

成 果

1. コンソーシアムの会議の開催
 - ・運営委員会を2回開催し、コンソーシアム全体としての活動方針等を協議したほか、総会の開催に代えて、本年度の事業報告を会員に送付した。
 - ・企画分科会、地域分科会（東南アジア・南アジア、西アジア、東アジア・中央アジア、欧州、アフリカ、中南米）を計17回開催した。
2. 情報収集と情報発信
 - ・第34回研究会「学校教育と文化遺産」を東京文化財研究所で開催し（9月28日）、動画の公開、報告書の刊行を行った。
 - ・第35回研究会「文化遺産保護と奈良文書－国際規範としての受容と応用－」を東京文化財研究所（ライブ配信併用）で開催し（11月28日）、動画の公開、報告書の刊行を行った。
 - ・シンポジウム「〈モニュメント〉はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」を東京富士大学（ライブ配信併用）で開催し（11月30日）、動画の公開、報告書の刊行を行った。
 - ・文化遺産保護の国際情勢に関する情報収集とコンソーシアム活動の発信のため以下の国際会議に出席した。
 - －世界遺産ヤングプロフェッショナルフォーラム 2024（インド：7月14日～23日）
 - －ユネスコ世界遺産委員会（インド・ニューデリー：7月24日～31日）
 - －ACCU奈良国際会議「世界文化遺産とオーセンティシティ」（奈良市：12月18日～19日）
 - －群馬県・日本イコモス「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム（高崎市：1月10日～11日）
 - －奈良文化財研究所国際シンポジウム「ウクライナの文化遺産と戦災」（奈良市：1月19日）
 - ・会員向けのメールニュースを配信したほか、WEBサイト、SNS、メールニュース等を通じて、コンソーシアム活動のPRを行った。
3. 文化遺産国際協力推進に資する調査
 - ・2024年に文化遺産保護関係の法制度と組織体制を

抜本的に変更した韓国を対象に、その実態や国際協力への影響の把握を目的とした現地調査を行い（9月2日～7日）、報告書を刊行した。

- ・「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」の改訂に向けた提言を行った。

報 告

- ・金子雄太郎：「世界遺産ヤングプロフェッショナルフォーラム二〇二四参加記」『月刊文化財』 令和6年12月号 pp.46-48 24.11
- ・金井健：「文化遺産国際協力コンソーシアム令和6年度研究会・シンポジウムにみる採択30周年を迎えた〈奈良文書〉をめぐる言説のいま」『日本イコモス季刊誌（オンライン）』 2025年春号 25.3.8

発 表

- ・藤井郁乃：「近年の活動傾向および共有議題について」西アジア分科会、東・中央アジア分科会 24.10.16

刊行物

- ・『2023 Symposium “50 years of World Cultural Heritage: Past and Future of Japan's contribution”』 24.12
- ・『Report on the 33rd Seminar “International trends in safeguarding cultural heritage”』 25.3
- ・『第34回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 学校教育と文化遺産』 25.3
- ・『Report on the 35th Seminar “30 years of the Nara Document in the Global Context of Heritage Conservation”』 25.3
- ・『令和6年度シンポジウム「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興』 25.3
- ・『令和6年度国際協力調査 韓国の遺産保護に係る制度改革および国際協力体制に関する調査報告書』 25.3
- ・文化遺産国際協力コンソーシアムパンフレット 25.2
- ・小冊子『日本の文化遺産国際協力』 24.6

備 考 本事業は文化庁より委託された。

文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業 「デジタル技術を用いたバーレーンおよび湾岸諸国における文化遺産の記録・活用に関する拠点交流事業」

研究組織 安倍雅史、浅田なつみ、山田綾乃、黒岩千尋、長尾琢磨、柴田みな、山淵愛、平田薫（以上、文化遺産国際協力センター）

目 的 バーレーン政府ならびに湾岸諸国の文化遺産専門機関からの要請に従い、人材育成のための研修事業として、文化遺産の3Dデジタル・ドキュメンテーションに関するワークショップ、UAV写真測量の実習、日本の博物館、史跡におけるAR、VR、デジタル・コンテンツの活用に関するスタディー・ツアーを実施した。

成 果

文化庁が公募する令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業に「デジタル技術を用いたバーレーンおよび湾岸諸国における文化遺産の記録・活用に関する拠点交流事業」が採択され、人材育成のための研修事業を実施した。

期 間：10月21日～31日

招聘者数と専門：

バーレーン3名（情報工学、考古学、保存修復）
オマーン1名（保存修復）
サウジアラビア1名（考古学）
クウェート1名（考古学）
エジプト1名（考古学）

1. 文化遺産の3Dデジタル・ドキュメンテーションに関するワークショップ中・上級編

前年度同文化庁受託事業においてバーレーンで初級編のワークショップを実施し、すぐに中・上級編の開催を望む声と近隣諸国からの参加希望が寄せられたため、対象を湾岸諸国とエジプトに広げて行った。本ワークショップは、文化遺産分野における調査研究や記録、公開における3Dデジタル・モデルの急速な普及に応じて、3Dデジタル・ドキュメンテーションの技術を研修生に移転することを目的としている。主に博物館収蔵資料や考古遺物を写真測量できるようになることを目指し、3日間の講義と実習が行われた。同時にLiDARによる計測手法の紹介や文化遺産分野での活用事例も講義された。本ワークショップには、講師として、公立小松大学の野口淳准教授、産業技術総合研究所の中村良介氏、（株）デザイニウムの秦優氏、路上博物館の森健人氏を迎えた。

2. UAV写真測量の実習

大型の資料や建物、広範囲の史跡などを写真測量やLiDAR計測で記録するためには、UAV（無人航空機）を使用することが多い。中部大学の渡部展也教授に講師を依頼し、各自がドローンを操作し、指定した範囲を自動航行機能を使って記録する手法を学んだ。

3. 日本の博物館、史跡におけるAR、VR、デジタル・コンテンツの活用に関するスタディー・ツアー

3Dデジタル・ドキュメンテーションによって取得したデータを調査研究や文化遺産の保護だけでなく、博物館や史跡の公開や学習、観光面に幅広く活用するための事例見聞のためスタディー・ツアーを実施した。一行は、広島平和記念資料館、Peace Park VR Tour、宮島、京都、大塚オーミ陶業株式会社、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館、東京国立博物館、文化財活用センターなどを訪問した。

3つのプログラムによる研修を終え、研修生らは文化遺産の3Dデジタル・ドキュメンテーションにかかる技術とその活用事例を学んだ。自国ではさっそく発掘調査の日々の状況記録に写真測量やLiDAR計測を使用したり、遺跡の測量のためUAV飛行を実施するなど、習得した技術が活かされはじめている。またより多くの現地専門家に特定の技術指導を求める声が上がっているため、湾岸諸国それぞれのニーズに応じた個別研修への展開を見込んでいる。

備 考 本事業は文化庁より委託された。

国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務

研究組織 犬塚将英、朽津信明、秋山純子、早川典子、佐藤嘉則、芳賀文絵、倉島玲央、島田潤、西田典由、水谷悦子、大和あすか、紀芝蓮（以上、保存科学研究センター）、片山葉子、宇高健太郎（以上、客員研究員）、千葉毅（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）

目 的 国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施する。

成 果

○壁画の制作技法に関する事項

- 5年度までに調査の安全性の評価を行ったハイパースペクトルカメラを用いて、奈良文化財研究所とともに、西壁女子群像が描かれている壁画の彩色材料の分析調査を実施した。
- 高松塚古墳壁画の保存活用に資するため、模擬試料を複数種作成し、材料の耐久性の評価と数値解析に用いる物性の整理を行った。
- 壁画の維持管理方針やその具体的内容について、科学的・学術的な助言を文化庁へ行った。また、維持管理の作業内容を検討するため、修理施設等で文化庁及び関係者との協議を行った。
修復処置を施した代表的な箇所4点につき、目視状態観察と測色を含めた経過観察を継続的に行った。
- 壁画の修理作業に関する各種データの整理とアーカイブ化を行い、報告書を作成し、刊行した。また、資料保管庫の運用を開始した。

○壁画の保存環境の維持管理に関する事項

- 高松塚古墳壁画を良好な環境で保存活用するため、修理施設の温湿度、及び空気質、浮遊粒子、浮遊微生物、付着微生物、並びに落下微生物（年2回）、生息生物のモニタリング調査（年4回）を実施し、適切な保存環境の維持管理を行った。
- 高松塚古墳壁画が適切な場所で保存管理・公開が行われることを見据え、これまでの環境調査データを基にして古墳壁画の保存環境管理指針の策定に関する研究を行った。



ハイパースペクトルカメラを用いた西壁女子群像の調査風景

○その他

- 国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ4名を派遣し、立会い説明等を行った。
- 古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を2回開催した。
- 文化庁主催の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第35、36回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

備 考 本事業は、文化庁より委託された。

特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務

研究組織 犬塚将英、朽津信明、秋山純子、早川典子、佐藤嘉則、芳賀文絵、倉島玲央、島田潤、西田典由、水谷悦子、大和あすか、紀芝蓮（以上、保存科学研究センター）、片山葉子、宇高健太郎（以上、客員研究員）、千葉毅（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）

目 的 特別史跡キトラ古墳から取り出された壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施する。

成 果

特別史跡キトラ古墳から取り出された壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○キトラ古墳壁画の制作技法に関する事項

- これまでの分析調査から得られたデータの解析と今後の壁画面のモニタリングの検討を奈良文化財研究所とともに行った。
- キトラ古墳壁画の保存活用に資するため、壁画構成部材の物性評価を行った。

○キトラ古墳壁画の保存環境の維持管理に関する事項

- 再構成されなかった漆喰片を含むキトラ古墳壁画（5面）の最適な保存管理方法について、キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館四神の館内）などで、関係者の協議を行い、必要な指示を行った。
特に6年度は、再構成されずに保管されている辰巳申についての処置を開始したため、その点について国宝修理装演師連盟と連携を取りつつ、指導助言を行った。また、泥に転写された午の処置についても今後についての協議を開始した。
- キトラ古墳壁画の保存管理に最適な設備環境に関し、保存科学・生物学等の観点から、必要な検討を行い、壁画の適切な保存・活用のための知見を提供した。

備 考 本事業は文化庁より委託された。



辰・巳・申の漆喰片強化処置

ワット・ラーチャプラディット拝殿漆屏の 現地保存に関する調査

研究組織 二神葉子(文化財情報資料部)、佐藤嘉則、島田潤(以上、保存科学研究センター)、藤井義久(客員研究員)

目 的 タイ・バンコクに所在する王室第一級寺院ワット・ラーチャプラディット・サティットマハシマラムの日本製漆屏部材について、望ましい保存環境と虫害等の対策を含む、拝殿内の漆屏部材の保存に関する調査及び計画の提案を行う。

成 果

タイの首都バンコクに所在するワット・ラーチャプラディット・サティットマハシマラム(以下、「ワット・ラーチャプラディット」)は、ラーマ4世によって1864(元治元)年に建立された王室第一級寺院である。同寺の拝殿の窓及び出入口の扉には、伏彩色螺鈿もしくは彩漆蒔絵が施された、漆塗りのパネル状の部材(以下、「漆屏部材」)がはめ込まれており、一部でも現存する漆屏部材の点数は伏彩色螺鈿67点、彩漆蒔絵32点にのぼる。これまでに当研究所が実施した調査を通して、これらの漆屏部材は寺院建立の直前、1862(文久2)年頃に日本で制作されたことが確認されており、これらはタイのみならず日本にとっても重要な美術作品といえる。東京文化財研究所は2011(平成23)年以来、この漆屏部材の保存修復に関する技術支援、及びタイ所在日本製漆工品や漆工材料も含む関連の調査研究を行っている。

漆屏部材は2021(令和3)年以来、タイ文化省芸術局(以下、「芸術局」)により本格的な修理が行われている。同寺がタイの人々にとって重要な祈りの場であることから、修理後は収蔵施設ではなく、拝殿内の同じ位置に戻される予定である。しかし、拝殿に空調設備はなく、温湿度等の環境は博物館施設のように制御されていない。また、部材の一部には虫害の痕跡が見られるため、修理後の漆屏部材が置かれる環境として保存上の課題があると考えられる。

以上のような理由から、当研究所がワット・ラーチャプラディットから、漆屏部材の望ましい保存環境と虫害等の対策を含む、拝殿内の漆屏部材の保存に関する調査及び計画の提案を行うよう依頼を受け、当研究所及び同



ワット・ラーチャプラディットに設置された屏部材修復のためのラボ

寺の間で、受託研究実施のための覚書を7月11日付で締結した。

同寺での創建160年記念行事、及びタイからの海外送金規則の変更による入金の変遷、これに伴う日程調整の都合により令和6年度には現地調査は実施せず、漆屏部材の修理事業を担当する芸術局の専門家に対し、現地で木材に食害を及ぼすような虫の発生時期、修理のために扉から取り外した漆屏部材からの虫の検出の有無、修理前の漆屏部材の処理の方法について、情報提供を依頼するなど、連絡調整を行った。1回目の現地調査は2025(令和7)年6月上旬ごろを予定している。

備 考 本事業は、ワット・ラーチャプラディット・サティットマハシマラムより依頼された。

墨田区No.105遺跡から出土した 近代布製品染料・繊維分析

研究組織 犬塚将英、早川典子、西田典由、紀芝蓮、寺島海（以上、保存科学研究センター）、安倍雅史、片渕奈美香（以上、文化遺産国際協力センター）

目 的 墨田区No.105遺跡から、原型を保った黒色の布地が複数出土した。本研究の目的は、これらの布地がどのような素材からなり、どのような染料で染色されていたのかを解明することである。

成 果

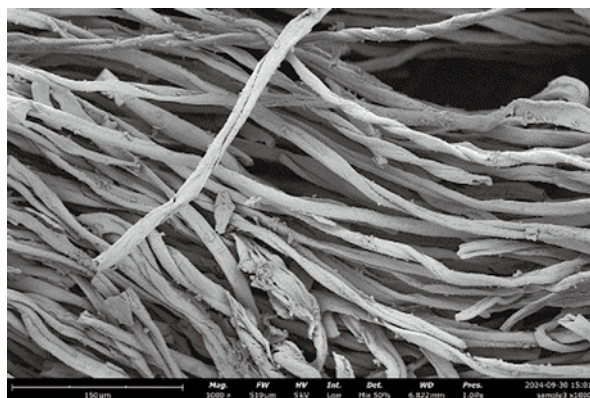
墨田区No.105遺跡から、原型を保った黒色の布地が複数出土した。本研究では、これらの布地がどのような素材からなり、どのような染料で染色されていたのかの解明を目的とする。

1. 出土した布地の材料に関する知見を得るために、顕微赤外分光分析装置・顕微レーザーラマン分光分析装置・蛍光X線分析装置・X線回折装置などを用いて分析を行った。
2. 繊維の構造を詳しく調べるために、電子顕微鏡観察を行った。
3. 以上の分析結果及び観察結果に基づき、受託研究受託元と協議を行い、歴史的な背景等の知見等と照らし合わせて考察を行った。
4. 東京文化財研究所で得られた調査結果は、次年度以降に、墨田区から発行される調査報告書にて公開される予定である。

備 考 本事業は国際文化財株式会社より委託された。



出土した布資料



出土した布の電子顕微鏡観察結果

旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鏝絵保存修復調査

研究組織 前川佳文（文化遺産国際協力センター）、ダニエラ・マリア・マーフィー、シモーナ・カレッチャ、ステファニア・フランチェスキ
ーニ（イタリア国家認定文化財保存修復士）

目 的 国内における鏝絵は、一般的に左官業者によって修理されることが一般的であるが、機能性の回復に重点を置いた介入がなされることから、文化財としての価値や、制作時に使用された素材との適合性への配慮に欠くなど問題点は多い。当該調査研究業務は、こうした課題に取り組み、改善点を見出すことを目的とする。

成 果

1. 事前調査

当該事業では国外から専門家を招聘し、文化財保存学の観点から捉えたうえでの鏝絵の保存修復に適した方法について協議し、科学的調査も取り入れながら研究を進めた。また、現状における損傷状況を鏝絵の制作技法や材料、周辺環境等と照らし合わせながら解析し、発生要因の特定や抑制方法の検討を行った。

2. 保存修復計画の立案

事前調査が得られた情報をもとに保存修復計画を立案した。調査の過程においては、損傷箇所の補強や表層面付着物のクリーニングを中心とした施工実験を行った。その結果、鏝絵に適した保存修復方法の開発に加え、過去に実施された修理が原因で発生した問題を特定した。

3. 保存修復の実施

研究調査を通じて得られた成果をもとに立案した保存修復計画に沿って、研究協力者である国外の専門家に依頼のもと、保存修復処置を施した。なかでも、無機修復材料を用いた鏝絵全体への補強処置や、欠損箇所への補彩作業については国内で初の事例となり、高い注目を集めた。今後、保存状態については経過観察を続けながら、修復材料の適合性や安定性について検証する必要があるが、改善点を見出すという当初の目的は達成できたといえる。

4. 報告書

調査研究の内容についてとりまとめた。

発 表

- 前川佳文ほか：「旧機那サフラン酒本舗鏝絵の保存修復」文化財保存修復学会第46回大会 24.6.23

刊行物

- 『令和6年度 旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鏝絵の保存修復に関する研究』 25.3



無機修復材料を用いたバック法



保存修復前後の様子

備 考 本事業は長岡市より委託された。

美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業

研究組織 犬塚将英、早川典子、倉島玲央、西田典由（以上、保存科学研究センター）、江村知子、小山田智寛、山永尚美（以上、文化財情報資料部）、前原恵美、菊池理予、小田原直也（以上、無形文化遺産部）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）、田良島哲（客員研究員）ほか

目 的 美術工芸品修理において必要とされる用具や材料の今後の供給が危ぶまれている。生産者が極めて減少してきており、後継者がいない場合も多く、今後の供給の確保に関する事業の緊急性が高まっている。本事業では、美術工芸品保存修理に関する情報のアーカイブ化を行うとともに、生産者の支援と、周辺自治体等からの理解を高めるため、これらの用具材料に関する記録とその科学的裏付け調査をしつつ、人材育成等の協力を行う。

成 果

美術工芸品修理に必要とされる用具や材料の今後の供給懸念から、本事業では、美術工芸品保存修理に関する情報のアーカイブ化、用具・材料に関する記録とその科学的裏付け調査をしつつ、人材育成等の協力を行った。

1) 文化財修理を支えるネットワーク構築

6年度は、5年度より継続して染織品に関する実態調査を行った。海外で染織品保存科学・修理を学んだ研究者・修理技術者との協議会を開催し（12月5日）、宮内庁正倉院事務所保存整理室を見学し意見交換を行った（12月18日）。

2) 修理記録や用具・原材料の生産技術の記録のアーカイブ化

将来の保存修理事業や、保存修理に関する調査研究の材料として再利用できるように、アーカイブを構築する。6年度は、公刊された報告書等に基づく国指定文化財の美術工芸品の修理情報6,389件のデータベースを作成し、ウェブサイトで公開した（3月31日）。また実際の修理報告書などのデジタル化にも着手し、関係者と協議を重ねながらデータベースとの紐付け作業を行った。

3) 用具・原材料の安定的な供給・使用に向けた研究（科学研究・技術の記録化）

5年度に引き続き宇陀紙の原料であるノリウツギについて、協力連携先の標津町での保存方法・トロロアオイとの差異などについて研究を行い、学会発表した。また、武田薬品薬用植物園よりご提供の椿灰について、その内容成分分析を行い安全性を確認した。装束文化財で使用されてきた湿潤状態小麦デンプンの安定供給の懸念が明らかになったため、乾燥した小麦デンプンとの比較検討、さらに、表装裂に用いる伝統染料について、安定性の確認試験を行った。

彫刻刃物の使用方法については、砥石による手入れの記録映像を美術院にて撮影した。加えて、株式会社小信の彫刻刃物を用いた木彫製作技術の撮影も行った。これらの映像は、彫刻刃物製作技術の記録映像と併せて7年度に編集し、記録映像「普及編」としてウェブサイトでの公開を計画している。

フノリの採取・加工（5月7～8日、7月22～23日）、

鑿金具製作に必用な魚々子鑿・蹴彫り鑿製作研修（8月26日、選定保存技術「美術工芸品鋳金具製作技術」保持者・松田聖の後継者・松田浩佑）、さらに、亀井剛（同「時代裂用綜統製作」保持者）・鳥原雄治（同「金銀糸・平箔製作」保持者）（12月10日）の記録撮影を行った（いずれも7年度編集、関係者と協議の上ウェブサイト等で公開計画中）。5年度撮影の技フェアでの「美術工芸品の匠」（23年11月18日）、株式会社小信による彫刻刃物製作方法の記録映像「記録編」を編集、ウェブサイト上で公開した（3月4日）ほか、5年度作成の「齊藤和芳氏（株式会社小信）インタビュー記録」（報告書）を再編集、ウェブサイト上でPDF公開した（3月11日）。5年度に撮影した同工房の3D画像をウェブサイトで公開し、約1年で381件のアクセスがあった。

4) 人材育成・情報発信

2月5日に、研究報告会を開催した。フノリの生産地の対馬において漁協関係者に向けて、フノリの文化財用途の説明会を開催した（5月6日）。さらに、東文研一般公開（5月18日）や、学会での講演や大学での講義の際に、本事業（特にネリに関する取り組みについて）の紹介を行った。また、修理記録データベースを構築し、公開した（3月31日）。



公開ウェブサイト

備 考 本事業は文化庁より委託された。

Getty・リサーチ・ポータルへのデジタル資料の提供・公開

研究組織 橘川英規、江村知子、米沢玲、田代裕一郎、浅野真知（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子（客員研究員）

目 的 本事業は、アメリカ・Getty研究所との共同研究によって、日本美術史研究に関する基礎資料のデジタル化とウェブ公開を行うものである。現在47の大学・美術館等専門機関が協力する、美術に関するデジタル図書のポータルサイト「Getty・リサーチ・ポータル」(<https://portal.getty.edu/>)を通じて、日本美術史研究に関する基礎資料を国内外に発信することで、日本美術への理解向上に貢献することを目的としている。2016（平成28）年2月に共同研究に関する協定書を締結して以降、近代美術の展覧会資料や江戸時代の版本など2,178件の図書等のデジタル化、オープン・アクセス化を実施し、その書誌情報をGetty研究所に提供してきた。本事業の発展性・効率性が認められたことにより、2021（令和3）年に共同研究に関する協定書を延長し、事業を継続している。

成 果

本事業では、海外の日本美術史研究者、特に初学者に対して有益な情報提供となるように、Getty研究所副所長のキャスリーン・サロモン氏、プロジェクト担当者のメーガン・サラベラ氏らとデジタル資料の提供・公開に2016（平成28）年から取り組んできた。令和5年度に本事業の対象として合意した以下（2）～（5）のコンテンツ追加を進めた（（1）は令和5年度実施完了）。

- （1）前田青邨文庫
- （2）貴重書（和書）
- （3）貴重書（洋書）
- （4）近現代展覧会カタログ（1945年以前刊行）
- （5）古美術展覧会カタログ（1945年以前刊行）

（2）～（4）のうち719件の書誌情報を整備し、Getty・リサーチ・ポータルに掲載するため、Getty研究所に提供した。また（5）の書誌情報整備を進めた。

備 考 本事業は、Getty研究所と共同で実施した。



Getty・リサーチ・ポータルのトップ画面



本事業でデジタル化した資料：浅井忠画『黙語西洋画集』（芸艸堂、1910年）

バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復

研究組織 前川佳文（文化遺産国際協力センター）、ダニエラ・マリア・マーフィー（文化協会バステオーニ）、ステファニー・フランチェスキニ（壁画保存修復士）、マリア・レティツィア・アマドーリ（ウルビーノ大学）

目 的 ミャンマーのバガン遺跡は、11世紀から13世紀にかけて栄えたビルマで初めての統一王朝バガン朝の時代に建てられた仏教遺跡群である。遺跡内には煉瓦造の仏塔や寺院が約3,000基建ち並んでおり、その中のひとつであるローカティパン（Loka-Hteik-Pan）寺院の内壁は、12世紀前半に描かれた仏教壁画で埋め尽くされている。本研究では、このうち南壁に描かれた壁画を対象にその技法材料や損傷傾向の調査を行い、適切な保存修復方法を確立することを目的とする。

成 果

本事業は、対象の寺院祠堂壁画の保存修復を目的とするが、現地の治安情勢が不安定であることから渡航が困難であると判断し、事業全体を来年度に繰越すこととした。

備 考 本研究は、公益財団法人住友財団の助成を得た。

無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究

研究組織 今石みぎわ、前原恵美（以上、無形文化遺産部）、犬塚将英、倉島玲央（以上、保存科学研究センター）、蒔田明史（秋田県立大学）、村上由美子（京都大学総合博物館）

目 的 本研究は、日本の無形文化遺産（芸能や伝統的な技術）を支える樹木の採取・加工の技術に着目し、失われつつあるこれらの技・民俗知を調査・記録し、科学分析等も用いながらその意義を再評価することを目的とする。また調査の過程で関係者間のネットワークを構築し、危機にある現状をより多くの人に具体的に知ってもらうことで、ともに課題解決の道を探り、文化の継承に繋げることを目指すものである。

成 果

1. 現地調査

最終年度である本年は、文献調査と併行し、以下のとおり現地調査を行った。

和傘口クロの原材料であるエゴノキ材調達の課題等について、聞き取り調査を5月に実施した。エゴノキの虫害が深刻であることから、保存科学研究センターの職員に同行いただき、実態調査および助言を行った。

文化財保存箱の原材料であるキリ材調達の課題等の聞き取り調査を5月に行い（京都）、シンポジウムの実演につなげた。

編組品の素材としてのイタヤカエデの木材利用に関連し、比較のためアケビとコシダによる籠の調査を、それぞれ5月、7月に行った。

6月には現地調査とシンポジウム開催準備を兼ね、岩手県においてサルナシとヤナギ樹皮による箕の原材料確保に係る課題や実態を調査した。

筆簾の蘆舌の原材料であるヨシについては、実演家への聞き取り調査（5月、大阪）、ヨシの新たな需要開拓を含めた利用の実態調査（7月、大阪）を行い、後者はシンポジウムの報告および実演につなげた。加えて適材とされる上牧・鶴殿以外に、西の湖、北上川、渡良瀬遊水地のヨシで蘆舌を製作・試演して比較したほか、断面観察による産地による特性の分析を行った（いずれもシンポジウムで現状報告した）。併せて蘆舌製作工程の記録撮影を行った（次項参照）。

2. 映像制作

本事業の中で撮影した映像素材の編集を実施し、5件の映像を制作した。このうち3本は著作権者の許諾を得て、東京文化財研究所ウェブページにて公開した。ほかの映像はシンポジウムで放映した。

3. シンポジウムの開催と報告書の刊行

原材料が入手困難になっている実情とその背景を広く周知し、課題解決に向けて共に考えていくネットワークを構築することを目的に、一般向けシンポジウム

「森と支える知恵とわざ―無形文化遺産の未来に向けて」を8月9日に東京文化財研究所において実施し、定員を大きく超える105名の参加を得た。プログラムは以下のとおり。

【実演・解説】

「カエデ類でつくる小原かご（滋賀県）」荒井恵梨子（作り手）
「サルナシとバッコヤナギでつくる面岸箕（岩手県）」延原有紀（作り手）

「ヨシでつくる筆簾のリード」中村仁美（筆簾奏者）

「キリでつくる文化財保存桐箱」小島秀介（美術木箱小島）

「里山の木でつくる削り花」関田徹也（作り手）

【講演】

「文化の基盤としての自然」蒔田明史（秋田県立大学）

【事例報告と総括】

「森を使う知恵と技―籠を例に」今石みぎわ

「素材を育む自然・社会環境―ヨシを例に」前原恵美

「森と職人を繋ぐ―キリを例に」倉島玲央

コメントと総括

村上由美子（京都大学総合博物館）ほか登壇者

シンポジウムの全内容は報告書にまとめ、東京文化財研究所ウェブページにて公開した。

映 像

- 「オオツヅラフジの採取・加工技術」（約11分）
- 「大野のシダ籠」（約11分）
- 「奥丹生谷の木かご―小原かご」（短編約18分）
- 「筆簾の蘆舌製作の記録（長編）」（約33分）
- 「筆簾の蘆舌製作の記録（短編）」（約15分）

刊行物

- 『森と支える知恵とわざ―無形文化遺産の未来のために』
東京文化財研究所 24.9

備 考 本事業は三菱財団の助成（人文科学研究）を得た。

韓国絵画調査写真（東京文化財研究所所蔵）の研究

研究組織 田代裕一朗（文化財情報資料部）

目 的 東京文化財研究所には、関野貞（1867～1935）が1930年から33年にかけて実施した朝鮮絵画調査の資料群がある。この調査は、朝鮮名画展覧会（1931年、東京府美術館）の準備、そして『朝鮮古蹟図譜』14巻（1934年）の刊行に向けて実施されたものである。本資料群は、作品の移動史を検討するうえで貴重な資料であり、また韓国絵画史研究が本格的に始まる前に撮影された「最初期」の写真資料としても資料的価値は高い。本研究はこれらの資料群のスキャンと目録化を実施し、さらに他機関が所蔵する周辺資料と対照しながらその全体像と意義を明らかにするものである。

成 果

本研究の実施期間は、2023（令和5）年9月1日から2024（令和6）年8月31日の予定であったが、1ヶ月の期間延長をおこない、9月30日まで実施した。

本年度は、前年度におこなった基礎研究の内容をもとに、より詳細に資料を検討するとともに、資料集の刊行に向けて最終的な整理作業をおこなった。

1. 調査メモの抜粋翻刻

調査メモのうち、作品の移動史を検討するうえで特に貴重と思われる箇所について、古文書資料の読解に長けた長田和也氏（大東急記念文庫学芸員）の指導助言を得ながら、5月27日、6月24日、7月3日・16日の4回に分けて翻刻作業をおこなった。

2. 韓国・国立中央博物館での資料報告と実見

東京文化財研究所には、台紙貼写真とともにガラス乾板が伝っており、ガラス乾板は調査当時、美術研究所と朝鮮総督府博物館に分蔵された記録が残されている。

現在、韓国・国立中央博物館に伝わる朝鮮総督府博物館のガラス乾板について、目録をもとに分蔵状況の調査をおこなった。その成果をもとに6月18日に同館を訪問し、アーカイブを担当するクォン・ヒョクサン学芸研究士（当時）ほかに資料報告をおこない、さらに当該ガラス乾板の現状を実見する機会を得た。

以上のような取り組みと並行して、研究アシスタントのセオ・ヨンイク氏（コロンビア大学）とともに前年度より取り組んできた資料群のリスト化を終えた。このリストは、具体的には、①当時撮影された作品の現所蔵先、②東京文化財研究所と国立中央博物館に現存するガラス乾板、③調査前後に刊行された関連図録での作品所載状況に関するものである。

このリストに加えて、前年度にスキャンをおこなった18種420枚の台紙貼写真と7種146枚の調査メモの画像、

そして調査メモの抜粋翻刻と「関野貞日記」の関連記事集成を収録した資料集を9月に刊行した。

なお研究期間終了後も、本研究による成果の一部に関する口頭報告を2月におこなった。

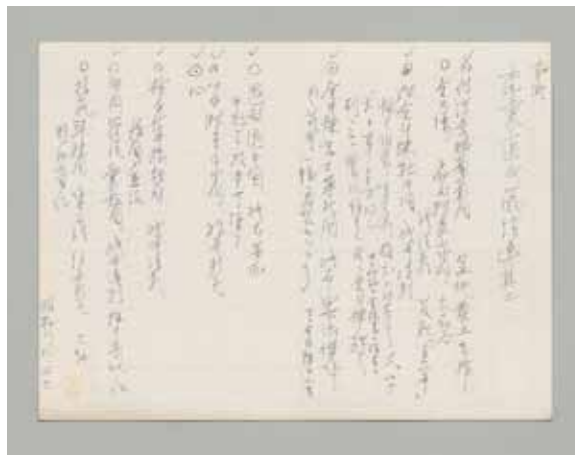
発 表

- 田代裕一朗：「関野貞の朝鮮絵画調査と朝鮮人蒐集家―東京文化財研究所所蔵の調査資料をもとに―」 第10回文化財情報資料部研究会 25.2.17

刊行物

- 『東京文化財研究所所蔵 韓国絵画調査資料 資料集』 24.9

備 考 本研究は、国外所在文化遺産財団（韓国）の助成（国外韓国文化財海外研究支援事業）を得た。



関野貞調査メモ「京城 李秉直氏藏絵画 其二」

1933（昭和8）年8月26日付

※当時の代表的な朝鮮人蒐集家である李秉直（イ・ビョンチク）の所蔵品を調査した際のメモである。本調査メモの翻刻を資料集に収録し、また翻刻を通して明らかになったことを2月に口頭報告した。

歴史的建造物のデジタル3次元計測に関する研究

研究組織 浅田なつみ（文化遺産国際協力センター）、加戸啓太（千葉大学大学院）、野口淳（公立小松大学次世代考古学研究センター）、白石明香（埼玉県立さきたま史跡の博物館）

目 的 本研究は、歴史的建造物の保全に関わる様々な段階におけるデジタル3次元計測の活用の可能性について、実践を踏まえながら検討するものである。歴史的建造物の調査研究、修理設計や施工管理、維持管理、情報公開など、歴史的建造物の保全に関わる各段階において、様々な既存のデジタル3次元計測手法を用い、実際のフィールドでの活用手法やその適性、効果や限界を検証する。

3

成 果

1. 実 践

歴史的建造物の保全におけるデジタル3次元計測の活用方法を検討するため、以下3件について、3次元レーザースキャナー、3次元写真測量、iPhone LiDARなどで計測を行った。3次元レーザースキャナーの使用については、共同研究者の野口淳准教授を通じて産業技術総合研究所の協力を得た。

(1) 東京都台東区 桜縁荘（協力：NPO法人たいとう歴史都市研究会、個人所有者）

大正期頃に建築された木造2階建の庭付住宅を対象として、3次元レーザースキャナー、3次元写真測量、iPhone LiDARの3種類の方法で計測を行った。

(2) 東京都台東区 平櫛田中アトリエ（協力：NPO法人たいとう歴史都市研究会、井原市）

大正期頃に建築された木造2階建の元住宅兼アトリエの建物を対象として、3次元レーザースキャナーで計測を行った。

(3) 千葉県芝山町における成田空港の大規模拡張に伴う地域資料の緊急保全活動（協力：北総地域資料・文化財保全ネットワーク、芝山町教育委員会、千葉大学工学部 額原研究室）

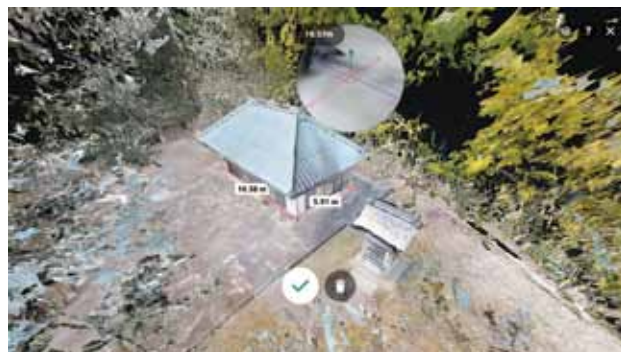
成田空港の大規模拡張に伴う集落移転により失われる歴史的建造物および地域景観を対象として、3次元レーザースキャナーによる計測を実施した。今後、歴史的建造物および地域景観の記録保存の在り方について、協力者らと共に検討を行う予定である。

2. 情報収集

HBIMや3次元モデルの活用を先行して実践している実務者らに、オンラインや対面でヒアリングを行った。また、竹中工務店の協力を得て、平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事の現場見学および施工現場におけるHBIMの活用等に関する意見交換会を行った。



3次元レーザースキャナーを用いた境内景観撮影の様子



3次元レーザースキャナーで記録した移転予定の寺院境内

備 考 本研究は、(公財)KDDI財団の助成を得た。

鳥居など伝統的な木造外構の生物劣化の非破壊診断技術の確立

研究組織 藤井義久(客員研究員)、佐藤嘉則、島田潤(以上、保存科学研究センター)

目 的 木造鳥居など伝統的な木質外構における腐朽や虫害といった生物劣化について非破壊診断技術の確立を目指す。本研究は木造鳥居に注目し、その調査を行い、生物劣化の種類、程度や範囲や進行性の一次診断を実施する。続いて非破壊的手法である穿孔抵抗測定、応力波による断層画像診断などの二次診断を行う。一次、二次診断の結果の相関性を検討し、診断手順や判定基準を明らかにする。

成 果

1. 木造鳥居の倒壊事例の調査

2010(平成22)年以降の報道やインターネットのニュース情報の検索から、木造鳥居の損傷や倒壊事例として13件を検出することができた。13件の殆どは台風などの風によって倒壊していたが、柱脚部分の劣化(腐朽)が関与していると推定された。また風や地震などの外力がない状態で倒壊した事例も1件あった。

2. 既往の木造鳥居の劣化調査結果の分析

藤井らが、過去において実施した木造鳥居の調査事例(福岡市(1基)、広島県廿日市市(1基)、埼玉県大宮市(1基)、大津市(2基)、大阪府堺市(1基)、京都市(約60基))を分析し、木造鳥居(主に神明鳥居形式)の劣化の特徴を抽出した。生物劣化(腐朽や虫害)が発生しやすい部分は、柱脚、柱頭、貫穴、笠木であることがわかった。柱脚では、地際から上方に向かって、腐朽や蟻害が発生しやすく、構法・仕様や地下水位と関連して土中部分が腐朽している場合もあった。また柱脚の保護のための根巻がある場合については、根巻内部に雨水が浸潤し、腐朽している場合があった。柱頭木口は、多くの場合金属板で覆われているが、金属板と木部の隙間からの雨水の浸潤により腐朽している場合があった。柱に対して貫が差し込まれる貫穴の周囲についても雨水の浸潤と内部での滞留によって腐朽している場合があった。柱頭部と貫穴部の腐朽が一体化している場合もあった。笠木は、金属板で被覆の場合や、箱型の場合があるが、部材の取り付け部分からの雨水の浸潤により腐朽が発生している場合があった。

柱脚部分は、地震力や風力が作用した時に最も大きな曲げびずみが作用する部分であり、かつこの部分に腐朽や虫害によって大きな断面欠損が生じている場合には、倒壊のリスクが高くなる。その一方でこの部位の劣化状態を診断・評価することは難しい。本研究では、非破壊的な手法を含めて、鳥居の劣化診断の可能性を検討した。

3. 木造鳥居の劣化調査

京都市内の神社において、4基の木造鳥居の劣化調査を

行った。調査の手順は以下の通りである。

- 1) 事前準備。 木造鳥居に関するデータを収集し、構造、材料、施工方法、環境や維持管理の履歴などを収集し、診断手順を検討した。
- 2) 一次診断(基礎診断)。視診・触診・打診などによる診断で、劣化部位を抽出し、その種類、範囲、程度や進行性の判定を行った。実際には、鳥居の構造部材の内部の状態をこの診断で完全に把握することは難しいが、隙間や割れ目などがある場合には、ファイバースコープによる内部観察も行う。さらに含水率計測も行う。
- 3) 二次診断(機器診断)。一次診断の結果、内部劣化が推定される場合は、応力波断層画像測定と穿孔抵抗測定で非破壊的に内部の状態を診断した。この時に、倒壊の原因となりうる柱脚での内部状態は可能な限り正確に把握する。特に内部劣化が認められる場合には、有効断面積(特に周囲の有効肉厚)を評価する。穿孔抵抗測定では直径3mmの穿孔があくが、測定後に穿孔には防腐・防虫剤を注入し、木栓で閉じる。また超音波断層撮像ではセンサを突き立てるための浅い小孔が表面にあく場合があるが、これを避けるための緩衝パッドを用いる。
- 4) 三次診断(精密診断) 二次診断までで倒壊リスクに対する判定は可能であると思われる。しかし、内部の強度(密度)低下や空洞化が確認された場合には、その原因を明らかにしておく必要がある。特に腐朽や虫害については、進行性判定をしておくことが望ましい。内部から多少の検体の採取を採取し、観察や分析によって、劣化の種類や進行性判定を行う。

4. 木造鳥居の劣化調査手順

以上の結果を総括して、木造鳥居の劣化診断手順をまとめ、今後公開する予定である。

備 考 本研究は、公益財団法人松井角平記念財団の助成を得た。

楽と舞：雅楽実践の身体コミュニケーション

研究組織 鎌田紗弓（無形文化遺産部）、工藤和俊（東京大学大学院総合文化研究科）、宮田紘平（国立研究開発法人理化学研究所）、高岡明（桜美林大学芸術文化学群）、清水大地（神戸大学人間発達環境学研究科）、Martin Clayton、Simone Tarsitani（以上、英国ダラム大学音楽学部）

目的 本研究の目的は、日本の伝統芸能・雅楽の視聴覚／生理学データおよび演者の語りを収録分析し、身体コミュニケーション（呼吸・動作同調）の実態を解明することである。これは、演奏者の内的な美的価値観や意識の探求につながる基礎研究で、すでに科学的データが蓄積されつつある他ジャンルの音楽・舞踊研究との新たな接点をもたらす。

3

外部資金等による研究活動

成果

1. 分析対象演目の決定と実験設計

- 実演協力者へのヒアリングおよび予算検討のうえ、2日間、平舞《萬歳楽》・走舞《陵王》の2演目を対象とした舞楽・管絃の実験収録を立案した。7月から9月にかけて研究組織内でオンライン会議を重ね、収録セッション全体の計画を進めた。

2. 実演協力者へのインタビュー実施

- 9月から10月にかけて、音頭（首席奏者）や舞人を務める実演協力者に、管絃・舞楽の差異、参与する役割による違い、平舞・走舞の特徴などに関する聞き取り調査を行った。

3. 呼吸・身体動作・発音情報の高精度計測

- 9月30日と10月1日、計13名の演奏家の協力のもと、視聴覚データ・生理学データ（呼吸等）・モーションキャプチャデータを同時計測する実験収録を行った。1日目に平舞《萬歳楽》、2日目に走舞《陵王》の複数テイクを収録した。

備考 本研究は、東京文化財研究所・東京大学・桜美林大学・神戸大学・理化学研究所・ダラム大学の共同研究として、三島海雲記念財団 2024年度学術研究奨励金の助成を受けている。



舞楽《萬歳楽》収録の様子



舞楽《陵王》収録の様子

フランス領カンボジア・ベトナムにおける遺跡保存のための「保護区域」概念の生成と展開

研究組織 黒岩千尋 (文化遺産国際協力センター)

目 的 フランス領インドシナでは、多数の遺跡群が植民地化された当初から「モニュメント」として保存の対象となり、宗主国フランスの保存制度が導入された。その過程で制度事項の一部が独自に加筆修正されていることをこれまで明らかにしてきたが、その過程には当時の同地域のモニュメントをめぐる社会背景や課題が表出している。その事例として「保護区域」の概念を対象に、カンボジア・ベトナムの遺跡群での展開の解明と意義を考察することを目的とする。

成 果

1. 各地の史料館での調査

- フランス領カンボジアの遺跡保存制度と適用状況に関する史料調査のため、プノンペンのカンボジア国立公文書館を訪れ、「保護区域」に関する図面1点と史料161枚を収集した(12月5日～10日)。
- フランス領ベトナム(トンキン・アンナン・コーチシナ)の遺跡保護制度と適用状況に関する史料と文献収集のため、ハノイの第一国立公文書センターおよびフランス極東学院ハノイ図書館(12月17日～20日)、ダラットの第四国立公文書センター(2月22日～26日)、ホーチミンの第二国立公文書センター(3月8日～11日)にて調査を行った。
- その他、現地調査前に植民地時代の写真・地図・文書が多数アーカイブ化されている、フランス極東学院とフランス国立図書館のオンラインアーカイブにて史料収集を行った。

2. 遺跡群および周辺地域での事例調査

- フランス領インドシナの初の「保護区域」を導入したカンボジア・アンコール遺跡群にて、区域の設置範囲の意図を明らかにし、遺跡内外の状況の差異を確認するために、寺院や水利遺構等の分布調査を実施した(12月1日～4日)。
- フランス領ベトナムの「保護区域」の導入事例として、ハノイ近郊のキンチュウ洞窟寺院にて遺跡保護および周辺開発状況の確認と周辺住民への聞き取り調査を実施した(12月21日)。同事例として、ダナン近郊のミーソン遺跡群(12月22日)と、ニャチャンのポー・ナガル寺院(2月23日)にて調査を実施した。

3. 成果の発表・報告

2023(令和5)年に実施した遺跡保護制度に関する調査の成果とあわせて東南アジアの考古学・芸術関連の国際学会(SPAFACON2024)にて発表した。その他、令和7年度に国内学会と論文発表を予定している。

報 告

- 北原優、黒岩千尋、下田一太、ニム ソテイーヴン、丸井

雅子：「SEAMEO SPAFA 東南アジア考古学・芸術国際会議 2024 参加速報」『東南アジア考古学』44 pp.59-62 25.2

発 表

- KUROIWA Chihiro: The transition of the systems and organization of "Historic Monuments" in French Indochina during 1900s-1940s, The SEAMEO SPAFA International Conference on Southeast Asian Archaeology and Fine Arts 2024 24.6.12

備 考 本事業は、公益財団法人 村田学術振興・教育財団の助成を得た。



ハノイの第一国立公文書センター



キンチュウ洞窟寺院(ベトナム・ハノイ近郊)

2024年度 美術工芸品修理のための用具・原材料と 生産技術の保護・育成等促進事業報告会

東京文化財研究所では美術工芸品の修理・修復に必要不可欠な用具・原材料のうち、安定的な供給に懸念のあるものについて、調査を行っている。現状を把握し、関係者と協議を行うとともに、材料の物性についての科学研究や、用具の製作技術の記録、また過去の文化財の修理報告書のアーカイブ化を進めている。

本研究会では文化庁補助事業「美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業」の年度報告として、所内の成果報告および関係機関の活動を紹介し、今後の課題について議論をおこなった。

2025(令和7)年2月5日(水) 10:00~16:30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：39名(会場)、83名(オンライン配信)

プログラム：

趣旨説明 犬塚将英(東京文化財研究所)

講演

多比羅菜美子(文化庁)「匠プロジェクトにおける本事業の位置付け」

早川典子(東京文化財研究所)「本事業における科学的調査事例紹介」

西田典由(東京文化財研究所)「紙漉きにまつわる近年の新しい取り組み」

菊池理予(東京文化財研究所)「工芸品修復の現場課題」

坪田勝次(武田薬品京都薬草園)「武田薬品京都薬草園の本事業へのご協力」

前原恵美・小田原直也(東京文化財研究所)「映像を中心とした用具・原材料にかかる記録の試み」

田良島哲・小山田智寛・山永尚美・安原大熙(東京文化財研究所)「事業成果のWEB公開とアーカイブ構築について」

全体討議

モデレーター 江村知子(東京文化財研究所)

パネリスト 多比羅菜美子、早川典子、西田典由、菊池理予、坪田勝次、前原恵美、田良島哲

第34回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 「学校教育と文化遺産」

近年、文化遺産国際協力の現場では、カウンターパートとステークホルダーが相互に連携して持続的な活動とすることの重要性が強く意識されるようになっており、特に児童生徒の教育に文化遺産を組み込むことが、文化遺産保護の足腰を強化する手段、あるいは効果的な国際協力の活動の一つとして注目されるようになっている。本研究会では、将来世代の文化遺産に対する認識の醸成や持続可能な地域社会づくりへの貢献等につながるような国内外の事例を紹介しながら、学校教育が文化遺産国際協力に果たす役割、その方法論や課題等について議論を行った。

日時：2024(令和6)年9月28日(土) 13:00~17:00

会場：東京文化財研究所 セミナー室

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁

参加者：69名

プログラム：

趣旨説明 友田正彦(文化遺産国際協力コンソーシアム事務局長)

講演

澤之向達也(岐阜市立加納小学校)「第4学年社会科学学習の実践(残したいもの 伝えたいもの~白川村荻町集落~)」

増淵麻里耶(京都芸術大学)「後期中等教育における文化遺産教育の意義と課題ー京都芸術大学附属高等学校プロジェクト「歴史遺産」の選択と進路ー」

小林貴徳(専修大学)「ポピュラーカルチャーで学ぶ郷土史と文化遺産の保護ーメキシコ農村部における学習マンガの導入とその効果ー」

丸井雅子(上智大学)「アンコール遺跡における文化遺産シェアにむけての普及教育活動」※ビデオ講演
パネルディスカッション
モデレーター 關雄二(文化遺産国際協力コンソーシアム副会長)
コメンテーター 五月女賢司(大阪国際大学)
パネリスト 澤之向達也、増淵麻里耶、小林貴徳

事業の一部として実施した研究集会・講座等

受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施

第35回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 「文化遺産保護と奈良文書－国際規範としての受容と応用－」

1994(平成6)年に開催された世界文化遺産奈良コンファレンスで採択された「オーセンティシティに関する奈良ドキュメント」(奈良文書)は、建築遺産のみならず遺跡や景観を評価する考え方の一つとして受容され、さらにはアジアやアフリカなど非西洋世界の多種多様な文化遺産保護の正当性の説明にも応用されるようになっている。本研究会は、「奈良文書」30周年を契機として、「奈良文書」が拓いた「オーセンティシティ」の概念が、この30年間に世界の遺産保護の現場でどのように理解され、いかに実践されてきたかを共有することを目的に、専門家・研究者による議論を行った。

日時: 2024(令和6)年11月28日(木) 10:00~17:30

会場: 東京文化財研究所 会議室、オンライン同時配信

主催: 文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁

参加者: 会場55名、オンライン80名

プログラム:

趣旨説明 岡田保良(文化遺産国際協力コンソーシアム副会長)

講演

セッション1: ヨーロッパ

モデレーター 西和彦(文化庁)

発表

ベンジャミン・ムートン(歴史的記念物名誉総監察官・歴史的記念物主任建築家)「ヨーロッパにおける遺産保護のオーセンティシティ」

話題提供

坂野正則(上智大学)「宗教的・感情的遺産と〈オーセンティシティ〉の関係性－パリ・ノートル＝ダム大聖堂修復からの検討」

アレハンドロ・マルティネス(京都工芸繊維大学)「ヨーロッパにおけるオーセンティシティの概念の理解の多様性」

セッション2: アジア

モデレーター 友田正彦(東京文化財研究所)

発表

呂 舟(清華大学)「中国の文化遺産保護におけるオーセンティシティ」

話題提供

ウーゴ・ミズコ(学習院女子大学)「古材の有形的な価値－日本の歴史的建造物の保存修理を例に－」

下間久美子(國學院大學)「日本の文化財保護と世界遺産の仕組みの比較によるオーセンティシティの考察」

セッション3: アフリカ

モデレーター 長岡正哲(ユネスコ)

発表

ジョージ・アブング(ケニア国立博物館)「アフリカにおける遺産のオーセンティシティ」

話題提供

岡崎瑠美(芝浦工業大学)「アフリカにおけるコミュニティ包括型建築遺産」

長岡正哲「現代の遺産論における課題－理論と実践におけるアフリカの遺産の真正性に関する事例研究－」

パネルディスカッション

モデレーター 河野俊行(九州大学/イコモス)

コメンテーター 西村幸夫(國學院大學)

パネリスト 上記発表者及び話題提供者全員

令和6年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム 「〈モニュメント〉はいかに保存されたか： ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」

本シンポジウムは、2019年4月の火災から復興したノートルダム大聖堂が本年12月に一般公開される機会を捉え、木造の復旧を中心とした今回の修復工事において建築遺産の「オーセンティシティ」がどのように認識され、実際の修復方法にいかに関与されたかを振り返るとともに、日本の文化財建造物保護の理念や手法を念頭において採択された「オーセンティシティに関する奈良ドキュメント」(1994 通称、奈良文書)が提起した木造建築や修復技術の「オーセンティシティ」が、今回の修復工事の考え方や修復方法にどのような影響を与えたか、日中仏の専門家による議論を通じて展望した。

日時：2024(令和6)年11月30日(土) 13:00~17:00

会場：東京富士大学二上講堂、オンライン同時配信

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁

参加者：会場74名、オンライン106名

プログラム：

趣旨説明 友田正彦(文化遺産国際協力コンソーシアム事務局長)

基調講演

フィリップ・ヴィルヌーブ(ノートルダム大聖堂修復事業技術者・歴史的記念物主任建築家)

「ベニス憲章と奈良ドキュメントの観点から見たノートルダム大聖堂の再建と修復」※ビデオ講演

ベンジャミン・ムートン(歴史的記念物名誉総監察官・歴史的記念物主任建築家)

「ノートルダム大聖堂：新たなオーセンティシティに向けて」

講演

田原幸夫(京都工芸繊維大学/建築家)「東京駅丸の内駅舎 保存・復原プロジェクト」

呂 舟(清華大学)「文化遺産の保護とオーセンティシティ：大上清宮を例に」

パネルディスカッション

モデレーター 稲葉信子(筑波大学)

コメンテーター ジョージ・アブング(ケニア国立博物館)、長岡正哲(ユネスコ)

パネリスト ベンジャミン・ムートン、田原幸夫、呂 舟

受託研究の一環として刊行された刊行物

『東京文化財研究所所蔵 韓国絵画調査資料 資料集』

本資料集は、東京文化財研究所が所蔵する韓国絵画調査資料(1930~33年調査、台紙貼写真18種420枚・調査メモ7種146枚)に関する研究成果をまとめたものである。日本語 2024年9月刊行、167ページ。

(韓国 国外所在文化遺産財団助成研究の一環として実施)

『Report on the 33rd Seminar “International Trends in Safeguarding Cultural Heritage”』

本報告書は、文化遺産国際協力コンソーシアムが2023(令和5)年11月12日に開催した第33回研究会「文化遺産保護の国際動向」の内容をまとめたものの英語版である。英語 2025年3月刊行、66ページ。

(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行)



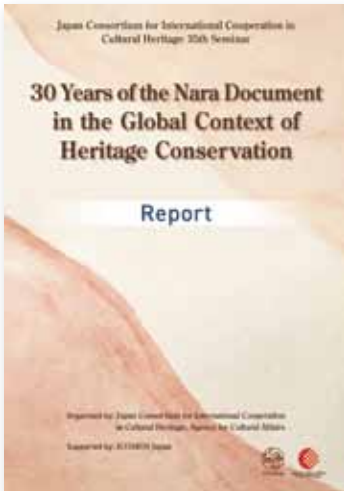
『第34回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 学校教育と文化遺産 報告書』

本報告書は、文化遺産国際協力コンソーシアムが2024（令和6）年9月28日に開催した第34回研究会「学校教育と文化遺産」の内容をまとめたものである。日本語 2025年3月刊行、60ページ。
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）



『Report on the 35th Seminar “30 years of the Nara Document in the Global Context of Heritage Conservation”』

本報告書は、文化遺産国際協力コンソーシアムが2024（令和6）年11月28日に開催した第35回研究会「文化遺産保護と奈良文書－国際規範としての受容と応用－」の内容をまとめたものである。英語 2025年3月刊行、92ページ。
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）



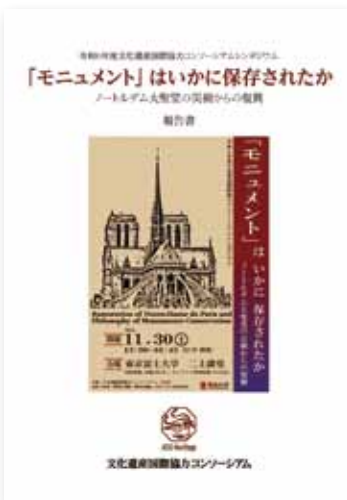
『Report on the JCIC-Heritage 2023 Symposium “50 Years of World Cultural Heritage: Past and Future of Japan’s Contribution”』

本報告書は、文化遺産国際協力コンソーシアムが2024（令和6）年1月20日に京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールで開催した令和5年度シンポジウム「世界文化遺産の50年：日本の貢献のこれまでとこれから」の内容をまとめたものの英語版である。英語 2024年12月刊行、65ページ。
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）



『文化遺産国際協力コンソーシアム令和6年度シンポジウム「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興 報告書』

本報告書は、文化遺産国際協力コンソーシアムが2024（令和6）年11月30日に東京富士大学二上講堂で開催した令和6年度シンポジウム「〈モニュメント〉はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」の内容をまとめたものである。日本語 2025年3月刊行、69ページ。
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）



『文化遺産国際協力コンソーシアム令和6年度国際協力調査 韓国の遺産保護に係る制度改革および国際協力体制に関する調査報告書』

本報告書は、文化遺産国際協力コンソーシアムが2024（令和6）年度に、韓国の遺産保護に係る法制度や組織体制の改革及び同国による国際協力の体制や動向に関する体制を把握するために実施した調査の成果をまとめたものである。日本語 2025年3月刊行、76ページ。
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）



4. 個人の研究業績

凡 例

氏 名

- (1 公刊図書等)
- (2 報告)
- (3 論文)
- (4 解説、翻訳等)
- (5 学会発表)
- (6 講演会、研究会発表等)
- (7 所属学会、委員等)
- (8 教育等)

秋山 純子 | AKIYAMA Junko (保存科学研究センター)

- (3 論文)「Field Survey on Temperature/Humidity Environment and Heat-Source Energy Consumption in an Art Museum with Intermittent Air Conditioning Operation」(伊庭千恵美、水谷悦子、秋山純子、由井和子、田中琴巳)『Multiphysics and Multiscale Building Physics (IBPC 2024)』 pp.18-23 International Association of Building Physics 24.11.27
- (5 学会発表)「冬季における空調の設定温度が保存環境に及ぼす影響について」(秋山純子、水谷悦子、伊庭千恵美、田中琴巳、由井和子)文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「Field Survey on Temperature/Humidity Environment and Heat Source Energy Consumption in an Art Museum with Intermittent Air conditioning Operation」(伊庭千恵美、水谷悦子、秋山純子、田中琴巳、由井和子) International Building Physics Conference-IBPC 2024 24.7.25
- (5 学会発表)「美術館の温湿度環境とエネルギー消費の調査および改善方法の提案 その1 夏季の展示室の温湿度環境の調査」(田中琴巳、伊庭千恵美、水谷悦子、秋山純子) 日本建築学会大会(関東) 明治大学 24.7.25
- (5 学会発表)「美術館の温湿度環境とエネルギー消費の調査および改善方法の提案」(伊庭千恵美、水谷悦子、秋山純子、田中琴巳、由井和子) 空気調査・衛生工学会大会(佐賀) 佐賀大学 24.9.12
- (6 講義)「温湿度環境の調査と解析」第13回文化財IPMコーディネータ資格取得のための講習会 飯田橋レインボービル 24.12.13
- (6 講習会)「第9回保存環境調査・管理に関する講習会—博物館等の空気環境における“のそましい値”の考え方について—」第9回保存環境調査・管理に関する講習会 文化財活用センター 25.3.3
- (7 所属学会等)日本文化財科学会、東アジア文化遺産保存学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等)法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 保存環境ワーキング・グループ専門委員、国立アイヌ民族博物館運営会議構成員、国立アイヌ民族博物館ワーキング会議構成員、埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員

浅田 なつみ | ASADA Natsumi (文化遺産国際協力センター)

- (2 報告)「6. Risk Management of the Central Complex」(KIM Sothin, SIM Thon, SOK Seila, KHEAM Mony, LY Duong, MOY Kosal, NY Som, ASADA Natsumi, KUROIWA Chihiro, TOMODA Masahiko)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor—Progress Report of 2022-2023—』pp.41-56 The Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA) and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「7 Investigation of the Soil Layers of the Eastern Approach Way」(ASADA Natsumi, KANSHA Hiroo, JEONG Seonhye, PARK Sungchul)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor—Progress Report of 2022-2023—』pp.57-64 The Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA) and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「建築」(友田正彦、金井健、浅田なつみ、黒岩千尋、福嶋啓人、海野聡、向井純子)『ブータンの伝統的民家保存のための建築調査 2023年秋調査 概報』 pp.10-53 東京文化財研究所 25.3
- (3 論文)「東京都台東区谷中「花重」保存再生プロジェクト その2:「花重」の明治棟と長屋棟について」(浅田なつみ、渡邊尚恵、椎原晶子)『日本建築学会大会学術講演梗概集』2024 pp.733-734 日本建築学会 24.8

- (3 論文)「東京都台東区谷中「花重」保存再生プロジェクト その1:歴史的建造物再生の協働体制と相互理解の深め方について」(渡邊尚恵、椎原晶子、浅田なつみ)『日本建築学会大会学術講演梗概集』2024 pp.731-732 日本建築学会 24.8
- (3 論文)「ブータンの伝統的民家の建築的特徴と文化財的価値の評価 その2:タシガン県、タシヤンツェ県、モンガル県及びリンツェ県における建築学的調査の概要」(金井健、友田正彦、浅田なつみ、黒岩千尋)『日本建築学会大会学術講演梗概集』2024 pp.753-754 日本建築学会 24.7
- (4 編集)『ブータンの伝統的民家保存のための建築調査 2023年秋調査 概報』 東京文化財研究所 81p 25.3
- (5 学会発表)「東京都台東区谷中「花重」保存再生プロジェクト その2:「花重」の明治棟と長屋棟について」(浅田なつみ、渡邊尚恵、椎原晶子) 日本建築学会大会学術講演会 明治大学アカデミー コモン 24.8.30
- (5 学会発表)「Stone Masonry Technique of Ancient Khmer Craftsmen: A case study of the East Gate in Ta Nei Temple, Angkor」(Natsumi Asada, Sea Sophearun, Masahiko Tomoda, Ken Kanai, Sothin Kim) 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia 京都工芸繊維大学 24.9.12
- (6 発表)「文化遺産国際協力におけるXR技術の活用」(浅田なつみ、長尾琢磨) XRミートアップ東京 東京文化財研究所 24.11.24
- (6 発表)「Architectural Survey on De Pukhu Chhen in Old Kirtipur」 Workshop “Conservation of Historic settlement of Kirtipur” Kirtipur municipal office 24.12.26
- (6 講義)「カンボジア王国アンコール・タネイ寺院遺跡 東門の修復」東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻:修復計画論 東京藝術大学 24.5.16
- (6 講義)「Documentation for Built Heritage Conservation: Case studies for collecting memories」 Heritage Conservation for Future Ferdowsi University of Mashhad 25.3.2
- (6 パネリスト)「ディスカッション」(野口淳、中尾智行、高田祐一、桑山優樹、藤原龍、佐々木宏典、浅田なつみ、長尾琢磨) XRミートアップ東京 東京文化財研究所 24.11.24
- (7 所属学会等) ICOMOS、都市史学会、日本建築学会
- (8 教育)千葉大学工学部非常勤講師

安倍 雅史 | ABE Masashi (文化遺産国際協力センター)

- (1 刊行図書)「古代オリエントとは」(安倍雅史、津本英利、長谷川修一)『古代オリエントガイドブック』 新泉社 pp.4-7 24.9
- (1 刊行図書)「オリエントの気候と風土」(安倍雅史、津本英利、長谷川修一)『古代オリエントガイドブック』 新泉社 pp.8-11 24.9
- (1 刊行図書)「日本の研究者による調査の歴史」(安倍雅史、津本英利、長谷川修一)『古代オリエントガイドブック』 新泉社 pp.12-15 24.9
- (1 刊行図書)「砂漠に暮らした遊牧の民」『古代オリエントガイドブック』 新泉社 pp.64-67 24.9
- (1 刊行図書)「メソポタミアとインダスをむすんだ海洋の王国ディルムン」『古代オリエントガイドブック』 新泉社 pp.84-87 24.9
- (1 刊行図書)「書苑周遊新刊この一冊『水と人の列島史—農耕・都市・信仰』(松木武彦、関沢まゆみ編)」『中央公論2025年2月号』 中央公論新社 pp.176-177 25.1
- (1 刊行図書)「書評『スーダンの未来を想う—革命と政変と軍事衝突の目撃者たち』(関広尚世、石村智 編著)」『季刊考古学170号』 雄山閣 p.111 25.1
- (3 論文)「From Seasonal Hunting Base to Permanent Settlement: Insights from the High-altitude Hormangan Site」(Morteza Khanipour, ABE Masashi)『Near Eastern Archaeology』88/1 pp.4-14 25.3
- (3 論文)「Early Dilmun Burial Mounds in Bahrain: the Wādī al-Sail Archaeological Project and the Dilmun Mapping Project」(ABE Masashi, UESUGI Akinori)『Arabian Humanities』2024/19 (<https://>

doi.org/10.4000/12431) 24.8

- (3 論文)「Eastern Iran Prehistoric Archaeological Project; The Third Seasons of Archaeological Excavation in Kale Kub, South Khorasan Province (2020)」(Mohammad Hossein Azizi Kharanaghi, ABE Masashi)『Quarterly Bulletin of Great Khorasan』15 (55) (<https://doi.org/10.22034/jgk.2023.403121.1129>) 24.8
- (3 論文)「アラビア半島の新石器化—サウジアラビア西北部、マシユーン遺跡の第4次発掘調査とフマイイト遺跡の第1～2次発掘調査(2024)」(藤井純夫、久米正吾、安倍雅史、足立拓朗、野口淳)『2024年度(第32回)発掘調査報告会報告集』 pp.40-43 25.3
- (3 論文)「ディルムンを掘る—パハレーン、ワーディー・アッ＝サイル考古学プロジェクト2024—」(安倍雅史、笠原朋与、長尾琢磨、神野健太)『2024年度(第32回)発掘調査報告会報告集』 pp.63-66 25.3
- (3 論文)「イスラーム墓碑の保存—パハレーンにおける3次元計測調査(2023-2024年)—」(長尾琢磨、山田綾乃、安倍雅史)『2024年度(第32回)発掘調査報告会報告集』 pp.77-80 25.3
- (3 論文)「Excavations at Sarcham, A Multi-Period Archaeological Site in Hawraman Region, Kurdistan Province, Iran」(Amir Saedmuchi, Sirvan Mohammadi Ghasarian, Masashi Abe, Morteza Zamani Dadane, Salman Khosravi, Sariah Amiri, Marjan Mashkour, Mohammad Sedigh Ghorbani, Faranak Bahrololumi, Hossein Davoudi)『Journal of Archaeological Studies』16 (2) pp.151-181 24.12
- (4 編集) (安倍雅史、津本英利、長谷川修一)『古代オリエントガイドブック』新泉社 96p 24.9
- (5 学会発表)「北西サウジアラビア先史時代の打製石器」(安倍雅史、藤井純夫、足立拓朗、上杉彰紀、久米正吾) 日本西アジア考古学会第29回大会 名古屋大学 24.6.15
- (5 学会発表)「パハレーンにおけるイスラーム墓碑の3次元計測調査(第2次)及びワークショップの開催」(長尾琢磨、山田綾乃、安倍雅史) 日本西アジア考古学会第29回大会 名古屋大学 24.6.16
- (5 学会発表)「パハレーン、サール集落遺跡における住居跡の調査」(笠原朋与、長尾琢磨、神野健太、安倍雅史) 日本西アジア考古学会第29回大会 名古屋大学 24.6.16
- (5 学会発表)「パハレーン、ワーディー・アッ＝サイル考古学プロジェクト2024」(安倍雅史、長尾琢磨、笠原朋与、神野健太) 日本西アジア考古学会第29回大会 名古屋大学 24.6.16
- (6 発表)「ワディ・グバイ28S2023F円塔墓の発掘調査」 科研費基盤研究(S) 中東部族社会の起源: アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究 研究会2024 金沢大学 24.7.23
- (6 発表)「謎の海洋王国ディルムン: メソポタミア文明を支えた交易国家の勃興と崩壊」 アンデス文明研究会 東京外国語大学 24.9.21
- (6 発表)「砂漠に暮らした遊牧の民」『古代オリエントの考古学』 朝日カルチャーセンター新宿校 25.3.3
- (6 発表)「メソポタミアとインダスをむすんだ海洋の王国」『古代オリエントの考古学』 朝日カルチャーセンター新宿校 25.3.17
- (6 発表)「ディルムンを掘る—パハレーン、ワーディー・アッ＝サイル考古学プロジェクト2024—」(安倍雅史、笠原朋与、長尾琢磨、神野健太) 第32回西アジア発掘調査報告会 東京文化財研究所 25.3.23
- (6 発表)「イスラーム墓碑の保存—パハレーンにおける3次元計測調査(2023-2024年)—」(長尾琢磨、山田綾乃、安倍雅史) 第32回西アジア発掘調査報告会 東京文化財研究所 25.3.23
- (6 発表)「アラビア半島の新石器化—サウジアラビア西北部、マシユーン遺跡の第4次発掘調査とフマイイト遺跡の第1次～2次発掘調査(2024)」(藤井純夫、久米正吾、安倍雅史、足立拓朗、野口淳) 第32回西アジア発掘調査報告会 東京文化財研究所 25.3.23
- (7 所属学会等) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会
- (8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻准教授

石灰 秀行 | ISHIBAI Hideyuki (文化財情報資料部)

- (3 論文)「WordPressを用いたデジタルコンテンツの長期運用について」(小山田智寛、石灰秀行、二神葉子)『デジタルアーカイブ学会誌』9 (1) pp.15-19 25.2

石村 智 | ISHIMURA Tomo (無形文化遺産部)

- (1 共著) (関広尚世、石村智)『スーダンの未来を想う—革命と政変と軍事衝突の目撃者たち—』 明石書店 204p 24.7
- (1 共著)「Restoration of Intangible Cultural Heritage and Communities after Disasters: Cases of “Soma Nomaio” and “Obori SomaYaki” in Fukushima Prefecture, Japan」『Handbook on Intangible Cultural Practice as Global Strategies for the Future』 Springer Nature pp.561-572 24.12
- (2 報告)「スーダンにおける武力紛争下の文化遺産の保護」(石村智、清水信宏、関広尚世)『日本イコモス季刊誌2024年秋号(ウェブ版)』 URL 日本イコモス国内委員会 24.9
- (2 報告)「能登半島地震と無形文化遺産」(石村智、後藤知美、前原恵美、鎌田紗弓、中川優子、菊池理予、今石みぎわ、山本涼花、久保田裕道)『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-65 25.3
- (3 論文)「第2章 民族の多様性」『スーダンの未来を想う—革命と政変と軍事衝突の目撃者たち—』 pp.35-59 明石書店 24.7
- (3 論文)「第7章 ポストコンフリクト国における文化遺産の復興と平和構築」『スーダンの未来を想う—革命と政変と軍事衝突の目撃者たち—』 pp.161-187 明石書店 24.7
- (3 論文)「クラ交易と貝」『貝の文化(海洋考古学会第14回研究会資料集)』 pp.13-18 海洋考古学会・岡山大学考古学研究室 24.9
- (3 論文)「Introduction」『Proceedings of “Reunion, Rehabilitation, and Revitalization” International Online Workshop for Safeguarding Intangible Cultural Heritage and Living Heritage in Sudan』 pp.9-12 Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 24.12
- (3 論文)「Current Trend of the UNESCO 2003 Convention」『Proceedings of “Reunion, Rehabilitation, and Revitalization” International Online Workshop for Safeguarding Intangible Cultural Heritage and Living Heritage in Sudan』 pp.21-26 Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 24.12
- (4 解説)「太平洋諸島からの視点」『考古学の輪郭(考古学研究会70周年記念誌)』 pp.72-73 考古学研究会 24.4
- (4 解説)「生きている遺産としてのイラブー」『映画『沖縄久高島のイラブー』パンフレット』 pp.8-9 文化財映像研究会 24.6
- (4 解説)「シンガトカ大砂丘」『オセアニア文化辞典』 pp.64-65 丸善出版 24.10
- (4 解説)「ラピタ人とラピタ土器」『オセアニア文化辞典』 pp.208-209 丸善出版 24.10
- (4 解説)「ウィランドラ湖群地域(マンガ湖)」『オセアニア文化辞典』 pp.570-571 丸善出版 24.10
- (4 解説)「シドニー・オペラハウス」『オセアニア文化辞典』 pp.576-577 丸善出版 24.10
- (4 解説)「トンガリロ国立公園(ニュージーランド)」『オセアニア文化辞典』 pp.578-579 丸善出版 24.10
- (4 解説)「ヤップの石貨(ミクロネシア連邦)」『オセアニア文化辞典』 pp.594-595 丸善出版 24.10
- (4 解説)「12 世界遺産・文化遺産・観光 概説」『オセアニア文化辞典』 pp.566-567 丸善出版 24.10
- (4 編集) (棚橋訓、須藤健一、山本真鳥、飯高伸五、風間計博、窪田幸子、黒崎岳大、丹羽典生、深山直子、石村智、石森大知、梅崎昌裕、小野林太郎、桑原牧子、橋本和也、古澤拓郎、山口徹)『オセアニア文化辞典』 790p 丸善出版 24.10
- (4 編集)『Proceedings of “Reunion, Rehabilitation, and Revitalization” International Online Workshop for Safeguarding Intangible Cultural Heritage and Living Heritage in Sudan』 106p Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 24.12

- (4 記事)「『海ノ民話』はレガシーとなり得るのか?」『海ノ民話の世界』 pp.147-151 文藝春秋 24.7
- (4 記事)「[書評] デヴィッド・グレーバー、デヴィッド・ウェングロウ著、酒井隆史訳『万物の黎明：人類史を根本からくつがえす』」『日本オセアニア学会Newsletter』139 pp.15-18 24.7
- (6 発表)「芸能とキネシオロジー—実演者の身体的運動の解析について—」科学研究費事業「マテリアマインド：物心共創人類学の構築」第2回全体会議 岡山大学 25.1.11
- (6 講演)「Okinoshima Island in the context of the maritime network around the Japanese Archipelago」The 1st International Review Meeting on the 2nd Special Research Project for the World Heritage Site "Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region": "Maritime Networks: Exchange and Changes in Rituals and Beliefs" ACROS福岡 24.12.21
- (6 講義)「Japan's Intangible Cultural Heritage and Safeguarding Strategies」台湾・東海大学特別講義 東海大学(台中) 24.5.14
- (6 講義)「Conflict and Intangible Cultural Heritage」International Training Course (ITC) on Disaster Risk Management of Cultural Heritage, Ritsumeikan University in collaboration with ICCROM 立命館大学 24.9.6
- (6 司会)「総合司会」イザイホー再考—王権儀礼と民俗祭祀の観点から— 紀伊國屋ホール 24.5.5
- (6 司会)「総合司会」ドキュメンタリーにおける記録と表現—沖縄久高島の自然と文化を後世に伝えるために— 紀伊國屋ホール 24.5.6
- (6 司会)「総合討議」IRCI国際シンポジウム「持続可能なまちづくりと無形文化遺産：アジア太平洋地域における文化遺産の統合的保護の視点」同志社大学 24.10.11
- (6 司会)「セッションチェア」IRCI国際会議「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム国際会議：無形文化遺産保護研究の新領域」国立民族学博物館 25.2.13-2.15
- (6 パネリスト)「パネルディスカッション」シンポジウム「こころのインフラ」を守る 私たちができること：ふるさとの文化財を災害から救うために 高岡市生涯学習センター 24.10.20
- (7 所属学会等)ICOMOS、沖縄文化協会、考古学研究会、史学研究會、東南アジア考古学会、日本オセアニア学会
- (7 委員等)考古学研究会常任委員、日本オセアニア学会庶務担当理事
- (8 教育)金沢大学人間社会環境研究科客員准教授、筑波大学大学院人間総合科学研究群世界遺産学学位プログラム非常勤講師
- 石渡 美鈴 | ISHIWATA Misuzu (アソシエイトフェロー)
- (3 論文)「The Use of Textured Japanese Paper as a Filler for Leather Conservation: Exploring an Alternative to BEVA® 371」(Jonathan Kemp)『AICCM Bulletin』 pp.1-13 <https://doi.org/10.1080/10344233.2025.2458946>
- (4 解説)「コラム 文化財に筆を載せるまで」『文化遺産国際協力センター HP』 <https://www.tobunken.go.jp/kokusen/column-2024-04/> 文化遺産国際協力センター 25.3
- (4 解説)「Column Behind the Scenes of Conservation: Colour Matching」『文化遺産国際協力センター HP』 <https://www.tobunken.go.jp/kokusen/en/column-2024-04/> 文化遺産国際協力センター 25.3
- (4 編集・校閲)『在外日本古美術品保存修復協力事業「熊野曼荼羅」No. 2020-2』 96p 東京文化財研究所 25.3
- (4 翻訳)「3.1 Conservation Report in 3 Conservation」『The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas, Kumano Mandala, No. 2020-2』 pp.56-73 東京文化財研究所 25.3
- (4 翻訳)「3.2 Extended Conservation Report in 3 Conservation」『The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas, Kumano Mandala, No. 2020-2』 pp.82-89 東京文化財研究所 25.3

(7 所属学会等)Australian Institute for the Conservation of Cultural Materials

犬塚 将英 | INUZUKA Masahide (保存科学研究センター)

- (2 報告)「高松塚古墳壁画に関する分析調査」『国宝高松塚古墳壁画修理報告書』 pp.92-93 東京文化財研究所 25.3
- (3 論文)「キトラ古墳壁画の泥に覆われた部分の分析調査」『化学と工業』78(2) pp.94-96 日本化学会 25.2
- (3 論文)「近赤外線ハイパースペクトルカメラの性能評価と文化財彩色材料の識別検討」(紀芝蓮、寺島海、犬塚将英)『保存科学』64 pp.61-80 東京文化財研究所 25.3
- (4 解説)「ハイパースペクトルカメラを用いた文化財の分光分析と求められる性能」『光学』53 pp.508-511 日本光学会 24.12
- (5 学会発表)「金沢市立玉川図書館所蔵『二之御丸御殿御造営内装等寛及び見本・絵形』第三冊の絵形に使用された彩色材料の分析調査」(紀芝蓮、寺島海、梶青華、滝川重徳、犬塚将英) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「ハイパースペクトルカメラを用いた変退色サンプル布の反射分光分析」(片渕奈美香、紀芝蓮、寺島海、犬塚将英) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「サンプリングバッグを利用した床面からの放散化学物質の測定方法」(古田嶋智子、鈴木昌樹、犬塚将英) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「浦賀ドックの人造石遺産—浦賀ドックから採取された目地材のX線分析結果と考察—」(天野武弘、犬塚将英、中山俊介、紀芝蓮、寺島海) 産業遺産学会第48回総会 オンライン開催 24.6.29
- (5 学会発表)「金沢市立玉川図書館所蔵『二之御丸御殿御造営内装等寛及び見本・絵形』第二冊に添付された唐紙などの現物見本に用いられた材料の分析調査」(寺島海、紀芝蓮、梶青華、滝川重徳、犬塚将英) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.27-7.28
- (6 発表)「Development of Emission Test Method Using Sampling Bag」(Tomoko Kotajima, Masaki Suzuki, Masahide Inuzuka) 16th International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments Metropolitan Museum of Art 24.11.19-11.20
- (6 講演)「『二之御丸御殿御造営内装等寛及び見本・絵形』の分析調査報告」令和6年度第1回金沢城調査研究御殿空間専門委員会 石川県金沢城調査研究所 24.8.7
- (6 講演)「日本国内における分析事例」ブルカージャパン主催 文化財ユーザーミーティング ブルカージャパン 24.8.9
- (6 パネリスト)「文化財を調べる科学 過去～現在に至る保存科学の軌跡」(建石徹、犬塚将英、早川典子) 文化財保存における科学技術のこれまでとこれから 一般社団法人デジタル文化財機構 24.10.11
- (6 パネリスト)「虎塚古墳と十五郎穴の今そしてこれから」(田中裕、建石徹、大澤正吾、矢島國雄、池上悟、佐々木憲一、犬塚将英、稲田健一) ひたちなか市誕生30周年記念事業 十五郎横穴群国指定・虎塚古墳国指定50周年記念シンポジウム ひたちなか市文化会館 25.2.8
- (7 所属学会等)IIC、日本建築学会、日本物理学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等)「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員、ひたちなか市史跡保存対策委員、文化財の保存と公開における熱湿気環境WG委員、文化財保存修復学会創立百周年記念事業委員、日本文化財科学会第22期評議員
- (8 教育)東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻連携教授

今石 みぎわ | IMAISHI Migiwa (無形文化遺産部)

- (1 共著)『鵜舟—長良川における鵜舟の構造とその必然性』『鵜飼の日本史—野生と権力、表象をめぐる1500年』昭和堂 pp.77-91 25.3
- (2 報告)「森を使う知恵とわざ—籠を例に」『シンポジウム 森と支える知恵とわざ—無形文化遺産の未来のために』 pp.49-56 東京文化財研究所無形文化遺産部 24.9
- (2 報告)「能登半島地震と無形文化遺産」(石村智、後藤知美、前原恵美、鎌田紗弓、中川優子、菊池理予、今石みぎわ、山本涼花、久保田裕道)『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-65 東京文化財研究所無形文化遺産部 25.3
- (2 コメント)「『城屋の揚松明』へのコメント」『集積型映像記録の検証』 pp.203-207 国立歴史民俗博物館
- (3 論文)「近現代における碁石茶の生産と消費」『四国山地の発酵茶の製造技術 碁石茶製造技術調査報告書』 pp.65-103 大豊町教育委員会 25.3
- (3 論文)「日本列島における木籠の文化—「タケ以前」の視点から」『民具研究』167 pp.19-33 日本民具学会 25.3
- (4 解説)「展示紹介 ただみ・ものとくらしのミュージアム」『民具研究』166 pp.77-78 日本民具学会 24.4
- (4 解説)「書籍紹介 荒井恵梨子著『小原かご 自然と神々と暮らした人びとの民具』」『民具マンスリー』57 (2) pp.22-23 神奈川大学日本常民文化研究所 24.5
- (4 解説)「碁石茶を食す」『碁石茶』 pp.16-17 大豊町教育委員会 25.3
- (4 映像制作)『オオツツラフジ採取・加工—岐阜県揖斐川町(約11分)』東京文化財研究所無形文化遺産部 24.4
- (4 映像制作)『大野のシダ籠—広島県廿日市市(約11分)』東京文化財研究所無形文化遺産部 24.8
- (4 映像監修)『奥丹生谷の木かご—小原かご 岐阜県長浜市余呉町(約18分)』東京文化財研究所無形文化遺産部 24.4
- (4 映像監修)『私のとちぎ探検 天明鑄物編(約14分)』『私のとちぎ探検 天明鑄物編 記録映像(約47分)』栃木県 25.3
- (6 発表)「森を使う知恵とわざ—籠を例に」シンポジウム 森と支える知恵とわざ—無形文化遺産の未来のために 東京文化財研究所 24.8.9
- (6 発表)「日本の伝統的な籠について」ノルウェーの籠と出会う 東京文化財研究所 24.9.27
- (6 発表)「沖縄の円形箕ミジョーキーについて」第11回箕の研究 東京文化財研究所 25.3.20
- (6 講演)「削りかけをつくる一人・神・自然の交わる場所」グリーンウッドワーク講座講演会 あいち海上の森センター 24.6.15
- (6 講義)「民俗文化財の保存と活用—民具と民俗技術を中心に」滋賀県民俗文化財担当者研修会 滋賀県立琵琶湖博物館 24.5.28
- (6 講義)「文化財を支える自然—人と自然の関わりを焦点に」令和6年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース NPO法人文化財保存支援機構 24.8.28
- (7 所属学会等) 東北民俗の会、日本民具学会、日本民俗学会
- (7 委員等) 碁石茶製造技術調査委員会、国立民族学博物館共同研究員、文化庁文化財部調査員、日本民具学会理事、日本民俗学会理事、山形県文化財保護審議委員、山形県立博物館運営協議会委員、一般社団法人技の環評議員

武 瀟瀟 | WU Xiaoxiao (アソシエイトフェロー)

- (1 共著)「第1章 平安時代に描かれる中国の『名所』」(武瀟瀟、井戸美里、林かおる、岩本馨、並木誠士、赤松加寿江、小野芳郎、金桂園、福永愛、中川理)『名所の誕生—「名」を与えられた風景』思文閣出版 pp.3-28 25.3
- (4 解説)「コラム 「瀟湘八景」から見る異文化受容と再創造」『文化遺産国際協力センター HP』 <https://www.tobunken.go.jp/kokusen/column-2024-03/> 文化遺産国際協力センター 25.2
- (4 校閲)『在外日本古美術品保存修復協力事業 「熊野曼荼羅」 No. 2020-2』 96p 東京文化財研究所 25.3

(7 所属学会等) 意匠学会、美術史学会

宇高 健太郎 | UDAKA Kentaro (客員研究員)

- (1 公刊図書)「Inkstick (sumi) and Classical Animal Glue」『Collagens—Basic Science and Applications』Impress Nextpublishing, TUAT pp.139-149 24.6
- (1 公刊図書)「若冲の三大超絶技巧 Jakuchu's 超絶技巧、二」『和樂 10・11 (No.218)』株式会社小学館 pp.156-159 24.9
- (5 学会発表)「各分野の研究者と制作者の連携による仏像における古典彩色技法の解明 一個人蔵「春日本地仏」修復および復元制作を通して—」(飯沼春子、山田修、宇高健太郎、岡田靖、李品誼、朱若麟、曹智健) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「松煙煤及び膠を用いた近似墨液インクによる書画出力技術の開発」(宇高健太郎、平論一郎、寺師太郎、佐藤信博、碓彩音、間瀬康夫) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (6 講義)「日本画模写」東洋美術学校 24.9.14-10.26
- (6 講義)「Science and Applications of Animal Glue and Inkstick (Sumi/Mo/Meok): Production, Art Practices, and Conservation」University of Delaware (米国) 25.2.5
- (7 所属学会等) 文化財保存修復学会、膠文化研究会
- (7 委員等) 膠文化研究会運営委員
- (8 教育) 東洋美術学校、University of Delaware (米国)

江村 知子 | EMURA Tomoko (文化財情報資料部)

- (2 報告)(江村知子、月村紀乃、河田昌之、橋詰文之、後藤健一郎)『和泉市久保惣記念美術館・東京文化財研究所共同研究資料 1 重要文化財 絹本着色「山崎架橋図」和泉市久保惣記念美術館蔵(リーフレット)」12p 東京文化財研究所 25.3
- (3 論文)「初期洋風画の時代」『皇居三の丸尚蔵館収蔵重要文化財紙本着色世界図 光学調査報告書』 pp.47-49 東京文化財研究所 25.3
- (4 解説)「皇居三の丸尚蔵館収蔵動植物絵」『皇居三の丸尚蔵館収蔵作品・東京文化財研究所光学調査デジタルコンテンツ』 <https://www.tobunken.go.jp/doshokusaie/> 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「Constructing a Database of Cultural Property Restoration Records」(Tarashima Satoshi, Katakura Shumpei, Emura Tomoko, Tateishi Toru, Yasuhara Daiki) Digital Humanities 2024 ジョージ・メイソン大学(アメリカ) 24.8.6-8.9
- (6 発表)「Shutendoji scrolls by Sumiyoshi Hiroyuki, Grassi Museum, Leipzig」Narrating Japanese Art Histories: Past, Present, Future Heidelberg University 24.6.29
- (6 発表)「Welcome Speech for ARLIS/NA Japan Study Tour」北米美術図書館協会(ARLIS/NA)日本スタディーツアー オリエンテーション 東京文化財研究所 24.10.21
- (6 発表)「海を渡った日本美術—酒吞童子絵巻を中心に」石橋財団フォーラム アーティゾン美術館 24.12.13
- (6 発表)「酒吞童子の魔力」令和6年度第11回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 25.2.25
- (6 司会)「総合司会・討議」2024年度美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会 東京文化財研究所 25.2.5
- (7 所属学会等) アート・ドキュメンテーション学会、美術史学会
- (7 委員等) 国立歴史民俗博物館運営委員、国立歴史民俗博物館資料収集委員、国立歴史民俗博物館教員選考委員、江戸東京博物館収蔵委員、美術史学会専門委員
- (8 教育) 学習院大学学芸員課程非常勤講師

大川 柚佳 | OKAWA Yuka (アソシエイトフェロー)

- (3 論文)「Medical metaphors in the conservation discourse: insights from critical metaphor analysis」『Journal of the Institute of

- Conservation』47(3) pp.235-249 24.9
- (3 論文)「近代以降における日本と欧米の『文化財』と『文化遺産』の語の成立背景に関する調査」『文化財保存修復学会誌』 pp.32-48 25.3
- (6 発表)「文化財保存修復における世代間倫理の諸問題 (予察)」2024 年度哲学若手研究者フォーラム 国立オリンピック記念青少年総合センター 24.7.14
- (6 発表)「文化財保存倫理について考える」オンライン政治理論研究会 第 9 回定期研究報告会 オンライン 24.9.22
- (6 司会)「外国語利用者のアイデンティティとことばについて: 中間言語語用論の視点から (荒木彩記)」2024 年度哲学若手研究者フォーラム 国立オリンピック記念青少年総合センター 24.7.14
- (7 所属学会等) ICOM-CC、Institute of Conservation、文化財保存修復学会

大河原 典子 | OKAWARA Noriko (客員研究員)

- (2 報告)「2 調査 2.2 技法解説」『在外日本古美術品保存修復協力事業 熊野曼荼羅 No.2020-2』 pp.12-13 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「2.2 Analysis of Technique in 2 Examination」『在外日本古美術品保存修復協力事業 熊野曼荼羅 No.2020-2』 pp.14-15 東京文化財研究所 25.3
- (7 所属学会等) 日本色彩学会、日本美術院、文化財保存修復学会
- (8 教育) 鎌倉女子大学児童学部教授

岡田 健 | OKADA Ken (客員研究員)

- (2 報告)「平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究 (その五) 現代、そして未来を生きる人びとに見えるもの」『平泉学研究年報』 5 pp.19-28 岩手県「世界遺産平泉」保存活用推進実行委員会 25.3
- (4 エッセイ)「斑鳩町の住民となって法隆寺を思う (一) 世界遺産のあるまち」『聖徳』252 pp.2-22 法隆寺 24.7
- (6 発表)「平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究 (その五) 現代、そして未来を生きる人びとに見えるもの」令和 6 年度「第 5 回平泉学フォーラム」(主催: 岩手県他) 一関市文化会館 25.2.2
- (6 講義)「日本における歴史的建造物の防災」学術交流講座 山西省古建築與彩塑壁画保護研究院 (中国・太原) 24.12.4
- (7 所属学会等) 日本文化財科学会、美術史学会
- (8 教育) 奈良大学文学部文化財学科教授 (本務)、別府大学大学院史学・文化財学専攻非常勤講師、東京藝術大学大学院美術研究科ゲスト講師、多摩美術大学美術館非常勤講師

小田原 直也 | ODAWARA Naoya (アソシエイトフェロー)

- (4 映像撮影)『愛媛県・雁皮自生地視察及び多羅富來和紙・大西満王氏への聞き取り調査の記録』 24.4
- (4 映像撮影)『愛媛県・伊予小紋いちよう・徳永早映氏への聞き取り調査の記録』 24.4
- (4 映像撮影)『愛媛県・紙漉きに用いる漉き簀製作・井原圭子氏と塩田未来氏への聞き取り調査の記録』 24.4
- (4 映像撮影)『長崎県・フノリ収穫 記録映像』 24.5
- (4 映像撮影)『本藍染紺九・すくも製作 記録映像』 24.5
- (4 映像撮影)『小信に関する藤曲隆哉氏のインタビュー映像』 24.6
- (4 映像撮影)『三重県・フノリ加工 記録映像』 24.7
- (4 映像撮影) (撮影: 小田原直也、佐野真規)『京都府・彫金製作 記録映像』 24.8
- (4 映像撮影)『天然砥石の解説・インタビュー 記録撮影』 24.10
- (4 映像撮影) (撮影: 小田原直也、市川昂一郎)『時代裂用綜統製作用カタン結び作業 記録撮影』 24.12
- (4 映像撮影) (撮影: 小田原直也、市川昂一郎)『金銀糸・平箔製作 記録撮影』 24.12
- (4 映像制作) (撮影: 武井隆太郎、佐野真規、小田原直也 編集: 富永圭祐、市川昂一郎)『伝統材料と道具のひみつー彫刻刃物編一』 24.9

小野 真由美 | ONO Mayumi (文化財情報資料部)

- (3 論文)「Appraisal Records of the Edo Period: *Tan'yū Shukuzu* (Plum, Bamboo, and Fruit Scroll) by Kanō Tan'yū」DOI: 10.5281/zenodo.15068534 pp.1-35 25.3
- (3 論文)「Gifted Plants and Artistic Patronage in Early Modern Japan: Tan'yū's *Sketches of Flowers and Plants*」DOI:10.5281/zenodo.15086503 pp.1-23 25.3
- (6 発表)「江戸時代初期における袁宏道『瓶史』の受容についてー藤村庸軒の花道書の紹介をかねてー」令和 6 年度第 6 回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 24.10.29
- (6 講演)「絵巻で読み解く『徒然草』」アストライアの会 (日本セカンドライフ協会) IKE・Biz としま産業振興プラザ 24.6.21
- (6 講義)「On *Tan'yū Shukuzu* (探幽縮図)」Roundtable Discussion, Graduate Institute of Art History, National Taiwan University, Prof. Chen Yun-Ju Seminar 25.3.13
- (7 所属学会等) 史学会、デジタルアーカイブ学会

小山田 智寛 | OYAMADA Tomohiro (文化財情報資料部)

- (2 報告)「デジタルデータの長期保存について」『美術研究』443 pp.45-51 24.10
- (3 論文)「WordPress を用いたデジタルコンテンツの長期運用について」(小山田智寛、石灰秀行、二神葉子)『デジタルアーカイブ学会誌』9(1) pp.15-19 25.2
- (6 発表)「事業成果の WEB 公開とアーカイブ構築について」(田良島哲・小山田智寛・山永尚美・安原大熙) 2024 年度美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会 東京文化財研究所 25.2.5
- (6 発表)「修理 (修復) 報告書の整理・分類・メタデータ付与」(小山田智寛、山永尚美、田良島哲) 修理 (修復) 記録アーカイブ研究会 慶應義塾大学三田キャンパス 25.3.19
- (6 講演)「データベースにおける検索とキーワードの関係について」第 58 回オープンレクチャー 東京文化財研究所 24.11.1
- (6 講義)「アーカイブズの公開とコミュニティ」東北大学大学院デジタルアーカイブ特論第 14 回 東北大学大学院 25.1.23
- (7 所属学会等) アート・ドキュメンテーション学会、デジタルアーカイブ学会、美学会

片倉 峻平 | KATAKURA Shumpei (客員研究員)

- (5 学会発表)「Constructing a Database of Cultural Property Restoration Records」(Tarashima Satoshi, Katakura Shumpei, Emura Tomoko, Tateishi Toru, Yasuhara Daiki) Digital Humanities 2024 ジョージ・メイソン大学 (アメリカ) 24.8.6-8.9
- (7 所属学会等) デジタルアーカイブ学会

片淵 奈美香 | KATAFUCHI Namika (アソシエイトフェロー)

- (4 編集・校正)『在外日本古美術品保存修復協力事業「熊野曼荼羅」No. 2020-2』96p 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「ハイパースペクトルカメラを用いた変退色サンプル布の反射分光分析」(片淵奈美香、紀芝蓮、寺島海、犬塚将英) 文化財保存修復学会第 46 回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (6 発表)「近代染織品の保存に関わる諸問題ー初期合成染料を中心にー」第 2 回総合研究会 東京文化財研究所 24.11.5
- (7 所属学会等) 繊維学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

片山 葉子 | KATAYAMA Yoko (客員研究員)

- (1 共著)「アンコール遺跡の微生物」(片山葉子、顧繼東)『バイオン 謎と希望への JSA/JASA 30 年の挑戦』中央公論美術出版 pp.118-124 24.11
- (3 論文)「Characterization of fungal carbonyl sulfide hydrolase belonging to clade D β -carbonic anhydrase」(Iizuka Ryuka, Ogawa Takahiro, Tsukida Rikako, Noguchi Keiichi, Hibbett David, Katayama Yoko,

- Yoshida Makoto)『FEBS Letters』 <https://doi.org/10.1002/1873-3468.15098> 25.1
- (3 論文)「Water characteristics and retention in Angkor sandstone monuments and their linkage with microorganisms responsible for ammonia oxidation and nitrate accumulation」(Qian Youfen, Lang-Yona Naama, Hu Pengfei, Wang Yali, Katayama Yoko, Gu Ji-Dong)『Science of Total Environment』969 <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2025.178636> 25.2
- (3 論文)「Viral communities on the sandstone monuments of Angkor Wat, Bayon and Preah Vihear in Cambodia」(Hu Pengfei, Ding Xinghua, Katayama Yoko, Gu Ji-Dong)『International Biodeterioration & Biodegradation』199 <https://doi.org/10.1016/j.ibiod.2025.106024> 25.3
- (4 解説)「微生物による硫化カルボニルの生成と分解: 大気中の硫黄化合物の中で最も豊富に存在する含硫ガス」(飯塚瑠翔、片山葉子)『化学と生物』62 pp.550-558 24.11
- (6 講演)「Simulation experiments of sandstone deterioration by fungi isolated from the Angkor monuments of Cambodia」International Symposium on Biodeterioration and Protection of Cultural Heritage Conservation Institute of Dunhuang Academy 24.6.20-6.23
- (6 講演)「アンコール遺跡の微生物」(片山葉子、Gu Ji-Dong) JSA/JASA 30周年記念シンポジウム バイオンの謎の解明とその保存をめぐるJSA/JASA 30年の挑戦 早稲田大学大隈講堂 25.2.1
- (7 所属学会等) American Society of Microbiology、環境バイオテクノロジー学会、日本生化学会、日本土壌微生物学会、日本農芸化学会、日本微生物資源学会、日本微生物生態学会、日本水環境学会
- 加藤 雅人 | KATO Masato (文化遺産国際協力センター)
- (1 公刊図書)「酸性紙」他合計9項目『アーカイブズ学用語辞典(アーカイブズ学用語研究会 編)』柏書房 24.7
- (2 報告)「3-4 紙の色」『令和6年度文化庁委託事業「近代歴史資料の保存に関する調査研究事業」』<https://www.shugo.co.jp/wordpress/wp-content/uploads/2025/03/022b53c0a04beacb9ecf6dabf40f1769-1.pdf> pp.25-41 修護 25.3
- (2 報告)「1 はじめに」『在外日本古美術品保存修復協力事業「熊野曼荼羅」 No.2020-2』 p.2 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「1 Introduction」『The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas, Kumano Mandala, No.2020-2』 p.3 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「(3 保存修復) 3.2 詳細と補足」『在外日本古美術品保存修復協力事業「熊野曼荼羅」 No.2020-2』 pp.74-81 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「3.2 Extended Conservation Report in 3 Conservation」『The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas, Kumano Mandala, No.2020-2』 pp.82-89 東京文化財研究所 25.3
- (4 監修・校閲)『在外日本古美術品保存修復協力事業「熊野曼荼羅」 No.2020-2』 96p 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「墨糊が装演文化財の色に及ぼす影響」(清水綾子、君嶋隆幸、加藤雅人) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (6 発表)「近代歴史資料の用紙にかかる調査研究」 令和6年度 近代歴史資料の保存・修理に関する研究協議会 文化庁東京庁舎第2会議室 24.11.29
- (6 講義)「紙の保存と修復」 保存修復科 東洋美術学校 24.6.29-11.30
- (6 講義)「Paper Conservation in Japan」 International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 24.8.26
- (6 講義)「Paper Basics」 International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 24.8.27
- (6 講義)「紙の科学」 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 東京文化財研究所 24.9.18
- (6 講義)「文化財保存修復を科学する」 芸術学部保存修復学科特別講義 東北芸術工科大学 25.1.16
- (7 所属学会等) 日本文化財科学会、日本木材学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) 鎌倉芳太郎撮影紙焼写真修理検討委員会委員
- (8 教育) 東北芸術工科大学芸術学部客員教授、東洋美術学校保存修復科非常勤講師
- 金井 健 | KANAI Ken (文化遺産国際協力センター)
- (2 報告)「社会的・文化的資産としての近現代建築—海外先進地域におけるその保護・継承の取り組み」『月刊文化財』728 pp.41-44 第一法規 24.5
- (2 報告)「参考事例集」(田原幸夫、佐藤桂、金井健、川津彩可、野尻孝明、矢野和之、下間久美子)『英仏版の比較検討から読み直すベニス憲章』 pp.28-62 日本イコモス国内委員会第一小委員会 25.1
- (2 報告)「国際協力における相互理解の構築」『英仏版の比較検討から読み直すベニス憲章』 pp.67-68 日本イコモス国内委員会第一小委員会 25.1
- (2 報告)「建築」(友田正彦、金井健、浅田なつみ、黒岩千尋、福島啓人、海野聡、向井純子)『ブータンの伝統的民家保存のための建築調査 2023年秋調査 概報』 pp.10-53 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「まとめ」『ブータンの伝統的民家保存のための建築調査 2023年秋調査 概報』 p.55 東京文化財研究所 25.3
- (3 論文)「ブータンの伝統的民家の建築的特徴と文化財的価値の評価 その2: タシガン県、タシヤンツェ県、モンガル県及びブルンツェ県における建築学的調査の概要」(金井健、友田正彦、浅田なつみ、黒岩千尋)『日本建築学会大会学術講演梗概集』2024 pp.753-754 24.7
- (3 論文)「国宝保存法下の指定建造物の〈復原〉と〈整備〉: 現状変更行為による遺産価値向上の理路と手法」『日本建築学会計画系論文集』89 (825) <https://doi.org/10.3130/aija.89.2278> pp.2278-2289 24.11
- (4 解説)「物故者(令和3年)内田祥哉」『日本美術年鑑 令和四年版』 p.114 東京文化財研究所 25.1
- (4 記事)「温泉津の町並みに見る歴史の未来」『山陰中央新報』2024年9月4日版 p.11 山陰中央新報社 24.9
- (4 記事)「イコモス2024年次総会/学術シンポジウムでのベニス憲章をめぐる議論」『日本イコモス季刊誌』(オンライン) 2024年冬号 <https://icomos-japan-information.org/20241/2024winter-2024/> イコモス2024年次総会—学術シンポジウムでのベニス憲章をめぐる議論
- (4 記事)「文化遺産国際協力コンソーシアム令和6年度研究会・シンポジウムにみる採択30周年を迎えた「奈良文書」をめぐる言説のいま」『日本イコモス季刊誌』(オンライン) 2025年春号 <https://icomos-japan-information.org/20241/2025spring-2025/> 文化遺産国際協力コンソーシアム令和6年度研究会—シンポジウムにみる採択30周年を迎えた—奈良文書—をめぐる言説のいま/日本イコモス国内委員会 25.3
- (5 学会発表)「ブータンの伝統的民家の建築的特徴と文化財的価値の評価 その2: タシガン県、タシヤンツェ県、モンガル県及びブルンツェ県における建築学的調査の概要」(金井健、友田正彦、浅田なつみ、黒岩千尋) 日本建築学会大会学術講演会 明治大学アカデミーコモン 24.8.30
- (5 学会発表)「Stone Masonry Technique of Ancient Khmer Craftsmen: A case study of the East Gate in Ta Nei Temple, Angkor」(Natsumi Asada, Sea Sophearun, Masahiko Tomoda, Ken Kanai, Sothin Kim) 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia 京都工芸繊維大学 24.9.12

- (6 講演)「受け継がれた町・建物の価値—私たちの暮らしに息づく文化的遺産—」 温泉津町伝統的建造物群保存地区選定20周年記念シンポジウム 西楽寺本堂 24.7.6
- (6 講演)「国際協力における相互理解の構築」 日本イコモスフォーラム：英仏版の比較検討から読み直すベニス憲章の意義 京都アカデミアフォーラム 24.8.31
- (6 講義)「文化遺産の国際協力」 筑波大学世界遺産学学位プログラム：遺産保護行政論 筑波大学人文社会学系棟 24.10.5
- (6 講義)「近現代建築遺産保存の理念と論点—その成立背景、設計思想、素材と工法—」 日本女子大学家政学部住居学科：近代建築デザイン論 日本女子大学百年館 24.12.11
- (6 講義)「RC造文化財建造物修理の考え方と手法」 沖縄県建築士会スキルアップ講座：有形文化財登録とまちづくり 沖縄建築会館 25.1.18
- (6 司会)「第34回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会：学校教育と文化遺産」 東京文化財研究所セミナー室 24.9.28
- (6 司会)「令和6年度世界遺産研究協議会：世界遺産の柔らかい輪郭—バッファゾーンとワイドセッティング—」 東京文化財研究所セミナー室 24.11.25
- (6 司会)「第35回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会：文化遺産保護と奈良文書—国際規範としての受容と応用—」 東京文化財研究所会議室 24.11.28
- (6 司会)「令和6年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム：〈モニュメント〉はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」 東京富士大学二上講堂 24.11.30
- (7 所属学会等) ICOMOS、日本遺跡学会、日本建築学会
- (7 委員等) 旧長崎英国領事館修理委員会、長崎市伝統的建造物群保存地区保存審議会、旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設整備検討委員会、常願寺川砂防施設保存活用計画検討委員会、萩反射炉整備委員会、横手市伝統的建造物群保存審議会、ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所文化遺産保護協力事業委員会

金子 雄太郎 | KANEKO Yutaro (アソシエイトフェロー)

- (2 報告)「世界遺産ヤングプロフェッショナルフォーラム二〇二四参加記」『月刊文化財』735 pp.46-48 第一法規 24.11
- (2 報告)「第1章 調査の目的と概要、第2章 韓国の法改正および組織再編、第3章 韓国による文化遺産国際協力、まとめ」(早乙女雅博、庄田慎矢、田代裕一朗、玉城真紀子、金子雄太郎)『文化遺産国際協力コンソーシアム 令和6年度国際協力調査 韓国の遺産保護に係る制度改革および国際協力体制に関する調査報告書』 pp.5-61 文化遺産国際協力コンソーシアム 25.3
- (4 編集)『文化遺産国際協力コンソーシアム 令和6年度国際協力調査 韓国の遺産保護に係る制度改革および国際協力体制に関する調査報告書』 76p 文化遺産国際協力コンソーシアム 25.3
- (4 編集)『Report on the 35th Seminar “30 years of the Nara Document in the Global Context of Heritage Conservation”』 93p Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage 25.3
- (7 所属学会等) ICOMOS

鎌田 紗弓 | KAMATA Sayumi (無形文化遺産部)

- (1 共著)「鳴物の拍、三味線の拍—リズムパターンの音価選択をめぐる—」(塚原康子先生東京藝術大学退任記念論文集編集委員会)『音楽でつながる：日本とアジア・都市と周縁・近世と近現代』音楽之友社 pp.217-233 25.3
- (2 報告)「『夕霧』から見る宮園節とその周辺」『第17回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「宮園節の魅力を探る」報告書』 pp.45-52 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 無形文化遺産部 24.8
- (2 報告)「能登半島地震と無形文化遺産」(石村智、後藤知美、前原恵美、鎌田紗弓、中川優子、菊池理予、今石みぎわ、山本涼花、久保田裕道)『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-65 東京文化財研究所

所 無形文化遺産部 25.3

- (3 論文)「Temporal structure and synchronization in the Tōgaku ensemble of Japanese court music (Gagaku)」(Sayumi Kamata, Martin Clayton)『Analytical approaches to world music』12 (1) pp.1-66 University of British Columbia. <https://doi.org/10.5281/zenodo.14561020> 25.1
- (3 論文)「Investigating Embodiment in Oral Mnemonics within Japanese Music」『European Journal of Musicology』23 (1) pp.51-79 University of Bern. <https://doi.org/10.5450/ejm.23.1.2025.51> 25.3
- (4 解説)「解説（「多摩川」「操り三番叟」「矢の根」「五條橋」）」『国立劇場歌舞伎音楽既成者研修発表会 第26回「音の会」解説書』 pp.4-8 独立行政法人日本芸術文化振興会 24.8
- (4 解説)「第十六条 次曲」『うたひ鏡 一翻刻・現代語訳・解説』 pp.151-158 京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 25.2
- (4 編集)『調査報告書 東流二絃琴の伝承』 156p 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「Metre and Free Rhythm in Gagaku Music: Empirical Perspectives on Formal Hierarchy and Interaction」(Martin Clayton, Sayumi Kamata) Eighth International Conference on Analytical Approaches to World Musics (AAWM 2024) University of Bologna, Online participation 24.6.13
- (5 学会発表)「雅楽演奏の時間構造はどのように他者と共有されるのか〜口唱歌の師弟間の伝承の発達の検討〜」(村上瞳、鎌田紗弓、野中哲士) 日本音楽知覚認知学会 2024年度秋季研究発表会 神戸大学 24.11.30
- (5 学会発表)「Timing and coordination in nagauta-bayashi music」(Sayumi Kamata, Kazutoshi Kudo) International Council for Traditions of Music and Dance, 48th World Conference Takina Wellington Convention and Exhibition Centre 25.1.14
- (6 発表)「パフォーマンスの「間」：伝統音楽合奏を実証的に分析する」第25回芸能文化研究会 渋谷スペース 25.2.16
- (7 所属学会等) European Seminar in Ethnomusicology, International Council for Traditions of Music and Dance, 楽劇学会、歌舞伎学会、東洋音楽学会、日本音楽学会

川瀬 由照 | KAWASE Yoshiteru (客員研究員)

- (4 解説)「男神・女神像 輪王寺、個人蔵」『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇』17 pp.200-204 中央公論美術出版 25.3
- (7 所属学会等) 正倉院文書研究会、美術史学会、密教図像学会、早稲田大学美術史学会
- (8 教育) 早稲田大学文学学術院教授

荻田 重賀 | KANDA Shigeyoshi (客員研究員)

- (4 記事)「航空遺産継承事業の20年を振り返る」『航空と文化』129 pp.19-26 一般財団法人日本航空協会 24.7
- (4 解説)「航空自衛隊の機動衛生ユニット」『航空と文化』130 pp.28-31 一般財団法人日本航空協会 25.1
- (6 講演)「出土プロペラの調査検討報告と航空遺産」公開学習会シリーズ 都立武蔵野の森公園サービスセンター 25.2.15
- (6 パネリスト)「航空スポーツをめぐる歴史の旅—薬師寺から出土したイカロスの翼をめぐる—」(岩戸晶子、千葉毅、荻田重賀) 日本航空協会第307回講演会 航空会館 24.11.15
- (7 委員等) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 A26 調査委員

紀 芝蓮 | CHI Chih lien (アソシエイトフェロー)

- (2 報告)「2.4 彩色材料の分析」『在外日本古美術品保存修復協力事業「熊野曼荼羅」No. 2020-2』 pp.39-50 東京文化財研究所 25.3
- (3 論文)「近赤外線ハイパースペクトルカメラの性能評価と文化財彩色材料の識別検討」(紀芝蓮、寺島海、犬塚将英)『保存科学』64 pp.61-80 東京文化財研究所 25.3

- (5 学会発表)「金沢市立玉川図書館所蔵『二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形』第三冊の絵形に使用された彩色材料の分析調査」(紀芝蓮、寺島海、梶青華、滝川重徳、犬塚将英) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「ハイパースペクトルカメラを用いた変退色サンプル布の反射分光分析」(片瀬奈美香、紀芝蓮、寺島海、犬塚将英) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「浦賀ドックの人造石遺産—浦賀ドックから採取された目地材のX線分析結果と考察—」(天野弘弘、犬塚将英、中山俊介、紀芝蓮、寺島海) 産業遺産学会第48回総会 オンライン開催 24.6.29
- (5 学会発表)「金沢市立玉川図書館所蔵『二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形』第二冊に添付された唐紙などの現物見本に用いられた材料の分析調査」(寺島海、紀芝蓮、梶青華、滝川重徳、犬塚将英) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.27-7.28
- (7 所属学会等) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (8 教育) 京都市立芸術大学美術学部非常勤講師

菊池 理予 | KIKUCHI Riyo (無形文化遺産部)

- (2 報告)「能登半島地震と無形文化遺産」(石村智、後藤知美、前原恵美、鎌田紗弓、中川優子、菊池理予、今石みぎわ、山本涼花、久保田裕道)『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-65 25.3
- (2 報告)「『館屋踊り、万作踊り』衣装調査から考える無形情報の役割—衣装調査項目の検討を通じて—」『神奈川県民俗芸能記録保存調査報告書 第2集 かながわの館屋踊り、万作踊り』pp.119-123 神奈川県教育委員会 25.3
- (2 報告)「第三章 館屋踊り、万作踊りの衣裳」(菊池理予、石原真理、白土亜紀、藤井裕子)『神奈川県民俗芸能記録保存調査報告書 第2集 かながわの館屋踊り、万作踊り』pp.85-118 神奈川県教育委員会
- (3 論文)「東京藝術大学未来創造継承センター大学史料室(旧制東京美術学校部門)所蔵中村勝馬関係資料から見た工芸技術保護の実態Ⅱ—統制関連団体の実態—」『無形文化遺産研究報告』19 pp.113-133 25.3
- (5 学会発表)「植物繊維の同定—苧麻・大麻の識別—」(菊池理予、趙依寧、西田典由、安永拓世、早川典子) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (6 発表)「無形文化財(工芸技術)の防災に関するアンケート集計結果の報告」(菊池理予、後藤知美) 第31回全国重要無形文化財保持団体協議会 鈴鹿大会 イスのサンケイホール鈴鹿 24.10.17
- (6 発表)「趣旨説明」第18回 東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座「文化財修理と在来絹製作—絹織製作研究所の技術をつなぐ—」 東京文化財研究所 24.12.6
- (6 発表)「工芸品修復の現場課題」2024年度美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会 東京文化財研究所 25.2.5
- (6 講義)「Protection of Craft Techniques in Japan: Present Condition and Transitions」国際研修「紙の保存と修復」2024 東京文化財研究所 24.9.10
- (6 パネリスト)「鼎談「染織品修理と修理材料の依頼—実例を通じて—」」(依田尚美、秋本賀子、菊池理予) 第18回 東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座「文化財修理と在来絹製作—絹織製作研究所の技術をつなぐ—」 東京文化財研究所 24.12.6
- (7 所属学会等) 国際服飾学会、美術史学会、服飾文化学会、文化財保存修復学会

橘川 英規 | KIKKAWA Hideki (文化財情報資料部)

- (4 記事)「『物故者』富山妙子、高橋亨、イトー・ターリ、中村英樹、糸井貫二」『日本美術年鑑』令和4年版 pp.121、122、123-124、

- 129、133-134 東京文化財研究所 25.1
- (6 発表)「東京文化財研究所所蔵近現代美術アーカイブ」 北米美術図書館協会 (ARLIS/NA) 来日記念 国際シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」 東京文化財研究所 24.10.22
- (6 講演)「美術司書の仕事」連続講座〈アート with〉 泉屋博古館東京 24.12.6
- (6 講演)「Matsuzawa Yutaka and Europe: Conceptual art exchange - from a library and archives perspective」 Japan Research Centre Seminar Series SOAS, University of London 25.2.26
- (6 講演)「Building and Using Japan's Modern and Contemporary Art Archive: The Work of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties」 Tobunken Lecture Series University of East Anglia 25.2.27
- (7 所属学会等) アート・ドキュメンテーション学会

朽津 信明 | KUCHITSU Nobuaki (保存科学研究センター)

- (2 報告)「大悲山石仏の保存対策の歴史と考え方」『大悲山石仏保存修理事業報告書』p.30-35 25.3
- (2 報告)「L*a*b*表色系を用いた照明植生の評価法」『特別天然記念物秋芳洞再生事業調査報告書』p.66-68 25.3
- (3 論文)「文化財としての厨子櫃の保存について」『葬墓制からみた琉球史』p.160-165 25.1
- (3 論文)「文化財の保存、修復、調査の歴史と科学」『化学と工業』78 p.78-80 25.2
- (3 論文)「覆屋とは何か」『保存科学』64 p.91-119 25.3
- (5 学会発表)「都内の寺社に見られる石蔵状建物とその保存科学的評価」 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「鶴殿石仏群に構築された仮設覆屋の保護効果に関する評価」 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.28
- (5 学会発表)「地球温暖化による劇的環境変動に適した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究(3) 竹田城花屋敷曲輪での表面波探査—」(土井一生、塚本敏夫、坂本俊、田邊征夫、三村衛、朽津信明、金田明大、大川拓也) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.28
- (5 学会発表)「地球温暖化による劇的環境変動に適した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究(4) 竹田城花屋敷曲輪での地盤ボーリング調査および密度・含水比検層」(塚本敏夫、植田直見、雨森久見、山口繁生、坂本俊、若杉勇輝、田邊征夫、三村衛、朽津信明、金田明大、大川拓也、奥田悟、石井正紀) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.28
- (5 学会発表)「地球温暖化による劇的環境変動に適した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究(3) 竹田城花屋敷曲輪での表面波探査—」(土井一生、塚本敏夫、坂本俊、田邊征夫、三村衛、朽津信明、金田明大、大川拓也) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.28
- (6 講義)「文化財としての自然史資料の修復について」 文化財保存修復を目指す人のための実践コース オンライン公開 24.11.15-12.31
- (7 所属学会等) 日本応用地質学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) 特別史跡王塚古墳保存整備検討委員会委員、清戸迫横穴保存活用計画策定委員会委員、白杵磨崖仏保存修理委員会委員、史跡下藤クリシタン墓地保存活用計画策定委員会委員、大悲山石仏保存修理指導委員会委員、重要文化財羅漢寺石仏防災施設整備事業委員、「通潤橋」保存活用検討委員会委員、史跡屋形古墳群整備指導委員会委員、後閑3号墳及び下増田上田中1号墳保存活用計画策定委員会委員、築瀬二子塚古墳保存活用計画策定委員会委員、史跡原城跡、日野江城跡専門委員会委員、嘉島町史跡保存整備検討委員会委員、長崎市出島史跡整備審議会委員、高島炭鉱整備活

用委員会委員、熊野磨崖仏 附 本宮磨崖仏及び鍋山磨崖仏保存活用計画策定検討委員会委員、秋芳洞再生事業評価委員会委員、令和6年度琉球王国文化遺産集積・再興事業監修者、令和6年度琉球王国文化遺産集積・再興事業 石彫ワーキング委員、重要文化財祇園橋附石造記念碑保存修理専門委員会委員、史跡曾谷貝塚検討委員会委員、下総国分寺跡附北下瓦窯跡整備基本計画策定検討委員会委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻併任教授、東京大学理学部非常勤講師

久保田 裕道 | KUBOTA Hiromichi (無形文化遺産部)

- (1 共著)『歳時記』『伝検公式テキスト：日本の伝統文化を総合的に学ぶ検定』時事通信出版局 pp.227-240 24.10
- (2 報告)『趣旨説明』『第19回無形民俗文化財研究協議会報告書 ステージの上の民俗芸能—その魅せ方をめぐって—』pp.1-7 25.3
- (2 報告)『『武術的身体表現』の民俗的事例』『令和6年度生活文化に息づく「沖縄空手」調査報告書—沖縄の風俗慣習・民俗芸能にみる武術的身体表現』pp.14-18 沖縄県 25.3
- (2 報告)『民俗芸能および祭り・行事の復興に関する報道』『無形文化遺産研究報告』19 pp.41-44 25.3
- (2 報告)『韓国の伝授者教育という制度をめぐって』『TARO2024年度事業報告書』pp.28-29 公益財団法人京都市芸術文化協会 25.3
- (3 論文)『宇原獅子舞』『民俗芸能』102 pp.21-36 24.11
- (3 論文)『Effectiveness and Developmental Direction of the Intangible Cultural heritage Network System: A Case Study of Japan』『IMACO INTERNATIONAL CONFERENCE IN ANDONG KOREA 2024』pp.300-316 International Mask Arts & Culture Organization 24.11
- (3 論文)『民俗芸能のネットワーク化をめぐる現状と課題』『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-12 25.3
- (4 解説)『広域的にみる夏祭りとしての「おはまおり」祭り』『房総のお浜降り習俗』記録映像解説書 pp.55-56 千葉県立中央博物館 25.3
- (4 監修)『暮らしを楽しむ 季節で巡る 日本の祭り』p.192 神宮館 24.8
- (4 監修)『(映像) Shishimai: Guardians of the Community』国際交流基金 25.1
- (4 監修)『(映像) 由比北田の天王船流し』静岡県教育委員会 25.3
- (4 監修)『(映像) お浜降り習俗記録映像』千葉県立中央博物館 25.3
- (4 連載)『柱の上の山伏』『日本政策金融公庫調査月報』187 p.46 24.4
- (4 連載)『ムカデのような獅子』『日本政策金融公庫調査月報』188 p.46 24.5
- (4 連載)『最果てのキリン』『日本政策金融公庫調査月報』189 p.46 24.6
- (4 連載)『麦わらの舟を流す』『日本政策金融公庫調査月報』190 p.46 24.7
- (4 連載)『十津川村の盆踊り』『日本政策金融公庫調査月報』191 p.46 24.8
- (4 連載)『湖底の村の踊り』『日本政策金融公庫調査月報』192 p.46 24.9
- (4 連載)『経典を担ぐブータンの祭り』『日本政策金融公庫調査月報』193 p.46 24.10
- (4 連載)『竹富島の種子取祭』『日本政策金融公庫調査月報』194 p.4 24.11
- (4 連載)『大神楽の帰る頃』『日本政策金融公庫調査月報』195 p.46 24.12
- (4 連載)『韓国のどんと焼き』『日本政策金融公庫調査月報』196 p.46 25.1
- (4 連載)『鬼を追ひ払う追儺』『日本政策金融公庫調査月報』197 p.46 25.2
- (4 連載)『春を呼ぶ田植えの祭り』『日本政策金融公庫調査月報』198

- p.46 25.3
- (5 学会発表)『文化財と宗教民俗—2020年代の今を問うために—発題』日本宗教民俗学会 東京文化財研究所 24.6.8
 - (6 発表)『Current Status and Symbolic Meaning of Japan's traditional Tug-of-war』2024 International Tug-of-war Symposium Gijisi Tug-of-war Museum 24.4.12
 - (6 発表)『獅子舞の研究・継承・活用—日本のシシマイ文化の視点から—』北陸地区国立大学学術研究連携支援研究会 富山大学高岡キャンパス 24.10.4
 - (6 発表)『Effectiveness and Developmental Direction of the Intangible Cultural heritage Network System: A Case Study of Japan』IMACO INTERNATIONAL CONFERENCE IN ANDONG KOREA 2024 安東コンベンションセンター 24.11.1
 - (6 発表)『ステージの上の民俗芸能—その魅せ方をめぐって—趣旨説明』無形民俗文化財研究協議会 東京文化財研究所 24.12.20
 - (6 講演)『砺波地方に広がる獅子舞』砺波の地域文化を未来につなぐプロジェクト人口委員会 砺波市立庄東小学校 24.9.23
 - (6 講演)『狭山丘陵から日本のシシマイについて考える』狭山丘陵市民大学 瑞穂町郷土資料館けやき館 24.11.30
 - (6 講演)『獅子舞王国さぬきの今とこれから—獅子舞や神楽の最新情報、今後の保存会のあり方について—』令和6年度文化遺産シンポジウム 香川県立ミュージアム 24.12.15
 - (6 講義)『ブータンにみる儀礼文化』儀礼文化学会 儀礼文化学会研修室 24.5.12
 - (6 講義)『Contribution of Intangible Cultural Heritage for social cohesion and DRM activities / Protection of ICH for Disaster Recovery』立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修 立命館大学 24.9.7
 - (6 解説)『普及公演 獅子舞の魅力—播磨の毛獅子と富山のむかで獅子—』全国民俗芸能大会 日本青年館 24.11.23
 - (6 解説)『多良間の獅子舞／榎立踊り』東京都民俗芸能大会 板橋区立文化会館 25.3.22-3.23
 - (7 所属学会等)儀礼文化学会、シシマイ学会、静岡県民俗学会、日本宗教民俗学会、日本ブータン学会、日本民俗学会
 - (7 委員等)文化審議会無形文化遺産部会臨時委員、伝統文化親子教室事業に係る協力者会議委員、山梨県文化財保護審議会委員、神奈川県民俗芸能記録保存調査企画調整委員会委員、千葉県博物館資料審査委員会委員、千葉県立中央博物館おはまおり映像記録作成委員会委員、山形県文化財保存実態調査員、東京都民俗芸能大会実行委員会委員、島根県古代文化センター客員研究員、島根県民俗芸能調査委員会委員、静岡市文化財保護審議会委員、武蔵野市文化財保護委員、京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議委員、篠籠田の獅子舞調査検討委員会委員、箱根湯立獅子舞伝承・活用等事業に係る整備委員会委員、公益社団法人全日本郷土芸能協会理事、一般社団法人儀礼文化学会常務理事、一般財団法人日本青年館第71回全国民俗芸能大会企画委員、一般社団法人日本民俗学会理事、ポーラ伝統文化振興財団伝統文化ポーラ賞選考委員

倉島 玲央 | KURASHIMA Reo (保存科学研究センター)

- (2 報告)『文化財修復処置に関するワークショップ—モジュラー・クリーニング・ワークショップの利用について—』『試案の取扱いについて』pp.118-119 東京文化財研究所 25.2
- (5 学会発表)『抄紙用ネリに用いるノリウツギの安定供給に向けた取り組み』(西田典由、倉島玲央、長田雅弘、小林和、錦織正智、鈴木三男、栗野達也、早川典子) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (5 学会発表)『文化財建造物装飾や板絵における塗装彩色材料調査の現状と課題』(北野信彦、生駒萌、西田早弥華、森岡志保、山田卓司、倉島玲央) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22

- (5 学会発表)「近代の文化財修理に使用された材料・技術に関する復元的実験—接着剤としての硫黄コンクリートの使用—」(大西巧紗、倉島玲央、北野信彦) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「劣化した漆塗膜層および下地層の強度評価」 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.27-7.28
- (5 学会発表)「近世社寺建造物の銅葺瓦の塗装に関する基礎的研究」(本多貴之、正田勇人、倉島玲央、大西巧紗、前川実穂、北野信彦) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.27-7.28
- (6 発表)「森と職人を繋ぐ一キリを例に」 森と支える「知恵とわざ」—無形文化遺産の未来のために 東京文化財研究所 24.9.30
- (6 講義)「実験器具・薬品の取り扱い」 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 東京文化財研究所 24.9.19
- (7 所属学会等) 漆工史学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) 文化財保存修復学会編集委員

黒岩 千尋 | KUROIWA Chihiro (アソシエイトフェロー)

- (2 報告)「SEAMEO SPAFA 東南アジア考古学・芸術国際会議 2024 参加速報」(北原優、黒岩千尋、下田一太、ニム ソテイーヴン、丸井雅子) 『東南アジア考古学』44 pp.59-62 東南アジア考古学会 25.2
- (2 報告)「5. Investigation of the Terrace on the West Embankment of the East Terrace」(KUROIWA Chihiro, YAMADA Ayano, CHHUN Sambor, SIM Dany) 『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2022-2023-』 pp.23-39 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「6. Risk Management of the Central Complex」(KIM Sothin, SIM Thon, SOK Soseila, KHEAM Mony, LY Duong, MOY Kosal, NY Som, ASADA Natsumi, KUROIWA Chihiro, TOMODA Masahiko) 『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2022-2023-』 pp.41-56 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「9. Interpreting "Journaux de Fouilles de la Conservation d'Angkor" - Descriptions of the Records of Ta Nei Temple in Appendix II」 『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2022-2023-』 pp.71-74 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「第2章 建築」(友田正彦、金井健、海野聡、向井順子、福島啓人、浅田なつみ、黒岩千尋)『ブータンの伝統的民家保存のための建築調査 2023 年秋調査 概報』 pp.10-53 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「I. List of the Statues Originally Located in Ta Nei Temple」(TOMODA Masahiko, KUROIWA Chihiro) 『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2022-2023-』 pp.77-143 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「II. Record of Ta Nei Temple from "Journaux de Fouilles de la Conservation d'Angkor"」 『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2022-2023-』 pp.145-153 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of

- Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 コメント)「Comments」『Workshop in Siem Reap and the Angkor Ruins: Living with Water』 p.46 BeCAT / Kyushu University, Faculty of Human-Environment Studies + Faculty of Engineering Science + Faculty of Design 24.8
- (3 論文)「ブータンの伝統的民家の建築的特徴と文化財的価値の評価 その2 タシガン県、タシヤンツェ県、モンガル県及びルンツェ県における建築学的調査の概要」(金井健、友田正彦、浅田なつみ、黒岩千尋)『日本建築学会大会学術講演梗概集』2024 pp.753-754 日本建築学会 24.7
- (3 論文)「カンボジア王国シェムリアップ市オールドマーケット地区の防災まちづくり事業報告 常備消防力が弱い弱な経済発展途上地域における自衛消防組織創出の社会実験」(長谷見雄二、伯耆原智世、小岩正樹、黒岩千尋)『日本建築学会大会学術講演梗概集』2024 pp.151-152 日本建築学会 24.8
- (4 編集)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2022-2023-』 180p Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (4 編集)『大陸部東南アジアの古代木造建築を考える(東京文化財研究所編、友田正彦編著)』 233p 図版6p 鹿島出版会 25.3
- (5 学会発表)「The transition of the systems and organization of "Historic Monuments" in French Indochina during 1900s-1940s」 The SEAMEO SPAFA International Conference on Southeast Asian Archaeology and Fine Arts 2024 Amari Watgate Bangkok 24.6.12
- (5 学会発表)「Comparative Study on the Architectural Features of the Outermost Gate, Ta Nei Temple, Cambodia」(KUROIWA Chihiro, TOMODA Masahiko) 14th International Symposium on Architectural Interchange in Asia 京都工芸繊維大学 24.9.12
- (6 発表)「Survey of Traditional Houses in the Eastern Bhutan: Collaboration between DCDD + TOBUNKEN」 Meeting at Department of Culture and Dzongkha Development (DCDD) Department of Culture and Dzongkha Development 24.5.21
- (6 発表)「Partial Repair of the Central Tower and Recent Activities, Ta Nei Temple」(MAO Sokny, KUROIWA Chihiro) 38th Technical Session, ICC-Angkor/Sambor Prei Kuk Sofitel Angkor Resort 24.12.11
- (6 発表)「How the protection system for "Historic Monuments" introduced in Cambodia and Vietnam during 1900-1940s」 Seminar at Industrial Fine Arts Faculty, Ton Duc Thang University Ton Duc Thang University 25.3.8
- (6 講義)「アンコール遺跡群—遺跡保存制度の歴史といま」 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻：修復計画論 東京藝術大学 24.5.9
- (6 講義)「東南アジアの水の建築—遺跡保存と近代化による変容」 武蔵野大学工学部建築デザイン学科：アジアの建築 武蔵野大学 24.6.5
- (7 所属学会等) 建築史学会、東南アジア考古学会、日本建築学会

黒崎 夏央 | KUROSAKI Natsuo (アソシエイトフェロー)

- (4 記事)「「物語者」橋本堅太郎、篠田桃紅、東山健吾」『日本美術年鑑』令和4年版 pp.109-110、pp.110-111、pp.118-119 東京文化財研究所 25.1
- (7 所属学会等) 美術史学会、仏教芸術学会

五嶋 千雪 | GOSHIMA Chiyuki (アソシエイトフェロー)

- (4 編集)『Report on the 33rd Seminar "International Trends in Safeguarding Cultural Heritage"』 66p Japan Consortium for

International Cooperation in Cultural Heritage 25.3

- (4 編集)『第34回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 学校教育と文化遺産 報告書』60p 文化遺産国際協力コンソーシアム 25.3
(6 講義)「文化遺産国際協力コンソーシアムの役割—平和構築と文化遺産保護活動—」「藝術立国」から考える芸術と平和 京都芸術大学 25.3.8
(7 所属学会等) ICOM

古田嶋 智子 | KOTAJIMA Tomoko (客員研究員)

- (1 刊行図書)「コラム 北海道における気象災害の影響」(三浦定俊、佐野千絵、木川りか、間瀬創、古田嶋智子)『文化財保存環境学(第3版)』朝倉書店 p.169 25.1
(5 学会発表)「サンプリングバッグを利用した床面からの放散化学物質の測定方法」(古田嶋智子、鈴木昌樹、犬塚将英) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
(6 発表)「Development of Emission Test Method Using Sampling Bag」(Tomoko Kotajima, Masaki Suzuki, Masahide Inuzuka) 16th International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments Metropolitan Museum of Art 24.11.19-11.20
(7 所属学会等) ICOM、ICOM-CC、室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会
(7 委員等) 室内環境学会出版委員

後藤 知美 | GOTO Tomomi (無形文化遺産部)

- (2 報告)「能登半島地震と無形文化遺産」(石村智、後藤知美、前原恵美、鎌田紗弓、中川優子、菊池理予、今石みぎわ、山本涼花、久保田裕道)『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-65 東京文化財研究所 無形文化遺産部 25.3
(3 論文)「創られる文化財保護の文脈—運用から捉える『財と遺産の仕組み』」『現代思想 民俗学の現在』52 (6) pp.146-15 駒西 青土社 24.4
(5 学会発表)「もてなしの成立／不成立—旅館で働く女性と宿泊客の関係から—」第956回東京都立大学・首都大学東京 社会人類学研究会 東京都立大学 24.11.22
(6. 発表)「無形民俗文化財の防災を考える」あいち山車まつり日本一協議会研修会 アイリス愛知2階コスモス 24.6.22
(6. 発表)「都道府県内の連携体制強化で目指す文化財防災力の向上—文化財防災センターの取組を中心に」第62回北海道博物館大会 函館市市民会館小ホール 24.7.11
(6. 講義)「文化財の防災・防犯上の注意点」山形県文化財日常管理・防災研修会(村山エリア) 東北芸術工科大学 24.9.7
(6. 講義)「文化財の防災・防犯上の注意点」山形県文化財日常管理・防災研修会(庄内エリア) 鶴岡アートフォーラム 24.11.24
(6. 発表)「羽生市の絵馬について」ふるさと講座 羽生市立図書館 24.10.27
(6. 発表)「駒西・北川辺の絵馬」加須市文化財保護審議会研修会 パストラル加須 24.11.27
(6. 発表)「文化財の防災」文化財に係る災害時の相互応援に関する協定 連絡会議 大熊町役場 25.2.25
(7 所属学会等) 現代民俗学会、日本民具学会、日本民俗学会、歴史人類学会
(7 委員等) 令和5・6年度ふじのくに無形民俗文化財保存継承アドバイザー、上尾市文化財保護審議会委員、加須市文化財保護審議会委員
(8 教育) 國學院大學観光まちづくり学部非常勤講師

後藤 亮子 | GOTO Ryoko (客員研究員)

- (6 発表)「余紹宋と近代中国の書画史学」令和6年度第4回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 24.7.23
(6 講演)「中国の筆法をどう理解するか」シンポジウム「墨と線の表

現」東京藝術大学上野校中央棟第3会議室 24.11.16
(7 所属学会等) 美術史学会、明治美術学会

小林 公治 | KOBAYASHI Koji (文化財情報資料部)

- (3 論文)「Scientific Analysis on Two Christian Lecterns in Portugal: A Wooden Substrate Investigation」(KOBAYASHI Koji, NAKAMURA Ichiro, TORIGOE Toshiyuki, NOSHIRO Shuichi)『保存科学』64 pp.43-60 25.3
(5 学会発表)「ポルトガルで伝えられた松樹IHS蒔絵螺鈿書見台のCT調査」(鳥越敏行、小林公治、ウルリケ・ケルバー、加藤沙弥) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
(6 発表)「從16世紀末到17世紀前半葡萄牙人在澳門制作的基督教螺鈿漆器」2024中日螺鈿漆器研討会 温州東海貝雕芸術博物館 24.8.8
(7 所属学会等) 考古学研究会、漆工史学会、東南アジア考古学会、日本考古学協会、日本漆工協会、早稲田大学考古学会
(8 教育) 武蔵野美術大学造形学部非常勤講師

齊藤 孝正 | SAITO Takamasa (所長)

- (7 所属学会等) 東洋陶磁学会
(7 委員等) 東洋陶磁学会常任委員、法隆寺金堂壁画保存活用委員会委員、文化財虫菌害研究所評議員、文化財保護・芸術研究助成財団事業委員、文化遺産国際協力コンソーシアム運営委員会委員

境野 飛鳥 | SAKAINO Asuka (客員研究員)

- (7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本歴史学会

佐藤 嘉則 | SATO Yoshinori (保存科学研究センター)

- (2 報告)「海底遺跡から発掘された木製品、石製品等遺物(海揚げ品)から発生する還元型硫黄ガス(硫化水素、硫化カルボニル)の調査」(木川りか、和泉田絢子、島田潤、渡辺祐基、安木由美、佐藤嘉則、柳田明進、脇谷草一郎、内野義、志賀智史、小泉恵英、高妻洋成)『保存科学』64 pp.1-12 25.3
(2 報告)「湿熱処理による紙資料への影響」(小野寺裕子、貴田啓子、佐藤嘉則)『保存科学』64 pp.23-32 25.3
(2 報告)「ヒメハクリバチによる文化財建造物への営巢事例」(島田潤、轟丈瑠、山田紀代美、佐藤嘉則)『保存科学』64 pp.81-90 25.3
(2 コメント)「博物館資料 持続可能な未来へ「燻蒸ガス禁止から20年—予防保存の実践」」『朝日新聞(朝刊)』p.2 朝日新聞社 24.5
(2 コメント)「文化財のあした「害虫との闘い-環境に配慮 広がるIPM」」『毎日新聞(朝刊)』p.9 毎日新聞社 24.5
(2 コメント)「虫カビ対策—博物館ピンチ駆除用ガス来年販売終了で」『読売新聞(日刊)』p.1 読売新聞社 24.5
(2 コメント)「駆除ガス販売終了 2025年文化財 虫・カビ危機「代替策ない」頭抱える博物館 早期発見へ害虫簡単検索サポート」『読売新聞(夕刊)』p.22 24.6
(2 コメント)「文化財保護困った 虫、カビ防ぎ燻蒸ガス 来春販売終了 福島県立博物館 新たな管理法模索」『福島民報(オンライン)』<https://www.minpo.jp/news/detail/20240620117295> 24.6
(3 論文)「What kind of corrosion products are “black spots”?—Effects of reduced sulfur compounds on corrosion of bronze artefacts」(Akinobu Yanagida, Soichiro Wakiya, Rika Kigawa, Yoshinori Sato, Satoshi Shiga, Yoshihide Koizumi, Tadashi Uchino, Yumi Yasuki, Yohsei Kohdzuma)『Journal of Cultural Heritage』68 pp.307-315 Elsevier 24.6
(4 解説)「ポスト・エキヒュームSを見据えた資料の生物被害対策」『ネットワーク資料保存』136 pp.1-3 日本図書館協会 24.9
(4 解説)「カビの調査と環境の解析」『文化財IPMコーディネータ資格取得のための基礎知識』pp.22-29 公益財団法人文化財虫菌害研究所 24.12
(4 解説)「カビに関する基礎知識」『文化財の虫菌害防除と安全の知識

- 2025年』 pp.21-30 公益財団法人文化財虫菌害研究所 25.1
- (4 解説)「文化財の微生物劣化を防ぐ—古墳環境における微生物制御の現状と課題—」『化学と工業』78(2) pp.101-103 日本化学会 25.2
- (4 解説)「文化財収蔵施設における生物被害対策—記録媒体の紙資料を守るための虫・カビ対策—」『ねっと群文協』54 pp.1-16 群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会 25.3
- (5 学会発表)「油彩画の白色顔料上に見られる暗色斑点の発生要因の考察—東京藝術大学大学美術館所蔵 松平四郎《南佛風景》の光学調査および科学分析をもとに—」(吉岡穂乃花、上野勝久、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学 24.6.22
- (5 学会発表)「油彩画で確認されたカビの種類と顔料との関係」(栗名彩香、轟丈瑠、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (5 学会発表)「空調設備のない保存環境におけるハイガスバリア袋を用いた高湿度対策の効果」(小野寺裕子、京極勇剛、須賀隆章、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学 24.6.22
- (5 学会発表)「海底から発掘された木製品、石製品等遺物(海揚げ品)から発生する還元型硫黄ガス(硫化水素、硫化カルボニル)の調査」(木川りか、和泉田絢子、島田潤、渡辺祐基、安木由美、内野義、佐藤嘉則、柳田明進、脇谷卓一郎) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (5 学会発表)「ニューハクシミの生存率に与える温湿度環境の影響に関する研究」(島田潤、小野寺裕子、渡辺祐基、小峰幸夫、木川りか、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (5 学会発表)「2007年能登半島地震で実施した文化財保存修復学会の活動をふりかえる」(中村晋也、間瀬創、日高真吾、和田浩、天野真志、木川りか、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (5 学会発表)「A case study of the management of *Ctenolepisma calvum* using a residual pyrethroid emulsion, with reference to its behavioral characteristics」(Hiroki Watanabe, Megumi Shimada, Ayako Izumita, Yoshinori Sato, Rika Kigawa) The 5th international conference Integrated Pest Management for Cultural Heritage, 2024 James Simon Galerie, Berlin, Germany 24.9.18
- (5 学会発表)「Effects of temperature and humidity on the survival rate of the ghost silverfish (*Ctenolepisma calvum*) and insecticidal effects of poisoned baits」(Megumi Shimada, Yuko Onodera, Hiroki Watanabe, Yukio Komine, Rika Kigawa, Yoshinori Sato) The 5th international conference Integrated Pest Management for Cultural Heritage, 2024 James Simon Galerie, Berlin, Germany 24.9.18
- (5 学会発表)「Gaseous sulfur compounds from objects: Generation of “Black spots” on bronze and emission of H₂S and COS from various artefacts excavated from a marine archaeological site」(Rika Kigawa, Ayako Izumita, Megumi Shimada, Hiroki Watanabe, Yumi Yasuki, Yoshinori Sato, Akinobu Yanagida, Soichiro Wakiya, Tadashi Uchino, Satoshi Shiga, Yoshihide Koizumi, Yohsei Kohdzuma) The International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments (IAQ 2024) The Metropolitan Museum of Art 24.11.19
- (6 パネリスト)「文化財を守る環境」(建石徹、佐藤嘉則、降幡順子) 文化財保存における科学技術のこれまでとこれから 一般財団法人デジタル文化財創出機構 24.10.11
- (6 講演)「博物館における生物被害対策 現状・課題・展望」(佐藤嘉則、建石徹) 第30回自然史系博物館館長懇談会 国立科学博物館 24.10.9
- (6 講演)「文化財IPMについて」 令和6年度文化財行政講座 京都府庁新行政棟 24.10.29
- (6 講義)「博物館等収蔵品の燻蒸とIPMについて」 令和6年度公開承認施設担当会議 文化庁 24.6.14
- (6 講義)「収蔵庫の保存環境をめぐる現状と課題—ポスト・エキキュームSを見据えた生物被害対策—」 第46回文化財の虫菌害・保存対策研修会 飯田橋レインボービル 24.7.9
- (6 講義)「環境制御(虫菌害対策)」 令和6年度 アーカイブズ・カレッジ 史料管理学研修会 国文学研究資料館 24.9.10
- (6 講義)「有害生物対策」 令和6年度 アーカイブズ研修III/公文書管理研修III 国立公文書館 24.9.13
- (6 講義)「生物劣化への対応—修理工房における文化財IPM—」 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 東京文化財研究所 24.9.20
- (6 講義)「文化財IPMについて(基礎)」 金沢文化振興財団 文化財IPM研修 金沢文化振興財団 24.10.17
- (6 講義)「文化財収蔵施設における生物被害対策—記録媒体の紙資料を守るための虫・カビ対策—」 令和6年度群文協協議会 群馬県立公文書館 24.10.18
- (6 講義)「燻蒸ガス販売停止後の生物被害対策について」 令和6年度 埼玉県資料保存WG 埼玉県立歴史と民俗の博物館 24.10.22
- (6 講義)「一時保管環境における微生物被害対策」(佐藤嘉則、島田潤、小峰幸夫) 被災文化財等の殺虫処理講習会 のと里山里海ミュージアム 24.11.6
- (6 講義)「カビの調査と環境の解析」 第13回文化財IPMコーディネータ資格取得のための講習会 飯田橋レインボービル 24.12.12
- (6 講義)「燻蒸ガスの現状とこれからの資料保存の課題」 全国美術館会議保存研究部会第60回会合 岩手県立美術館 24.12.19
- (6 講義)「水損紙資料の微生物被害と応急処置」 令和6年度被災文化財基礎研修 オンライン配信 25.2.28-3.12
- (6 講義)「微生物に関する基礎知識と文化財を加害するカビの特徴」 第46回文化財の虫菌害防除作業に関する講習会 家の光会館コンベンションホール 25.3.11
- (6 講習会)「カビ・害虫について—カビの基礎知識・対処法・新種のシミについて—」 令和6年度修理技術指導「文化財の保存管理について学ぶ」 宮内庁正倉院事務所 24.7.18
- (7 所属学会等) International Biodeterioration & Biodegradation Society、日本土壌微生物学会、日本微生物生態学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) ひたちなか市史跡保存対策委員会、日本文化財科学会編集委員、国立民族学博物館共同研究員、(公財)文化財虫菌害研究所文化財IPMコーディネータ委員会委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員、「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員、文化財保存修復学会大会プログラム作成委員
- (8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻連携准教授、学習院大学学芸員課程非常勤講師
- 塩谷 純 | SHIOYA Jun (上席研究員)
- (3 論文)「秋元汀と菱田春草」『「菱田春草 生誕150年記念特別展 創造の道筋 画卷《四季山水》への歩み」図録』 pp.59-65 飯田市美術博物館 24.10
- (4 解説)「黒田記念館と東京文化財研究所 その沿革と近年の研究成果について」『「特別企画展 鹿児島市立美術館開館70周年記念 没後100年 黒田清輝とその時代」図録』 pp.122-124 鹿児島市立美術館 24.7
- (6 講演)「秋元汀と菱田春草 画卷《四季山水》に連なる絆について」 飯田市美術博物館 24.10.14
- (6 講演)「黒田清輝の画業について 神津港人の視点から」 シンポジウム「黒田清輝、その研究と評価の現在 没後100年を機に」 黒田記念館 25.1.10
- (6 司会)「生誕150年記念 菱田春草展 不朽の名作《落葉》誕生秘話 シンポジウム」 2024年度 明治美術学会第2回例会 福井県立美術館 24.9.22
- (7 所属学会等) 美術史学会、明治美術学会

(8 教育) 明治学院大学大学院非常勤講師、金沢美術工芸大学芸術学専攻非常勤講師、国際日本文化研究センター共同研究員

島田 潤 | SHIMADA Megumi (アソシエイトフェロー)

- (2 報告)「海底遺跡から発掘された木製品、石製品等遺物 (海揚り品) から発生する還元型硫黄ガス (硫化水素、硫化カルボニル) の調査」 (木川りか、和泉田絢子、島田潤、渡辺祐基、安木由美、佐藤嘉則、柳田明進、脇谷草一郎、内野義、志賀智史、小泉恵英、高妻洋成)『保存科学』64 pp.1-12 25.3
- (2 報告)「ヒメハキリバチによる文化財建造物への営巣事例」 (島田潤、轟文瑠、山田紀代美、佐藤嘉則)『保存科学』64 pp.81-90 25.3
- (2 報告)「国際文化財 IPM 会議“IPM-CH 2024”参加報告 一文化財 IPM の世界的潮流と取り組み一」 (渡辺祐基、島田潤)『保存科学』64 pp.177-190 25.3
- (4 解説)「文化財害虫検索について」『ネットワーク資料保存』135 pp.1-5 日本図書館協会資料保存委員会 24.6
- (5 学会発表)「ニューハクシミの生存率に与える温湿度環境の影響に関する研究」 (島田潤、小野寺裕子、渡辺祐基、小峰幸夫、木川りか、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第 46 回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「海底から発掘された木製品、石製品等遺物 (海揚り品) から発生する還元型硫黄ガス (硫化水素、硫化カルボニル) の調査」 (木川りか、和泉田絢子、島田潤、渡辺祐基、安木由美、内野義、佐藤嘉則、柳田明進、脇谷草一郎) 文化財保存修復学会第 46 回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「ニューハクシミに対する簡便な物理的防除方法」 (高橋佳久、島田潤) 文化財保存修復学会第 46 回大会 帝京大学 八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「Effects of temperature and humidity on the survival rate of the ghost silverfish (*Ctenolepisma calvum*) and insecticidal effects of poisoned baits」 (Megumi Shimada, Yuko Onodera, Hiroki Watanabe, Yukio Komine, Rika Kigawa, Yoshinori Sato) 5th International IPM Conference for Cultural Heritage 2024 James Simon Galerie, Belrin 24.9.18-9.20
- (5 学会発表)「A case study of the management of *Ctenolepisma calvum* using a residual pyrethroid emulsion, with reference to its behavioral characteristics」 (Hiroki Watanabe, Megumi Shimada, Ayako Izumita, Yoshinori Sato, Rika Kigawa) 5th International IPM Conference for Cultural Heritage 2024 James Simon Galerie, Belrin 24.9.18-9.20
- (5 学会発表)「Gaseous sulfur compounds from objects: Generation of “Black spots” on bronze and emission of H₂S and COS from various artefacts excavated from a marine archaeological site」 (Rika Kigawa, Ayako Izumita, Megumi Shimada, Hiroki Watanabe, Yumi Yasuki, Yoshinori Sato, Akinobu Yanagida, Soichiro Wakiya, Tadashi Uchino, Satoshi Shiga, Yoshihide Koizumi, Yohsei Kohdzuma) The International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments (IAQ 2024) The Metropolitan Museum of Art 24.11.19
- (6 講演)「ニューハクシミの生態と防除対策」 全国美術館会議 保存研究部会第 60 回会合 岩手県立美術館 24.12.19
- (6 講演)「文化財 IPM の国際的な潮流～ IPM-CH 2024 参加報告～」 (渡辺祐基、島田潤) フォーラム「ポスト・エキヒューム S の資料保存を考える」 東京文化財研究所 25.2.21
- (6 講習会)「文化財害虫の種類と被害、文化財害虫検索の利用」 第 44 回文化財防虫防菌処理実務講習会 飯田橋レインボービル 24.10.3
- (6 講習会)「一時保管環境における生物被害対策」 (小峰幸夫、島田潤、佐藤嘉則) 被災文化財等の殺虫処理講習会 のと里山里海ミュージアム 24.11.6
- (7 所属学会等) 日本昆虫学会、文化財保存修復学会

城野 誠治 | SHIRONO Seiji (文化財情報資料部)

- (2 報告)「春日権現験記絵」全二十巻の彩色材料調査 (早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵国宝絹本着色春日権現験記絵 蛍光 X 線分析結果』 pp.6-35 東京文化財研究所 25.1
- (2 報告)「春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻十七・十八)」 (早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵国宝絹本着色春日権現験記絵 巻十七・巻十八 光学調査報告書』 pp.30-59 東京文化財研究所 25.2
- (2 報告)「皇居三の丸尚蔵館「紙本着色世界図」、香雪美術館「チュニス戦闘図・世界地図」、神戸市立博物館「四都図・世界図」の彩色材料の比較」 (早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵重要文化財紙本着色世界図 光学調査報告書』 pp.115-116 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「紙本着色世界図」に用いられている彩色材料について (早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵重要文化財紙本着色世界図 光学調査報告書』 pp.192-199 東京文化財研究所 25.3
- (3 論文)「縄文文化への探究 最新の研究成果など 画像解析からわかる縄文土器の制作技法」 (城野誠治、澤田恭平)『釧路市立博物館企画展 道東考古一縄文の世界一』 pp.14-15 釧路市立博物館、25.3
- (3 解説)「2023 年の写真の進歩 科学写真一文化財」『日本写真学会誌』87 (3) pp.203-205 24.8
- (4 編集) (城野誠治、谷口每子)『皇居三の丸尚蔵館 収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 蛍光 X 線分析結果』 78p 東京文化財研究所 25.1
- (4 編集) (城野誠治、谷口每子)『皇居三の丸尚蔵館 収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 巻十七・巻十八 光学調査報告書』 184p 東京文化財研究所 25.2
- (4 編集) (城野誠治、谷口每子)『皇居三の丸尚蔵館 収蔵 重要文化財 紙本着色世界図 光学調査報告書』 200p 東京文化財研究所 25.3
- (4 画像形成)『和泉市久保惣記念美術館・東京文化財研究所共同研究資料 1 重要文化財 絹本着色「山崎架橋図」 和泉市久保惣記念美術館蔵 (リーフレット)』 12p 東京文化財研究所 25.3
- (6 講演)「文化財写真を取り巻く現状と課題」 学芸員のための文化財写真研修会 北海道立北方民族博物館 24.7.26
- (7 所属学会等) 日本写真家協会、日本写真学会、日本法科学技術学会

杉山 恵助 | SUGIYAMA Keisuke (客員研究員)

- (7 所属学会等) Institute of Conservation、文化財保存修復学会
- (8 教育) 東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科教授

田代 裕一郎 | TASHIRO Yuichiro (文化財情報資料部)

- (1 公刊図書)『東京文化財研究所所蔵 韓国絵画調査資料 資料集』 167p 24.9
- (2 報告)「韓国による文化遺産国際協力」 (庄田慎矢、田代裕一郎、玉城真紀子、金子雄太郎)『文化遺産国際協力コンソーシアム 令和 6 年度 国際協力調査 韓国の遺産保護に係る制度改革および国際協力体制に関する調査報告書』 pp.25-58 文化遺産国際協力コンソーシアム 25.3
- (4 翻訳)「(書画彫刻工芸分野の日本語翻訳)」『国立中央博物館 常設展示 (日本語版)』 国立中央博物館 24.12
- (4 記事)「韓国：シンポジウム「朝鮮白磁研究の現在」と京畿道広州における近年の窯跡調査に関する報告」『東洋陶磁学会会報』102 p.5 東洋陶磁学会 24.7
- (4 記事)「李朝私感」『目の眼』577 pp.18-21 株式会社目の眼 24.9
- (4 記事)「韓国における陶磁蒐集史 (試論)」『陶説』856 pp.54-75 日本陶磁協会 25.1
- (4 記事)「韓国における陶磁蒐集史 関連人物情報」 (田代裕一郎、柳川陽介)『陶説』856 pp.92-97 日本陶磁協会 25.1
- (4 記事)「「物故者」黒田泰蔵、武腰敏昭」『日本美術年鑑』令和 4 年版

- pp.113-114, p.119 東京文化財研究所 25.1
- (5 学会発表)「韓国：シンポジウム「朝鮮白磁研究の現在」と京畿道広州における近年の窯跡調査に関する報告」 東洋陶磁学会 総会 青山学院大学 24.6.8
- (6 発表)「韓国陶磁鑑賞史—韓国におけるコレクションの形成」 第58回オープンレクチャー 東京文化財研究所 24.11.1
- (6 発表)「関野貞の朝鮮絵画調査と朝鮮人蒐集家—東京文化財研究所所蔵の調査資料をもとに—」 令和6年度第10回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 25.2.17
- (6 パネリスト)「「東アジアの技藝と自然」／韓国美術における自然と技藝—前近代の「清玩」と近代の「鑑賞」を視座として—」(田中有紀、田代裕一郎、栗原ふみ、梅尾亮子) 第20回松下幸之助国際スカラシップフォーラム ベルサール御成門タワー 24.10.12
- (7 所属学会等) 韓国・朝鮮文化研究会、韓国美術史学会、東洋陶磁学会
- (7 委員等) 東洋陶磁学会常任委員
- (8 教育) 青山学院大学文学部史学科非常勤講師、愛知県立芸術大学美術学部非常勤講師

- 田中 淳 | TANAKA Atsushi (客員研究員)
- (4 記事)「「物故者」柳原正樹、青木茂、掛井五郎」『日本美術年鑑』令和4年版 p.114, pp.129-130, pp.130-131 東京文化財研究所 25.1
- (7 所属学会等) 美術史学会、明治美術学会

- 田中 潤 | TANAKA Jun (客員研究員)
- (4 解説)「『春日権現験記絵』と有職故実—法体装束の表現と現代に継承される公家女房装束の情報源—」『春日権現験記絵光学調査報告書 第十五・十六巻』 pp.100-106 東京文化財研究所 25.3

- 谷口 每子 | TANIGUCHI Maiko (アソシエイトフェロー)
- (4 編集) (城野誠治、谷口每子)『皇居三の丸尚蔵館 収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 蛍光X線分析結果』 78p 東京文化財研究所 25.1
- (4 編集) (城野誠治、谷口每子)『皇居三の丸尚蔵館 収蔵 国宝 絹本着色 春日権現験記絵 巻十七・巻十八 光学調査報告書』 184p 東京文化財研究所 25.2
- (4 編集) (城野誠治、谷口每子)『皇居三の丸尚蔵館 収蔵 重要文化財 紙本着色世界図 光学調査報告書』 200p 東京文化財研究所 25.3

- 田良島 哲 | TARASHIMA Satoshi (客員研究員)
- (1 公刊図書) (阿児雄之、北岡タマ子、田良島哲、福島幸宏、本間友、山内利秋 共編著)『ミュージアムの未来をつくる 博物館情報・メディア論』309p 美学出版 25.3
- (6 発表)「Constructing a Database of Cultural Property Restoration Records」(Tarashima Satoshi, Katakura Shumpei, Emura Tomoko, Tateishi Toru, Yasuhara Daiki) Digital Humanities 2024 ジョージ・メイソン大学 (アメリカ) 24.8.6-8.9
- (6 発表)「事業成果のWEB公開とアーカイブ構築について」(田良島哲・小山田智寛・山永尚美・安原大熙) 2024年度美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会 東京文化財研究所 25.2.5
- (6 発表)「修理 (修復) 報告書の整理・分類・メタデータ付与」(小山田智寛・山永尚美・田良島哲) 修理 (修復) 記録アーカイブ研究会 慶應義塾大学三田キャンパス 25.3.19
- (7 所属学会等) アート・ドキュメンテーション学会、情報知識学会、デジタルアーカイブ学会、日本古文書学会
- (8 教育) 学習院大学学芸員課程非常勤講師

- 邱 君妮 | CHIU Chunni (客員研究員)

- (1 共著)「Experience of Non-custodial Collecting through the Contemporary Ecomuseum Model: A Case Study of Taoyuan City Daxi Wood Art Ecomuseum in Taiwan」(LIN I-Ching, CHIU Chun-Ni)『Ethics of Contemporary Collecting』 Routledge pp.133-143 24.10
- (3 論文)「Doing History: An Observation of Inclusive Museum Practices in the Netherlands」『Historical Taiwan』 28 pp.141-164 National Museum of Taiwan History 24.11
- (6 講義)「博物館資料保存論—DEAI ミュージアムから考える—」 慶應義塾大学2024年度博物館資料保存論 慶應義塾大学 24.6.22
- (7 所属学会等) ICOM、全日本博物館学会、日本展示学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) 文化財保存修復学会百周年記念事業委員、ICOM-WGSR規定及び内部規程の見直しに関するワーキンググループメンバー

- 千葉 毅 | CHIBA Tsuyoshi (保存科学研究センター)
- (1 公刊図書)「南九州市近代文化遺産に関する東京文化財研究所の取り組み」(千葉毅、芳賀文絵)『公開研究会「航空資料の保存と活用」報告書』 東京文化財研究所 pp.33-45 25.3
- (1 共著)「旧青戸飛行場に残るトーチカ」(千葉毅、芳賀文絵)『鹿児島県の戦争遺跡』 知覧特攻平和会館 pp.29-32 25.3
- (2 報告)「国立文化財機構によるトルコ被災文化遺産への支援事業—文化遺産防災を核とした二国間連携をめざして—」(山田綾乃、千葉毅、中島志保、安倍雅史、友田正彦、建石徹、高妻洋成)『西アジア考古学』 26, pp.67-76 25.3
- (3 論文)「日本における航空機の保存・活用等に関する諸制度」『保存科学』 64 pp.111-136 25.3
- (4 編集)「令和6年度文化遺産保護国際貢献事業「トルコにおける文化遺産防災体制向上のための拠点交流事業」成果報告書」 82p 国立文化財機構文化財防災センター 25.3
- (4 編集)「公開研究会 航空資料の保存と活用」 120p 東京文化財研究所 25.3
- (4 記事)「令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨で被災した文化財等の救援について」『神奈川県考古学会連絡誌 考古かながわ』 65 pp.2-3 神奈川県考古学会 25.3
- (5 学会発表)「表面採集した考古資料は誰のものか—資料散逸を防ぎ、適切に保管するための考え方の整理—」 考古学研究会第70回研究集会 岡山大学創立50周年記念館 24.4.20-4.21
- (5 学会発表)「文化財としての航空機の保存—文化財保護法における近代動産文化財の捉え方の整理—」 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「Protection of Aircraft in the Administration of Cultural Properties in Japan; A Complete Survey of Protection Cases by Local Governments」(CHIBA Tsuyoshi, HAGA Ayae, HOMMA Yui, SASAKI Miran, SAITO Yui, TSUKADA Kanata, SAKAMOTO Yukina) The 60th Conference of The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage Jeonbuk National University, Korea 24.11.8-11.9
- (6 講演)「なぜ、この考古資料は横浜国立大学にあるの?—赤星直忠の関東大震災復興支援—」 自然と関わって生きた人間の歴史—常盤台遺跡と横浜国大キャンパス— 横浜国立大学教育文化ホール大集会室 24.11.30
- (6 パネリスト)「近代の文化財の魅力や保存における課題」 日本航空協会 第307回日本航空協会講演会 航空会館 24.11.15
- (7 所属学会等) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会、ICOM、デジタルアーカイブ学会、考古学研究会、三田史学会、縄文時代文化研究会、神奈川県考古学会、漂着物学会
- (7 委員等) 日本文化財科学会第41回大会実行委員会、神奈川県考古学会役員
- (8 教育) 大正大学文学部非常勤講師

- 月村 紀乃 | TSUKIMURA Kino (文化財情報資料部)

- (1 公刊図書)「銘から読み解く堀川国広」『ホビージャパンMOOK 1458 刀剣写真集 堀川国広』ホビージャパン pp.70-73 25.3
- (2 報告)(江村知子、月村紀乃、河田昌之、橋詰文之、後藤健一郎)『和泉市久保惣記念美術館・東京文化財研究所共同研究資料1 重要文化財 絹本着色「山崎架橋図」和泉市久保惣記念美術館蔵(リーフレット)』12p 東京文化財研究所 25.3
- (4 解説)「刀 銘 日州古屋之住国広作/天正六年八月彼岸」ほか全32点 作品解説『ホビージャパンMOOK 1458 刀剣写真集 堀川国広』ホビージャパン pp.74-81 25.3
- (6 発表)「長尾美術館に関する基礎的研究—美術研究所との関わりへの解明に向けて—」令和6年度第8回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 24.12.18
- (6 講義)「はじめての日本刀鑑賞」日本工芸史概説II 東京藝術大学 25.1.14
- (7 所属学会等) 漆工史学会、美術史学会

轟 丈瑠 | TODOROKI Takeru (アソシエイトフェロー)

- (2 報告)「ヒメハキリバチによる文化財建造物への営巣事例の報告」(島田潤、轟丈瑠、山田紀代美、佐藤嘉則)『保存科学』64 pp.81-89 25.3
- (5 学会発表)「油彩画で確認されたカビの種類と顔料との関係」(衆名彩香、轟丈瑠、佐藤嘉則) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (7 所属学会等) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

友田 正彦 | TOMODA Masahiko (副所長)

- (1 公刊図書)「4.2 バイヨン北経蔵—アンコールにおける新たな修復モデルの提示—」『バイヨン 謎と希望へのJSA/JASA30年の挑戦(中川武監修、日本国政府アンコール遺跡救済チーム編集)』中央公論美術出版 pp.170-176 24.11
- (1 公刊図書)「2.1 考古学的知見から見た北部ベトナムの古代木造建築、総論：東南アジアにおける木造建築史研究と木造建築遺産保護をめぐる課題」『大陸部東南アジアの古代木造建築を考える(東京文化財研究所編、友田正彦編著)』鹿島出版会 pp.85-108, 220-224 25.3
- (2 報告)「海外文化遺産の地震被害に関する協力可能性をめぐって」『ICOMOS Japan Information』2024年春号 <https://icomosjapan-information.org/20241/20241/海外文化遺産の地震被害に関する協力可能性をめぐって/> 日本イコモス国内委員会 24.6
- (2 報告)「Chapter 1 Introduction」(TOMODA Masahiko, KUROIWA Chihiro)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor – Progress Report of 2022-2023 –』pp.1-4 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「建築」(友田正彦、金井健、浅田なつみ、黒岩千尋、福嶋啓人、海野聡、向井純子)『ブータンの伝統的民家保存のための建築調査 2023年秋調査 概報』pp.10-53 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「国立文化財機構によるトルコ被災文化遺産への支援事業—文化遺産防災を核とした二国間連携をめざして—」(山田綾乃、千葉毅、中島志保、安倍雅史、友田正彦、建石徹、高妻洋成)『西アジア考古学』26 pp.67-76 日本西アジア考古学会 25.3
- (2 報告)「Chapter 6 Risk Management」(KIM Sothin, ASADA Natsumi, TOMODA Masahiko, et al)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor – Progress Report of 2022-2023 –』pp.41-56 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3

- (2 報告)「Chapter 8 Statues Originally Located in Ta Nei Temple」(TOMODA Masahiko)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor – Progress Report of 2022-2023 –』pp.65-70 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (2 報告)「Appendix I List of Statues Originally Located in Ta Nei Temple」(TOMODA Masahiko, KUROIWA Chihiro)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor – Progress Report of 2022-2023 –』pp.77-144 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
- (3 論文)「ブータンの伝統的民家の建築的特徴と文化財的価値の評価 その2：タシガン県、タシヤンツェ県、モンガル県及びビルンツェ県における建築学的調査の概要」(金井健、友田正彦、浅田なつみ、黒岩千尋)『日本建築学会大会学術講演梗概集』2024 pp.753-754 24.7
- (4 編集)「Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor – Progress Report of 2022-2023 –」(TOMODA Masahiko, KIM Sothin, KUROIWA Chihiro)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor – Progress Report of 2022-2023 –』167p 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「ブータンの伝統的民家の建築的特徴と文化財的価値の評価 その2：タシガン県、タシヤンツェ県、モンガル県及びビルンツェ県における建築学的調査の概要」(金井健、友田正彦、浅田なつみ、黒岩千尋) 日本建築学会大会学術講演会 明治大学 24.8.30
- (5 学会発表)「Bhutan's First-ever Vernacular House Designated as Cultural Heritage -The Significance of Designation and Its Architectural Features-」(Masahiko Tomoda, Alejandro Martinez de Arbuló, Yeshe Samdrup) 14th International Symposium on Architectural Interchange in Asia 京都工芸繊維大学 24.9.12
- (5 学会発表)「Comparative Study on the Architectural Features of the Outermost Gate, Ta Nei Temple, Cambodia」(Chihiro Kuroiwa, Masahiko Tomoda) 14th International Symposium on Architectural Interchange in Asia 京都工芸繊維大学 24.9.12
- (5 学会発表)「Stone Masonry Technique of Ancient Khmer Craftsmen: A case study of the East Gate in Ta Nei Temple, Angkor」(Natsumi Asada, Sea Sophearun, Masahiko Tomoda, Ken Kanai, Sothin Kim) 14th International Symposium on Architectural Interchange in Asia 京都工芸繊維大学 24.9.12
- (6 講演)「Conservation of Wooden Architectural Heritage in Japan」The Mongolian-Japanese Cultural Heritage Symposium on "Conservation of the World Heritage Cultural Landscapes and Historical Monuments" Chinggis Khaan National Museum 24.7.30
- (6 講演)「趣旨説明」文化遺産国際協力コンソーシアム第34回研究会『学校教育と文化遺産』東京文化財研究所 24.9.28
- (6 講義)「Significance of the Conservation of Lham Pelzom House in Kabesa」Department of Culture and Dzongkha Development 24.8.19
- (6 講義)「Current Issues regarding Protection and Succession of Cultural Heritage」JENESIS (Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths) 2024 タイム24ビル 25.1.18
- (6 講義)「カンボジア復興における文化遺産保護国際協力の意義」『藝術立国』から考える芸術と平和 京都芸術大学 25.3.8
- (7 所属学会等) ICOMOS、東南アジア考古学会、日本建築学会
- (7 委員等) 文化遺産国際協力コンソーシアム事務局長

永崎 研宣 | NAGASAKI Kiyonori (客員研究員)

- (3 論文)「『第1部 IIIFの概要』ほか」(大向一輝、永崎研宣、西岡千文、橋本雄太、吉賀夏子、本間淳、鈴木親彦、三原鉄也、高橋洋成)『IIIF [トリプルアイエフ] で拓くデジタルアーカイブ: コンテンツの可能性を世界につなぐ』文学通信 240p 24.7
- (6 発表)「Attempts to Reconstruct Digital Textual Environment for Buddhist studies」臺灣佛學資源數位化回顧與前瞻國際學術研討會 國立臺灣大學圖書館 24.4.19
- (6 発表)「A Digital Scholarly Editing System for Buddhist Studies Utilizing IIIF and AI, and Dunhuang Manuscripts」流失海外敦煌文物国際學術研討會暨國際敦煌項目工作會議 敦煌研究院 24.4.20
- (6 発表)「New Developments in Digital Scholarly Editions for Non-Latin Literature」Digital Humanities 2024 Conference George Mason University, Arlington Campus 24.8.7
- (6 発表)「Enhancing Buddhist Scripture Research with Imperfect AI Outcomes: A Case Study of the SAT Text Database」AI and the Future of Buddhist Studies UC Berkeley 24.10.19
- (6 発表)「Expanding the Possibilities of Humanities Research with TEI Guidelines and IIIF: The Significance of Applying International Standards」Digital Humanities Mongolia 2024 Conference National University of Mongolia 24.11.7
- (6 発表)「SATの現在: 大蔵経画像を用いた令和大蔵経編纂に向けて」AT大蔵経テキストデータベース研究会: 仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム 東京大学 24.12.21
- (7 所属学会等) Alliance of Digital Humanities Organizations、アート・ドキュメンテーション学会、情報処理学会、情報知識学会、情報メディア学会、日本印度学仏教学会、日本宗教学会、日本デジタル・ヒューマニティーズ学会 (JADH)
- (8 教育) 慶應義塾大学文学部教授

西田 典由 | NISHIDA Noriyoshi (アソシエイトフェロー)

- (3 論文)「Preparation of a Novel Adhesive from Highly Fibrillated Kozo Fibre for Paper Conservation」(Keiko Kida, Masaki Handa, Takayuki Okayama, Ryota Kose, Noriyoshi Nishida, Manato Fujimoto, Yuko Kaseya, Mao Tonoyama and Masamitsu Inaba)『Restaurator. International Journal for the Preservation of Library and Archival Material』45 (1) pp.17-34 24.5
- (3 論文)「文化財としての紙・文化財を守る紙」『機能紙研究会誌』63 pp.41-47 25.3
- (3 論文)「電磁式膜厚計による紙厚測定の精度評価」(大和あすか、西田典由、趙依寧)『保存科学』64 pp.33-42 25.3
- (5 学会発表)「抄紙用ネリに用いるノリウツギの安定供給に向けた取り組み」(西田典由、倉島玲央、長田雅弘、小林和、錦織正智、鈴木三男、栗野達也、早川典子) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (5 学会発表)「植物繊維の同定 一苧麻・大麻の識別一」(菊池理予、早川典子、西田典由、趙依寧、安永拓世) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
- (5 学会発表)「高度外部フィブリル化楮繊維のリーフキャストによる評価」(貴田啓子、西田典由、藤本真人、岩田直美、半田昌規、稲葉政満) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (6 講演)「文化財としての紙・文化財を守る紙」第63回機能紙研究発表・講演会 タワーホール船堀 24.11.21
- (6 講義)「基礎学問論」講義(単発) 高知大学 24.12.18
- (7 所属学会等) 日本鉞業史研究会、日本文化財科学会、日本分析化学会、文化財保存修復学会、和紙文化研究会

芳賀 文絵 | HAGA Ayae (保存科学研究センター)

- (1 公刊図書)「南九州市近代文化遺産に関する東京文化財研究所の取り組み」(千葉毅、芳賀文絵)『公開研究会「航空資料の保存と活用」

報告書』東京文化財研究所 pp.33-45 25.3

- (1 共著)「旧青戸飛行場に残るトーチカ」(千葉毅、芳賀文絵)『鹿児島県の戦争遺跡』知覧特攻平和会館 pp.29-32 25.3
- (2 報告)「大悲山石仏の保存環境について」『大悲山石仏保存修理事業報告書』pp.36-42 25.3
- (4 編集)『公開研究会 航空資料の保存と活用』120p 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「被災紙資料からの揮発成分調査について一処置状態・方法による比較結果一」(芳賀文絵、松井敏也) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「Protection of Aircraft in the Administration of Cultural Properties in Japan; A Complete Survey of Protection Cases by Local Governments」(CHIBA Tsuyoshi, HAGA Ayae, HOMMA Yui, SASAKI Miran, SAITO Yui, TSUKADA Kanata, SAKAMOTO Yukina) The 60th Conference of The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage Jeonbuk National University, Korea 24.11.8-11.9
- (5 学会発表)「An example of volatile components (odors) from cultural assets damaged by flooding in Japan and how to analyze them (일본에서의 수해로 피해를 입은 문화재로부터의 휘발 성분 (냄새) 과 그 분석 방법 사례에 대해서)」(HAGA Ayae, Matsui Toshiya) The 60th Conference of The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage Jeonbuk National University, Korea 24.11.8-11.9
- (7 所属学会等) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会、ICOM-CC
- (7 委員等) 大悲山石仏保存修理指導委員会委員
- (8 教育) 東京藝術大学非常勤講師

早川 典子 | HAYAKAWA Noriko (保存科学研究センター)

- (3 論文)「紫外線照射および電子線照射した劣化絹の使用後劣化挙動予測とその作業性」(早川典子・中村恵里花・佐藤千晴・岡岩太郎・川野邊渉)『保存科学』64 pp.13-22 25.3
- (3 論文)「文化財のクリーニングに関する近年の動向」『化学と工業』2月号 pp.81-83 25.2
- (4 記事)「せっちゃんくざいの今と昔」『新編 新しい国語三』下 pp.10-15 東京書籍 24.7
- (4 編集)『高松塚古墳壁画修理報告書』160p 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「デンプン糊で裏打ちされる文化財の修理における市販α-アミラーゼ適用方法に関する検討」(早川典子、山田祐子、趙依寧、山中勇人) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「有機溶媒高含有ゲルによる文化財の旧修理材料除去の試み」(秋山花子、一宮八重、早川典子) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「武雄銅島家資料「絵絹」調査報告一糸糸・製織技術の視点から一」(京都絵美、早川典子、山田祐子、安永拓世、菊池理予、秋本賀子、志村明) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「鉄媒染絹布に対するフノリと膠を使用した処置方法の検討」(Ajla Redzic、佐藤萌、一宮八重、渡邊尚恵、早川典子) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「植物繊維の同定 一苧麻・大麻の識別一」(菊池理予、早川典子、西田典由、趙依寧、安永拓世) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「合成樹脂の塗布された板絵著色画の修理事例一東京都有形文化財(絵画)板絵著色大森彦七図一面および三人静白拍子図一面の保存修理から一」(君嶋隆幸、早川典子、池田和彦) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (6 発表)「日本の電子線劣化絹の製作経緯および紫外線劣化絹との比較」韓国原子力研究所共同研究報告会 韓国原子力研究所 24.5.13

- (6 発表)「日本における漆喰古墳壁画の保存修復と公開」 陝西歴史博物院東京文化財研究所文化財保存科学研究交流会 陝西歴史博物院 24.9.26
- (6 発表)「本事業における科学的調査事例紹介」 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会 東京文化財研究所 25.2.5
- (6 パネリスト)「文化財を調べる科学 過去～現在に至る保存科学の軌跡」(建石徹、犬塚将英、早川典子) 文化財保存における科学技術のこれまでとこれから 一般社団法人デジタル文化財機構 24.10.11
- (6 講義)「修理技術者に必要な自然科学」 国宝修理装演師連盟令和3年度新任者研修会 京都国立博物館 24.4.19
- (6 講義)「文化財修復に関する科学」 保存担当学芸員研修(上級コース) 東京文化財研究所 24.7.9
- (6 講義)「修理技術者に必要な自然科学」 国宝修理装演師連盟令和3年度上級・中級研修会 京都国立博物館 24.7.12
- (6 講義)「On Adhesives Used in the Restoration of Japanese Paintings」 国際研修「紙の保存と修復」2024 東京文化財研究所 24.8.27
- (6 講義)「科学知識基礎1、2」 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 東京文化財研究所 24.9.18
- (6 講義)「伝統接着剤1(糊、フノリ)」 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 東京文化財研究所 24.9.18
- (6 講義)「合成接着剤1、2」 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 東京文化財研究所 24.9.19
- (6 講義)「伝統接着剤2(漆、膠等)」 文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 東京文化財研究所 24.9.20
- (6 講義)「文化財資料に使用された粘着テープの処置について」 令和6年度近代歴史資料の保存・修理に関する研究協議会 文化庁(東京) 24.11.29
- (6 講義)「美術工芸品修理における接着/工場の安全管理」 美術工芸品保存修理講習会 オンライン 24.12.17
- (6 講義)「文化財修理に使用される塗料・合成樹脂・最近の動向」 文化財修理共通座学研修会(社寺建造物美術保存技術協会) オンライン 25.3.3
- (6 司会)「フォーラム「ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える」」 東京文化財研究所 25.2.21
- (7 所属学会等) IIC、高分子学会、膠文化研究会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会
- (7 委員等)「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員、厳島神社専門委員、鎌倉芳太郎撮影紙焼写真修理検討委員、文化財保存修復学会理事、文化財保存修復学会誌編集委員長、マテリアルライフ学会編集委員、国宝修理装演師連盟資格制度委員
- (8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻連携教授

早川 泰弘 | HAYAKAWA Yasuhiro (特任研究員)

- (2 報告)「『春日権現験記絵』全二十巻の彩色材料調査」(早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵国宝絹本着色春日権現験記絵 蛍光X線分析結果』 pp.6-35 東京文化財研究所 25.1
- (2 報告)「春日権現験記絵の彩色材料調査(巻十七・十八)」(早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵国宝絹本着色春日権現験記絵 巻十七・巻十八 光学調査報告書』 pp.30-59 東京文化財研究所 25.2
- (2 報告)「皇居三の丸尚蔵館「紙本着色世界図」、香雪美術館「チュニス戦闘図・世界地図」、神戸市立博物館「四都図・世界図」の彩色材料の比較」(早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵重要文化財紙本着色世界図 光学調査報告書』 pp.115-116 東京文化財研究所 25.3
- (2 報告)「『紙本着色世界図』に用いられている彩色材料について」(早川泰弘、城野誠治)『皇居三の丸尚蔵館収蔵重要文化財紙本着色世界図 光学調査報告書』 pp.192-199 東京文化財研究所 25.3

- (5 学会発表)「首里城火災における城郭内収蔵庫の美術工芸品の暴露環境―壁面の輻射熱の影響」(水谷悦子、早川泰弘、幸喜淳) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.27-7.28
- (6 発表)「蛍光X線分析による中尊寺金色堂の材料調査」「人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成」令和6年度第2回研究会 岩手大学理工学部銀河ホール 24.7.12
- (6 発表)「江戸期絵画における真鍮の利用例」「黄銅(鍮石・真鍮)の歴史と伝来の道「Brass Road」の研究」2024年度研究会 奈良大学 24.12.14-12.15
- (7 所属学会等) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) 琉球王国文化遺産集積・再興事業監修者(絵画)、中城御殿跡地整備検討委員会委員、返還文化財保存修復検討委員会委員、被災漆器修理WG委員、「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員、石川県文化財保存修復工房運営委員会委員、公益財団法人文化財虫菌害研究所理事
- (8 教育) 金沢美術工芸大学非常勤講師

藤井 郁乃 | FUJII Ikuno (アソシエイトフェロー)

- (4 編集) (FUJII Ikuno, YONEYAMA Daizaburo)『Report on the JCIC-Heritage 2023 Symposium "50 Years of World Cultural Heritage: Past and Future of Japan's Contribution"』 65p Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage 24.12
- (4 翻訳) (FUJII Ikuno, Daigo Osajima)『Report on the JCIC-Heritage 2023 Symposium "50 Years of World Cultural Heritage: Past and Future of Japan's Contribution"』 65p Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage 24.12
- (6 発表)「ジオパークってなあに?―国内外の形成過程から紐解くプログラムの変容について―」 第18回文化遺産国際協力センター定例勉強会 東京文化財研究所 24.7.9
- (6 発表)「令和2-3年度国際協力調査「海域交流ネットワークと文化遺産」を基盤とした発展的研究の成果について」(藤井郁乃、前田康記) 文化遺産国際協力コンソーシアム第43回西アジア分科会 オンライン 24.7.10
- (6 発表)「西アジア分科会、東・中央アジア分科会の近年の活動傾向および共有議題について」 文化遺産国際協力コンソーシアム第44回西アジア分科会 オンライン 24.10.16
- (6 発表)「西アジア分科会、東・中央アジア分科会の近年の活動傾向および共有議題について」 文化遺産国際協力コンソーシアム第40回東アジア・中央アジア分科会 オンライン 24.10.16
- (7 所属学会等) ICOMOS、日本造園学会、日本地球惑星科学連合

二神 葉子 | FUTAGAMI Yoko (文化財情報資料部)

- (2 報告)「Japan-made Lacquerwork Recorded in Old Photographs in Thailand」『Japanese Lacquerwork and Craftspersons in Thailand – Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand (2) –』 pp.27-30 Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 25.3
- (3 論文)「世界遺産一覧表登録推薦の評価プロセスにおける課題と解決に向けた取り組み―特に信頼性の確保について―」『美術研究』 pp.1-30 24.10
- (3 論文)「WordPressを用いたデジタルコンテンツの長期運用について」(小山田智寛、石灰秀行、二神葉子)『デジタルアーカイブ学会誌』9(1) pp.15-19 25.2
- (3 論文)「無形文化遺産の保護に関する第19回政府間委員会会合の概要と今後の展望」『無形文化遺産研究報告』19 pp.67-95 25.3
- (3 論文)「Interpreting the Activities of Japanese in Thailand Through Contemporary Materials: Miki Sakae's Activities as a Lacquerwork Expert」『Japanese Lacquerwork and Craftspersons in Thailand – Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand (2) –』 pp.59-83 Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 25.3

- (3 論文)「Description of the Items Formerly Owned by Miki Sakae Donated to the Fine Arts Department, Ministry of Culture, Thailand」『Japanese Lacquerwork and Craftspersons in Thailand – Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand (2) –』 pp.93-158 Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 25.3
- (6 発表)「世界遺産条約の履行に関する近年の状況」 令和6年度第4回総合研究会 東京文化財研究所 25.2.4
- (7 所属学会等) ICOMOS、地理情報システム学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員
- (8 教育) 江戸川大学社会学部非常勤講師

米沢 玲 | MAIZAWA Rei (文化財情報資料部)

- (4 資料紹介)「資料紹介 モントリオール美術館所蔵 熊野曼荼羅図」『美術研究』444 pp.1-10 25.1
- (4 解説)「2.1 作品解説」『在外日本古美術品保存修復協力事業「熊野曼荼羅」 No.2020-2』 pp.5-6 東京文化財研究所 25.3
- (6 発表)「イギリス滞在報告—セインズベリー日本藝術研究所とイギリスのライブラリー、ミュージアム視察」 令和6年度第1回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 24.4.30
- (7 所属学会等) ICOM、美学会、美術史学会、仏教芸術学会、三田芸術学会
- (8 教育) 清泉女子大学学芸員課程非常勤講師

前川 佳文 | MAEKAWA Yoshifumi (文化遺産国際協力センター)

- (2 報告)「令和6年度成果報告書」『旧機那サフラン酒製造本舗土蔵 鏝絵の保存修復に関する研究—令和6 (2024) 年度スタッコ装飾及び塑像に関する研究成果報告書—』 55p 東京文化財研究所 25.3
- (5 学会発表)「旧機那サフラン酒本舗鏝絵の保存修復」(前川佳文、中山俊介、中村舞、白石明香) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.23
- (5 学会発表)「無機物を主体とする保存修復材料による壁画の補強技法に係る研究」(前川佳文、モニカ・マルテッリ・カスタルディ、ガイド・ボッティチェッリ、ステファニー・フランチェスキーニ) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス17号館 24.7.27
- (6 発表)「Uno studio tecnico interdisciplinare sui dipinti murali del Perugino: due casi di studio. L' Ultima Cena del Cenacolo del Fuligno e la Crocifissione di Santa Maria Maddalena in Cestello」(Yoshifumi MAEKAWA, Alberto FELICI, Ottaviano CARUSO, Emanuela GRIFONI, Donata MAGRINI, Elisabeth MANSHP) Perugino e Firenze 500 — L' artista umbro e la sua attività nella città toscana fra la Repubblica e il Principato mediceo — Museo del Cenacolo del Fuligno 24.5.15
- (6 発表)「Preliminary Studies on the Conservation of the Wall Paintings of the Archangel Michael Church of Keşlik Monastery」 International Symposium on the Protection of Cultural Properties: Keşlik Monastery Wall Paintings Restoration Project Cappadocia University 24.11.6
- (6 講義)「文化遺産の保存に係る国際協働」文化遺産概説B 金沢大学 25.1.27
- (6 講義)「フィレンツェの壁画」西洋美術史D 金沢大学 25.1.28
- (7 所属学会等) Associazione Amici dell'Opificio、Associazione Bastioni、ICOMOS、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻連携准教授

前原 恵美 | MAEHARA Megumi (無形文化遺産部)

- (1 共著)『コロナ下での芸能実践—場とつながりのレジリエンス』 春風社 pp.33-68 25.3
- (2 報告)「素材を育む自然・社会環境—ヨシを例に」『森と支える「知恵とわざ」— 無形文化遺産の未来のために』 pp.57-65 東京文化財研究所 24.11

- (2 報告)「能登半島地震と無形文化遺産」(前原恵美、鎌田紗弓、中川優子ほか)『無形文化遺産研究報告』19 pp.1-65 25.3
- (2 報告)『『夕霧』から見る宮園節の内側』『第17回東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座「宮園節の魅力を探る」報告書』 pp.53-63
- (3 論文)「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告8」『無形文化遺産研究報告』19 pp.97-111 25.3
- (4 解説)『Techniques that Support Japanese Performing Arts IV : Gagaku Fukimono』 pp.1-8 東京文化財研究所 25.3
- (4 解説)『Techniques that Support Japanese Performing Arts VI : Shamisen』 pp.1-12 東京文化財研究所 25.3
- (4 映像監修)「彫刻刃物 製作技術の記録—株式会社 小信・齊藤和芳一(長編)その1〜8」(佐野真規、前原恵美、菊池理予) 東京文化財研究所 25.3.3
- (4 校閲)『齊藤和芳氏(株式会社 小信)インタビュー記録』 32p 東京文化財研究所 25.3
- (4 連載)「音の浮世絵 第21回 どこから見ても映る月に秋の琴音を重ねる「信州更科田毎の月」」『宮城會々報』 pp.1-2 宮城会 24.6
- (4 連載)「音の浮世絵 第22回 帰りに着くまで楽しみ尽くす 四季の内春「花見帰り隅田の渡し」」『宮城會々報』 pp.1-2 宮城会 25.1
- (6 発表)「音楽、教科用図書「音楽」と歌舞伎」 2024年歌舞伎学会 秋季大会 早稲田大学 24.12.15
- (6 発表)「映像を中心とした用具・原材料にかかる記録の試み」 2024年度美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会 東京文化財研究所 25.2.5
- (6 講義)『「菅原伝授手習鑑」四段目 寺入りの段について』 第76期義太夫教室 豊川稲荷文化会館 24.6.1
- (6 講義)『「仮名手本忠臣蔵」三段目 裏門の段について』 第76期義太夫教室 豊川稲荷文化会館 24.7.20
- (6 講義)「日本の伝統音楽」 集中講義 桐朋学園大学 24.9.7
- (6 講義)「伝統芸能と工芸」 集中講義 京都芸術大学 24.9.8
- (6 講義)「日本の伝統音楽」 集中講義 桐朋学園大学 24.9.14
- (6 講義)「日本の伝統芸能を支える技・技・技」 芸術学舎 京都芸術大学 25.3.1-3.2
- (6 パネリスト)「歌舞伎と〈教育〉」(神田由築、山之内英明、前原恵美、光延真哉、藤森茂穂、永田真子、児玉竜一) 2024年歌舞伎学会 秋季大会 早稲田大学 24.12.15
- (7 所属学会等) International Council for Traditional Music and dance、楽劇学会、東洋音楽学会、文化財保存修復学会
- (8 教育) 桐朋学園大学音楽学部非常勤講師

松浦 一之介 | MATSUURA Kazunosuke (アソシエイトフェロー)

- (2 報告)「イタリアのバッファローゾーンとワイダーセッティング—景観保護法制に基づく遺産価値の広がり—」『令和6年度世界遺産研究協議会』 pp.28-36 東京文化財研究所 25.3
- (3 論文)「蓬萊園の遺構—都市における近世・近代の遺跡を保護する視点—」『先史学・考古学論究』IX pp.445-457 25.3
- (4 編集)『令和6年度世界遺産研究協議会 世界遺産の柔らかい輪郭—バッファローゾーンとワイダーセッティング—』 73p 東京文化財研究所 25.3
- (4 編集)『各国の文化財保護法令シリーズ 29 スペイン (暫定版)』 83p 東京文化財研究所 25.3
- (6 講演)「イタリアのバッファローゾーンとワイダーセッティング—景観保護法制に基づく遺産価値の広がり—」 令和6年度世界遺産研究協議会 東京文化財研究所 24.11.25
- (7 所属学会等) ICOMOS、龍田考古会、日本遺跡学会、日本景観学会

丸川 雄三 | MARUKAWA Yuzo (客員研究員)

- (2 報告)「X-DiPLASが構築する画像デジタルライブラリの特徴」『写真家 井上隆雄の視座を継ぐ—仏教壁画デジタルライブラリと芸術実践』正垣雅子・岡田真輝・末森薫(編) pp.64-67 京都市立芸術

大学 24.4

- (4 記事)「集めてみました「旅行に便利な民具たち」」『月刊みんぱく』49(3) pp.10-11 国立民族学博物館 25.3
- (6 発表)「文化遺産オンライン」第72回全国博物館大会・出展ブースプレゼンテーション まつもと市民芸術館主ホール 24.11.27
- (6 発表)「協働による仏教壁画デジタルライブラリの構築と学際的研究への活用」(石山俊、丸川雄三、末森薫、寺井淳一、正垣雅子、岡田真輝) 国際シンポジウム「大正新脩大藏經の100年 SATの30年」 東京大学 伊藤国際学術センター謝恩ホール 24.12.22
- (6 講演)「研究資料デジタルアーカイブの公開と活用—X-DiPLASの取り組みを例に」 国際シンポジウム「デジタル人文知が作られるとき」 国立民族学博物館 24.11.17
- (7 所属学会等) アート・ドキュメンテーション学会
- (8 教育) 総合研究大学院大学人類文化研究コース教授、立命館大学文学部非常勤講師

三上 豊 | MIKAMI Yutaka (客員研究員)

- (4 解説)「マンガ楽アラカルト」『トキワ荘マンガミュージアムの道』pp.35-52 豊島区立トキワ荘マンガミュージアム 25.2
- (4 編集)「映像作品「太平洋美術会と日名子実三アトリエ」」 豊島区 24.4
- (4 エッセイ)「内科画廊の現在」『内科画廊写真帖1963-1967』pp.72-73 24.4
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第12回 INAX ギャラリー」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53529340.html> 24.4
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第13回 ギャラリー葉」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537958.html> 24.5
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第14回 ギャラリー山口」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537959.html> 24.6
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第15回 調布画廊」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537960.html> 24.7
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第16回 フジテレビギャラリー」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537961.html> 24.8
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第17回 内科画廊」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537962.html> 24.9
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第18回 日辰画廊」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537963.html> 24.10
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第19回 ギャラリー NWハウス」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537964.html> 24.11
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第20回 紀伊國屋画廊」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53537966.html> 24.12
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第21回 承前 紀伊國屋画廊」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53545584.html> 25.1
- (4 エッセイ)「3つのジュ」『西島直紀 時の回廊』p.1 ギャラリー東京ユマニテ 25.1
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第22回 ガレリア・グラフィカ」『ときの忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53545585.html> 25.2
- (4 エッセイ)「今昔画廊巡り第23回 岡崎球子画廊 (原宿篇)」『忘れもののブログ』<https://tokinowasuremono.blog.jp/archives/53545586.html> 25.3
- (7 委員等) 町田市芹ヶ谷公園「芸術の森」パークミュージアム整備運営事業候補者選考評価委員会委員、町田市立国際版画美術館運営協議会委員

水谷 悦子 | MIZUTANI Etsuko (保存科学研究センター)

- (1 公開図書)「Field Survey on Temperature/Humidity Environment and Heat-Source Energy Consumption in an Art Museum with Intermittent Air Conditioning Operation」(IBA Chiemi, MIZUTANI Etsuko, AKIYAMA Junko, YUI Kazuko, TANAKA Kotomi)『Multiphysics and Multiscale Building Physics (IBPC 2024)』International Association of Building Physics pp.18-23 24.12
- (2 報告)「博物館・美術館施設の保存環境のこれから」(伊庭千恵美、水谷悦子)『建築設備士』56(4) 1-7 建築設備技術者協会 24.4
- (2 報告)「ものと湿気-文化財の予防的保存の観点から」(水谷悦子、伊庭千恵美)『「未来に向けた湿気研究」』107-116 日本建築学会環境工学委員会熱環境運営委員会 24.10
- (2 報告)「持続可能な環境管理に向けた環境ガイドラインの国際動向」『文化財保存修復学会誌』68 21-30 25.3
- (2 報告)「HERle を利用した山・鉾・屋台を保管する倉庫の温湿度環境評価について」(間瀬創、河村友佳子、水谷悦子)『保存科学』64 137-148 25.3
- (5 学会発表)「冬季における空調の設定温度が保存環境に及ぼす影響について」(秋山純子、水谷悦子、伊庭千恵美、由井和子、田中琴巳) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「美術館の展示室における温湿度環境と空調設備運用状況の調査」(田中琴巳、伊庭千恵美、水谷悦子) 令和6年度日本建築学会近畿支部研究発表会 大阪工業技術専門学校 24.6.22-6.23
- (5 学会発表)「Field Survey on Temperature/Humidity Environment and Heat Source Energy Consumption in an Art Museum with Intermittent Air conditioning Operation」(IBA Chiemi, MIZUTANI Etsuko, AKIYAMA Junko, YUI Kazuko, TANAKA Kotomi) International Building Physics Conference-IBPC 2024 the Toronto Metropolitan University 24.7.25-7.27
- (5 学会発表)「美術館の温湿度環境とエネルギー消費の調査および改善方法の提案 その1 夏季の展示室の温湿度環境の調査」(田中琴巳、伊庭千恵美、水谷悦子、秋山純子) 日本建築学会大会 (関東) 明治大学 24.7.25-7.27
- (5 学会発表)「岩窟仏堂における環境モニタリングによる高湿化要因の検討」(水谷悦子、小椋大輔) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.27-7.28
- (5 学会発表)「首里城火災における城郭内収蔵庫の美術工芸品の曝露環境—壁面の輻射熱の影響」(水谷悦子、早川泰弘、幸喜淳) 日本文化財科学会第41回大会 青山学院大学青山キャンパス 24.7.27-7.28
- (5 学会発表)「美術館の温湿度環境とエネルギー消費の調査および改善方法の提案」(田中琴巳、伊庭千恵美、水谷悦子、秋山純子、由井和子) 空気調査・衛生工学会大会 (佐賀) 佐賀大学 24.9.11-9.13
- (6 講演)「ものと湿気-文化財の予防的保存の観点から」(水谷悦子、伊庭千恵美) 第53回熱シンポジウム 武庫川女子大学 24.10.12-10.13
- (7 所属学会等) ICOMOS、日本建築学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員等) 日本建築学会環境工学部会湿気小委員会「文化財の保存と活用のための熱湿気環境解WG」

薬師寺 君子 | YAKUSHIJI Kimiko (客員研究員)

- (3 論文)「総論 帝鑑図」『帝鑑図と帝鑑図説—日本における勸戒画の受容』pp.253-270 勉誠社 24.11
- (4 記事)「仏像の鑑賞術 基礎講座」『歴史道』35 pp.59-67 朝日新聞出版 24.9
- (4 ウェブコンテンツ制作)「皇居三の丸蔵蔵館収蔵動植物絵」『皇居三の丸蔵蔵館収蔵作品・東京文化財研究所光学調査デジタルコンテンツ』<https://www.tobunken.go.jp/doshokusaie/> 東京文化財研

究所 25.3

- (6 発表)「帝鑑図をめぐる諸問題2」 第4回帝鑑図研究会 オンライン開催 24.4.13
(7 所属学会等) アート・ドキュメンテーション学会、美術史学会、早稲田大学美術史学会

安永 拓世 | YASUNAGA Takuyo (客員研究員)

- (3 論文)「東京文化財研究所の「売立目録デジタルアーカイブ」について」『國華』1549 pp.43-45 國華社 24.11
(4 記事)「『物故者』武田恒夫」『日本美術年鑑』令和4年版 pp.122-123 東京文化財研究所 25.1
(5 学会発表)「植物繊維の同定 ―苧麻・大麻の識別―」(菊池理予、早川典子、西田典由、趙依寧、安永拓世) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
(6 発表)「熊野速玉大社の古神宝類に見る熊野の神々」第50回 奈良国立博物館 夏季講座「神々の信仰をめぐる美術」 奈良国立博物館 24.8.23
(6 発表)「呉春の表現の源流を求めて―蕪村・群禽・白梅図屏風―」大和文華館 特別展「呉春―画を究め、芸に遊ぶ―」講演会 大和文華館 24.10.20
(7 所属学会等) 美術史学会、和歌山地方史研究会
(7 委員等) 文化庁文化財第一課非常勤調査員
(8 教育) 成城大学文学部准教授、慶應義塾大学文学部非常勤講師

山田 綾乃 | YAMADA Ayano (アソシエイトフェロー)

- (2 報告)「5. Investigation of the Terrace on the West Embankment of the East Terrace」(KUROIWA Chihiro, YAMADA Ayano, CHHUN Sambor, SIM Dany)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2022 and 2023-』 pp.23-39 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
(2 報告)「3. Archaeological Investigation and Installation of Drainage around East Gate」(YAMADA Ayano, KANSHA Hiroo)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2022 and 2023 -』 pp.11-16 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
(2 報告)「4. Archaeological Investigation of the Area between East Gate and Cruciform Terrace」(YAMADA Ayano, KANSHA Hiroo, SEA Sophearun)『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2022 and 2023 -』 pp.17-22 Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap (APSARA), and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN) 25.3
(2 報告)「国立文化財機構によるトルコ被災文化遺産への支援事業―文化遺産防災を核とした二国間連携をめざして―」(山田綾乃、千葉毅、中島志保、安倍雅史、友田正彦、建石徹、高妻洋成)『西アジア考古学』26 pp.67-76 25.3
(5 学会発表)「バハレーンにおけるイスラーム墓碑の3次元計測調査(第2次)及びワークショップの開催」(長尾琢磨、山田綾乃、安倍雅史) 日本西アジア考古学会第29回大会 南山大学 24.6.16
(5 学会発表)「クフ王第2の船・改変の可能性について」(柏木裕之、山田綾乃) 日本オリエント学会第66回大会 立教大学 24.10.13
(5 学会発表)「クフ王第2の船・船体部材の構成」(柏木裕之、山田綾乃) 日本オリエント学会第66回大会 立教大学 24.10.13
(5 学会発表)「イスラーム墓碑の保存―バハレーンにおける3次元計

測調査(2023-2024年)―」(長尾琢磨、山田綾乃、安倍雅史) 日本西アジア考古学会第32回西アジア発掘調査報告会 東京文化財研究所 25.3.23

- (6 講義)「エジプトの発掘調査と保存修復の一例」 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻:修復計画論 東京藝術大学 24.5.16
(7 所属学会等) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会
(8 教育) 早稲田大学文化構想学部非常勤講師

山田 大樹 | YAMADA Hiroki (客員研究員)

大和 あすか | YAMATO Asuka (アソシエイトフェロー)

- (3 論文)「浮世絵版画に用いられた技法材料の研究」『総合研究大学院大学博士論文』253p 24.9
(3 論文)「清水家所蔵大工文書に含まれる彩色建築絵図面に用いられた色材の調査報告」(大和あすか、小柏典華)『文化財保存修復学会誌』68 pp.1-20 25.3
(3 論文)「電磁式膜厚計による紙厚測定の精度評価」(大和あすか、西田典由、趙依寧)『保存科学』64 pp.33-42 25.3
(3 論文)「【事例報告】鈴木春信の豪華絵本に用いられた材料の研究―千葉市美術館『絵本青楼美人合』第四巻を一例に―」(大和あすか、塚田全彦、日比谷孟俊)『実践女子大学文学芸資料研究所年報』44 pp.27-56 25.3
(3 論文)「蛍光X線分析による亜欧堂田善の絵画に使用された色材の調査」(大和あすか、松岡まり江)『採蓮』26 pp.3-24 千葉市美術館紀要 25.3
(4 編集)『国宝高松塚古墳壁画修理報告書』160p 文化庁、東京文化財研究所 25.3
(5 学会発表)「浮世絵の赤・青・黄―色材の流通から絵画表現を探る―」 東アジア日本学会2024年春季国際学術大会 ソウル大学国際大学院 24.5.25
(5 学会発表)「縮緬画帖と縮緬本における制作技法の比較」(大和あすか、一宮八重、桐原瑛奈、川上宏) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
(5 学会発表)「縮緬絵の制作法に関する考察―皺の入れ方の幾何学的取り扱い―」(日比谷孟俊、堀木茂、大和あすか、一宮八重、川上宏、山本親) 文化財保存修復学会第46回大会 帝京大学八王子キャンパス 24.6.22
(5 学会発表)「錦絵におけるブルシアンブルー使用の比較研究―江戸と上方を中心に―」 絵入本学会絵入本ワークショップXIV ウルサン大学 24.12.21
(6 発表)「近世期資料のマテリアル分析に関する資料調査ならびに研究」(大和あすか、松原哲子) キックオフシンポジウム「AI×人文データ駆動による未来形成―」 一橋大学一橋講堂2階講堂前 24.12.1
(6 発表)「日本画材料アンケートからみた膠濃度の東西」 膠文化研究会第16回公開研究会「膠の東西―創作の現場―」 オンライン(東京芸術大学中央棟第五講義室) 24.12.8
(7 所属学会等) 絵入本学会、紙パルプ技術協会、日本建築学会、文化財保存修復学会、北海道・東北保存科学研究会
(8 教育) 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター客員研究員

山永 尚美 | YAMANAGA Naomi (アソシエイトフェロー)

- (1 公刊図書)「フィルムアーカイブ、国際音声・視聴覚アーカイブ協会、国際テレビアーカイブ機構、動的映像アーキビスト協会、アーカイバル・フィルム」(山永尚美)『アーカイブズ学用語辞典(アーカイブズ学用語研究会編)』 柏書房 24.7
(1 共著)「井坂能行氏 資料目録」(井坂能行映画論集編集委員会)『井坂能行映画論集 映画は人の内奥にどう迫れるか』 NPO法人働く文化ネット pp.300-313 24.10
(3 論文)「戦前期日本の中央官庁における映画の作成と利用―製作体

- 制と保存上の課題について」『人文』23 pp.135-162 25.3
- (6 発表)「行政機関で作成された映像資料とその関連資料の管理と利用可能性について」 令和6年度第2回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 24.5.15
- (6 発表)「事業成果のWEB公開とアーカイブ構築について」(田良島哲・小山田智寛・山永尚美・安原大熙) 2024年度美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会 東京文化財研究所 25.2.5
- (6 発表)「修理(修復)報告書の整理・分類・メタデータ付与」(小山田智寛・山永尚美・田良島哲) 修理(修復)記録アーカイブ研究会 慶應義塾大学三田キャンパス 25.3.19
- (7 所属学会等) 日本アーカイブズ学会、デジタルアーカイブ学会、記録管理学会、The Association of Moving Image Archivists、The Society of American Archivists
- (8 教育) 学習院大学大学院非常勤講師

山梨 絵美子 | YAMANASHI Emiko (客員研究員)

- (3 論文)「『春日権現験記絵』の成立と受容の変遷」『皇居三の丸尚蔵館 収蔵国宝絹本着色春日権現経記絵 第17・18巻 光学調査報告書』東京文化財研究所 pp.7-12 25.2
- (3論文)「The creation and the changing of reception of the Kasuga Scrolls」『皇居三の丸尚蔵館収蔵国宝絹本着色春日権現経記絵 第17・18巻 光学調査報告書』東京文化財研究所 pp.13-18 25.2
- (6 司会)「ディスカッション」北米美術図書館協会 (ARLIS/NA) 来日記念 国際シンポジウム「美術アーカイブと図書館における国際連携」東京文化財研究所 24.10.22
- (7 委員等) 秋田公立美術大学運営委員会委員、秋田市千秋美術館運営委員会委員、江戸東京博物館資料運営委員会委員、迎賓館の改修に関する懇談会委員、東京都美術館運営委員会委員、千葉県文化財保護審議会委員、日光市美術作品等収集審査会委員、文化庁文化審議会美術品補償制度部会委員、文化庁文化審議会文化財分科会委員、静岡県立美術館専門委員、新潟県立近代美術館収集委員会委員、横須賀市美術館美術品選定評議委員、日本博物館協会会長、全国美術館会議理事

吉田 暁子 | YOSHIDA Akiko (文化財情報資料部)

- (1 展覧会図録)『没後100年・黒田清輝と近代絵画の冒険者たち』(吉田暁子、塩谷純) 東京国立博物館 pp.3-32 24.8
- (2 報告)「岸田劉生の静物画における制作プロセスの研究」『鹿島美術財団研究』41 pp.297-309 鹿島美術財団 24.11
- (3 論文)「展覧会番外編 近代洋画の風景表現をめぐる一考察」『生誕150年記念 菱田春草展 不朽の名作《落葉》誕生秘話』pp.156-163 福井県立美術館 24.9
- (4 記事)「失われた裸体画—古郡良雄『彼の頃の麻布 記事』より」『没後100年 黒田清輝とその時代』pp.125-126 鹿児島市立美術館 24.7
- (4 記事)「物故者」西村玲子、入江一子、嶋田しづ『日本美術年鑑』令和4年版 pp.108-109、pp.120-121、p.126 東京文化財研究所 25.1
- (6 発表)「織田東禹《コロポックルの村》と東京勸業博覧会の「西洋画」」(藏田愛子、品川欣也、笹倉いる美、吉田暁子) 令和6年度第5回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 24.9.6
- (6 発表)「風景の断片化 黒田清輝とそれ以降」(原田礼帆、中野慎之、鶴見香織、吉田暁子) 明治美術学会第2回例会 生誕150年菱田春草展 不朽の名作《落葉》誕生秘話 シンポジウム 福井県立美術館 24.9.22
- (6 講演)「黒田清輝《昔語り》の舞台裏」企画展 歌と物語の絵—雅やかなやまと絵の世界 特別講演会 泉屋博古館東京 24.7.13
- (6 講演)「近代絵画の冒険—黒田清輝と東博の近代絵画コレクション」月例講演会 東京国立博物館 24.10.12
- (7 所属学会等) 美術史学会、明治美術学会

米山 大三郎 | YONEYAMA Daizaburo (アソシエイトフェロー)

- (3 論文)「近代の日光における観光資源としての文化的景観—ガイドブックにおける地物の見方の変遷を通して—」(米山大三郎、國分元太、山名善之)『日本建築学会計画系論文集』89 (826) pp.2521-2532 24.12
- (4 編集)『令和6年度シンポジウム「<モニュメント>はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興」報告書』69p 文化遺産国際協力コンソーシアム 25.3
- (4 編集) (FUJII Ikuno, YONEYAMA Daizaburo) 『Report on the JCIC-Heritage 2023 Symposium "50 Years of World Cultural Heritage: Past and Future of Japan's Contribution"』65p Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage 24.12
- (7 所属学会等) ICOMOS、日本観光研究学会、日本建築学会
- (7 委員等) 日本イコモス文化観光国内学術委員会 (NSC-CT) 委員、日本イコモス EP (若手専門家) 常置委員会委員、ICOMOS International Cultural Tourism Committee (ICTC) Associate Member

5. 研究交流

1. 職員の海外渡航	157
2. 招聘研究員等	161
3. 海外研究者等の来訪	162
4. 主要来訪者、施設見学	162

1. 職員の海外渡航

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
久保田 裕道	韓国	R6.4.11～4.15	国際会議への出席	先方負担(UNESCO)
二神 葉子	タイ	R6.4.23～4.27	日本製漆工品に関する調査研究	シ05
前川 佳文	イタリア	R6.5.7～5.31	ボンベイ遺跡における壁画の調査研究	科研費、コ03
友田 正彦 金井 健 黒岩 千尋	ブータン	R6.5.11～5.23	ブータンにおける民家保存活用に関する調査	科研費
早川 典子	韓国	R6.5.12～5.15	絵画修復に使用する絹に関する協議と調査	先方負担(社団法人韓国粧績研究会)
石村 智	台湾	R6.5.13～5.15	東海大学にて日本の無形文化遺産に関する講演を行う	先方負担(東海大学)
小林 公治	中国	R6.5.18～5.24	調査	科研費
加藤 雅人 大川 柚佳	スイス	R6.5.23～5.29	絵画作品調査	コ04
大和 あすか	韓国	R6.5.23～5.26	国際学術大会の発表	先方負担(国文学研究資料館)
安倍 雅史	サウジアラビア	R6.5.24～6.6	サウジアラビア王国マスィューン遺跡の発掘調査	先方負担(金沢大学古代文明・文化資源学研究所)
黒岩 千尋	タイ、カンボジア	R6.6.9～6.27	SPAFACOM2024への参加(タイ)、アンコール・タネイ寺院遺跡の保全整備	コ02
友田 正彦	カンボジア	R6.6.23～7.3	アンコール・タネイ寺院遺跡の保全整備	助成金(国外所在文化遺産財団)
田代 裕一朗	韓国	R6.6.14～6.20	会議、実見調査	科研費、ム02
久保田 裕道	ブータン	R6.6.21～7.3	祭礼調査	コ03
前川 佳文	トルコ、イタリア	R6.6.24～7.13	共同研究に係る打合せ及び石造文化財保存に係る研究	先方負担(ハイデルベルク大学)
江村 知子	ドイツ	R6.6.27～7.1	シンポジウム参加・招待発表	科研費
小林 公治	タイ、台湾	R6.7.10～7.21	調査、協議	先方負担(UNESCO、インド文化省)
金子 雄太郎	インド	R6.7.12～7.31	第46回世界遺産委員会に係るヤングプロフェッショナルフォーラムへの参加	先方負担(UNESCO)
石村 智	中国	R6.7.14～7.17	ユネスコ・シンポジウム参加	コ02
浅田 なつみ 黒岩 千尋	ネパール	R6.7.15～7.24	ネパールにおける民家保存活用に関する調査	コ01
藤井 郁乃 松浦 一之介 金井 健 二神 葉子	インド	R6.7.18～8.13 R6.7.19～8.1 R6.7.23～7.31 R6.7.22～7.31	第46回世界遺産委員会への出席	シ05
友田 正彦	モンゴル	R6.7.28～8.3	「世界遺産文化的景観保存」モンゴル・日本シンポジウム出席	先方負担(モンゴル文化遺産保護協会)、副所長研究経費
石村 智	ニュージーランド	R6.7.29～8.4	マテリアマインド科研による調査	科研費
小林 公治	中国	R6.8.3～8.14	調査、協議	科研費
山田 綾乃	エジプト	R6.8.4～8.31	クフ王第2の船遺跡部材実測調査、北サッカラ遺跡発掘、同時代資料調査	科研費
黒岩 千尋	カンボジア、ブータン	R6.8.7～8.24	アンコール遺跡群保護区域調査、ブータンにおける民家保存活用に関する調査	科研費、コ02、助成金(村田学術振興・教育財団)

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
友田 正彦	ブータン	R6.8.11～8.24	ブータンにおける民家保存活用に関する調査	科研費
前川 佳文	イタリア	R6.8.29～9.14	スタッコ装飾に係る共同研究打合せ	コ03、科研費
金子 雄太郎 田代 裕一朗	韓国	R6.9.2～9.7 R6.9.2～9.9	国際協力調査	受託(文化庁 コンソーシアム)
小林 公治	メキシコ	R6.9.6～9.21	メキシコ合衆国における調査と協議	科研費
石村 智	ドイツ	R6.9.8～9.18	メロ工学国際学会への参加	ム05
江村 知子	イギリス、アイ ルランド	R6.9.9～9.15	作品調査	科研費
境野 飛鳥	アメリカ	R6.9.15～9.23	資料調査・研究	科研費
島田 潤	ドイツ	R6.9.16～9.23	IPM-CH 2024への参加	科研費、ホ01
早川 典子 倉島 玲央 大和 あすか 趙 依寧	中国	R6.9.23～9.27	壁画の保存修復に関する調査及び交流 会	受託(文化庁 キトラ)
田代 裕一朗	韓国	R6.9.23～9.27	研究書執筆のための調査	先方負担(東京藝術大学)
小野 真由美	アメリカ	R6.9.23～9.29	科研の調査研究	科研費
友田 正彦 安倍 雅史 山田 綾乃	バーレーン、 サウジアラビア	R6.10.1～10.12	ディルムン古墳群などの調査(バーレーン)、Qaryat al Faw国際シンポジウム参加(サウジアラビア)	コ02、先方負担(サウジアラビア文化省・バーレーン国立博物館)
浅田 なつみ	バーレーン	R6.10.1～10.6	ディルムン古墳等の調査(バーレーン)	科研費、先方負担(バーレーン国立博物館)
小林 公治	ポルトガル	R6.10.5～10.21	ポルトガル国内における調査、協議	科研費
邱 君妮	オランダ	R6.10.6～10.14	国際博物館会議参加、成果発信及びインタビュー調査	科研費
倉島 玲央	カナダ	R6.10.12～10.19	色料の光褪色に関する視察・協議	科研費
犬塚 将英	フィリピン	R6.10.13～10.15	第5回世界津波博物館会議への出席	先方負担(文化財防災センター)
松浦 一之介	イタリア	R6.10.14～11.1	世界遺産研究協議会に係る現地調査	コ01
久保田 裕道	韓国	R6.10.19～11.2	研究交流会・国際会議	ム05、先方負担(韓国無形遺産院)
前川 佳文	トルコ	R6.10.25～11.9	壁画の保存修復に係る共同研究	コ03
二神 葉子	タイ	R6.10.29～11.5 R6.10.31～11.5	式典参加及び漆工品の原材料に関する調査 漆工品の原材料に関する調査	シ05
倉島 玲央	ベトナム	R6.11.1～11.10	ベトナム国内での螺鈿・漆器調査	科研費
小林 公治	イギリス、 ドイツ	R6.11.2～11.10	海外における東洋絵画展示条件の実態調査	科研費
早川 典子				
芳賀 文絵 千葉 毅	韓国	R6.11.7～11.9	韓国文化財保存科学会発表	ホ06
邱 君妮	オランダ	R6.11.8～11.18	科研費に関連するプログラム参与観察	科研費
金井 健	ブラジル	R6.11.12～11.21	国際イコモス総会および研究集会への出席	コ01
江村 知子		R6.11.17～11.21		
加藤 雅人 石渡 美鈴	ポーランド	R6.11.18～11.22	絵画作品調査	コ04
古田嶋 智子	アメリカ	R6.11.18～11.23	16th International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments 研究発表 他	科研費

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
前川 佳文	エジプト	R6.11.19～12.7	壁画及び考古遺物の保存修復に係る調査	科研費、コ03
山田 綾乃	カンボジア	R6.11.27～12.26	アンコール・タネイ寺院遺跡の保全整備	コ02
石村 智 二神 葉子	パラグアイ	R6.11.30～12.10	ユネスコ政府間委員会への参加	ム05
黒岩 千尋	カンボジア、 ベトナム	R6.12.1～12.26	アンコール・タネイ寺院遺跡保全整備、 フランス植民地時代のベトナム及びカン ボジアの遺跡保護に関する史料調査	助成金(村田文化振興・ 教育財団)、コ02
片淵 奈美香	イギリス	R6.12.8～12.16	染織品の調査研究	科研費
友田 正彦	カンボジア	R6.12.14～12.31	アンコール・タネイ寺院遺跡の保全整備	副所長研究経費
浅田 なつみ	カンボジア、 ネパール	R6.12.15～12.28	アンコール・タネイ寺院遺跡の保全整 備、ネパールにおける民家保存活用に関 する調査	コ02
大和 あすか	韓国	R6.12.20～12.23	絵入本学会ワークショップの研究発表	科研費
鎌田 紗弓	ニュージーラン ド	R7.1.7～1.17	国際学術会議 48th ICTMD World Conference発表	科研費
安倍 雅史 長尾 琢磨	バーレーン	R7.1.7～2.14 R7.1.23～2.14	アアリ古墳群西の発掘調査、歴史的なイ スラム墓碑の3次元計測	科研費、コ02
前川 佳文	イタリア	R7.1.12～1.24	塑像に係る共同調査	コ03、科研費
石村 智	パラオ	R7.1.17～1.25	パラオにおける水中文化遺産の調査	科研費、ム05
小林 公治	ポルトガル	R7.1.17～1.28	ポルトガル国内における調査、協議	科研費
江村 知子	アメリカ	R7.1.26～1.31	絵画作品調査	科研費
田代 裕一朗	韓国	R7.2.3～2.6	半島由来文物の制作地(生産地)における 研究情報調査	科研費
前原 恵美	韓国	R7.2.8～2.12	韓国伝統管楽器調査	科研費
石村 智	シンガポール	R7.2.21～2.24	海港都市の景観に関する調査	科研費
山田 綾乃	カンボジア	R7.2.22～3.1	アンコール遺跡群西トップ寺院における 発掘調査	先方負担(奈良文化財研 究所)
黒岩 千尋	カンボジア、 ベトナム	R7.2.22～3.12	アンコール遺跡群西トップ寺院の発掘調 査、フランス植民地時代のベトナムおよび カンボジアの遺跡保護に関する史料調査	助成金(村田学術振興・ 教育財団)、先方負担(奈 良文化財研究所)
前川 佳文	メキシコ、 イタリア、 クロアチア	R7.2.23～3.19	塑像に係る研究調査および壁画の保存状 態調査	先方負担(立教大学アジ ア地域研究所)、コ03
田代 裕一朗	イギリス	R7.2.24～3.3	セインズベリー日本藝術研究所との共同 事業に係る講演随伴、協議、調査	シ01
橘川 英規		R7.2.25～3.3	セインズベリー日本藝術研究所との共同 事業に係る講演 他	
武 瀟瀟	中国	R7.2.25～2.28	上海博物館所蔵日本・中国絵画作品調査	科研費
浅田 なつみ	イラン	R7.2.28～3.16	イランの農業遺産の建築構法および建築 技術者に関する調査	科研費
金井 健	アメリカ	R7.3.5～3.12	近現代建築の保存実態に関する調査	科研費
小野 真由美	台湾	R7.3.12～3.14	資料の調査研究	シ02
田代 裕一朗	韓国	R7.3.17～3.22	半島由来文物の制作地(生産地)における 研究情報調査(2次)	科研費
小林 公治	イギリス	R7.3.13～3.24	ロンドン市内各所における調査、協議	科研費、シ03

令和6年度における国内から国外への派遣申請については、下記のとおりである。

派遣期間	氏 名	所 属	用 務 地	経 費
派遣理由：日本製漆工品に関する調査研究				
R6.4.23～4.27	山下 好彦	フリーランス	タイ	シ05
派遣理由：ブータンにおける民家保存活用に関する調査				
R6.5.11～5.23	向井 純子	NPO 法人 ArchiHeritage plus	ブータン	科研費
派遣理由：絵画作品調査				
R6.5.22～5.29	元 喜載	東北芸術工科大学	スイス	コ04
R6.5.23～5.29	森田 健介	株式会社 修護		
派遣理由：シンポジウムでの発表、研究交流				
R6.6.19～6.27	片山 葉子	東京文化財研究所	中国	先方負担（敦煌研究 院）、ホ01
派遣理由：人文情報学会での発表				
R6.8.3～8.12	片倉 峻平	東北大学、東京文化財研究所	アメリカ	シ01、先方負担（東 北大学）
派遣理由：ブータンにおける民家保存活用に関する調査				
R6.8.11～8.18	マルティネス アレハンドロ	京都工芸繊維大学	ブータン	科研費
R6.8.11～8.24	鳥羽瀬 公二	(株)鳥羽瀬社寺建築		
派遣理由：国際協力調査				
R6.9.2～9.7	早乙女 雅博	東京大学	韓国	受託（文化庁 コンソ ーシアム）
R6.9.2～9.5	庄田 慎矢	奈良文化財研究所		
派遣理由：メロエ学国際学会への参加				
R6.9.7～9.15	関広 尚世	京都市埋蔵文化財研究所	ドイツ	ム05
派遣理由：壁画の保存修復に関する調査及び交流会				
R6.9.23～9.27	塚本 麿充	東京大学	中国	受託（文化庁 キトラ）
派遣理由：式典参加及び漆工品の原材料に関する調査				
R6.10.29～11.5	山下 好彦	フリーランス	タイ	シ05
派遣理由：ベトナム国内での螺鈿・漆器調査				
R6.11.6～11.10	福島 修	東京国立博物館	ベトナム	科研費
派遣理由：アアリ古墳群西の発掘調査				
R7.1.23～2.7	笠原朋与	奈良文化財研究所	バーレーン	科研費
派遣理由：韓国伝統管楽器調査				
R7.2.8～2.12	小林 慧人 宮武 苑子	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 日本大学	韓国	科研費

令和6年度における国外から国外への派遣申請については、下記のとおりである。

派遣期間	氏名	所 属	用 務 地	経 費
派遣理由：ブータンにおける民家保存活用に関する調査				
R6.5.13～5.21	Sangay Choden Tashi Wangchuk	ブータン王国内務省 文化・国語振興局遺産保存課	ブータン	科研費
派遣理由：壁画の保存修復に関する調査及び交流会				
R6.9.23～9.28	馬 明新	中国国家博物館	中国	受託(文化庁 キトラ)
派遣理由：壁画の保存修復に係る共同研究				
R6.10.25～11.8	Daniela Maria MURPHY Simona CARECCIA	フィレンツェ・バスティオーニ協会	トルコ	コ03

派遣期間	氏 名	所 属	用 務 地	経 費
派遣理由：アアリ古墳群西の発掘調査				
R7.1.23～2.7	鈴木 崇司	駒澤大学、慶北大学校	バーレーン	科研費
派遣理由：壁画およびスタッコ装飾に関する調査				
R7.2.24～3.4	Daniela Maria MURPHY	フィレンツェ・バステオーニ協会	メキシコ	コ03
派遣理由：壁画の保存状態調査				
R7.3.8～3.15	Daniela Maria MURPHY	フィレンツェ・バステオーニ協会	クロアチア	コ03

2. 招聘研究員等

令和6年度における海外からの招聘は下記のとおりである。

招聘期間	氏 名	国 籍	所 属	経 費
招聘理由：共同研究に関する協議				
R6.6.7～6.14	Phramaha Anulak PRAPAVADEE Phravajiradhammedhi THETPHENBORIRAK	タイ	ワット・ラーチャプラディット・サティットマハシマラム	先方負担
招聘理由：国際研修「紙の保存と修復」				
R6.8.24～9.15	Sandra VEZ	スイス	マルタン・ボドメール財団	コ05
R6.8.24～9.15	Lilit BACHACHYAN	アルメニア	マテナダラン古文書館	
R6.8.24～9.14	Laura Rebecca HASHIMOTO	カナダ	カナダ国立図書館・文書館	
R6.8.24～9.14	Anna HILLCOAT-IMANISHI	ドイツ	ケルン東洋美術館	
R6.8.24～9.15	Federica DELIA	イタリア	ローマ美術院	
R6.8.24～9.14	Chanelle MIFSUD BRIFFA	マルタ	ノタリアル文書財団	
R6.8.24～9.14	Melissa CARRILLO CABRERA	メキシコ	国家最高司法裁判所	
R6.8.24～9.14	Alexandra NEDERLOF	オランダ	オランダ国立文書館	
R6.8.24～9.14	Amanda HUNTER JOHNSON	アメリカ	サンフランシスコ近代美術館	
R6.8.24～9.14	Sally KILBY	イギリス	ケンブリッジ大学図書館	
招聘理由：旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鏤絵の保存修復に係る調査研究				
R6.9.25～10.17	Daniela Maria MURPHY Stefania FRANCESCHINI Simona CARECCIA	イタリア	フィレンツェ・バステオーニ協会	コ03、 受託(長岡市)
招聘理由：文化遺産の3Dデジタル・ドキュメンテーションとその活用に関するワークショップ参加				
R6.10.19～11.1	Zakareya Abbas Radhi Ahmed Mashaal Waleed Mubarak Alshamsi Eman Mohamed Ali Ali Huwaida	バーレーン	バーレーン文化古物局	受託(文化庁 バ ーレーン)

招聘期間	氏 名	国 籍	所 属	経 費
R6.10.19～11.1	Hasan J. A. R. Ashkanani	クウェート	クウェート大学	受託(文化庁 パーレーン)
R6.10.19～11.1	Fatima Mansoor Fadhil Aldhaif Altamimi	アラブ首長国連邦	ザイード国立博物館	
R6.10.19～11.1	Mohamed Ahmed Mohamed Soliman	エジプト	観光考古省イスラーム考古研究センター	
R6.10.18～11.1	Raghad Safar Alqahtani	サウジアラビア	サウジアラビア文化省遺産委員会	
R6.10.19～11.1	Hajir Ahmed Salim Ambu Ali	オマーン	オマーン国立博物館	
招聘理由：文化遺産国際協力コンソーシアム研究会及びシンポジウムでの講演				
R6.11.24～12.3	George ABUNGU	ケニア	ケニア国立博物館名誉館長	受託(文化庁 コンソーシアム)
R6.11.24～12.2	LYU Zhou	中国	清華大学教授	
R6.11.24～12.2	Benjamin MOUTON	フランス	歴史的記念物主任建築家	

3. 海外研究者等の来訪

(1) 来訪研究員

来訪期間	氏 名	国 籍	所 属	備 考
R6.12.1～R7.2.5	金 素延	韓国	梨花女子大学校大学院美術史学科	1910～45年に朝鮮半島で活動した在朝日本人画家に関する研究

4. 主要来訪者、施設見学

日 程	来訪者及び視察者等	備 考
R6.4.18	台北駐日経済文化代表処	表敬訪問
R6.6.5	香港理工大学專業進修学院 28名	研究旅行
R6.6.19	国立大学法人東京学芸大学 10名	施設見学
R6.7.29	品川翔英中学校・高等学校 2名	施設見学
R6.9.5	韓国文化遺産研究院建築遺産課 4名	研究旅行
R6.9.9	昭和女子大学 歴史文化学科 5名	施設見学
R6.10.29	ソウル大学校奎章閣韓国学研究院 7名	施設見学
R6.11.20	(株) ポーラ・オルビスホールディングス ポーラ文化研究所 5名	施設見学
R7.1.9	東京大学・ニューヨーク大学・ボン大学・オーストラリア国立大学 31名	施設見学
R7.1.23	インドヴィヴェークナンド文化センター	表敬訪問
R7.2.3	公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 12名	施設見学

1. 主な収蔵資料	164
1. 図書資料	164
2. その他の資料	164
2. 研究所関係資料	165
1. 設立の経緯	165
2. 年代別重要事項	165
3. 歴代所長（昭和5年～令和6年度）	168
4. 名誉研究員	169
5. 2024(令和6)年度予算等	170
3. 東京文化財研究所関係事業索引	174

1. 主な収蔵資料

1. 図書資料

(1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など日文・英文あわせて185,905冊の図書に加え、和文5,495種、韓文54種、中文153種、英文507種におよぶ美術関係雑誌179,612冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

(2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書22,191冊を所蔵している。そのなかには、演劇画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第1次）・テアトロ（第1次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる

芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。令和6年度は739冊を登録し、現在進行中である。

(3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産及び工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書及び化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、あわせて32,494冊を所蔵している。

(4) 日本国外の文化遺産関係図書

国際資料室では、海外の文化遺産や文化財保存、文化財国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約15,000点所蔵する。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016（平成28）年1月の施設改修に伴い、国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

令和6年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区 分	美術関係	無形文化遺産関係	保存修復関係	日本国外の文化遺産関係	計
和漢書	3,405冊	725冊	4,455冊	30冊	8,615冊
洋書	115冊	14冊	15,093冊	22冊	15,244冊
合 計	3,520冊	739冊	19,548冊	52冊	23,859冊

2. その他の資料

(1) 美術関係資料：文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約26万点である。写真原板は、モノクロ4×5フィルム約49,740点、カラー4×5フィルム約8,980点、半切ほかガラス乾板約22,600点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約3,450点、X線フィルム・赤外線フィルム約3,300点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健、中村傳三郎、松島健各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

(2) 無形文化遺産関係資料：無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内の実演記録室等での演奏を記録したオープンリールテープ約2,300点、ビデオ約1,200点、スチル写真は

関連する文書の記録写真等も含め約19万点、CDはオープンリールテープをデジタル化した物を中心に1,988点、DVD4,019点、BD1,022点を作成してきた。令和6年度は、DVD=CD1点、DVD127点、BD70点を登録した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、1960（昭和35）年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和3代にわたって発売された各種邦楽のSPレコードを網羅した約6,000枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約7,300枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ530点、CD2,105点、DVD1,756点、BD39点を収集してきた。うち令和6年度は、市販のCD94点、DVD29点、BD4点を登録した。なおSPレコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』（東京国立文化財研究所刊1966～1996）で公表している。さらに無形文化遺産関連情報を掲載した「無形文化遺産総合データベース」をウェブサイトにて公開している。
(https://www.tobunken.go.jp/ich/mukei_database/)

(3) 保存科学・修復技術関係資料：保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影したX線フィルムを多数所蔵する。X線透過撮影は昭和20年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

(4) 国際関係資料：文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧蔵資料には、国際機関での会議や、個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に、UNESCOの条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成

立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。伊藤延男氏旧蔵資料は、戦後の文化財保護行政に関する諸資料のほか、関野克氏の後継者として関わった国際機関の会議等の資料が多く含まれており、関野克氏旧蔵資料と併せて戦後の文化財保護行政における国際関係の動向を知りうる幅広い資料群となっている。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ポロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

2. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となり、さらに2007（平成19）年4月1日に独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、現在に至っている。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏐二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年2月1日 10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和3年5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年6月28日 10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。

期 日	事 項
昭和 7 年 1 月 1 日 4 月 18 日 5 月 26 日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う 5 か年間毎年 5 千円、合計 2 万 5 千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。 帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和 9 年 10 月 18 日	毎年 10 月 18 日を開所記念日と定めた。
昭和 10 年 1 月 28 日 昭和 10 年 4 月 6 月 1 日	鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 129㎡の書庫が竣工した。 『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。 勅令第 148 号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和 12 年 6 月 24 日 11 月 29 日	勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和 13 年 2 月 12 日	木造、平屋建、延面積 97㎡の写真室 1 棟が竣工した。
昭和 19 年 8 月 10 日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和 20 年 5 月 28 日 7～8 月	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目日本間家倉庫 3 棟に疎開した。 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和 21 年 3 月 29 日 4 月 4 日 4 月 16 日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。 東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和 22 年 5 月 3 日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和 23 年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和 25 年 8 月 29 日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和 26 年 1 月 31 日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和 27 年 4 月 1 日 7 月 1 日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の 3 部 1 室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。 芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室 2 室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和 28 年 4 月 26 日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132㎡を改造のうえ移転した。
昭和 29 年 7 月 1 日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和 32 年 3 月 22 日 11 月 30 日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8 ㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。 従来の 2 階建書庫の上にさらに 1 階を増築 3 階建とし、増築分延面積 71㎡が竣工した。
昭和 34 年 4 月 30 日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和 36 年 9 月 16 日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和 37 年 3 月 31 日 7 月 1 日 7 月 20 日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 663㎡の建物 1 棟が竣工した。 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。 芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和 43 年 6 月 15 日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和 44 年 8 月 23 日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延 1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和 45 年 3 月 25 日	前記の別館が竣工したので、同年 5 月 26 日竣工式が行われた。芸能部は、別館 3 階に移転した。

期 日	事 項
昭和45年 5月8日 6月29日 11月2日	保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。
昭和46年 4月1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日 4月5日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積569.95㎡の建物が竣工した。 文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成3年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成5年 4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成7年 4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成9年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月4日 2月21日 3月6日 3月22日 5月11日	新宮庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積10,557.99㎡（建築面積2,258.48㎡）が竣工した。 新宮庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。 新宮庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。 建設省関東地方建設局営繕部より、新宮庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新宮庁舎関係の工事が完了した。 新宮庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日 4月1日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。 東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官・情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官・情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官・情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。

3. 歴代所長 (昭和5年～令和6年度)

正木 直彦	主事	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
矢代 幸雄	主事	昭和 6.11.25～昭和10. 5.31
和田 英作	所長事務取扱	昭和10. 6. 1～昭和11. 6.21
矢代 幸雄	所長	昭和11. 6.22～昭和17. 6.28
田中 豊蔵	所長事務取扱	昭和17. 6.29～昭和22. 8.15
田中 豊蔵	所長	昭和22. 8.16～昭和23. 5.10
福山 敏男	所長代理	昭和23. 5.11～昭和24. 8.30
松本 栄一	所長	昭和24. 8.31～昭和27. 3.31
矢代 幸雄	所長事務代理	昭和27. 4. 1～昭和28.10.31
田中 一松	所長	昭和28.11. 1～昭和40. 3.31
関野 克	所長	昭和40. 4. 1～昭和53. 3.31
伊藤 延男	所長	昭和53. 4. 1～昭和62. 3.31
濱田 隆	所長	昭和62. 4. 1～平成 3. 3.31
西川 杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
渡邊 明義	所長	平成 8. 4. 1～平成13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
渡邊 明義	所長	平成13. 4. 1～平成16. 3.31
鈴木 規夫	所長	平成16. 4. 1～平成19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
鈴木 規夫	所長	平成19. 4. 1～平成22. 3.31
亀井 伸雄	所長	平成22. 4. 1～平成30. 7.17
山梨 絵美子	所長事務代理	平成30. 7.18～平成30.12.31
齊藤 孝正	所長	平成31. 1. 1～現在

4. 名譽研究員

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名譽研究員発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和38. 5. 18～昭和59. 3. 31	昭和59.10.18
猪川 和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和22. 6. 27～昭和60. 3. 31	昭和60.10.18
三隅 治雄	芸能部長	昭和27.10. 1～昭和63. 3. 31	昭和63.10.18
濱田 隆	所長	昭和62. 4. 1～平成 3. 3.31	平成 3.10.18
関口 正之	美術部長	昭和42. 2. 1～平成 3. 3.31	平成 3.10.18
馬淵 久夫	保存科学部長	昭和50.10. 1～平成 4. 3.31	平成 4.10.18
新井 英夫	保存科学部長	昭和45. 9. 1～平成 5. 3.31	平成 5. 4. 1
西川 杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31	平成 8. 4. 1
三輪 英夫	美術部第二研究室長	昭和53. 8. 1～平成 8. 3.31	平成 8. 4. 1
蒲生 郷昭	芸能部長	昭和56. 4. 1～平成10. 3.31	平成10. 4. 1
中里 壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和39. 4. 1～平成10. 3.31	平成10. 4. 1
宮本 長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成 6. 4. 1～平成11. 3.31	平成11. 4. 1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和51. 4. 1～平成12. 3.31	平成12. 4. 1
中村 茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和39. 7. 1～平成13. 3.31	平成13. 4. 1
増田 勝彦	修復技術部長	昭和48. 8. 1～平成13. 3.31	平成13. 4. 1
米倉 迪夫	情報資料部長	昭和50. 9. 1～平成13. 3.31	平成13. 4. 1
星野 紘	芸能部長	平成10. 4. 1～平成14. 3.31	平成14. 4. 1
平尾 良光	保存科学部化学研究室長	昭和62. 4. 1～平成15. 3.31	平成15. 4. 1
井手 誠之輔	協力調整官－情報調整室長	昭和62. 7. 1～平成16. 3.29	平成16. 3.30
斎藤 英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成11. 4. 1～平成16. 3.30	平成16. 3.31
西浦 忠輝	保存科学部長	昭和50. 7. 1～平成16. 3.31	平成16. 4. 1
鈴木 廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和54. 9. 1～平成17.11.30	平成17.12. 1
青木 繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和49. 7. 1～平成19. 3.31	平成19. 3.31
三浦 定俊	副所長	昭和48. 8. 1～平成20. 3.31	平成20. 4. 1
鎌倉 恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和63. 4. 1～平成20. 3.31	平成20. 4. 1
鈴木 規夫	所長	平成16. 4. 1～平成22. 3.31	平成22. 4. 1
中野 照男	副所長	平成 4. 4. 1～平成23. 3.31	平成23. 4. 1
清水 真一	文化遺産国際協力センター長	平成19. 4. 1～平成23. 3.31	平成23. 4. 1
石崎 武志	副所長	平成 8.12. 1～平成26. 9.30	平成26.10. 1
田中 淳	副所長	平成 6.11. 1～平成28. 3.31	平成28. 4. 1
川野邊 渉	文化遺産国際協力センター長	昭和63.10. 1～平成28. 3.31	平成28. 4. 1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成 4. 4. 1～平成29. 3.31	平成29. 4. 1
津田 徹英	文化財情報資料部長	平成11. 1. 1～平成30. 3.31	平成30. 4. 1
飯島 満	無形文化遺産部長	平成16. 4.16～平成31. 3.31	平成31. 4. 1
中山 俊介	文化遺産国際協力センター長	平成18. 2. 1～平成31. 3.31	平成31. 4. 1
佐野 千絵	保存科学研究センター長	平成 1. 4. 1～令和 2. 3.31	令和 2. 4. 1
山梨 絵美子	副所長	昭和59. 4. 1～令和 3. 3.31	令和 3. 4. 1
高桑 いづみ	無形文化遺産部無形文化財研究室長	平成 4. 4. 1～令和 3. 3.31	令和 3. 4. 1
早川 泰弘	副所長	平成 8. 4. 1～令和 5. 3.31	令和 5. 4. 1

5. 2024(令和6)年度予算等

(1) 予算

(単位：千円)

事	項	予算額
一般管理費		101,462
基礎研究事業費		57,742
応用研究事業費		146,028
国際遺産保護事業費		77,100
情報公開事業費		62,782
研修協力事業費		3,889
文化財防災事業費		1,066
合	計	450,069

予算とプロジェクトとの対応

文化財情報資料部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
シ01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	基礎研究事業費
シ02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ07	⑤刊行物に関する事業	令和4年度版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ08	④情報収集・成果公開に関する事業	令和6年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	情報公開事業費

無形文化遺産部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
△01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
△02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
△03	④情報収集・成果公開に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
△04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
△05	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	基礎研究事業費

保存科学研究センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ホ01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	応用研究事業費
ホ02	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の保存環境にかかる調査研究	応用研究事業費
ホ03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	応用研究事業費
ホ05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ06	②保存修復に関する調査研究事業	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	応用研究事業費
ホ07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第64号の出版	情報公開事業費
ホ08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）	研修協力事業費

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	③国際協力・交流等に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	国際遺産保護事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	国際遺産保護事業費
コ04	②保存修復に関する調査研究事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	応用研究事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究 (A)			
	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から	小林 公治	6,200 ^{*1}
	ディルムン文明形成に関する考古学的研究	安倍 雅史	8,700
基盤研究 (B)			
	酒呑童子絵巻の研究	江村 知子	1,800 ^{*1}
	ボンベイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川 佳文	2,800 ^{*1}
	能管の「製作技術」と「原材料の安定的な確保」に関する研究	前原 恵美	2,700 ^{*1}
	ブータンにおける伝統的石造民家の建築的特徴の解明と文化遺産保護手法への応用	友田 正彦	5,100
	近世日本における彩色文化史の解明を目的とした多色摺木版画の色材研究	大和 あすか	2,700 ^{*1}
	日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究：三つのケーススタディをもとに	橘川 英規	5,600
研究成果公開促進費（データベース）			
	沖縄久高島イザイホー映像記録データベース	石村 智	1,600
挑戦的研究（萌芽）			
	ポストコンフリクト国における文化多様性と平和構築実現のための文化遺産研究	石村 智	500
基盤研究 (C)			
	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	浅田 なつみ	- ^{*2}
	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	金井 健	800
	ブータンにおける祭礼芸能の変容実態とその保護に関する研究	久保田 裕道	900
	博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発	古田嶋 智子	700
	占領期の文化財保護に関する研究—GHQの博物館概念と博物施策の展開—	境野 飛鳥	700
	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	島田 潤	800
	染織技術史に関する研究—原材料の国産化に焦点をあてて—	菊池 理予	500
	古典的膠及び墨に関する文化財修復材料及び書画制作材料としての材料学的体系化	宇高 健太郎	1,400
	磨崖仏で過去に行われた保存対策の効果に関する定量的研究	朽津 信明	800
	一般室を使用した文化財収蔵施設運用法に関する研究	芳賀 文絵	800
	行政映画とその関連資料の整理と管理の支援	山永 尚美	1,300
	鎌倉時代仏教彫刻・絵画の彩色に関する基礎的調査研究	米沢 玲	900
	織豊時代における公武の知的交流についての研究—本草学から絵事へ	小野 真由美	1,400
	樹木を素材とする編組品に関する民俗学的基礎研究—広葉樹ヘギ材の籠を中心に	今石 みぎわ	1,300
	染織品等を対象とした赤外線画像の有効性に関する研究	秋山 純子	600
	漆芸品に与えるクリーニング溶液の影響に関する研究	倉島 玲央	2,100
	中小規模の博物館で実践可能な文化財防災—地震・水害対策を中心として—	千葉 毅	1,600
	メタゲノム解析を用いた浮遊菌測定による博物館のゾーニングに関する研究	間瀬 創	900
	クフ王第2の船の実物資料を用いた造船から埋納過程の復元研究	山田 綾乃	1,100
	初期合成染料の導入と染色法に関する研究	片瀬 奈美香	122
若手研究			
	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高 健太郎	- ^{*3}
	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷 悦子	- ^{*3}
	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	片瀬 奈美香	700
	日本音楽合奏における「間」：多様な拍の伸縮をめぐって	鎌田 紗弓	800
	洪水常襲地における水害経験の地域史と災害文化形成プロセスの解明	後藤 知美	800

協働的な博物館活動に関する研究－オランダ「共有の文化遺産」概念の検証	邱 君妮	1,100
日本における土地利用計画に準拠した史跡環境の評価および保護に向けた研究	松浦 一之介	500
瀟湘八景の受容研究 絵画・建築・庭園	武 瀟瀟	400

*¹ 令和5年度繰越あり
*² 令和5年度からの期間延長
*³ 令和4年度からの期間再延長

(3) 受託調査研究等一覧

(単位：円)			
研究課題	依頼元	研究代表者	受入額
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	友田 正彦	42,231,624
デジタル技術を用いたバーレーンおよび湾岸諸国における文化遺産の記録・活用に関する拠点交流事業	文化庁	安倍 雅史	8,290,260
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	犬塚 将英	44,038,815
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	犬塚 将英	19,326,255
ワット・ラーチャプラディット拝殿漆扉の現地保存に関する調査	タイ ワット・ラーチャプラディット・サティットマハシマラム	二神 葉子	2,082,000
墨田区 No.105 遺跡から出土した近代布製品染料・繊維分析	国際文化財株式会社	犬塚 将英	108,157
旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鍍絵保存修復調査業務委託	長岡市	前川 佳文	6,632,395

(4) 補助事業一覧

(単位：円)			
研究課題	依頼元	研究代表者	受入額
美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業	文化庁	犬塚 将英	29,983,372

(5) 共同研究等一覧

(単位：円)			
研究課題	共同研究者	研究代表者	受入額
ゲッティ・リサーチ・ポータルへの前田青邨のコレクション、日本及びヨーロッパ・北米で出版された貴重書、展覧会カタログの提供・公開について(継続)	The J. Paul Getty Trust	橘川 英規	15,330,488

(6) 助成金一覧

(単位：円)			
研究課題	助成元	研究代表者	受入額
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復（継続）	公益財団法人住友財団	前川 佳文	3,500,000
無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究（継続）	公益財団法人三菱財団	今石 みぎわ	6,500,000
韓国絵画調査写真（東京文化財研究所所蔵）の研究（継続）	国外所在文化遺産財団（韓国）	田代 裕一朗	2,650,000
歴史的建造物のデジタル3次元計測に関する研究	公益財団法人KDDI 財団	浅田 なつみ	2,998,000
鳥居など伝統的な木造外構の生物劣化の非破壊診断技術の確立	公益財団法人松井角平記念財団	藤井 義久	1,600,000
楽と舞：雅楽実践の身体コミュニケーション	公益財団法人三島海雲記念財団	鎌田 紗弓	4,630,000
フランス領カンボジア・ベトナムにおける遺跡保存のための「保護区域」概念の生成と展開	公益財団法人村田学術振興・教育財団	黒岩 千尋	1,180,000

(7) 寄付金一覧

(単位：円)			
研究課題	助成元	研究代表者	受入額
東京文化財研究所文化財調査研究基金	株式会社フレックスインターナショナル 代表取締役 乙田 上作	研究支援推進部	100,000
東京文化財研究所文化財調査研究基金	喜多村 敦子	研究支援推進部	50,000
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000,000
東京文化財研究所における研究成果の公表（出版事業）	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000,000

年度内主要行事一覧

期 日	事 業 名
6年 4月26日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
6年 5月14～15日	ピエトロ・ディ・クリストファロ・ヴァヌッチ『ペルジーノとフィレンツェ』-ウンブリアの芸術家として、また、共和政・メディチ公政間におけるトスカーナ都市での彼の活動- (チェナーコロ・デル・フリーニョ (イタリア・フィレンツェ))
6年 5月18日	研究所の一般公開
6年 5月28～29日	オンラインワークショップ「International Online Workshop for Safeguarding Intangible Cultural Heritage and Living Heritage in Sudan」(オンライン)
6年 6月 8日	日本宗教民族学会第33回大会
6年 7月 8～12日	令和6年度 博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)
6年 7月27日	2024年度こども文化遺産ワークショップ「文字と記号で古代エジプトの技を解き明かそう！」
6年 8月 9日	東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開シンポジウム「森と支える「知恵とわざ」―無形文化遺産の未来のために―」
6年 8月26～ 9月13日	国際研修「紙の保存と修復」2024
6年 9月18～ 9月20日	文化財修復技術者のための科学知識基礎研修
6年 9月27日	ノルウェーの籠と出会う レクチャー・実演
6年 9月28日	文化遺産国際協力コンソーシアム第34回研究会「学校教育と文化遺産」
6年10月 3日	東京文化財研究所における実演記録事業(講談)―龍斎貞水師を偲んで
6年10月21～30日	「文化遺産の3Dデジタル・ドキュメンテーションとその活用に関するワークショップ」及び「日本の博物館、史跡におけるAR、VR、デジタル・コンテンツの活用に関するスタディー・ツアー」
6年10月22日	北米美術図書館協会(ARLIS/NA) 来日記念 国際シンポジウム「美術アーカイブ/図書館における国際連携」
6年10月29～31日	文化財保存修復に関するワークショップ-写真の識別と保存について-
6年11月 1～ 2日	第58回オープンレクチャー かたちを見る、かたちを読む
6年11月 2～ 4日	2024年度海外調査のための3次元計測実習
6年11月 5日	第8回保存環境調査・管理に関する講習会―北川式検知管の開発状況と空気環境管理の課題― (文化財活用センター会議室)
6年11月24日	XRミートアップ東京
6年11月25日	令和6年度 世界遺産研究協議会 世界遺産の柔らかい輪郭―バッファゾーンとワイダーセッティング― The Soft Edges of World Heritage: Buffer Zone and Wider Setting
6年11月28日	文化遺産国際協力コンソーシアム 第35回研究会「文化遺産保護と奈良文書 ―国際規範としての受容と応用―」
6年11月30日	文化遺産国際協力コンソーシアム 令和6年度シンポジウム「モニュメント」はいかに保存されたか：ノートルダム大聖堂の災禍からの復興(東京富士大学 二上講堂)
6年12月 6日	第18回 無形文化遺産部公開学術講座「文化財修理と在来絹製作―絹織製作研究所の技術を受け継ぐ―」
6年12月20日	第19回 無形民俗文化財研究協議会「ステージ上の民俗芸能～その魅せ方をめぐって～」
7年 1月15日	「黒田清輝、その研究と評価の現在」 ―没後100年を機に(黒田記念館セミナー室、オンライン併用)
7年 2月 5日	2024年度 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業報告会
7年 2月21日	フォーラム「ポスト・エキヒュームS」の資料保存を考える(オンライン併用)
7年 3月 3日	第9回保存環境調査・管理に関する講習会 ―博物館等の空気環境における“のぞましい値”の考え方について― (文化財活用センター会議室)
7年 3月22～23日	第32回西アジア発掘調査報告会

3. 東京文化財研究所関係事業索引

凡 例

- (1) この索引は、令和6年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。
- (2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

	運営費交付金によるプロジェクト	【交付】	
	科学研究費助成事業	【科研】	
	受託調査研究	【受託】	
	補助事業	【補助】	
	共同研究	【共同】	
	助成金	【助成】	
あ	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	【交付】	42
	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から—	【科研】	76
	一般室を利用した文化財施設運用法に関する研究	【科研】	95
	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	【科研】	86
	沖縄久高島イザイホー映像記録データベース	【科研】	84
	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	【交付】	36
か	楽と舞：雅楽実践の身体コミュニケーション	【助成】	128
	鎌倉時代仏教彫刻・絵画の彩色に関する基礎的調査研究	【科研】	97
	韓国絵画調査写真（東京文化財研究所蔵）の研究	【助成】	125
	旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鏝絵保存修復調査	【受託】	120
	行政映画とその関連資料の整理と管理の支援	【科研】	96
	協働的な博物館活動に関する研究—オランダ「共有の文化遺産」概念の検証—	【科研】	111
	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	【科研】	87
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	【交付】	28
	近世日本における彩色文化史の解明を目的とした多色摺木版画の色材研究	【科研】	82
	クフ王第2の船の実物資料を用いた造船から埋納過程の復元研究	【科研】	104
	Getty・リサーチ・ポータルへのデジタル資料の提供・公開	【共同】	122
	洪水常襲地における水害経験の地域史と災害文化形成プロセスの解明	【科研】	110
	国際研修	【交付】	45
	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	【受託】	116
	古典的膠及び墨に関する文化財修復材料及び書画制作材料としての材料学的体系化	【科研】	93
	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	【科研】	106
さ	在外日本古美術品保存修復協力事業	【交付】	44
	漆芸品に与えるクリーニング溶液の影響に関する研究	【科研】	101
	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	【科研】	91
	酒呑童子絵巻の研究	【科研】	78
	樹木を素材とする編組品に関する民俗学的基礎研究—広葉樹へぎ材の籠を中心に—	【科研】	99
	瀟湘八景の受容研究 絵画・建築・庭園	【科研】	113
	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	【科研】	108
	初期合成染料の導入と染色法に関する研究	【科研】	105
	織豊時代における公武の知的交流についての研究—本草学から絵事へ—	【科研】	98
	墨田区No.105遺跡から出土した近代布製品染料・繊維分析	【受託】	119
	染織技術史に関する研究—原材料の国産化に焦点をあてて—	【科研】	92
	染織品等を対象とした赤外線画像の有効性に関する研究	【科研】	100
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	【交付】	48
	占領期の文化財保護に関する研究—GHQの博物館概念と博物施策の展開—	【科研】	90
	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	【科研】	107
た	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	【交付】	40
	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	【交付】	39
	中小規模の博物館で実践可能な文化財防災—地震・水害対策を中心として—	【科研】	102

ディルムン文明形成に関する考古学的研究	【科研】	77
文化庁文化遺産国際協力拠点事業		
「デジタル技術を用いたバーレーンおよび湾岸諸国における文化遺産の記録・活用に関する拠点交流事業」	【受託】	115
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	【交付】	70
『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKEN NEWS』	【交付】	61
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	【受託】	117
鳥居など伝統的な木造外構の生物劣化の非破壊診断技術の確立	【助成】	127
な 日本音楽合奏における「間」：多様な拍の伸縮をめぐって	【科研】	109
日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究：三つのケーススタディをもとに	【科研】	83
日本東洋美術史の資料学的研究	【交付】	27
日本における土地利用計画に準拠した史跡環境の評価および保護に向けた研究	【科研】	112
能管の「製作技術」と「原材料の安定的な確保」に関する研究	【科研】	80
は バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	【助成】	123
博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）	【交付】	66
博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発	【科研】	89
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	【交付】	69
美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業	【補助】	121
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	【交付】	29
ブータンにおける祭礼芸能の変容実態とその保護に関する研究	【科研】	88
ブータンにおける伝統的民家の建築的特徴の解明と文化遺産保護手法への応用	【科研】	81
フランス領カンボジア・ベトナムにおける遺跡保存のための「保護区域」概念の生成と展開	【助成】	129
プロジェクトの一環として刊行された刊行物	【交付】	62
プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等	【交付】	51
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	【受託】	114
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	【交付】	41
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	【交付】	37
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	【交付】	46
文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	【交付】	33
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	【交付】	26
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	【交付】	35
文化財の材質・構造に関する調査・助言	【交付】	69
文化財の収集・保管に関する指導助言	【交付】	66
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	【交付】	68
文化財の虫菌害に関する調査・助言	【交付】	68
文化財の保存環境にかかる調査研究	【交付】	34
文化財防災センター事業	【その他】	71
ポストコンフリクト国における文化多様性と平和構築実現のための文化遺産研究	【科研】	85
『保存科学』第64号の出版	【交付】	61
保存修復技術の国際的応用に関する研究	【交付】	43
ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	【科研】	79
ま 磨崖仏で過去に行われた保存対策の効果に関する定量的研究	【科研】	94
無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究	【助成】	124
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	【交付】	50
無形文化遺産に関する助言	【交付】	67
無形文化遺産部出版関係事業	【交付】	60
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	【交付】	32
無形文化財の保存・継承に関する調査研究	【交付】	30
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	【交付】	31
メタゲノム解析を用いた浮遊菌測定による博物館のゾーニングに関する研究	【科研】	103
ら 令和4年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）	【交付】	60
令和6年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	【交付】	49
歴史的建造物のデジタル3次元計測に関する研究	【助成】	126
わ ワット・ラーチャプラディット拝殿漆扉の現地保存に関する調査	【受託】	118

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所年報 2024

発行日：2025年6月30日

発行所：独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所

〒110-8713
東京都台東区上野公園13-43

TEL 03-3823-2241 (番号案内)

FAX 03-3828-2434

<https://www.tobunken.go.jp/>

info_tobunken@nich.go.jp

編集：文化財情報資料部

制作：CURIO EDITORS STUDIO (柴田 卓)

印刷：よしみ工産株式会社

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

ANNUAL REPORT 2024

Issued on 30 June, 2025

Published by Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
13-43, Uenokoen, Taito-ku, Tokyo 110-8713, JAPAN

Edited by Department of Art Research, Archives and Information Systems

Designed and DTP by Curio Editors Studio (SHIBATA Takashi)

Printed by Yoshimi Kohsan Corporation

© Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, 2025